

岸岳古窯跡群IV

唐津市文化財調査報告書 第178集

岸岳古窯跡群IV

KISHIDAKE KILNS

—総括報告書—



唐津市文化財調査報告書

第178集

2018・3

唐津市教育委員会

2018.3

唐津市教育委員会

岸岳古窯跡群IV

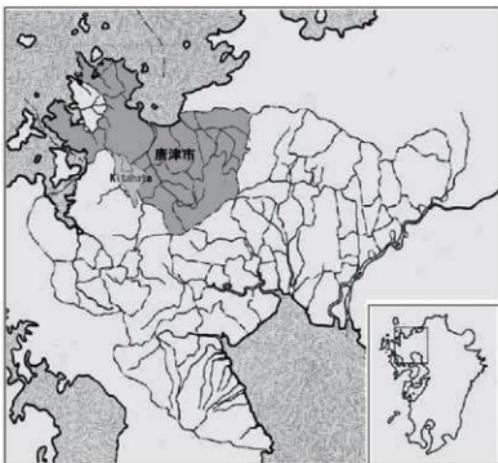


Fig. 1 唐津市北波多の位置



口絵 1

飯洞窯下窯全景



図絵2

皿屋窯跡上部



図絵3

皿屋上窯跡



図絵4

帆柱窯跡燃焼室



図絵5

飯洞塗上窯跡上部



口絵6

岸岳古窯跡群出土遺物



図絵7

岸岳古窯跡群出土遺物（皿類）



図絵8

岸岳古窯跡群出土遺物（碗類）



口絵9

岸岳古窯跡群出土遺物（小壺・瓶類）



口絵10

岸岳古窯跡群出土遺物（窯道具）



口絵11

岸岳古窯跡群出土遺物（陶製錘）



口絵12

岸岳古窯跡群出土遺物（陶製偶）

序 文

唐津市は、東アジアに開かれた門戸として、古代よりさまざまな文化や人々が交流する重要な拠点の一つであり、これらを物語る貴重な遺跡が豊富に存在しています。

こうした文化遺産の中でも、史跡「肥前陶器窯跡」は、わが国の近世窯業の成立と発展を理解する上で、欠くことのできない重要な文化財のひとつです。

唐津焼は「一楽、二萩、三唐津」とも称されるほどお茶の世界では珍重されており、愛好家や研究者に広く知られています。

唐津焼の成立に関しては諸説ありますが、おおよそ16世紀の末頃、唐津市の南西部にそびえる岸岳山麓に築かれ5つの窯、つまり本書で報告する「岸岳古窯跡群」に始まると考えられています。これら5つの窯は、朝鮮半島の技術を基盤に肥前陶器が成立した過程を示す、貴重な歴史遺産であるとして、平成17年7月14日に史跡に指定されました。

指定を受け唐津市教育委員会では、その取扱い基準を定めた「史跡 肥前陶器窯跡保存管理基本計画書」を策定し、平成24年度には、保存・整備、公開・活用、管理・運営等を協議する場として、「肥前陶器窯跡保存整備検討委員会」を設置しました。

本書は、平成9年度から同14年度にかけて実施した確認調査及び、平成27年度から29年度に行った、保存整備事業に伴う事前調査の記録です。

最後になりましたが、調査指導委員会の先生方をはじめ、本調査に関係した多くの方々のご理解とご協力に感謝申し上げますとともに、本書が、これら貴重な文化遺産のより良い保存・整備・活用の一助となれば、幸甚に存じます。

平成30年3月

唐津市教育委員会

教育長 稲葉 雄

例　　言

1. 本書は、平成9年度から14年度にかけて、旧北波多村教育委員会が国庫補助金を受けて実施した、「皿屋窯跡」「皿屋上窯跡」「帆柱窯跡」「飯洞甕上窯跡」「飯洞甕下窯跡」における確認調査及び、平成27年度から29年度に唐津市が実施した、保存整備事業に伴う事前調査の総括報告書である。
2. 調査については、佐賀森林管理署、文化庁記念物課、佐賀県文化財課の協力を賜った。
3. 調査及び本報告書作成にあたっては、文化庁記念物課、県文化財課の指導を受け、(旧)北波多村教育委員会及び唐津市がこれにあたった。
4. 本書の執筆・編集は、陣内が担当した。但し、第VII章第5節の「縄文時代の遺物」については、前唐津市立木倉館長の田島能太氏に執筆していただいた。
5. 地形測量は、(株)埋蔵文化財サポートシステムに委託した。
6. 遺構実測は、皿屋窯跡・飯洞甕上窯跡は陣内が行い、皿屋上窯跡・帆柱窯跡は(株)埋蔵文化財サポートシステム、飯洞甕下窯跡及び周辺遺構については(株)とっぴんに委託した。
7. 遺物の実測・製図については、旧北波多村調査分は原田・山本・井手が、平成27年度以降の唐津市調査分については井上・松尾・宮崎・山中が行った。
8. 遺構・遺物の写真は陣内が撮影したが、飯洞甕下窯跡の全体写真及び出土遺物の集合写真については、写測エンジニアリング株式会社に委託した。
9. 第1章については、一部、合併前の組織名称で記載している。

凡　　例

1. 挿図における方位はすべて、旧測地系座標真北(GN)である
2. 挿図の縮尺は図中に示した。
3. 挿図中の高さは標高で表し、遺構の法量はm単位で、遺物の法量cm単位である。
4. 各窯跡の略号は以下の通りである。
 - ① 皿屋窯跡 YS01 (平成9年度調査)、YS02 (平成13年度調査)
 - ② 皿屋上窯跡 YS上01 (平成11年度調査)
 - ③ 帆柱窯跡 YB01 (平成12年度調査)
 - ④ 飯洞甕上窯跡 YH上01 (平成10年度1次調査)、YH上02 (平成10年度本調査)
 - ⑤ 飯洞甕下窯跡 YH下01 (平成11年度)
 - ⑥ 飯洞甕跡周辺 YH04 (平成27年度)、YH05 (平成28年度)、YH06 (平成29年度)
5. 各窯跡のトレンチ番号は以下の通りである。
 - ① 皿屋窯跡 平成9年度調査区：A～F 平成13年度調査区：1～8
 - ② 皿屋上窯跡 平成11年度調査区：1～5
 - ③ 帆柱窯跡 平成12年度調査区：1～11
 - ④ 飯洞甕上窯跡 平成10年度2次調査区：A・B (窯本体)、1～7
 - ⑤ 飯洞甕下窯跡 平成11年度調査区：1～4
 - ⑥ 飯洞甕上窯・下窯跡周辺 平成27年度調査区：12～15、
平成28年度調査区：15 (NG・EG・WG)、17～24
6. 肥前古窯の部分名称については、第III章のFig13を参照されたい。
7. 出土遺物の分類については、第III章のTab 8～10を参照されたい。

目 次

第Ⅰ章 はじめに

1. はじめに	1
2. 調査体制	1
3. 岸岳古窯跡群の調査歴	3

第Ⅱ章 環境

第1節 地理的環境	5
第2節 歴史的環境	8

第Ⅲ章 岸岳古窯跡群の概要

第1節 唐津焼の誕生と展開	19
第2節 岸岳古窯跡群の概要	26

第Ⅳ章 皿屋窯跡の調査

第1節 遺構	33
第2節 遺物	34

第Ⅴ章 皿屋上窯跡の調査

第1節 遺構	57
第2節 遺物	63

第VI章 帆柱窯跡の調査

第1節 遺構	73
第2節 遺物	80

第VII章 飯洞甕窯跡の調査

第1節 位置と調査区	90
第2節 飯洞甕上窯跡の構造	93
第3節 飯洞甕下窯跡の構造	93
第4節 周辺部の調査	101
第5節 遺物	107

第VIII章 史跡整備に向けて

第1節 史跡指定の概要	133
第2節 史跡の本質的価値と構成要素	134
第3節 整備の基本方針	135
第4節 第1期整備計画の概要	136

一付一

1. 皿屋窯跡出土遺物一覧
2. 皿屋上窯跡出土遺物一覧
3. 帆柱窯跡出土遺物一覧
4. 飯洞甕窯跡出土遺物一覧
5. 窯道具一覧
6. 主要参考文献

図 絵 目 次

- | | |
|----------------|-----------------------|
| 口絵1 飯洞裏下窯跡全景 | 口絵7 岸岳古窯跡群出土遺物（皿類） |
| 口絵2 飯洞裏下窯跡隔壁 | 口絵8 岸岳古窯跡群出土遺物（碗類） |
| 口絵3 皿屋上窯跡 | 口絵9 岸岳古窯跡群出土遺物（小杯・瓶類） |
| 口絵4 帆柱窯跡燃焼室 | 口絵10 岸岳古窯跡群出土遺物（窯道具） |
| 口絵5 飯洞裏上窯跡上部 | 口絵11 岸岳古窯跡群出土遺物（陶製鋸） |
| 口絵6 岸岳古窯跡群出土遺物 | 口絵12 岸岳古窯跡群出土遺物（陶偶） |

図 版 目 次

- | | |
|------------------|-------------------------------|
| P L.1 皿屋窯跡 | P L.19 釉薬・底部調整、タタキ痕 |
| P L.2 皿屋窯跡 | P L.20 皿屋窯跡出土遺物（集合） |
| P L.3 皿屋上窯跡 | P L.21 帆柱窯跡出土遺物（集合） |
| P L.4 皿屋上窯跡・帆柱窯跡 | P L.22 皿屋上窯跡出土遺物（集合） |
| P L.5 帆柱窯跡 | P L.23 飯洞裏窯跡出土遺物（第1次～第3次集合） |
| P L.6 飯洞裏上窯跡 | P L.24 飯洞裏窯跡出土遺物（第4次～第5次集合） |
| P L.7 飯洞裏上窯跡 | P L.25 皿屋窯跡出土遺物 |
| P L.8 飯洞裏下窯跡 | P L.26 皿屋窯跡出土遺物 |
| P L.9 飯洞裏下窯跡 | P L.27 皿屋窯跡出土遺物 |
| P L.10 飯洞裏下窯跡 | P L.28 皿屋窯跡出土遺物 |
| P L.11 飯洞裏下窯跡 | P L.29 皿屋窯跡・皿屋上窯跡出土遺物 |
| P L.12 飯洞裏窯跡周辺 | P L.30 皿屋上窯跡・帆柱窯跡出土遺物 |
| P L.13 飯洞裏窯跡周辺 | P L.31 帆柱窯跡・飯洞裏窯跡出土遺物（第1次～3次） |
| P L.14 飯洞裏窯跡周辺 | P L.32 飯洞裏窯跡出土遺物（第1次～3次） |
| P L.15 飯洞裏窯跡周辺 | P L.33 飯洞裏窯跡出土遺物（第4次～5次） |
| P L.16 飯洞裏窯跡周辺 | P L.34 飯洞裏窯跡出土遺物（第4次～5次） |
| P L.17 飯洞裏窯跡周辺 | P L.35 飯洞裏窯跡出土遺物（第4次～5次） |
| P L.18 重ね積みの痕跡 | |

表 目 次

- | | |
|---------------------|-----------------------|
| Tab.1 北波多地域の遺跡一覧（1） | Tab.4 唐津藩領の窯跡 |
| Tab.2 北波多地域の遺跡一覧（2） | Tab.5 『喜平次旧記』における記事一覧 |
| Tab.3 周辺の中・近世遺跡一覧 | Tab.6 肥前陶器の変遷 |

Tab.7	窯の寸法	Tab.13	皿屋上窯跡出土遺物一覧
Tab.8	出土遺物の分類（1）	Tab.14	帆柱窯跡出土遺物一覧
Tab.9	出土遺物の分類（2）	Tab.15	飯洞甕窯跡出土遺物一覧 第1次～3次
Tab.10	出土遺物の分類（3）	Tab.16	飯洞甕窯跡出土遺物一覧 第4次・5次
Tab.11	窯道具の出土数と出土率	Tab.17	窯道具一覧
Tab.12	皿屋窯跡出土遺物一覧		

挿 図 目 次

Fig.1	唐津市北波多の位置	Fig.29	皿屋窯跡出土遺物実測図（11）
Fig.2	北波多地域の地質	Fig.30	皿屋窯跡出土遺物実測図（12）
Fig.3	肥前国絵図	Fig.31	皿屋窯跡出土遺物実測図（13）
Fig.4	北波多の舟着場	Fig.32	皿屋上窯跡周辺地形図（1/400）
Fig.5	周辺の窯跡	Fig.33	皿屋上窯跡全体図（1）（1/80）
Fig.6	北波多地域の遺跡	Fig.34	皿屋上窯跡全体図（2）（1/80）
Fig.7	周辺の中・近世遺跡一覧	Fig.35	皿屋上窯跡出土遺物実測図（1）
Fig.8	波多城イメージ図	Fig.36	皿屋上窯跡出土遺物実測図（2）
Fig.9	岸岳城跡測量図	Fig.37	皿屋上窯跡出土遺物実測図（3）
Fig.10	文禄・慶長の役の経路	Fig.38	皿屋上窯跡出土遺物実測図（4）
Fig.11	肥前陶器窯跡の分布（1）	Fig.39	皿屋上窯跡出土遺物実測図（5）
Fig.12	肥前陶器窯跡の分布（2）	Fig.40	皿屋上窯跡出土遺物実測図（6）
Fig.13	窯構造模式図及び部分名称	Fig.41	皿屋上窯跡出土遺物実測図（7）
Fig.14	皿屋窯周辺地形図（1/400）	Fig.42	皿屋上窯跡出土遺物実測図（8）
Fig.15	皿屋窯跡全体図（1）（1/80）	Fig.43	皿屋上窯跡出土遺物実測図（9）
Fig.16	皿屋窯跡全体図（2）（1/80）	Fig.44	帆柱窯跡周辺地形図（1/400）
Fig.17	皿屋窯跡4～6、7、8トレンチ図（1/80）	Fig.45	帆柱窯跡全体図（1）（1/80）
Fig.18	皿屋窯跡1、2、3、トレンチ図（1/80）	Fig.46	帆柱窯跡全体図（2）（1/80）
Fig.19	皿屋窯跡出土遺物実測図（1）	Fig.47	帆柱窯跡6、10、11トレンチ図（1/80）
Fig.20	皿屋窯跡出土遺物実測図（2）	Fig.48	帆柱窯跡出土遺物実測図（1）
Fig.21	皿屋窯跡出土遺物実測図（3）	Fig.49	帆柱窯跡出土遺物実測図（2）
Fig.22	皿屋窯跡出土遺物実測図（4）	Fig.50	帆柱窯跡出土遺物実測図（3）
Fig.23	皿屋窯跡出土遺物実測図（5）	Fig.51	帆柱窯跡出土遺物実測図（4）
Fig.24	皿屋窯跡出土遺物実測図（6）	Fig.52	帆柱窯跡出土遺物実測図（5）
Fig.25	皿屋窯跡出土遺物実測図（7）	Fig.53	帆柱窯跡出土遺物実測図（6）
Fig.26	皿屋窯跡出土遺物実測図（8）	Fig.54	帆柱窯跡出土遺物実測図（7）
Fig.27	皿屋窯跡出土遺物実測図（9）	Fig.55	帆柱窯跡出土遺物実測図（8）
Fig.28	皿屋窯跡出土遺物実測図（10）	Fig.56	帆柱窯跡出土遺物実測図（9）

- Fig.57 飯洞甕窯跡の周辺環境
Fig.58 飯洞甕上・下窯跡周辺地形図（1／400）
Fig.59 飯洞甕上窯跡全体図（1）（1／80）
Fig.60 飯洞甕上窯跡全体図（2）（1／80）
Fig.61 飯洞甕下窯跡全体図（1）（1／80）
Fig.62 飯洞甕下窯跡全体図（2）（1／80）
Fig.63 飯洞甕窯跡周辺12、13、21トレンチ図（1／80）
Fig.64 飯洞甕窯跡周辺15トレンチ図（1／40、1／80）
Fig.65 飯洞甕窯跡周辺1、2、5トレンチ図（1／80）
Fig.66 飯洞甕窯跡周辺22、24トレンチ図（1／80）
Fig.67 飯洞甕窯跡出土遺物実測図（1）
Fig.68 飯洞甕窯跡出土遺物実測図（2）
Fig.69 飯洞甕窯跡出土遺物実測図（3）
Fig.70 飯洞甕窯跡出土遺物実測図（4）
Fig.71 飯洞甕窯跡出土遺物実測図（5）
Fig.72 飯洞甕窯跡出土遺物実測図（6）
Fig.73 飯洞甕窯跡出土遺物実測図（7）
Fig.74 飯洞甕窯跡出土遺物実測図（8）
Fig.75 飯洞甕窯跡出土遺物実測図（9）
Fig.76 飯洞甕窯跡出土遺物実測図（10）
Fig.77 飯洞甕窯跡出土遺物実測図（11）
Fig.78 飯洞甕窯跡出土遺物実測図（12）
Fig.79 飯洞甕窯跡出土遺物実測図（13）
Fig.80 飯洞甕窯跡出土遺物実測図（14）
Fig.81 飯洞甕窯跡出土遺物実測図（15）
Fig.82 飯洞甕窯跡出土遺物実測図（16）
Fig.83 飯洞甕窯跡出土遺物実測図（17）
Fig.84 飯洞甕窯跡出土遺物実測図（18）
Fig.85 飯洞甕窯跡出土遺物実測図（19）
Fig.86 飯洞甕窯跡出土遺物実測図（20）
Fig.87 飯洞甕窯跡出土遺物実測図（21）
Fig.88 飯洞甕窯跡出土遺物実測図（22）
Fig.89 古窯の森公園ゾーニング計画図
Fig.90 整備地完成予想図
Fig.91 飯洞甕上窯跡展示施設完成予想図
Fig.92 飯洞甕下窯跡展示施設完成予想図
Fig.93 体験窯・作業棟完成予想図

第1章 はじめに

第1節 はじめに

1. はじめに

肥前国内における近世の陶器窯は、現在確認されているだけで200に近い数字となる。地域別では、9割弱が佐賀県に分布しており、残りの20基程度が長崎県に位置する。この内、昭和15年(1940)2月に武雄市の小峰窯跡、大谷窯跡、鍋谷窯跡と土師場物原山が国の指定を受け、平成17年7月には新たに、唐津市内の6基（御茶盃窯跡、皿屋上窯跡、皿屋窯跡、帆柱窯跡、飯洞甕上窯跡、飯洞甕下窯跡）と多くの唐人古場窯跡とが追加された。

御茶盃窯跡は、享保19年(1734)、藩命により唐津城外の唐人町（現在の町田）に築かれた窯で、明治4年(1871)の廃藩により、御用窯としての役割は停止するが、その後も大正期まで使用されていた。現在も天井部を含めて窯体全体が良く残り、かつて御用焼物師を務めていた中里氏が経営する工房内で、保存・公開されている。

これに対し、「岸岳古窯跡群」と総称される、皿屋上窯跡、皿屋窯跡、帆柱窯跡、飯洞甕上窯跡、飯洞甕下窯跡の5基は、唐津市南西部に位置する北波多地域、岸岳の東麓に約1.5kmの範囲に分布し、いずれも近世初頭、唐津焼草創期の窯跡であるが、400余年を経て、天井などの上部構造はほぼ失われている。一部露出展示を行っている飯洞甕下窯跡の他は、全て埋戻し保存の処置が取られているが、これら窯跡については、劣化防止のための保存処理や、盗掘防止についての対策が必要な段階に来ている。

岸岳古窯跡の起源については諸説があるが、文禄・慶長の役に先立ち、上松浦党の盟主である波多氏が、朝鮮半島から陶工を呼んで1580～90年代に開窯したと考えられている。この説によると岸岳古窯跡は、唐津焼の源流であるだけではなく、日本最古の登り窯群ということとなる。

このように窯業史上重要な位置を占める窯であるにも関わらず、その構造自体については、飯洞甕下窯と帆柱窯の一部を除いて不明であったため、旧北波多村教育委員会ではその実態を把握すべく、平成9年度より国庫補助を申請し、岸岳古窯跡の確認調査に着手することになった。

平成17年4月1日に、1市（唐津市）7町村（浜玉町・相知町・北波多村・厳木町・鎮西町・肥前町・呼子町）が合併したことにより、新唐津市がこれら「岸岳古窯跡群」の調査を引き継ぎ、今までに合計3冊の報告書を刊行している。また平成17年7月の史跡指定を受けたことに合わせて史跡整備事業に着手することとなるが、平成20年度の「肥前陶器窯跡保管管理計画書」以降、同「保存整備基本計画書」（平成26年度）、「保存整備基本設計報告書」（平成28年度）を上梓している。

2. 調査体制

調査主体：北波多村教育委員会（平成9～平成16年度）

総括：教育長 真子幸夫

事務局：教育課長 合田富士子（平成9年4月～12年3月）

田中宏（平成12年4月～14年6月）

川添勝利（平成14年7月～15年6月）

宮本展光（平成15年7月～）

社会教育係長 宮本展光(平成9年4月～11年3月)

藤川孝司(平成12年4月～15年6月、平成16年7月～)

調査組織

調査担当：社会教育係文化財専門員 陣内康光

調査指導：佐賀県教育委員会文化課

整理作業員：井本早百合、金野尾民子、原田康代、山本弥生、井手好美

発掘作業員：浦方清子、江口サツ子、尾崎靖郎、佐々木美恵子、田中健一郎、中島サヨ子、

藤川ウタ子、松尾金吾、松尾シズ子、松本洋子

調査主体：唐津市教育委員会（平成27～29年度）

総括：教育長 稲葉雄雄

事務局：教育部長 吉田洋司(～平成28年3月)

金嶽栄作(平成28年4月～)

教育副部長 溝上明男(～平成28年3月)

中尾修二(平成28年4月～)

生涯学習文化財課長 中尾修二

生涯学習文化財課副課長 陣内康光

生涯学習文化財課文化財保護係長 藤井浩司(～平成29年6月)

” 岩尾峯希(平成28年4月～)

生涯学習文化財課文化財調査係長 仁田坂聰

生涯学習文化財課文化財保護係 草場誠司(～平成28年3月)

米倉美和子

生涯学習文化財課文化財調査係 美浦雄二

坂井清春

立谷聰明

鮎川和樹(平成28年4月～)

井本吏沙

調査組織

調査担当：生涯学習文化財課文化財保護係 陣内康光、草場誠司、岩尾峯希

生涯学習文化財課文化財調査係 鮎川和樹

調査指導：佐賀県教育委員会文化財課

整理作業員：井上美代子、松尾あや子、宮崎良子、山中比抄惠

発掘作業員：谷口陽一、宮口真由美、山口直茂、大石和義、戸田正一、武田照男、野崎元則

高尾久見恵、藤原和幸、三塙英俊、志氣勝、盛永和恵、小副川初美、

古賀友里菜、北島誠、東島強

調査指導委員

大橋康二 佐賀県立九州陶磁文化館 名誉特別顧問

東中川忠美 元佐賀県立名護屋城博物館長

藤澤良祐 愛知学院大学 教授

3. 岸岳古窯跡群の調査歴

①調査に至る経緯と経過

岸岳古窯跡については、戦前・戦後を含めて、好事家により度々発掘が行われていたが、最も大規模な調査は、昭和31年の肥前陶磁研究会・古唐津調査部会によって実施された。調査は、飯洞甕上窯・飯洞甕下窯・帆柱窯・皿屋窯の計4班編成で実施され、多数の陶器（片）が採集されるとともに、飯洞甕下窯の修復作業も行われた。

その後しばらく空白期間を置いて、市町村に文化財担当者が配置されると、岸岳系古唐津の窯跡も徐々に調査が行われるようになる。昭和59年には唐津市が小十古窯を、平成6年度には九州陶磁文化館が帆柱窯を、平成8年度には旧浜玉町が山瀬窯の調査を開始している。平成11年度には、道納屋窯の調査が旧相知町教育委員会により行われ、全長約37m、焼成室推定17の、岸岳系の窯跡群では最大の窯跡であることが確認された。

②旧北波多村教育委員会の調査

平成9年度 皿屋窯跡の窯体検出調査を行った。全長約23mの比較的大型の登窯で、燃焼室から窯尻まで確認した。割石を積み上げて側壁の基礎を作るなど特異な構造を持つことが確認された。

平成10年度 飯洞甕上窯跡の窯体検出調査を行った。燃焼室付近が削平されていたため全長は不明であるが、同下窯と同規模の18m前後になると考えられる。割竹式登窯ではあるが、部屋間の段差が小さく、出入口も右入り・左入りの両方が存在する。

平成11年度 皿屋上窯の窯体検出調査と飯洞甕下窯の周辺確認調査を行った。皿屋上窯は、床面が直線的で隔壁・段差を持たない窯で、全長約15mを測り、幅は約1.5mと比較的狭い。窯構造・製品とも韓国の窯と酷似する。窯道具は、断面くさび型のハマが出土している。

平成12年度 帆柱窯跡の全長検出調査を行った。水平距離で約30mを測り、5基の中では最長である。製品は原則的に重ね積みをせず、藁灰軸の他、一部透明軸も存在する。

平成13年度 皿屋窯の周辺確認調査を行った。新たな窯跡は検出されなかつたが、遺物の分布範囲がかなり広がることが確認された。

平成14年度 帆柱窯南の谷奥において確認調査を行ったが、新たな窯跡は検出されなかつた。

③唐津市教育委員会の調査

調査は史跡整備に先立ち、下窯跡外周の構造確認と、上下窯跡近くに存在したであろう工房跡の検出を目的とし、「古窯の森公園」内に残る、飯洞甕上窯跡及び同下窯跡周辺において実施した。

飯洞甕下窯付属遺構の調査（平成27年度）

窯の北側から、幅約2m深さ40cm程度の溝状遺構を検出した。窯の周りから窯構築土を探掘した結果、溝状になったとのものと考えられる。出土遺物としては、陶器片（古唐津）の他、トチン・ハマ（焼台）が出土している。なおハマには、貝目痕跡を持つ物が多く見られた。

窯跡周辺部の調査（平成27・28年度）

約50m隔てて築かれた上窯と下窯の中間に、上下2段の平坦面が造成されている。

上段平坦面からは、炭混じりの土が互層に堆積した方形土坑と、テーブル状の板石組遺構が検出されたが、いずれも類例が見当たらず、その性格については現在検討中である。なお板石については、史跡の西を隣接して流れる小川の河床から切り出されたものと考えられる。また板石組遺構の南側からは碗・

皿類が集中して出土している。

板石組遺構の約7m南からは、青銅製の箸が1本（両端欠損）出土した。40年ほど前、近辺から同じく青銅製品（匙？）が3本掘り出したとの情報を得ているが、これらの青銅製品については、朝鮮半島製の可能性が高い。またここでも隣接して碗・皿類が集中して出土している。

出土した食器類は、通常鉢々器としての利用を連想させるが、朝鮮半島の事例を勘案すると、祭祀に伴う遺物である可能性が高い。

下段では白色粘土ひとかたまりと、ハマが数多く出土しており（貝目痕跡を持つ物は少ない）、作陶および窯出後の作業空間であったと推定される。なお粘土塊は、焼成実験の結果、そのまま陶土として利用可能とのことであった。

飯洞窯下窯遺構再検出調査（平成29年度）

昭和31年の肥前陶磁研究会による発掘調査以降埋め戻されていた、胴木間から第4燃焼室までの再検出を実施した。下窯の胴木間は、当時の実測図により浅く扁平であると考えられてきたが、再検出の結果、深さ約1mの舟底状を呈することが確認された。

また第2室と第4室の火床部分において、左側壁が外側にめくれる状況が観察され、下窯についても上窯と同様、当初右だけではなく左にも木口が存在した可能性が高い。

なお覆屋根の柱穴と考えられるピットは、側壁から1m以内の範囲で検出されている。

発掘調査期間

平成27年度 7月1日～8月24日

平成28年度 6月8日～11月2日

平成29年度 7月20日～11月9日

肥前陶器窯跡発掘調査指導委員会

平成27年度 第1回 8月10日、8月13日

平成28年度 第1回 7月21日、8月1日

第2回 2月22日

平成29年度 第1回 8月17日

第2回 2月14日

第Ⅱ章 環境

第1節 地理的環境

九州島の北西部を占める松浦郡は、佐賀県の東松浦郡と西松浦郡、長崎県の南・北松浦郡に区分されるが、その中でも東北に位置する東松浦郡は、平成の大合併により唐津市と玄海町の2自治体に再編成された。新唐津市は北西にのびる東松浦半島と玉島川・佐志川・松浦川とその支流が貫流する平野地帯、脊振山地及び玄界灘に浮かぶ島々からなり、南を小城郡の多久市、西を西松浦郡の伊万里市に接している。

岸岳古窯跡は、旧北波多村と同相知町境に位置する岸岳周辺に分布し、北波多の稗田字帆柱に5窯、相知町の大字佐里に3窯が存在する。

北波多地域は、佐賀県の北西部、合併後の新唐津市においてはその南西端に位置し、南の市境で伊万里市に接している。北波多市民センターは、東経129度57分2秒、北緯33度22分29秒に位置し、国道を利用すると、福岡へ約60km、佐賀市へ約45kmの距離にある。

周囲は標高200~300mの山々に囲まれ、全体として盆地の地形を成しており、東西におよそ6.4km、南北に10kmの菱形を呈し、その面積は26.5㎢である。河川は、南の伊万里市に源を発した流れが徳須恵川となり、旧村のほぼ中央を流れ、川原橋付近で松浦川に合流し唐津湾に注いでいる。一方、切木方面に発した流れは、北波多に入って田中川となり、竹有において徳須恵川と合流している。これら河川に沿って、中央部に徳須恵盆地、西部にも複数の小平野が形成されている。

1. 地形

本地域は東松浦半島の付け根に位置している。周辺は、下部が白亜紀花崗岩類と古第三紀相知・杵島層群の堆積岩類、上部が新第三紀末の松浦玄武岩類などの火山岩からなる丘陵地帯である。北波多地域は、こうした第三紀の丘陵とそれを刻む徳須恵川沿いの冲積低地からなる。段丘はほとんど形成されていない。おそらく最近数十万年間、地殻変動が安定しているのである。

徳須恵川の水系は、本流が北東~南西方向であるが、支流は北西~南東方向である。尾根や谷の方向性から読み取れる地形的な線状構造をリニアメントという。一般的なリニアメントは活断層などのような断層運動によって形成されたものも多いが、断層を含めて地質的弱線を河川などが浸食した組織地形起源のものもある。徳須恵川支流の北西~南東方向のリニアメントは古第三系相知・杵島層群の堆積岩の走向傾斜、断層方向など地質構造におおよそ調和的である。しかし、この地域においては、最近200万年間に活動した断層、活断層がないことから、リニアメントは、断層運動そのものの結果ではなく、地層のなかの泥岩や断層破碎帶などの脆い弱い部分が選択的に浸食された組織地形と考えられる。同様に徳須恵盆地は、砂岩質の巖木層と行合野層に断層でもって、挟まれた砂泥互層の芳ノ谷層が差別的に浸食された盆地である。これは、砂岩より砂泥互層、特に泥岩が相対的に浸食に弱いことを示す例である。一方、北東~南西方向の徳須恵川本流と支流の一つである田中川の流路は、こうしたリニアメントや古第三系の地質構造とは一致しない。これは古第三系が覆っていたであろう、玄武岩の谷地形や隆起時の最大傾斜方向を反映したもの（積載河川と必從河川）と推定される。

2. 地質

北波多の地質の基盤をなすのは、およそ1億年前の中生代白亜紀の中期に形成された花崗岩類である。主に地域の東縁を北西—南東に延びる畠島断層の東側に分布し、断層より西側では、地表にわずかに露出する程度である。また畠島断層より西側には、広く新生代古第三紀の堆積岩類が分布する。下半部の巖木層と芳ノ谷層は、合わせて相知層群と称され、両層とも石炭を胚胎する。佐賀県下では相知層群が分布し、石炭が採掘された地域を「唐津炭田」と呼んでいるが、本地域はこの炭田の北西端にあたる。上半部は杵島層・佐里砂岩層・行合野砂岩層・畠津砂岩層・畠津頁岩層からなり、合わせて杵島層群と称されるが、畠津砂岩層の上部と畠津頁岩層はこの地域より西側に分布している。この地域の地表では確認されていないが、石炭採掘のためのボーリング調査では、古第三系中に各所で、肥前粗粒玄武岩類に相当する層状貫入岩類が知られている。この貫入岩類の活動の時期は、第三紀中新世と考えられている。

霧差山・水ノ元山の山頂部や成瀬の北方と西方、恵木北方の尾根には、およそ300万年前の新第三紀鮮新世後期に噴出した、東松浦玄武岩類の一部が分布しているが、域内の最高所の岸岳には見られない。徳須恵川（波多川）を始めとする河川の流域には、およそ1万年前以降の第四紀完新世に堆積した沖積層が分布する。田中川下流部では、この沖積層の一部に、植物化石に富む粘土層が北波多村史編纂の過程で見出され、「田中川植物化石層」と命名された。

この地域の地質構造は、断層としては、北西—南東に延びる畠島断層と同じ傾向の山彦断層・行合野断層などがある。これらの北西—南東方向の断層の南西側が落下しているため、西側に行くほど古第三系の上部が分布する。それらと斜交する断層もあるため、古第三系の分布がやや複雑となる。徳須恵付近を通る北東—南西方向の軸を持つ、緩やかな背斜ないしドーム構造を、基盤と古第三系がなすため、泥質岩を多く含む相知層群が選択的に解析されて、徳須恵盆地が形成されたことが考えられる。同様な方向性の緩やかな向斜構造が、域内最高所をなす岸岳から南西の尾根部にかけてあるため、そこには古第三系の上部が分布している。

3. 植生と気候

北波多の植物分布を見るには、まず、佐賀県全体の植物分布状況から考えなければならない。現在、佐賀県の植物分布は地形や地質の状況から、次のように大きく5つに分けられている。「玄界灘沿岸」、「西部丘陵地」、「太良山地」、「脊振山地」、「佐賀平野」である。北波多地域は、「玄界灘沿岸」よりもやや「西部丘陵地」地域に入るものと思われる。北の方角が玄界灘に向かって開け、北東に霧差山、南東に岸岳、南に甲城、南西に日岳があり、麓は上平野、下平野の丘陵地につながり、低い盆地地形となっている。ちょうど、丘陵地の屏風で囲んでいるような地形である。

唐津市・東松浦郡の玄界灘一帯は、黒潮の分流である対馬海流の流動区域にあり、その影響を受けて温暖な気候で、海岸地帯および丘陵地帯は、琉球・台湾などの南方系の樹木や草本類、シダ植物が多い。かつて、北波多ではほとんどの山は、山頂周辺を残して伐採され、果樹園や茶園が造成され、そしてスギ、ヒノキの植林がなされた。しかし、残された山林は長い年月とともに、岸岳を中心とした自然の回復が徐々に進み、多様な植生が見られるようになってきている。佐賀県の温暖な気候と豊富な降水量は、北波多地域にも通じるもので、多種多様な植物の分布が見られる。中でもバリバリノキ、ヤマヒハツ、カンザブロウノキなどの南方系の植物や、ここが北限となる植物などが多数生育している。また、シダ植物分布の豊富な所で、県内に分布するシダ植物の大半が岸岳を中心に生育している。

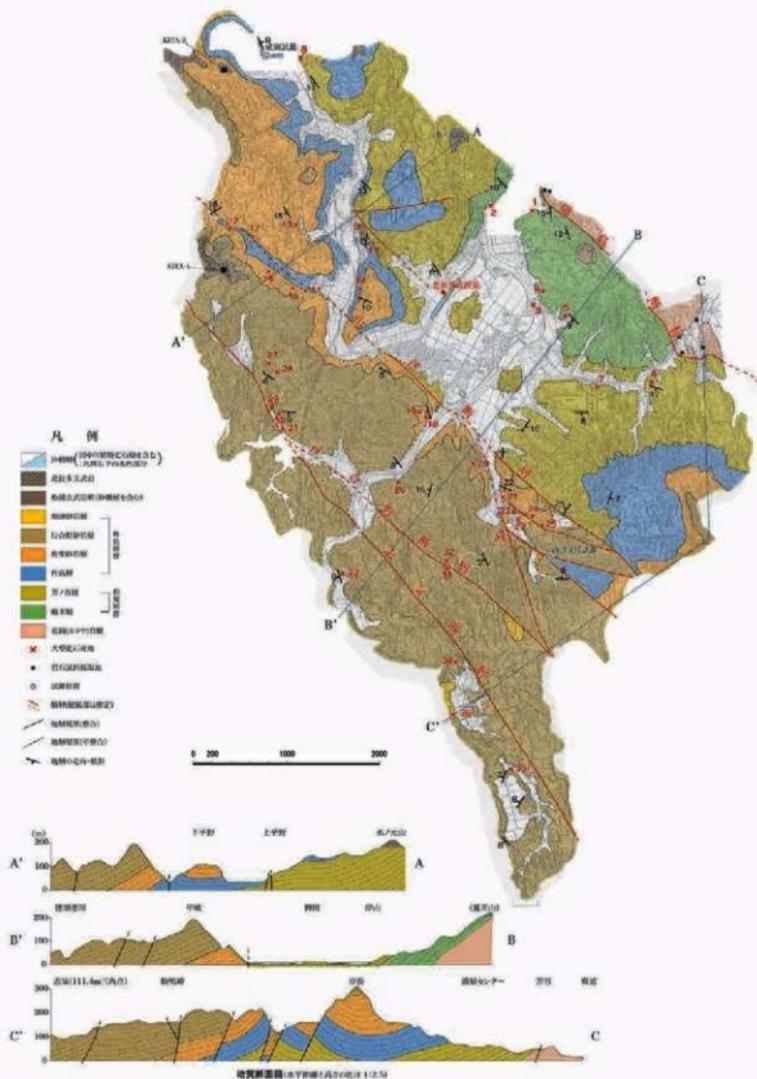


Fig. 2 北波多地域の地質

東から南そして西側まで低い丘陵地で囲まれ、北側に開けている当地域は、大気中に大量の水蒸気を含んだ季節風が吹き大量の雨を降らせ、植物の生育に必要な水量が豊富である。新生代第三紀に堆積した古い地層（第三紀層）から成り、至る所に古い砂岩や泥岩の崖や谷間が見られる。これらの崖や谷間、そして川は湿润で水量が豊かなため、豊富なシダ類や貴重な植物が分布している。

第2節 歴史的環境

東松浦地方は、その北端にある呼子から壱岐まで約28km、壱岐と対馬の間は73km、さらに対馬と韓国釜山の間は約93kmをはかり、島伝いに朝鮮半島と往来のできる地域である。当地方の遺跡には旧石器時代はもちろん縄文・弥生時代、古墳時代から中世にかけて、半島及び大陸の強い影響を指摘することができ、古くから大陸文化の門戸として発展していたことが窺える。

中世の東松浦地方は、上松浦党の活躍した時代であり、特に後期は前代に比較して遺跡数、出土遺物の量・質とも格段に豊富になる。当該期の集落遺跡からは必ずと言ってよいほど輸入陶磁器が出土し、いたる所に宝鏡印塔や五輪塔が存在する。その数は、市内全てを合計すると万余となろう。さらに城跡・館跡も、その伝承地を含めると、現時点でも三十数箇所を数える。

1. 交通と宿場

北波多の徳須恵を通る国道202号線（福岡—長崎）は、江戸時代からの主要道路で、長崎への街道であった。長崎警備に行く福岡藩の一行は朝浜崎を発ち、昼食を徳須恵でとる。そのあと道を左にとり立川道（右は伊万里道）に入ると、稗田から波多八幡神社前・志氣を経て、馬も辛くて鳴くほどの難所であるという駒鳴峠を越えて立川に入り、立川泊まりとなる。昼食時となった徳須恵は、武士・駕籠かき・人足・馬など大勢で混み合ったと思われる。

徳須恵から武雄への道は、稗田から波多八幡宮の前を通り志氣への道を南下する。ほどなく駒鳴峠にたどり着く。馬でさえも峠の険しさに鳴いたという駒鳴峠の道は、今は廃道となり通る人もいないが、伊万里市との境付近の草原に、「とくすえ しげつゝみ道」と彫られた石柱が立っている。

北波多の中心である徳須恵は、歴代唐津藩主の長崎巡見の際ににおける休憩所や駄馬人足継立所の設けがあり、古い宿駅の名残を留めている。往時は、北波多より陸路で唐津に出るには、往還（本道）は畠島・千々賀を経由し、川原橋より松浦川沿いに出たが、ほとんどは畠島・山田を通り、山田峠を越えて神田に出るのが普通であった。一方、伊万里へは徳須恵より稗田を経て、駒鳴峠を越え、大川野に出ていた。昭和11年（1936）頃までは、稗田の波多八幡神社前、御殿坂と呼ばれる場所に巨大な三本松（根元より幹が三本に分岐していた）



Fig. 3 肥前国絵図

があつたが、ここは一里塚であり、千々賀の神社

前よりここまでが正一里といわれていた。

「松浦拾風土記」(『松浦叢書』第一巻)「唐津より駅場所々道法御高札前並人馬賃御定通」によれば、唐津から徳須恵までは、徳須恵迄二里二十八丁・本馬六十六文・半馬四十四文・惣町ヨリ百二十文出ス・人足三十六文、とあり、一里=3.927キロメートル、一町=約0.109キロメートルなので、唐津から徳須恵まではおよそ11キロメートルとなる。

また、河川交通・運搬も盛んに行われ、荷物はもちろん、人もこれをを利用して徳須恵を上下していた。波多川(徳須恵川)には数か所の上場や舟場があり、伊万里・波多津の分岐点である行合野は、「波多津の板木組から唐津城下に年貢米を運ぶには行合野まで馬に乗せて陸路で運び、行合野からは船で満島に運んだ。」(『伊万里市史』近世・近代編)とあるように、舟楫の要所であった。これは寺沢氏時代以来、昭和初期に至るまで、300年の長きにわたって利用されたものであった。

2. 波多氏と岸岳古窯跡

唐津市の北波多地域は、その位置が東松浦半島の扇の要にあたることから、中世末期には、戦国大名への歩みを始めた波多氏の本拠地として栄え、数多くの遺跡が存在している。波多氏は、平安時代末期より肥前松浦郡を中心に活動した、嵯峨源氏を称する「松浦党」の一員とされ、南北朝以来しだいに力を貯え、戦国時代には上松浦党の盟主として、一時期壹岐をもその支配下に置く勢いを示したが、文禄2年(1593)豊臣政権により改易となった。

岸岳古窯跡とは、この波多氏の居城とされる岸岳城(昨今の研究成果によると慶長期まで改修が加えられ、近世城郭化している)の周辺に分布する窯跡の総称で、旧北波多村に皿屋窯、皿屋上窯、帆柱窯、飯洞裏上・下窯の5窯が、旧相知町には道納屋窯、平松窯、大谷窯の3窯がそれぞれ確認されている。これらは、波多氏が朝鮮半島の陶工を招聘して築いたと伝えられ、諸説が有るもの、その始まりは、1580年代から90年代と考えられている。

3. 肥前陶器窯跡

岸岳山麓は、唐津焼初期の窯跡が集中する地域として著名である。韓半島の甕器窯と、窯構造および製品とともに酷似する皿屋上窯跡、初期唐津焼の特徴の一つとされる、連房式登窯のプリミティブな形態の割竹式登窯で、薫灰釉製品を製陶した皿屋窯と帆柱窯、土灰釉及び長石釉製品を焼成した飯洞裏上窯と同下窯跡。以上大まかに言って3つのグループに分けることができるが、これら窯跡の相違は、近世窯業の懸念期における多様な姿を表している。しかし岸岳古窯跡群は短期間でその操業を終え、唐津市内では小十冠者窯、山瀬上・下窯、道納屋窯、大谷窯、平松窯が、その後もしくは一部併行して作陶を開始している。しかしいずれの窯も唐津焼の最盛期、いわゆる絵唐津の盛行する時期までは継続していないようで、唐津藩における陶器生産の中心は、藩領の中・北部から南部の伊万里市南波多・大川野地域に移っている。

1610年代を境に、唐津藩領における陶器生産は下火になるが、南波多椎峯地区には、窯の集中を見て



Fig. 4 北波多の舟着場

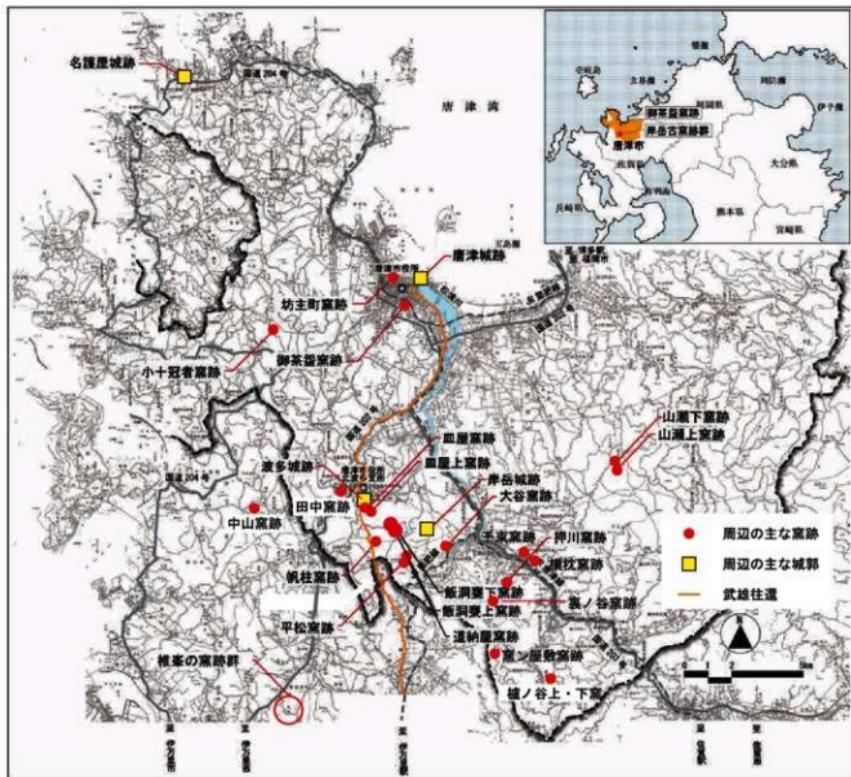


Fig. 5 周辺の窯跡

取れる。1620～1630年頃、寺沢氏は椎ノ峰に集った陶工の中から3名を藩の御用焼物師に任じ、扶持を与え、年一回藩御用の焼物を作らせたとされる。その後、宝永4年(1707)には四代中里太郎衛門、四代大島弥治兵衛が藩命により唐津市坊主町に御用窯を築き、さらに享保19年(1734)には、五代中里喜平次、五代大島弥吉が藩命により、窯を坊主町から唐人町に移した。この窯が現在唐津市町田に現存する御茶盃窯跡で、明治の廃藩まで藩の御用窯を務めた。特に坊主町窯で焼かれたものは土井唐津、御茶盃窯で焼かれたものは献上唐津ともよばれる。

4. 集落遺跡等

北波多地域では座主遺跡・田中遺跡・稗田遺跡・大杉高野遺跡において多数の輸入陶磁器が採取されているほか、川畠遺跡が徳須恵川の河畔に存在しこからは木製井戸枠を据えた井戸跡が2基出土している。相知町では伊岐佐伊良尾遺跡で掘立柱建物が検出されている他、同じく伊岐佐で墓墳出土と考え

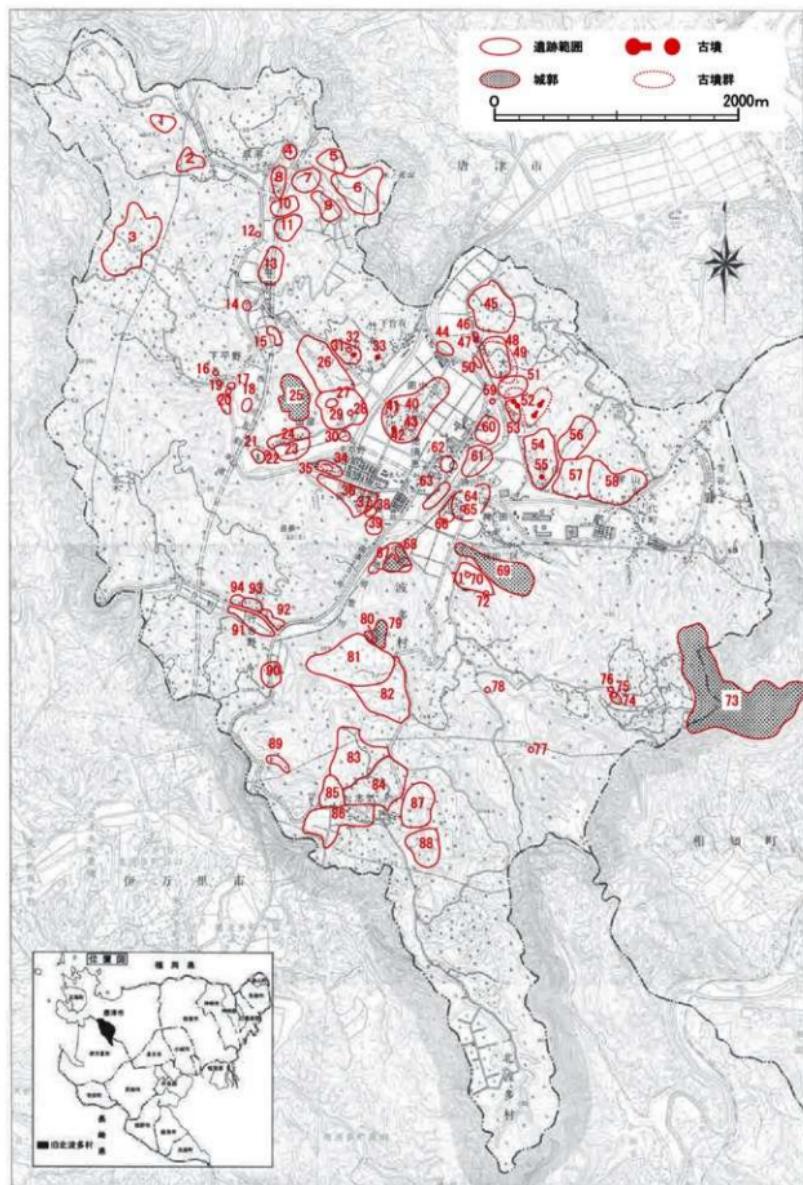


Fig. 6 北波多地域の遺跡

番号	遺跡名	所 在 地	旧石器	縄 文	弥 生	古 墳	奈 良	平 安	中 世	近 世	備 考
001	池畠遺跡	成瀬字池畠									
002	小深け遺跡	成瀬字小深け									
003	大坂遺跡	成瀬字大坂									
004	駄道遺跡	成瀬字駄道									
005	太田遺跡	成瀬字太田									
006	神山尻遺跡	成瀬字神山尻									
007	大久保遺跡	成瀬字大久保									
008	竹ノ木場遺跡	成瀬字竹ノ木場									
009	堂ノ前遺跡	成瀬字堂ノ前									
010	向山遺跡	成瀬字向山									
011	一ツ枝若落遺跡	上平野字一ツ枝									壊滅
012	曲り遺跡	上平野字曲り									
013	下千田遺跡	下平野字下千田 千田									縄石器、尖頭器、石匙
014	難谷遺跡	上平野字難谷									石器
015	上平野遺跡	上平野字下ノ原 中の間									土坑
016	石敢當	下平野字下平野									石造物
017	下平野若田A遺跡	下平野字前田									石器
018	下平野若田B遺跡	下平野字前田									縄石核、石鏃
019	—	下平野字前田									五輪塔、宝鏡印塔
020	金之手遺跡	下平野字金之手									
021	桑原遺跡	山彦字桑原				墳墓					壇棺
022	—	山彦字桑原									五輪塔、宝鏡印塔
023	前田原遺跡	山彦字前田原									剝片瓶、石匙、スクレイバー、土器、陶磁器
024	山彦遺跡	山彦字山彦									
025	城跡	山彦字彦主、山彦、西平、竹有字線打									城跡？
026	綿打遺跡	竹有字綿打、山ノ口									
027	座主岩陰遺跡	山彦字座主									剝片（旧綿打岩陰遺跡）
028	—	山彦字座主									五輪塔、宝鏡印塔
029	座主遺跡	山彦字座主									石器、土器、陶磁器、石斧、墨書土器
030	大坪遺跡	山彦字大坪									土器、陶磁器
031	山川遺跡	竹有字山川									
032	山川須恵器窯跡	竹有字山川					窯跡				壊滅か
033	屋敷谷古墳群	竹有字屋敷谷				墳墓					円墳1基
034	峰ノ辻遺跡	田中字峰ノ辻									
035	峰の辻古墳群	田中字峰ノ辻					墳墓				前方後円墳1基、円墳3基（壊滅）
036	千草野遺跡	田中字千草野、峰ノ辻、皆木									
037	千草野古墳群	田中字千草野									古墳5基（壊滅）
038	立園遺跡	徳須恵字立園				墳墓					壇棺（壊滅？）
039	瑞巖寺跡	徳須恵字立園									伝波多氏菩提寺
040	鳥遺跡	田中字島、羊田、パン道									伝村鳥跡
041	薬師堂古墳群	田中字島				墳墓					古墳5基
042	親王塚古墳	田中字島				墳墓					古墳 村史跡
043	鳥古墳群	田中字島				墳墓					古墳4基
044	ひわのくび遺跡	田中字正町									
045	大杉高野遺跡	大杉字高野、北平				住居跡					
046	庚申山古墳	大杉字満添				墳墓					古墳
047	—	大杉字満添									五輪塔、宝鏡印塔
048	立山遺跡	大杉字立山、風呂の谷									
049	立山古墳群	大杉字立山				墳墓					20数基（ほぼ壊滅）
050	大杉満添遺跡	大杉字満添									土器、陶磁器
051	猿山遺跡	大杉字猿山									
052	木の下古墳群	大杉字猿山、竹の下				墳墓					石2基（正福寺裏古墳）、前方後円墳2基、他10数基（壊滅）
053	竹の下遺跡	大杉字竹の下									土器、陶磁器
054	桜木遺跡	岸山字桜木、岩谷									
055	桜木古墳	岸山字桜木				墳墓					箱式石棺？
056	七ツ枝遺跡	岸山字七ツ枝、桜木									

Tab. 1 北波多地域の遺跡一覧 (1)

番号	遺跡名	所在地	旧石器	縄文	弥生	古墳	奈良	平安	中世	近世	備考
057	有ノ木遺跡	岸山字有ノ木				■					
058	地蔵木遺跡	大字岸山字地蔵木				■					
059	大杉橋遺跡	大字大杉字桜木				■					
060	瀬戸口遺跡	徳須恵字瀬戸口									
061	川畠遺跡	稗田字川畠、徳須恵字瀬戸口、前田		支石墓	集落跡		井戸				銅矛出土
062	徳須恵前田遺跡	徳須恵字前田									
063	馬場／川遺跡	徳須恵字四道、前田									石器、土器、陶器、土製鏡他
064	稗田遺跡	稗田字稗田、杭木、川鞋									壇滅古墳より銅銅出土？
065	天神心ノ原前墓	稗田字稗田							墓地		五輪塔、宝鏡印塔
066	松葉遺跡	稗田字松葉									
067	佐々木城跡	稗田字佐々木、植山					城跡				堀切、切岸
068	佐々木遺跡	稗田字佐々木、行合野字芋ヶ谷									土師器多数出土
069	波多城跡	稗田字裏ノ谷、杉谷、雄中					城跡				堀切、堀、敵状縱堀、切岸
070	杉谷遺跡	稗田字杉谷									
071	血屋窓跡	稗田字杉谷					窓跡				別名：杉谷窓跡 国史跡
072	血屋上窓跡	稗田字杉谷					窓跡				国史跡
073	岸岳城跡	稗田字稗田（国有林）					城跡	山城			石垣、堤切 墓史跡
074	帆柱（飯塚）遺跡	稗田字帆柱									石礫、石甃
075	飯洞壁上窓	稗田字帆柱					窓跡				国史跡
076	飯洞壁下窓	稗田字帆柱					窓跡				国史跡
077	帆柱窓跡	稗田字帆柱（国有林）					窓跡				国史跡
078	點滴り遺跡	稗田字點滴り									石礫、石甃
079	甲城跡	稗田字佐々木、煙河内					城跡				伝承地
080	甲城遺跡	稗田字烟河内									石礫、石甃
081	煙河内遺跡	稗田字烟河内、行合野字中村									
082	倉谷遺跡	稗田字倉谷									
083	池石遺跡	志氣字池石									
084	裏ノ谷遺跡	志氣字裏ノ谷									
085	辻ノ上遺跡	志氣字辻ノ上									
086	志氣前田遺跡	志氣字前田、大久保									石礫、石甃、石斧
087	平木塙遺跡	志氣字平木塙、三ツ石									
088	川頭遺跡	志氣字川頭									
089	中ノ兼遺跡	志氣字吉田									石礫、石甃
090	土元遺跡	行合野字土元				■					石礫
091	前遺跡	行合野字前				■					須恵器多数出土
092	大久保遺跡	行合野字大久保				■					
093	銅金谷遺跡	行合野字銅金谷				■					
094	天狗谷遺跡	行合野字天狗谷				■					

Tab. 2 北波多地域の遺跡一覧 (2)

No	遺跡名	No	遺跡名	No	遺跡名	No	遺跡名	No	遺跡名
1	呼子殿館	14	菜畑内田遺跡	27	田中城	40	中山氏館	53	大川野南館
2	名護屋城	15	神田城	28	座主遺跡	41	池田城	54	新久田城
3	値賀城	16	唐津城	29	恵木城山城	42	梶山城	55	椎ノ峰城
4	高江城跡	17	護神社	30	日岳城	43	長部田城	56	純ヶ城
5	長倉遺跡	18	鏡山	31	甲城	44	城跡	57	牧馬城
6	塙鶴遺跡	19	蓑笠丸城	32	川歎遺跡	45	獅子城	58	觀音屋敷
7	湊松木遺跡	20	市丸城	33	稗田遺跡	46	木場城	59	木須城
8	日高城	21	草野氏館	34	佐々木氏館	47	箇井城	60	金毘羅城
9	名場越後田遺跡	22	鬼ヶ城	35	波多城	48	塙津城	61	里館
10	佐志中通遺跡	23	谷口右切下塙跡	36	岸岳城	49	法行城	62	梶ヶ城山
11	徳蔵谷遺跡	24	久里城	37	大谷城	50	本城		
12	浜田城	25	青山城	38	山崎城	51	大曲館		
13	辻ノ尾遺跡	26	石志氏館	39	相知氏館	52	日在城		

Tab. 3 周辺の中・近世遺跡一覧

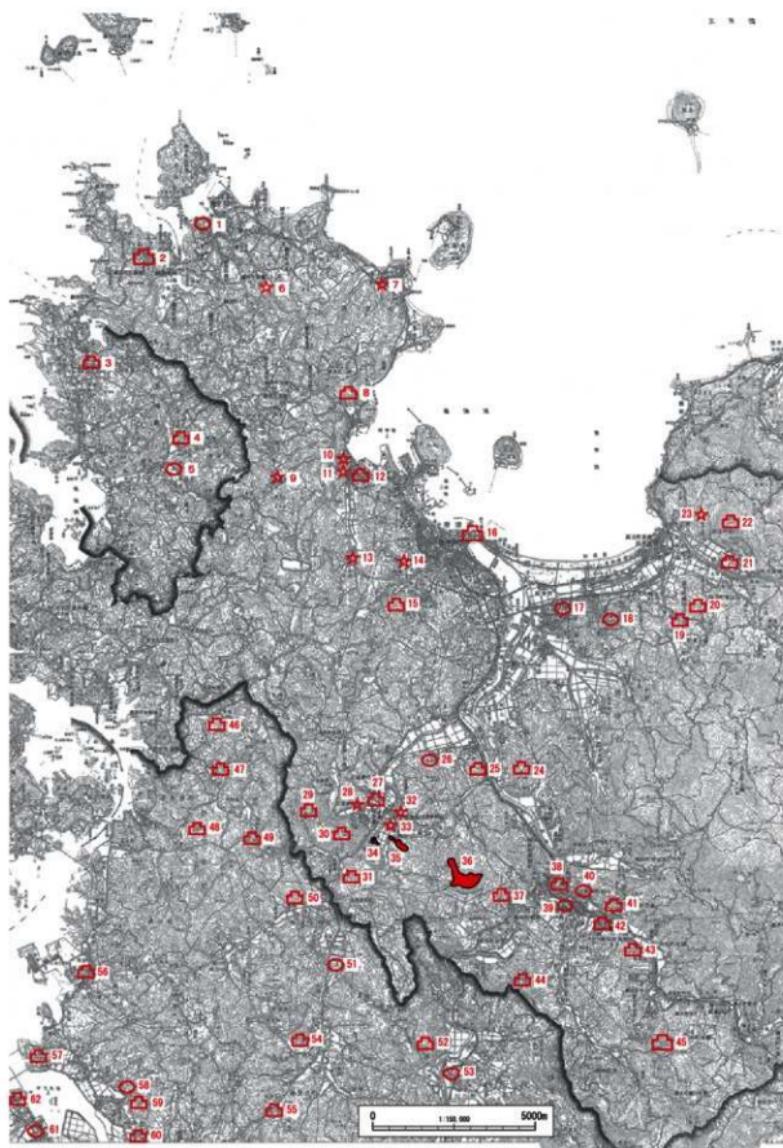


Fig. 7 周辺の中・近世遺跡一覧

られる青磁碗が採取されている。また岸岳の東南麓に存在した塚(伝お万塚)からは岸岳系古唐津の皿・碗・片口碗と土師皿が2点の計5点が発掘されている。

昭和60年に調査された名場越後田は、掘立柱建物群を中心に柵列・溝・土坑・井戸などによって構成される集落跡であるが、中国・朝鮮半島産の陶磁器とともに、唐津焼の小十窯や山瀬窯の製品が出土している。また、唐津城内及び城下町では、近年の調査により唐津焼の出土が増加しており、初現期の唐津焼をはじめ、肥前陶器における流通の実態が徐々に明らかになりつつある。

5. 城郭

遺跡東松浦郡には伝承地を含め幾多の城郭が存在するが、発掘が行われた遺跡は少なく、その実態には不明な点が多い。※①所在地 ②標高 ③規模 ④主な遺構

青山城跡

①唐津市山本 ②200m ③400×400m ④曲輪、堀切、豊堀、畝状豊堀、土塁

波多氏被官の青山采女の居城と伝えられるが、その実際は不明である。東松浦郡の中世山城としては岸岳城に次ぐ規模を誇り、遺構の保存状況も良好である。

獅子城跡

①唐津市巖木町岩屋 ②228m ③500×200m ④曲輪、堀切、豊堀、石垣、井戸跡、櫓台、虎口

平安時代末期の築城と伝えられるが、創建時期については不明である。戦国期には波多氏一門である鶴田氏の居城となり、佐賀龍造寺氏への押さえとして重要な位置を占めたが、波多氏改易にともない廃城になったと考えられてきた。獅子ヶ城は岸岳城と同タイプの石垣を築いているが、その発掘成果によると、岸岳城と同范瓦や志野焼が出土していることから、現在の石垣については、波多氏改易後である慶長以降のものである可能性が高い。

唐津城跡

①唐津市東城内・西城内・南城内・北城内 ②62m ③1.3×1km ④曲輪、堀、石垣、天守台、櫓台、虎口、門、井戸

寺沢志摩守広高により、慶長7年(1602)から慶長13年(1608)にかけて築城されたと伝えられている。その形は、唐津湾を臨む満島山を本丸として、南北に広がる砂丘上に二の丸、三の丸を配置したもので、三の丸周辺には城下町が形成されている。唐津藩は正保4年(1637)の寺沢氏の改易後、一時天領の時代を経て、譜代大名の大久保・松平・土井・水野・小笠原と五つの家の転封を繰りかえしている。なお、現在石垣改修に伴う発掘調査が行われているが、肥前名護屋城跡・岸岳城跡・獅子城跡と同范の瓦や、唐津焼を含む大量の陶磁器が出土している。

名護屋城並陣跡

①唐津市鎮西町・呼子町・東松浦郡玄海町 ③170,000km² ④曲輪、堀、石垣、天守台、櫓台、虎口、門、井戸

文禄・慶長の役(1592~1598)で朝鮮半島への侵略の根拠地となった城であり、佐賀県立名護屋城博物館により、精力的な調査が進行中である。周囲には、豊臣秀吉の号令一下参集した、全国諸大名の陣跡が広域に分布している。築城は、各大名の割曾請でおこない、天正19年(1591)に築き始め、わずか5カ月で一応の完成を見たといわれる。当時としては大阪城に次ぐ大きさの本格的な城郭であり、総面積170,000km²に及ぶ。3段構えの渦郭式で、本丸を中心には、二の丸、三の丸、弾正丸、東出丸を設け、またその北側下段には遊撃丸、水手曲輪、さらにその下段に山里丸と台所丸を配置し、北側を鹹鉢池で囲

んでいる。

陣跡は、徳川家康陣跡、堀秀治陣跡、豊臣秀保陣跡など現在120か所あまりが確認されている。石垣・土塁・堀・建物跡・門跡などの遺構が良好に残存しているものが多く、それぞれが中世山城を思わせる規模・構造を持っている。

波多城跡

- ①稗田字裏の谷、杉谷 ②50.4m ③40×170m ④曲輪、堀切、空堀(横堀)、竪堀、土塁、虎口、敵状
竪堀群、石垣、「水手」関係遺構

岸岳の北西麓一帯は放射状に伸びる幾筋もの尾根から構成されており、その内の稗田川と徳須恵川との旧合流点（稗田集落の西脇）を見下ろす丘陵先端に、「岸岳城祈願所」と伝わる波多八幡神社が鎮座している。波多城は、この神社境内を抱える山丘全体を城地と成し、南東から北西へ直線的に伸びる、幅員50～200mの狭長な低山の上に約700mの長さで遺構が展開している。皿屋上窯跡は、この波多城跡

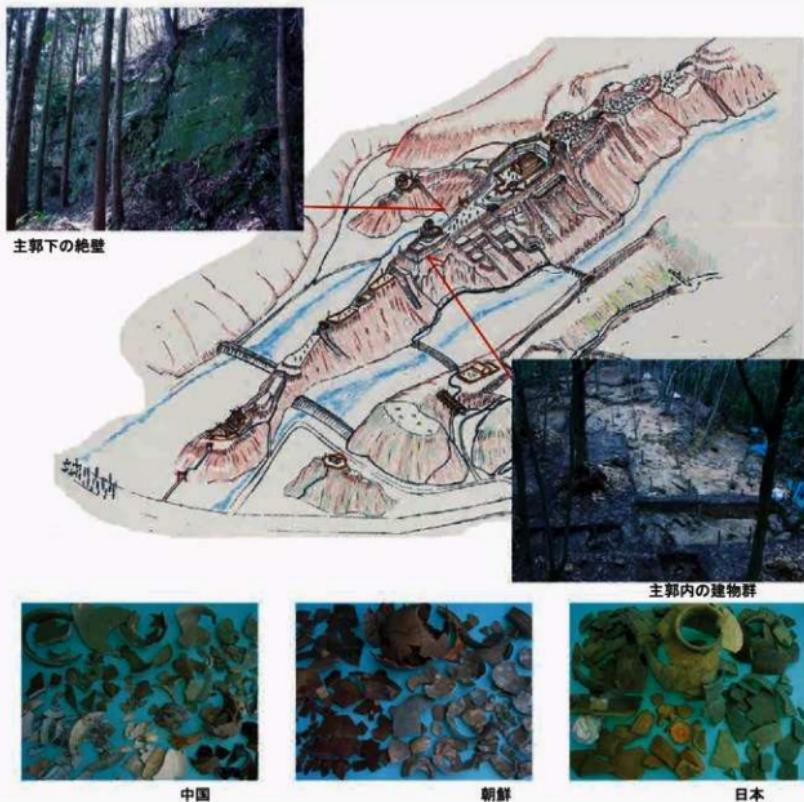


Fig. 8 波多城イメージ図

と小枝谷を隔てて、南約200mに位置する。

発掘調査（平成13年～17年）の結果、複雑な建物跡が検出されるなど、様々な遺構が良好に残ることが確認された。また遺物では、14世紀後半から16世紀後葉にかけての中国（明）・東南アジア各地（タイ、ベトナム）のほか、朝鮮王朝期の陶磁器類が多量に出土しており、肥前陶器生産前夜の状況を示す消費地遺跡として重要である。

国産陶器では、備前・瀬戸・常滑などが出土しているが、薺灰釉・土灰釉等、いわゆる岸岳系古唐津をはじめ、唐津焼は検出されていない。なお、皿屋上窯製品と酷似する、叩き成形の甕が多く出土しているが、胎土の科学成分分析の結果、両者は異なる分布領域を示すことが確かめられている。

岸岳城跡

①北波多桟田字帆柱・岸山字本城、相知町佐里字岸岳・防中字荒平 ②標高約315m ③1000×650m

④曲輪、土塁、石塁、虎口、櫓台、堀切、堅堀、

岸岳城跡は、唐津市北波多と相知町の境にそびえる岸岳山頂にあり、唐津城から南へ約10kmに位置する中世の山城である。南北朝時代（1336～1392年）に力を蓄え、戦国時代には上松浦党の盟主として活躍した、波多氏累代の本城として名高い。

江戸時代に入ると北波多一帯も唐津藩初代である寺沢氏所領となり、この時に、堅堀や堀切を多用した土造りの城を、石垣造りに大きく作りかえている。当時の状況や岸岳城とセットとなる獅子城（巖木町岩屋・波瀬）の発掘成果から考えると、遅くとも1630～1640年頃には破却（意図的に城を破壊すること）され、廢城になったと考えられる。

藩政期の編纂書では鬼子岳城、吉志岳城などと記されることもあるが、松浦氏族の系譜類の中でさえ明確な沿革が記されておらず、ましてや信憑性の高い史料上に現れる姿となれば、非常に漠然としている。郷土史上では、平安末期の松浦持の入部にまでその創築を遡及させる向きさえあるが、あくまでも想像の域を出ない。

觀応三年（1352）三月十八日付の沙弥蓮迎田地寄進状写（妙音寺文書）には、北波多、相知地域の松浦氏族が連署をしているが、その中に「きし山の二郎 源知しらす」「はた又三郎源至いたる」の名が見える。この頃には「岸山」・「波多」に根拠を置く領主層が成長していたことを明示しているが、後世、岸岳城を「岸山」城とも表記する場合が多くあることから、この南北朝期頃に城史の起点が求められるかもしれない。

標高300m余の峻嶺「岸岳」の山並みは、7合目を越えるとさらに傾斜を急にし、唐津湾に向けて巨大な屏風を立て廻らせたが如き絶勝を形成している。稀に見る天險を選んだこの城は、山上の隅々にわたって優に100箇所を超える曲輪を配置しており、その曲輪群の連続帶の延長距離は1.5kmにもおよぶ。山城としては佐賀県下最大で、北部九州屈指の大規模山城にも数えられる。

なお岸岳城跡においては、唐津城や獅子城と同様、薺灰釉をかけた岸岳系古唐津や絵唐津、美濃の志野焼等が出土しており、肥前陶器生産が開始した直後の状況を示す遺跡として重要である。

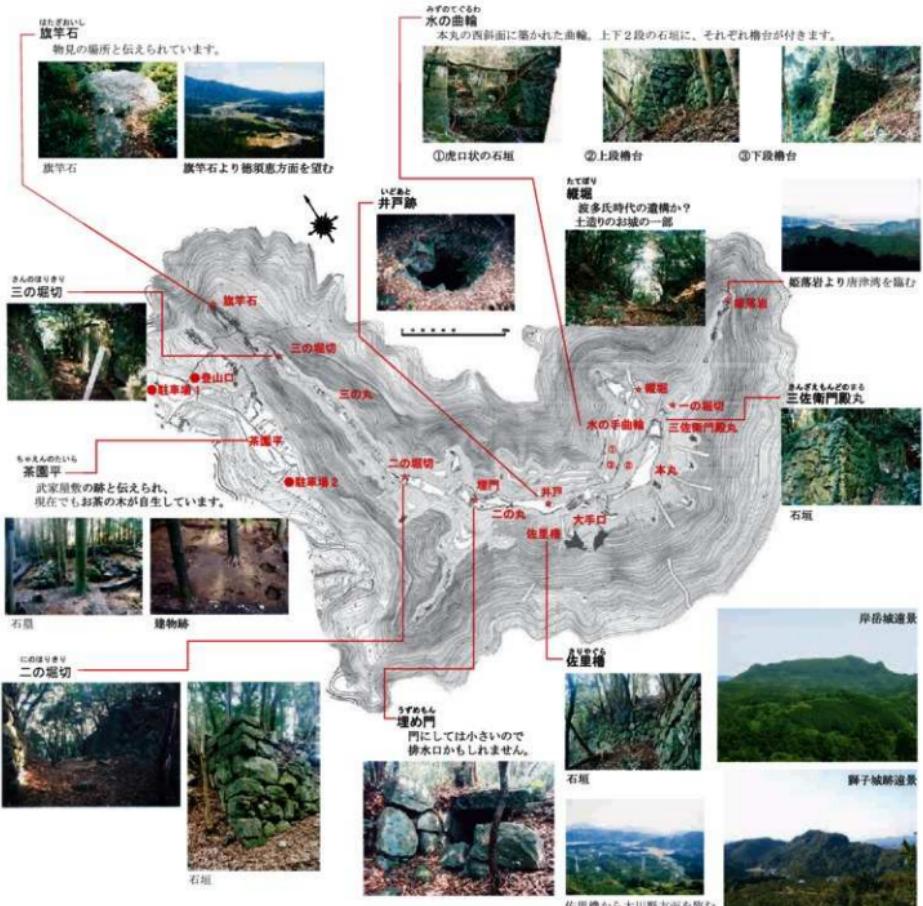


Fig. 9 岸岳城跡測量図

第III章 岸岳古窯跡群の概要

第1節 唐津焼の誕生と展開

1. 唐津焼の誕生と展開

唐津焼とは、肥前国で近世以降製作された陶器の総称であり、現在確認されている窯跡は200か所近くを数えるが、近世初頭16世紀末頃に、松浦党の後裔である波多氏が、朝鮮半島より陶工を呼び寄せて開窯したのが始まりと言われている。

肥前陶器は、慶長年間（1596～1615）頃には急速に商圈を広げ、伝統的な窯業地である瀬戸・美濃製品と、国内市場をほぼ2分するまでに成長する。「瀬戸・美濃焼」が従来の国産技術により製作されたのに対し、「唐津焼」はその当初から、朝鮮半島の先進的な技術体系を、丸ごと移植した形で生産を開始しており、特に「登窯」と呼ばれる大型の窯は、一度に大量の製品を低成本で焼くことが可能で、国産高級陶器と同等品を、より低価格で供給できるようになった。なおこの技術体系は、肥前では陶器のみならず磁器生産においても根幹的技術として共有され、さらに「登窯」の構造は、肥前国内だけではなく瀬戸・美濃など全国の窯業地に伝わっていく。

波多氏の改易後、寺沢氏の時代に入つても、岸岳諸窯の一部は、短期間操業していたと考えられるが、その多くは岸岳山麓を離れ、新たに窯を開いたと言われている。さらに文禄・慶長の役により、多くの陶工が朝鮮半島より渡来し、ここ肥前の地では、伊万里・武雄・多久・有田など、各地で陶器生産が開始される。

全国から出土する大量の唐津焼や、佐賀県下の窯跡の多さから、慶長・元和（1596～1624）の時代に肥前陶器の量産体制が確立され、唐津焼の全盛期を迎えたことがわかる。「絵唐津」と呼ばれる鉄絵装飾が盛行し、茶の湯で使用する茶碗・皿・向付（むこうづけ）、叩きの水指や花入などが数多く焼かれ、肥前の陶器生産は急成長を遂げることとなる。

しかし1610年代には、肥前における窯業体制は大きな転換期を迎える。国産磁器の誕生である。最高級の食器として磁器が位置づけられると、絵唐津は急速に衰え、肥前窯業における主役の座を下りることになる。一方有田地域周辺では廉価な無文の碗・皿が量産され、武雄地域では、鉄絵に代わり白化粧や象嵌手法を用いた、三島手や二彩手と呼ばれる装飾が主流となる。さらにその後は、京焼風陶器の製作や、壺・壺類に特化した窯などを含め、肥前における陶器生産は複雑な様相を示すようになる。

2. 唐津藩領の唐津焼

唐津焼草創期の窯は、波多氏の本貫地であつた唐津市北波多に築かれ、当初素朴な日常容器が焼かれていたが、1590年代中頃になると、絵唐津に代表される茶陶の生産が始まる。唐津藩領における窯跡は、成立期から絵唐津全盛期の

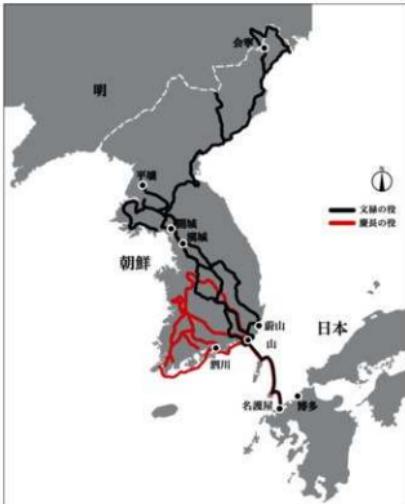


Fig. 10 文禄・慶長の役の経路

窯が約半数を占めるが、その中心は、岸岳山麓から松浦川中流の大川野地域（伊万里市大川町）に移る。ここでは、神谷窯跡や焼山窯跡群など、優れた絵唐津を焼いた窯が集中し、全体として大きな窯場を形成している。

1610年代になると、唐津焼の代名詞とも云うべき絵唐津（鉄絵装飾）は急速に衰え、川原地域の窯場もほぼ姿を消す。1610～1650年代の窯は、伊万里市南波多椎の峯地域に集中するが、唐津藩全体としては窯数も少くなり、生産量もまた減少に向かう。肥前全体では磁器生産開始の一方、陶器の窯も多くの築かれているので、絵唐津以降、唐津藩領内の陶器生産は、佐賀本藩・武雄領の量産体制とは異なる道を歩み始めたと言える。

絵唐津の衰退以降、唐津藩領内の陶器生産の中心は、先に述べたように伊万里市南波多椎の峯地域に移る。寛文元年(1661)頃の椎の峯山は、1基20室程度の登窯が3基有り、約350戸が集まる大きな焼物町であったが、元禄13年(1700)、貸し借りのトラブルにより、伊万里商人から訴えられるという、いわゆる「椎の峯事件」が起こる。裁判の結果、関係した陶工8人は唐津藩内の村々へと追放され、椎の峯山の窯場は衰退していく。

事件に関係しなかった5名により、規模を縮小して椎の峯の「御用窯」は維持されていたが、宝永4年(1707)、中里家四代の太郎右衛門、大島家四代弥次兵衛の手で、新たに、坊主町の御用窯が築かれる。さらにその後、享保19年(1734)、五代中里喜平次と五代大島弥吉が、藩命により唐人町（現在の町田）へと窯を移す。これが国史跡の「御茶溫窯」であり、その製品は、「献上唐津」と呼ばれている。

寺沢家改易後、慶安2年(1649)に譜代大名の大久保家が唐津に藩主として入封するが、この時代から唐津焼の将軍家献上が文献に現れ、その後土井・水野・小笠原と藩主家は変わっても、将軍家の「茶碗献上」は幕末まで続く。また同時に、藩主が初めて国元に入った時に焼物師から「茶碗」を献上することが恒例化する。

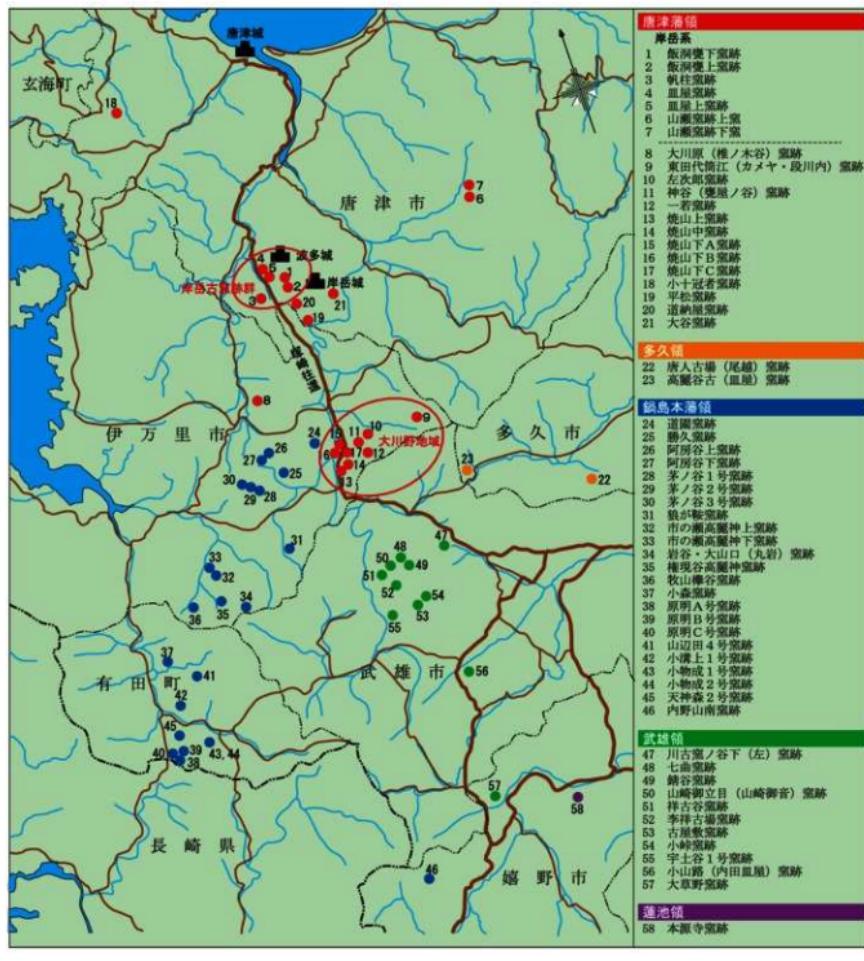
幕藩体制の崩壊により、唐津藩の庇護を失った御用窯を始めとして、唐津の陶器生産は低迷期を迎えることとなるが、昭和に入り、十二代中里太郎右衛門（無庵）の手により最盛期の唐津焼、つまり「古唐津」の技術・技法が再生・復興されたことにより、今日では、市内で70軒もの窯元が操業するほどの隆盛をみることになった。

表4は、文献6より唐津藩領の窯跡を抽出し、一覧表にしたものである。時期・推定年代については、文献4を基本に、調査報告書等の記載を参考に示した。なお各期はおおむね、I期：1580～1610年代、II期：1610～1650年代、III期：1650～1690年代、IV期：1690～1780年代、V期：1780～1860年代である。

肥前の陶器生産は、唐津市北波多の岸岳北麓において、朝鮮半島の技術をベースに、国内の嗜好を敏感に取り入れて成立した（Tab4-1～5）。これらの窯跡群は、16世紀末頃の開窯と考えられているが、その窯構造・製品の特長には3つのバリエーションが有り、懐臨期の複雑な様相が見て取れる。また唐津藩領では、これら岸岳古窯跡群の直後、もしくは数年重複して、岸岳南麓などにいくつかの窯が築かれるが（Tab4-9～14）、いずれも短期間で操業を終えている。

唐津焼の最盛期は、1590～1610年代、いわゆる絵唐津の時代であり、文禄・慶長の役により渡海した朝鮮半島の陶工達の手により、唐津藩領をはじめ、鍋島本藩領・武雄藩領などに数多くの窯が築かれる。しかし1610年代頃、磁器生産が始まり、文様を施した染付磁器生産が盛んになると、絵唐津は急速に姿を消し、有田・伊万里地域などで口縁部を「N」字状に折り返した無文の皿（灰釉溝縁皿）などが量産され、国内各地に流通した。その後肥前ににおける陶器生産は、寛永14年(1637)、佐賀藩の手により窯場の整理・統合が行われたことにより、伊万里・有田地方から陶製雑器は姿を消し、その中心は、二彩手や三島手の大型製品を焼成した武雄地域へ移ることになる。

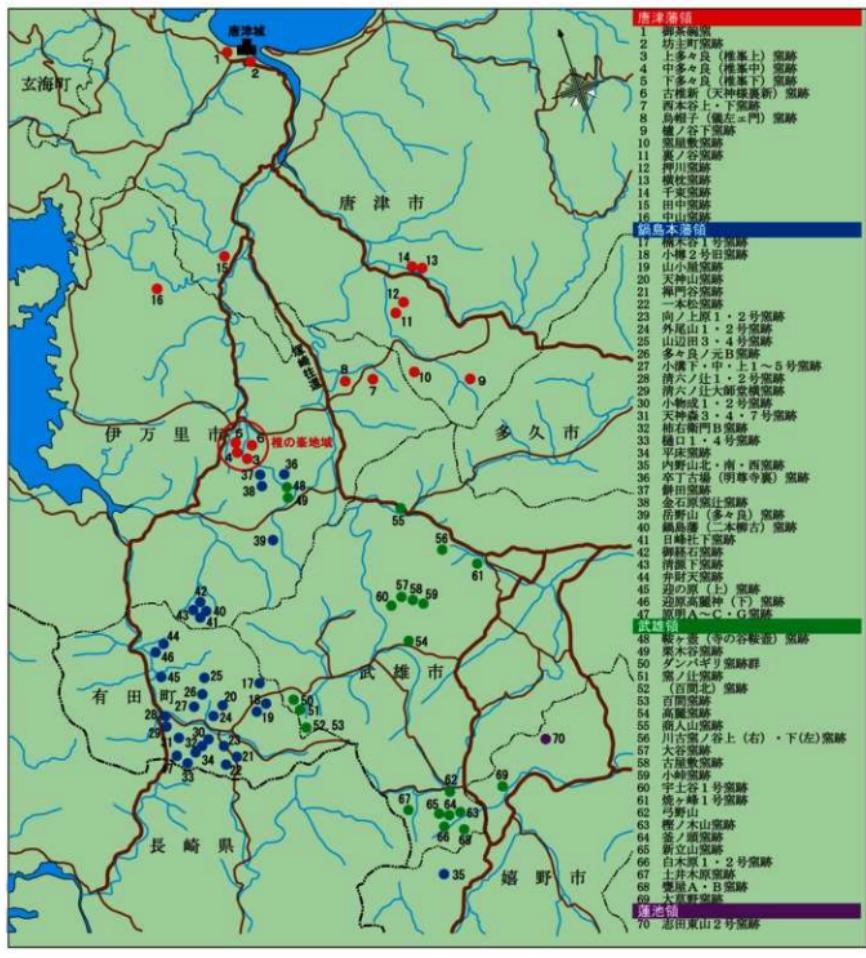
唐津焼古窯分布図 1 (1580年代~1610年頃)



「土の美 古唐津 一肥前陶器の全て」 2008 佐賀県立九州陶磁文化館をもとに、
「慶長国絵図」記載の街道を加筆して作成した。

Fig. 11 肥前陶器窯跡の分布 (1)

唐津焼古窯分布図 2 (1610~幕末)



「土の美 古唐津 -肥前陶器の全て-」 2008 佐賀県立九州陶磁文化館をもとに、
「慶長国絵図」記載の街道を加筆して作成した。

Fig. 12 肥前陶器窯跡の分布 (2)

No	窯名	所在地	時期	推定年代	備考
1	飯洞費卜窯跡	唐津市北波多	I	1580~1600年代	
2	飯洞費卜窯跡	唐津市北波多	I	1580~1600年代	
3	帆柱窯跡	唐津市北波多	I	1580~1600年代	
4	皿屋(杉谷)窯跡	唐津市北波多	I	1580~1600年代	
5	皿屋上窯跡	唐津市北波多	I	1580~1600年代	
6	田中窯跡	唐津市北波多	IV	1700年代前後	
7	坊主町窯跡	唐津市坊主町	IV	1707~1734	消滅か
8	御茶碗窯跡	唐津市田田	IV	1734~近代	
9	小十窯跡	唐津市梨山内	I	1580~1600年代	
10	山瀬窯跡上窯	唐津市祇園町	I	1580~1600年代	
11	山瀬窯跡下窯	唐津市祇園町	I	1580~1600年代	
12	平松窯跡	唐津市相知町	I	1580~1600年代	
13	道納窯跡	唐津市相知町	I	1580~1600年代	
14	大谷窯跡	唐津市相知町	I	1580~1600年代	
15	植ノ谷下窯跡(平山下窯)	唐津市相知町	III	17C後半?	
16	榎ノ谷(上)窯跡(平山上窯)	唐津市相知町	III・IV	17C後半~18C	
17	裏ノ谷(浦の谷)窯跡	唐津市相知町	III・IV	17C後半~18C	
18	横枕窯跡	唐津市相知町	IV?	江戸後期?	
19	押川窯跡	唐津市相知町	IV・V	18C~19C	廃類
20	窓屋敷窯跡	唐津市相知町	明治中期		
21	燒山上窯跡	伊万里市大川町	I	1580~1600年代	
22	燒山中窯跡	伊万里市大川町	I	1580~1600年代	
23	燒山下A窯跡	伊万里市大川町	I	1580~1600年代	
24	燒山下B窯跡	伊万里市大川町	I	1580~1600年代	消滅か
25	燒山下C窯跡	伊万里市大川町	I	1580~1600年代	窯か不明
26	神谷(櫻屋の谷)窯跡	伊万里市大川町	I	1590~1600年代	
27	一若窯跡	伊万里市大川町	I	1590末~1610年代前半	
28	牟田良窯跡	伊万里市大川町	I	1590~1610年代	不明
29	東田代陰江(カメヤ・段川内)窯跡	伊万里市大川町	I	1590~1610年代	消滅か
30	梅坂窯跡	伊万里市大川町	I・II	1600~1620年代	ほぼ廃類
31	左次郎窯跡	伊万里市大川町	II・III	江戸時代前期	消滅か
32	普徳窯跡	伊万里市大川町	IV	18C	
33	西本谷上窯跡	伊万里市大川町	IV	江戸時代中期	
34	西本谷下窯跡	伊万里市大川町	IV・V	江戸時代中期・後期	消滅
35	片草窯跡	伊万里市大川町	IV・V	江戸時代中期・後期・大正	
36	鳥帽子(儀左工門)窯跡	伊万里市大川町	V	1830~1843	植木跡
37	大川原(櫻の木谷)窯跡1号	伊万里市南波多町	I	1590~1600年代	
38	榎ノ谷窯跡	伊万里市南波多町	I	1590~1610年代	消滅か
39	笠稚窯跡	伊万里市南波多町	I	1590~1610年代	消滅か
40	中多良々(椎峯中)窯跡	伊万里市南波多町	II~IV	江戸時代前期~中期	
41	下多良々(椎峯下)窯跡	伊万里市南波多町	II~IV	江戸時代前期・中期	
42	古稚新(天神様裏新)窯跡	伊万里市南波多町	II・III	17C	
43	上多良々(椎峯上)窯跡	伊万里市南波多町	III	1650~1670年代	
44	大川原(櫻の木谷)窯跡2号	伊万里市南波多町	III	17C後半(1657~1707?)	
45	符招新(古道)窯跡	伊万里市南波多町	IV	18C	
46	中山(梅の木谷)窯跡	伊万里市波多津町	IV	18世紀前半	

Tab. 4 唐津藩領の窯跡

年号	西暦	記事	備考	周辺の窯跡
文禄末~慶長初期	~1596~	大川野田村代村建立	御茶碗は焼かず、壺瓶杯を焼ぐ 御茶碗は焼かず、壺瓶杯を焼ぐ 一若窯跡等	東田代陰江窯跡 1590~1610年代
慶長10年頃	1605	大川野田村代村建立	御茶碗は焼かず、壺瓶杯を焼ぐ 御茶碗は焼かず、壺瓶杯を焼ぐ 一若窯跡等	1590末~1610年代前半
元和元年頃	1615	府招太椎峯に移り建立	唐津領内の陶工集まる 中・下多良良窯等	II期(1610年代)~
承応2年	1653	平山御用窯止(馬村和兵衛)	1650年開窯? 馬ノ谷上・下窯跡	17C後半~18C
明暦3年	1657	大川原古窯の側に、3代中里吉右衛門開窯	~1707(坊主町開窯)?: 大川原窯跡2号	17C後半
寛文元年頃	1661	椎峯には20室の窯が3基。350石	年に1回謫居用焼成(通常難器) 上・中・下多良良窯等	II期~IV期(1780年代)
元禄13年	1700	陶工、伊万里商人から訴えられる	椎峯事件 中山窯跡、田中窯跡他	
元禄14年	1701	椎峯、周穂を施し新しく御用窯を作る	3代中里吉右衛門他 上・中・下多良良窯等	
元禄16年	1703	椎峯事件解決	陶工8人を随所の村々に放逐 3代中里吉右衛門他。5名無因 系	
宝永4年	1707	4代中里太郎衛門他、坊主町に御用窯設く	「土井唐津」 坊主町窯跡	1707~1734
享保6年	1721	椎峯御用窯を大幅に拡張するに際し椎峯	上・中・下多良良窯等	
享保8年	1723	椎峯御用窯を椎峯の陶工に払い下げる	上・中・下多良良窯等	
享保19年	1734	坊主町から唐人町に御用窯を移す(御茶碗窯)	「献土唐津」 御茶碗窯跡	1734~

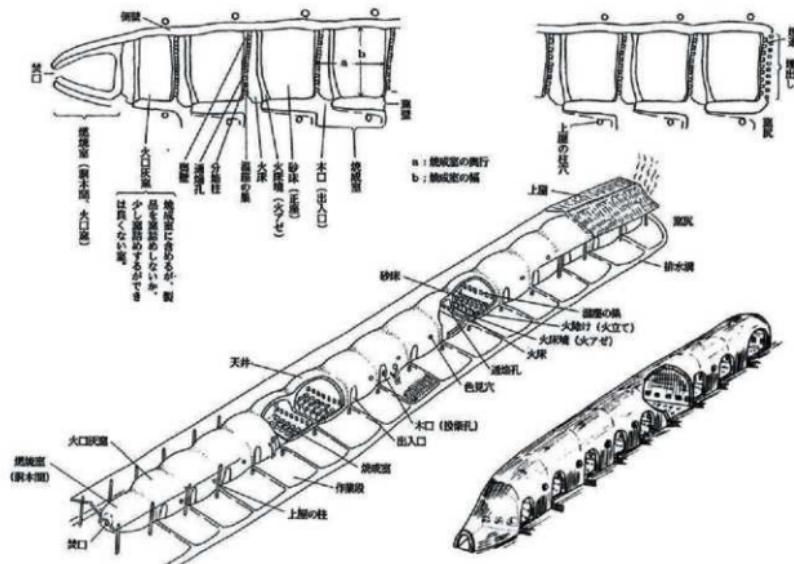
Tab. 5 『喜平次旧記』における記事一覧

時期区分	I期 1580年代～1610年代	II期 1610年代～1650年代	III期 1650年代～1690年代	IV期 1690年代～1780年代	V期 1780年代～1860年代
肥前陶器に関わる主な出来事	千種城没(1591) 文禄・慶長の役(1592-1598) 彦根氏成立(1593) 守門氏津守成立(1594) 龍川藤原城立(1603)	古賀城落城(1615) 鍋山石の免(1616) 有田・伊万里の窯場搬築(1637) 守門氏津守(1647年)	中国(明)の禁船政策(1644～84)	土井氏津守に入選(1691～) 嘉永和約令(1709, 1722) 豪茶道源流(1734～)	小笠原氏津守に入選(1817～) 明治政府設立(1868年) 開港場(1871)
唐津焼生産の移り変わり	唐津焼の誕生 勘吉津・桃山系陶の発達	福島の誕生 三島御守の出現 勘吉津の衰退	京焼風陶器の出現 食器生産の発展 (安価な陶・皿類)	豪上庄津の成立(前津庄津開拓) 食器生産の発展(前津庄津) 会食用大皿類の衰退	佐賀藩窯では、便服の生産は続くが、碗・瓶類はほとんど途絶える。 唐津焼では、引き継ぎ様子な陶器が作られ続けた。
薩灰釉					
(土)灰釉					
長石系釉					
鉄釉					
青絞釉					
薩灰鐵釉掛分					
鉄絞(続唐津)					
三島唐津	三島手(象嵌)				
	二彩手 掛け分け				
	刷毛目 柳目				
灰釉茶碗					
京焼風陶器					
献上唐津					
叩き甕					

*東京国立博物館所蔵 画像提供:東京国立博物館 Image: TNMfImageArchives

- 佐賀県立九州陶磁文化館所蔵・画像提供
- 佐賀県立九州陶磁文化館所蔵・画像提供 佐賀県重要文化財
- 佐賀県立九州陶磁文化館所蔵・画像提供 高取紀子氏寄贈

Tab. 6 肥前陶器の変遷



『肥前古陶磁窯跡』1999より

『多治見市史通史編上』1980より

Fig. 13 窯構造模式図及び部分名称

	四層上窯			瓶洞連上窯			瓶洞壁下窯			帆柱窯			皿屋窯		
	幅	奥行き	面積	幅	奥行き	面積	幅	奥行き	面積	幅	奥行き	面積	幅	奥行き	面積
第1室		2.25	2.20	4.95	2.10	2.50	5.25	2.24	2.21	4.95	2.56	2.44	6.25		
第2室		2.24	2.31	5.17	2.00	2.20	4.40	2.00	2.12	4.24	2.60	2.16	5.62		
第3室	1.00	2.24	2.24	5.02	2.30	2.20	5.06	2.36	2.06	4.86	2.76	2.08	5.74		
第4室		2.24	2.30	5.15	2.20	2.30	5.06	2.30	2.06	4.74	2.75	2.05	5.64		
第5室		2.24	2.30	5.15	2.20	2.30	5.06	2.20	1.90	4.18	2.75	2.00	5.50		
第6室				2.40	2.30	5.52	2.15	1.90	4.09	2.75	1.75	4.81			
第7室	?	14.40			2.20	2.10	4.62	2.10	2.15	4.52	2.75	1.72	4.73		
第8室								2.10	2.00	4.20	2.75	1.72	4.73		
第9室								2.10	2.00	4.20	2.80	1.72	4.82		
第10室	1.50							2.10	2.00	4.20	2.76	1.76	4.86		
第11室								2.10	2.00	4.20					
第12室								2.10	2.00	4.20					
第13室								2.10	2.00	4.20					
小計		14.4		11.35	25.45		15.90	34.97		26.40	56.77		19.40	52.69	
面積の平均					5.09			5.00			4.37			5.27	
火口灰窯									2.00	1.4	2.80	2.40	1.60	3.84	
胴木間	1.50						2.90			2.5			2.50		
合計		15.90		11.35	25.45		18.80	34.97		30.30	59.57		23.50	56.53	
窯勾配角		22.0度		16.0度			15.5度			21.0度			26.0度		

Tab. 7 窯の寸法

※単位はメートル

※焼成室は窯戸からのカウント

※明期体は推定値 幅は上下の焼成室から推定。奥行きは上下の焼成室間距離を推定室数で割り戻す。

I期は、肥前陶器生産の成立期から絵唐津全盛期の窯であり、唐津藩領では全体の約半数を占めている。唐津藩領における中心は、岸岳山麓から松浦川下流の川原地域（伊万里市大川町）に移るが、神谷窯跡や焼山窯跡群など（Tab4-20～28）、優品を数多く製作した窯が集中し、全体として大きな窯場を形成している。

II期になると肥前全体では、磁器生産開始の一方、陶器の窯も多く築かれるが、唐津藩領では、当該期の窯は極端に減少し、唐津焼の代名詞とも云うべき絵唐津（鉄絵装飾）は急速に衰え、川原地域の窯場もほぼ姿を消す。さらに上記の「灰釉溝縁皿」も一般的ではなく、佐賀藩領の生産体制と異なった動向を示すようになる。

III期は伊万里市南波多、椎峯地域に集中するが、IV期以降はそれに加え、松浦川支流の巖木川の中流域にもまたがり見られる。しかし全体としての窯数は少なく、生産量もまた、多くはなかった。

Tab 5は、『喜平次旧記』から関連すると思われる記事を抽出し、該当する地域に存在する窯跡を加え、一覧表にまとめたものである。『喜平次旧記』は、中里家5代の喜平次が、享保5年(1720)・同6・11年に記した、幕府閣老からの諮詢書に対する写しであり、同時代史料として貴重である。

本史料により窯の変遷を簡単にまとめると、①田代村→②川原村→③椎峯(1615年頃～)→④平山(1650年頃～1653)→⑤大川原(1657～)→⑥坊主町(1707～)→⑦唐人町(1734～)となり、それぞれの地区に存在する窯跡の編年時期と良く一致する。

第2節 岸岳古窯跡群の概要

1. 窯の構造と特徴

唐津焼の成立については諸説あるが、現在の研究では、文禄・慶長の役に先立ち上松浦党の盟主である波多氏が、朝鮮半島から陶工を呼び1580～1590年代に開窯したのがその始まりと考えられている。

波多氏の居城が築かれた岸岳の西麓には5つの窯跡が確認されているが、いずれも肥前型の登窯が定型化する以前の窯とされている。これらは成品及び窯構造の上で、おおむね3つのグループに分類が可能である。その第1は無段單室の皿屋上窯跡で、主に甕・壺など、叩き成形による貯蔵具を焼成しており、肥前古窯全体の中でも特異な位置を占めている。第2は飯洞甕上窯・同下窯跡で、主に土灰釉の碗・皿類と貯蔵具を焼成し、窯の勾配角も16度前後と比較的緩やかである。第3は皿屋窯跡および帆柱窯跡で、主に藁灰釉の碗・皿類を焼成し、窯の勾配角も20度以上と急傾斜に築かれ、共に火口灰窯を備えている。

皿屋上窯跡は、床面が直線的で、焼成室を仕切る壁も無い無段單室の窯で、肥前古窯の構造と大きく異なる。このような窯は朝鮮半島に普遍的に存在するが、その一例として韓國慶尚道尊池里で発掘された甕器窯に酷似する。この窯は焚口が削平されているためその詳細は不明であるが、同じく無段の單室窯であり、製品も甕・甕の蓋・瓶といった陶器製の貯蔵器を中心に焼成している。

飯洞甕上窯跡と同下窯跡は同一グループに属し、焼成室の平均面積はそれぞれ5.09m²と5.00m²であり、構造・形態・寸法など多くの要素で類似するが、縱断面を観察すると、飯洞甕上窯跡は下窯跡に比べ焼成室間の段差が小さく、火床の凹を除くと、全焼成室の床面がほぼ一直線となっている。肥前古窯の変遷において、焼成室間の段差が小→大という流れが指摘されているが、この点を考慮すると、飯洞甕上窯跡→同下窯跡という時間的前後関係を指摘しうる。

帆柱窯跡と皿屋窯跡は、藁灰釉碗・皿類の集中的焼成という点では共通するが、窯構造ではいくつかの相違点が見られる。その最も大きな違いは、焼成室の数とその床面積である。帆柱窯跡が推定焼成室数13であるのに対し皿屋窯跡は10室であり、その平均床面積も前者が4.37m²であるのに対し後者は5.27

mである。焼成室規模の拡大傾向という肥前古窯の変遷に照らし合わせると、両者の編年は帆柱窯跡→皿屋窯跡となろう。

①皿屋上窯跡

- | | |
|------|--|
| 窯の構造 | <ul style="list-style-type: none"> 無段単室（傾斜）窯。塗壁式壁体。 胴木間（燃焼室）は、円形の浅い窪み状を呈する。 窯構造、窯道具・製品とも、韓國慶器窯と酷似。
※類似窯：鹿児島県加治木町串木野窯、同宇都窯　韓國慶尚道蓴池里慶器窯 |
| 遺存状態 | <ul style="list-style-type: none"> 焼成室・燃焼室とも、床面のみ残存。窯中央部は、里道により削平。 燃焼室のすぐ南に溜池が存在。全体的に、遺存状態は不良。 |
| 工房 | <ul style="list-style-type: none"> 未検出 |
| 物原 | <ul style="list-style-type: none"> 窯跡南斜面部に散在。厚い堆積は見られず。 |
| 遺物 | <ul style="list-style-type: none"> 叩き技法の甕・壺等を製作。 |
| 立地 | <ul style="list-style-type: none"> 丘陵地ではあるが、集落に近くアクセスは比較的容易。 |

②飯洞甕上窯跡

- | | |
|------|--|
| 窯の構造 | <ul style="list-style-type: none"> 割竹式登窯（火口灰窯無）。塗壁式壁体。 火床の掘り窪みは浅く、※火床境の仕切り（粘土製）も低い。 焼成室の奥壁は低く、窯勾配角と焼成室床面傾斜角がほぼ等しい。 分焰柱は7本で、割石を芯に粘土を巻いて形作る。 窯尻の煙出しが、焼成室と同様、分焰柱を立てた状態で一列に配置する。 各焼成室の入り口が、左右に存在する。 焼成室の平面プランは整った方形となる。 |
| 遺存状態 | <ul style="list-style-type: none"> 第1室以下が道路により削平されている。 床面の遺存状態は良好。 |
| 工房 | <ul style="list-style-type: none"> 窯跡北平坦部で柱穴等確認。 |
| 物原 | <ul style="list-style-type: none"> 窯跡周辺部に散在。厚い堆積、特定位置への集中は見られず。 焼成室間の段差がほとんど無く、傾斜窯に近い。下窯に先行。 |
| 遺物 | <ul style="list-style-type: none"> 土灰釉・長石釉の碗・皿のほか、甕・壺等も製作。 |
| 立地 | <ul style="list-style-type: none"> 整備された自然公園内に存在。駐車場有。アクセス容易。 |

③飯洞甕下窯跡

- | | |
|------|---|
| 窯の構造 | <ul style="list-style-type: none"> 割竹式登窯（火口灰窯無）。塗壁式壁体。 燃焼室は舟底状で、奥壁は高く立ち上がる。 火床の掘り窪みは浅く、火床境の仕切り（粘土製）も低い。 焼成室の奥壁は上窯より高く、窯勾配角より焼成室床面傾斜角がやや緩やか。 隔壁の構築芯材に砂岩を使用。分焰柱は6本で、割石を芯に粘土を巻く。 各焼成室の入り口は、向かって右に統一されている。 焼成室の平面プランは整った方形となる。 |
| 遺存状態 | <ul style="list-style-type: none"> 岸岳窯跡群の中では、唯一上部構造（隔壁）が残存。 床面の遺存状況も良好。最も残りの良い窯跡。 |
| 工房 | <ul style="list-style-type: none"> 未検出 |

候補地：窯跡北東・西平坦部。なお上窯跡の工房を継承した可能性も有り。

- 物 原 ・窯跡周辺部に散在。厚い堆積、特定位置への集中は見られず。
 遺 物 ・土灰釉・長石釉の碗・皿のほか、甕・壺等も製作。
 立 地 ・整備された公園内に存在。駐車場有。アクセス容易。

④帆柱窯跡

- 窯の構造 ・割竹式登窯（火口灰窯有）。塗壁式壁体。
 ・岸岳古窯跡群で最長の窯跡。（全長30.3m）
 ・胴木間奥壁には一枚岩を置き、高く立ち上がる可能性が高い。
 ・焼成室の奥壁は低く、窯勾配角と焼成室床面傾斜角がほぼ等しい。
 ・分焰柱は6本で、粘土塊を芯に粘土を巻いて形作る。
 ・窯尻の煙出しは、焼成室と同様、分焰柱を立てた状態で一列に配置する。
 ・焼成室の入り口は、右方向が確認されている（左右の可能性も残る）。
 ・焼成室の平面プランは、やや歪んだ方形を呈する。

- 遺存状態 ・全体的に盗掘の被害が大きい。燃焼室奥壁には一枚岩を置くが、かく乱が激しく、形状不明確。
 工 房 ・窯跡東平坦部において、方形土坑を検出。
 物 原 ・窯跡周辺部に散在。厚い堆積、特定位置への集中は見られず。
 遺 物 ・主に薬灰釉の碗・皿を作製。重ね積みは少ない。
 立 地 ・集落から離れた丘陵地に存在するため、アクセスは不便。

⑤皿屋窯跡

- 窯の構造 ・割竹式登窯（火口灰窯有）。塗壁式壁体。
 ・最上室の側壁は、割石をレンガ状に積み、表面を粘土で塗り込めて構築。
 ・窯尻後方の煙出し空間は、地山（砂岩質）を2段に削り込み、幅20cmほどの溝を巡らす。
 ・焼成室床面積は、岸岳古窯跡群で最大（平均5.27m²）
 ・焼成室の奥壁は高く、床面の傾斜は上の焼成室ほど緩やかになる。
 ・焼成室の奥行きは、下の部屋ほど短くなる。
 ・各焼成室の入り口が、左右に存在する。
 ・各焼成室で、床面の左右の傾斜方向が異なる
 ・燃焼室は船底状で、奥壁は高く立ち上がる。
 遺存状態 ・全体的に盗掘の被害が大きいが、燃焼室の床面残存状況は良好。
 工 房 ・窯跡南東平坦部において、段切りの平坦面検出。北平坦部も可能性有り。
 物 原 ・窯跡周辺部に散在。厚い堆積、特定位置への集中は見られず。
 遺 物 ・主に薬灰釉の碗・皿を作製。胎土目積みの皿が多い。
 立 地 ・丘陵地ではあるが、集落に近くアクセスは比較的容易。

2. 遺物の特徴と分類

岸岳古窯跡群は、①甕類を集中的に焼成した皿屋窯上窯跡、②土灰釉と長石釉製品を中心とする飯洞甕上窯跡と同下窯跡、③主に薬灰釉製品を焼成した、帆柱窯跡・皿屋窯跡の3グループに分かれる。

土灰釉系列では、皿屋上窯跡→飯洞甕上窯跡→飯洞甕下窯跡、薬灰釉系列では、帆柱窯跡→皿屋窯跡の順序で諸要素の変遷が認められる。但しこれら要素の変遷が、時間的前後関係を反映しているかは、

さらに消費地における出土状況、国内外の窯業技術の分析を通して総合的に判断することが必要であろう。

土灰釉系列と薺灰釉系列は、多くの要素で明確に区別できるが、飯洞甕下窯跡と帆柱窯跡において同じ口縁形態が共有されており、少なくとも両窯間には、時間的または技術的接点が存在する。

皿屋上窯跡は、韓国尊池里甕器窯など半島の窯構造に酷似し、その製品もまた形態・器種構成・マーブル状に煉り込んだ胎土など、あらゆる点で朝鮮半島産と区別がつかないほど似ている。さらに、尊池里甕器窯で見られた複合口縁形態が、甕・鉢類の製作において、全ての窯に採用されていることからも、皿屋上窯跡だけではなく、岸岳古窯跡群全体の甕・鉢類の製作技法が、半島のオンギ（甕器）製作の系譜上に位置することは明らかである。

これら甕・鉢類に対し、茶陶をはじめ食器類の多くは、朝鮮半島と異なる器形の製品により構成されている。最も普遍的に出土している丸皿の器形は、朝鮮半島の粉青沙器系の窯で焼かれた青磁皿にも類似するが、小环や向付、装飾を施す碗などは、当時の国内嗜好、流通していた器の形を基に製作された器種と考えられるのである。これらの日本の器種を、肥前地域が独自で開発した可能性もあるが、皿屋上窯跡や飯洞甕下窯跡と同下窯跡間のトレンドから、瀬戸美濃大窯第4段階末の志野向付と天目碗が出土しており、このことは、近世的器種・器形の成立において、肥前及び美濃地方が密接に連携し、重要な役割を果たしたこと示唆している。

以上甕・鉢類の製作技術が、朝鮮半島の系譜に連なることを確認したが、碗・皿類においてはその器形・器種と同様、製作技法も国内に求められるのであろうか。ここで注目すべきは窯道具である。

トチンとハマを多用する窯積め方法は、当時の国内では見られない特徴であり、その祖源は半島に求められる。また底部調整（削り）におけるロクロは左回転で、国内伝統的窯業地とのそれとは逆であり、半島の回転と同一である。

これらの事実により、碗・皿類の製作技法もまた朝鮮半島に系譜が求められ、ここ肥前の地においては、朝鮮半島的技法を用い、当時国内で嗜好されていた器形と器種の製作が開始されたと考えることが出来る。

出土遺物の分類

皿・碗類をはじめロクロ水引き成形による製品（但し擂鉢は紐造り）をTab 8・9に、甕・壺類等タタキ成形の製品をTab 10に掲載した。また、鉢及び壺類については、ロクロ水引き成形とタタキ成形の両者が存在するので、それぞれTabを分けて載せている。

なお本表は、発掘調査により出土した陶器に限った分類であり、肥前陶器全体を俯瞰した場合は、また異なる表となる。さらに煩雑さを避けるため、出土量が少ない器種については、細分可能でも1つに纏めたため、分類基準レベルは器種間で異なっている。

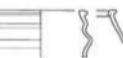
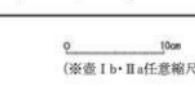
主要参考文献

- (1) 伊万里市史編纂委員会(2006)『伊万里市史 陶器編 古唐津・鍋島』伊万里市
- (2) 大橋康二(1993)『肥前陶磁』考古学ライブラリー55ニューサイエンス社
- (3) 唐津市教育委員会(2011)『岸岳古窯跡群Ⅲ』唐津市文化財調査報告書第159集
- (4) 九州近世陶磁学会(2000)『九州陶磁の編年』
- (5) 九州近世陶磁学会(2005)『十六・十七世紀における九州陶磁をめぐる技術交流』
- (6) 佐賀県肥前古陶磁窯跡保存対策連絡会(1999)『肥前古陶磁窯跡 基礎調査・基礎方針策定報告書』
- (7) 佐賀県立九州陶磁文化館(2008)『土の美 古唐津・肥前陶器のすべてー』佐賀県立九州陶磁文化館
- (8) 中里達庵(2004)『唐津焼の研究』中里太郎衛門工房
- (9) 水町和三郎・鍋島直紹(1963)『唐津』白鳳社

I (丸皿)	a		・体部が内湾する	碗	I		・体部は内湾し、口縁が外反
	b		・体部が浅く内湾 (内湾度の弱いものも含む)		II		・体部が内湾し、口縁に至る
	c		・腰部に弱い棱を持つ ・口唇が僅かに肥厚する		III		・腰部が張り、半筒形を呈するもの。
	d		・腰部に弱い棱を持つ ・口唇が僅かに肥厚する ・浅い体部		IV		・半筒形を呈する。 脚部・口縁部に装飾を施すことが多い。
	e		・体部は腰部で弱く屈曲し、緩やかに立ち上がる。		V		・天目形の茶碗。
	a		・腰部に弱い棱を持つ ・口縁は外反		I		・碗形を呈する 高台を削りだすことが多い。
	b		・腰部に弱い棱を持つ ・口縁は外反 ・体部が浅い		II		・筒形又は半筒形を呈する 基底を呈することが多い。
	c		・体部は逆「へ」字状に開く ・口縁は緩く外反		III		・浅い輪形を呈する
	d		・肩部に段を持つ ・口縁は緩く内湾し短く開く		I		・浅い輪形を呈する ・口縁に変形(変形・文様)を持つものが多い ・向付?
			・体部は直線的に開き、口唇部に浅い溝を持つ		II		・筒形又は半筒形を呈する ・文様を描くものが多い ・向付? ・香炉?
III (溝縁皿)			・体部は直線的に開き、口唇部に浅い溝を持つ		III		・その他 (中・大型の鉢等)
	IV (縦立皿)		・体部は腰部で屈曲し、上方へ立ち上がる ・向付?	鉢	I		・口縁が11cm程度のもの
	V (波縁皿)		・口縁部が波状を呈する		II		・口縁が15cm以上のもの
	VI (菱形皿)	a			a		・ドーム状を呈するもの ・側面に押捺を施すもの
	b		・口縁部に間隔を開けて複数箇所押捺を施す ・向付?		b		・ドーム状を呈するもの
VII			・その他 輸入陶器等		II		・円盤状を呈するもの
IV (中皿)	a		・皿I類(丸皿)に類するもの	蓋	I		・扁平でつまみを持つものの底部が水平
	b	口径20cm程度。	・皿II類(端反皿)に類するもの		b		・底部が弧を描く
	c		・皿III類(溝縁皿)に類するもの		II		・逆円筒形を呈する
	d		・皿V類(波縁皿)に類するもの		I		
IX (大皿)	a		・皿I類(丸皿)に類するもの				
	b	口径30cm程度。	・皿II類(端反皿)に類するもの				
	c		・皿III類(溝縁皿)に類するもの				
	d		・皿V類(波縁皿)に類するもの				

Tab. 8 出土遺物の分類 (1)

0 10cm

(小)壺	I	a		・無頸壺 ・単純口縁 ・短く立ち上がる口唇	瓶	I		・無花果形の胴部。
	I	b		・無頸壺 ・複合口縁（玉縁状の口唇）		II		・扁平な胴部。
	II	c		・無頸壺 ・口唇に臺受けを造る。		I		・カキ目は複線。
	II	a		・無頸壺 ・単純口縁	擂鉢	II		・カキ目は單線。
	III	b		・短頸壺 ・口唇に臺受けを造る。		III		・カキ目は單線。
	IV	c		・小壺 ・単純口縁		IV		・カキ目は單線。
	IV	d		・筒型の長い頸部	叩き成型			・叩き成型の後 ナデ調整。
		e						

Tab. 9 出土遺物の分類 (2)

0  10cm
(壺壺 I b・II a任意縮尺)

壺	I		・逆「L」字状の口縁 ・單純口縁
	II		・頸部が「く」字状に屈曲し、直線的に外方へ開く ・單純口縁
	III		・頸部が比較的長く上方に立ち上がり、口縁部が逆「L」字状を呈する ・複合口縁
	IV		・頸部が短く内傾し、口縁部が逆「L」又は「T」字状を呈する ・口唇末端は撫み上げることが多い。 ・複合口縁
	V		・頸部が「く」字状に屈曲し、逆「L」字状の短い口縁部を持つ ・複合口縁
	VI		・頸部が不明瞭
壺	a		・頸部は「く」字状に屈曲し、外方へ開く ・肩部は強く張る ・横耳を持つ
	b		・頸部は「く」字状に屈曲し、外方へ開く ・肩部は強く張る ・親耳を持つ
	VI		・短頸壺 ・口唇部は上方に立ち上がる
	VII		・無頸壺 ・口唇に蓋受けを造る。
蓋(大)	a		・天井部が平坦 ・單純口縁
	b		・天井部が平坦 ・複合口縁
	IV		・三角形の体部 ・天井部に取っ手を持つ
片口鉢	V		・円盤状を呈する ・取っ手を持つ
	a		・口縁部が逆「L」字状を呈する ・單純口縁
	b		・口縁部が逆「L」字状を呈する ・複合口縁
鉢	II		・頸部が内傾する ・複合口縁
	III		・頸部が不明瞭
	a		・胴部はほぼ垂直に立ち上がる ・直口縁 ・中型
鉢	b		・胴部はほぼ垂直に立ち上がる ・口縁部が逆「L」字状 ・中型
	a		・胴部は内側しつつ上方へ立ち上がる ・口縁部が逆「L」字状 ・取っ手を付ける
鉢	b		・胴部は上方へ立ち上がる ・口縁部が逆「L」字状 ・突起をつける
	VI		・扁平で内溝する胴部
鉢	VII		・胴部が外方へ開く ・口縁に注ぎ口を持つ ・複合口縁
	VIII		・幅の広い複合口縁
徳利	I		・無花果形の胴部 ・口縁部が緩やかに外反
	II		・胴部は強く張る(船底形) ・口縁部が緩やかに外反
	III		・口縁が緩やかに内湾
錘			
壺・鉢類の口縁の形態			
単 純		複 合	
1 a		2 a	
2 b		3 b	
2 c		3 c	

Tab. 10 出土遺物の分類 (3)

第IV章 皿屋窯跡の調査

第1節 遺構

位置と調査区 (Fig14)

皿屋窯跡は、唐津市北波多種田字杉谷に所在し、小枝谷を1本隔てた北方には戦国時代における波多氏の本城である波多城跡が、南東約120mには無段單室窯という肥前では特異な構造の皿屋上窯跡が存在する。平成9年度の調査区は(YS下01)、窯が遺在する範囲の上部にAトレント、下部にBトレントを設定して調査を行った。また傾斜等地形条件や壁材などの分布から、窯存在の可能性が考えられる場所にCからFトレントを設定したが、明確な遺構は検出されなかった。

平成13年度の調査区(YS下02)は、皿屋窯跡本体の南方、稜線上と斜面部において合計8本のトレントを設定して行った。調査範囲には、窯壁片をはじめ多くの遺物が散布しており、別窯の存在が期待されたが、残念ながら検出することはできなかった。調査トレントは、それぞれ第1から第3が斜面部、第7・8が傾斜変換点、そして第4から第6を稜線上に設定した。

窯跡の構造 (Fig15・16)

皿屋窯跡は、北東から南西に延びる低丘陵の南東斜面に築かれるが、平成9年度の調査では、燃焼室及び火口灰窯、焼成室6室（下部2室と上部4室分）と奥壁後方の空間を検出した。その平均勾配角度は26度を測り、北波多の5窯の中では最も急な斜面に構築されている。急勾配のため、各焼成室は奥行きが短く横長となり、奥壁もまた高くなっている。砂床の傾斜も、勾配の影響を受けてかなり急だが、最上室に関しては比較的緩やかになっている。

本窯跡は、焚口から窯尻までの長さ約23.5mを測り、10から11の焼成室を持つ登窯と推定されるが、その中心線は若干東に湾曲している。焼成室は階段状に連なり、それぞれの床面は前方に向かって緩く傾斜し、薄く砂が敷かれていた。なおその傾斜角は、下の焼成室ほど強いた。

窯尻の背後は、幅約20cmの溝が半円形を描いて廻り、さらにその後方は地山である砂岩を約1mの深さで削り落して平坦面を形成している。この空間は、焰の引きを強める、言わば煙突の機能を有していたと考えられる。

最上室も地山を掘り込んで床面を整えており、その側壁には砂岩の割石が積み上げられていた。またその表面にはガラス化した粘土が付着していることから、割石表面に粘土を塗り込めて側壁を構築したことがわかる。

焼成室の略寸法は、奥行170~240cm、幅250~280cmで、その形は上位の部屋ほど横長から正方形に近くなる。また焼成室の傾斜は上→下の他に、下から2室目は右→左に、3室目は左→右に僅かに傾斜していた (Fig16)。出入口については下から2室目と最上室においては右側に設けられていることが確認されたが、その他の焼成室については攪乱を受けていたため不明である。しかし床面左右の傾斜を考慮すると、下から1室目と3室目は、向かって左に出入口が存在した可能性が高い。

火床境は上面から前面にかけて粘土を貼って補強しており、どの焼成室のそれもおおむね良く焼け締まっているが、下部の火床境ほど高温を受けてガラス化しており、下から2室目には薬灰軸の皿が軸着していた。隔壁は各焼成室間において部分的に検出されたが、分焰柱は第2と3室間に1本残存しているにすぎなかった。燃焼室の床面は現表上面より、約2mも下に存在した。舟底形を呈し良く焼け締まつており、攪乱におけるその断面を観察すると、少なくとも4回の補修が想定できる。さらにその奥壁は、比較的高く立ち上がって火口灰窯に続くなど、帆柱窯跡に類似する構造となっている。

周辺部の調査

第3トレンチ(Fig18)の上層を観察すると、この斜面部は少なくとも3回掘り起こされていることが判る。第1から第15層は、いずれも縞りが弱く、最近の搅乱と判断された。トレンチの西部分には焼土が存在するが、地山は硬化しておらず、窯跡本体に関連するものでは無い。

第7トレンチ(Fig17)には、直径1m程の浅い土坑が存在している。淡灰色粘質土層の地山を20cmほど掘り窪め、下層には炭化物を多く含み、さらに底面は焼けて硬化していた。なお第1から第4層については、後世の再堆積である可能性が高い。

第8トレンチ(Fig17)においては、第2層以下は硬く締まった粘質土となる。第3層からは遺物や平石が多く検出されており、この面以下に何らかの遺構が存在した可能性が高い。

第4から第6トレンチは(Fig17)、稜線上に設定した長さ25mの直線的な試掘溝である。第5・第6トレンチでは、ほぼ表土直下で岩盤を検出できるが、北端の第4トレンチでは、大きな搅乱を受けているものの、約1mの深さでも岩盤に達しない。北端の浅い溝の存在も何らかの遺構を予想させる。

第5・6トレンチにおける段差・平坦面など、これらの遺構の中には、製陶に関する施設の他に、波多城跡に関連する曲輪・堀切等が含まれている可能性も高い。

第2節 遺物

本報告書に掲載した5つの窯跡の中で、皿屋窯跡からが最も多数の遺物を出土している。器種としては、窯の名のとおり「皿」が最も多く、以下碗、小杯、片口碗、瓶等と続く。製品のほとんどはロクロで成形されたもので、釉薬は失透白色の蕭灰釉が基本である。タタキ技法は甕・鉢などに見られるが、全体量に対する割合はごく少ない。また生焼けや熱を受けすぎて変形した製品が数多く見受けられ、本窯の歩留まりはかなり悪かったと想定できる。

皿屋窯出土の皿類には、重ね積みにおいて、釉剥ぎの胎土目積という特徴的な技法が存在する。皿の内面、高台置付が接する部分の釉薬を3か所、四角く剥ぎ取り、そこに直径1cmほどの团子状粘土を置き、器を重ねて焼き上げるものである。この技法の痕跡が認められるものは、実測図の右下に●を付している。その他の重ね積み技法としては、釉剥ぎを伴わないもの(○)、ピン状の胎土目を挟むもの(△)が存在する。また高台置付の調整では、回転糸切痕をそのまま残すものと、工具で糸切痕を削り落として平らに仕上げるものの2者が見られるが、出土した全ての碗・皿の底裏は露胎である。

皿類 Fig19-1からFig21-25までが丸皿(I)であり、最も出土量が多い。器形から述べると、体部が素直に内湾するものと、腰部で屈曲度が変わり、口唇が僅かに肥厚するものの2タイプが存在する。前者の内、体部の深いものを「a」、浅いものを「b」、後者も同様に、体部の深いものを「c」、浅いものを「d」として分類した。またIaと縦立皿(IV)との中间形態を示すものを、Ieとした。

Fig19-1は2枚が釉着した皿であるが、下皿の高台にも胎土目の痕跡があることから、最低4枚以上重ね積みを行っていたことが確認できる。Fig20-24は口縁に鉄輪を施すいわゆる皮鯨手の皿で、重ね積みにはピン状の胎土目を用いている。Fig21-18は口縁内面に「V」字状の鉛絵を描くが、釉薬は透明の蕭灰釉である。また皿類において体部の深いものはおおむね重ね焼きを行わないが、Ieでも胎土目の痕跡は見られない。

端反皿(II)は出土数が少なく、本窯では客体的存在である。腰部に弱い稜を持つもの(a・b: Fig22-1~4)は、全て釉剥胎土目積痕を遺す。IIcの器形は本窯では中皿において見受けられる(Fig24-16・18)。またIIdはFig24-14のみであるが、胎土・釉薬とも皿屋窯製品とは明確に異なり、後世に他窯から持ち込まれたものと考えられる。口唇内面に溝を設ける皿(III)は、1点(Fig24-15)出土しているが、外面には鉛絵が描かれているようである。

縁立皿は（IV：Fig22-5～8）向付として使用された可能性が高いが、No5・6は藁灰釉、7・8は長石釉の製品である。波縁皿（V：Fig22-9～Fig23-15）は全て単独焼成で、重ね積みの痕跡は持たないが、Fig23-14・15は口縁に鉄釉を流しがけする、いわゆる皮鯨である。

変形皿Vlaは（Fig23-16～Fig24-8）、口縁鉄釉掛けと四方手を基本とする。器種では皿に分類したが、向付として使用された可能性が高い。また、出土したほとんどに釉剥ぎ胎土目痕跡が見られる。

中皿と大皿（VII・IX：Fig24-16～19、Fig25-1～3）では、口縁が緩く外反するものと波縁状を呈するものの2者が確認されているが、破片では体部が素直に内湾する器形も出土している。なお、Fig29-12は、一覧表では中皿に分類しているが、内面が無釉であることから蓋の可能性も有る。

碗類 碗については、体部が内湾し口唇が外反するもの（I：Fig25-4～18）、体部が内湾し素直に口縁に至るもの（II：Fig25-19・Fig26-1）、半筒形を呈するもの（III：Fig26-2～5）の他に、鉄釉の天目碗（V）が出土している。またFig26-No19は藁灰釉製品ではあるが、胴下部に四条の平行沈線が巡る特殊な例である。なおFig26-22～30は白磁の碗であるが、隣接して存在する波多城に関連する遺物であると考えられる。

鉢類 鉢として分類したものはバリエーションが多く、その用途別によりさらに細分が可能である。ロクロで成形された小型のもの、タタキもしくはロクロ成形の中・大型品に大別される。（小）鉢（Fig26-17・18・20・21）は、I・II類に分類しているが、いずれもその用途は向付であろう。No17は長石釉に鉄絵を施す志野焼の向付で、大窯第4段階末に比定されている（註1）。

小環 小環も数多く出土した器種である（Fig27）。碗形を呈するもの（I）、筒型を呈するもの（II）、浅い碗形を呈するもの（III）者が出土しているが、III類は皿屋窯跡だけで確認されている器形である。

瓶・軸受け・小蓋等

瓶類は、Fig28-5が土灰釉である以外はいずれも藁灰釉である。

Fig28-7～9はロクロの軸受で、これらも藁灰釉製品である。

Fig28-10～14は、つまみを持つ小型の蓋であるが、13のみが土灰釉を掛けている。これらの蓋とセットとなる器種は出土しておらず、不明である。

Fig28-15は無釉で、皿状の底部には方形の孔を数箇所持つ。用途は不明である。

片口碗 ロクロ成形される片口を、片口碗とした。皿屋窯跡からのみ出土している器種で、口径11cm程度のものと、16cm以上の2者が認められる。なおFig28-19は、接合しないものの同一個体の片口が出土しており、片口碗であることを確認している。外面には鉄絵文様を描いている。

壺 Fig29-1・2は口縁をS字状に仕上する端正な小壺であるが、No1には釉薬の発色は見られず、焼き締めのような風合いを示す。

擂鉢 Fig29-13・14は、外面に藁灰釉をかけた擂鉢である。口径26cmにもおよぶ大型品であるが、タタキではなくロクロ水引きで成形されている。

壺・鉢類 Fig30には、タタキ成形の壺・鉢類を掲載した。No1・2は小型の壺であるが、口唇を内に折り返して複合口縁としていることが特徴である。

窯道具 皿屋窯跡からは、サヤやハマは出土しておらず、窯道具はすべてトチンである（Fig31）。その大きさは小から大まで様々であるが、中～小型は上下端が広がる「I」形のみである。

註1 藤沢良祐氏と横崎彰一氏のご教示による。

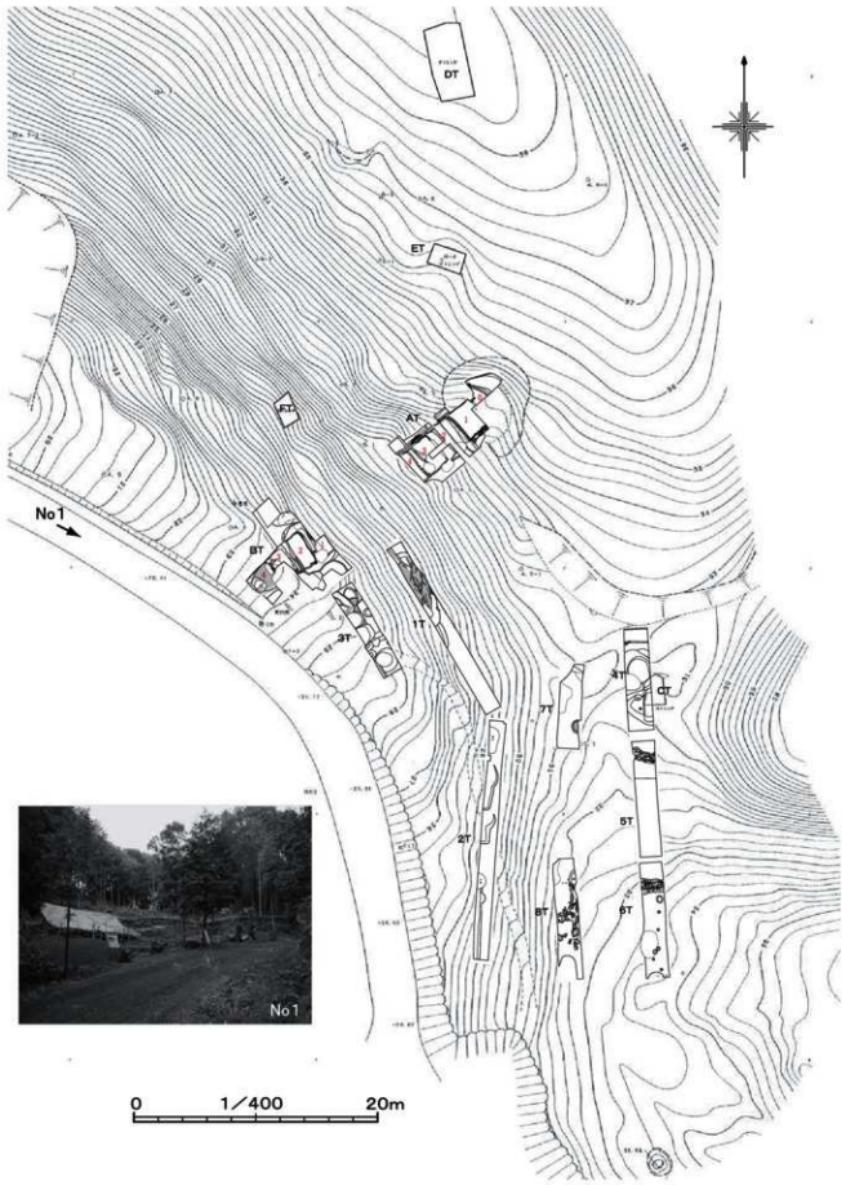
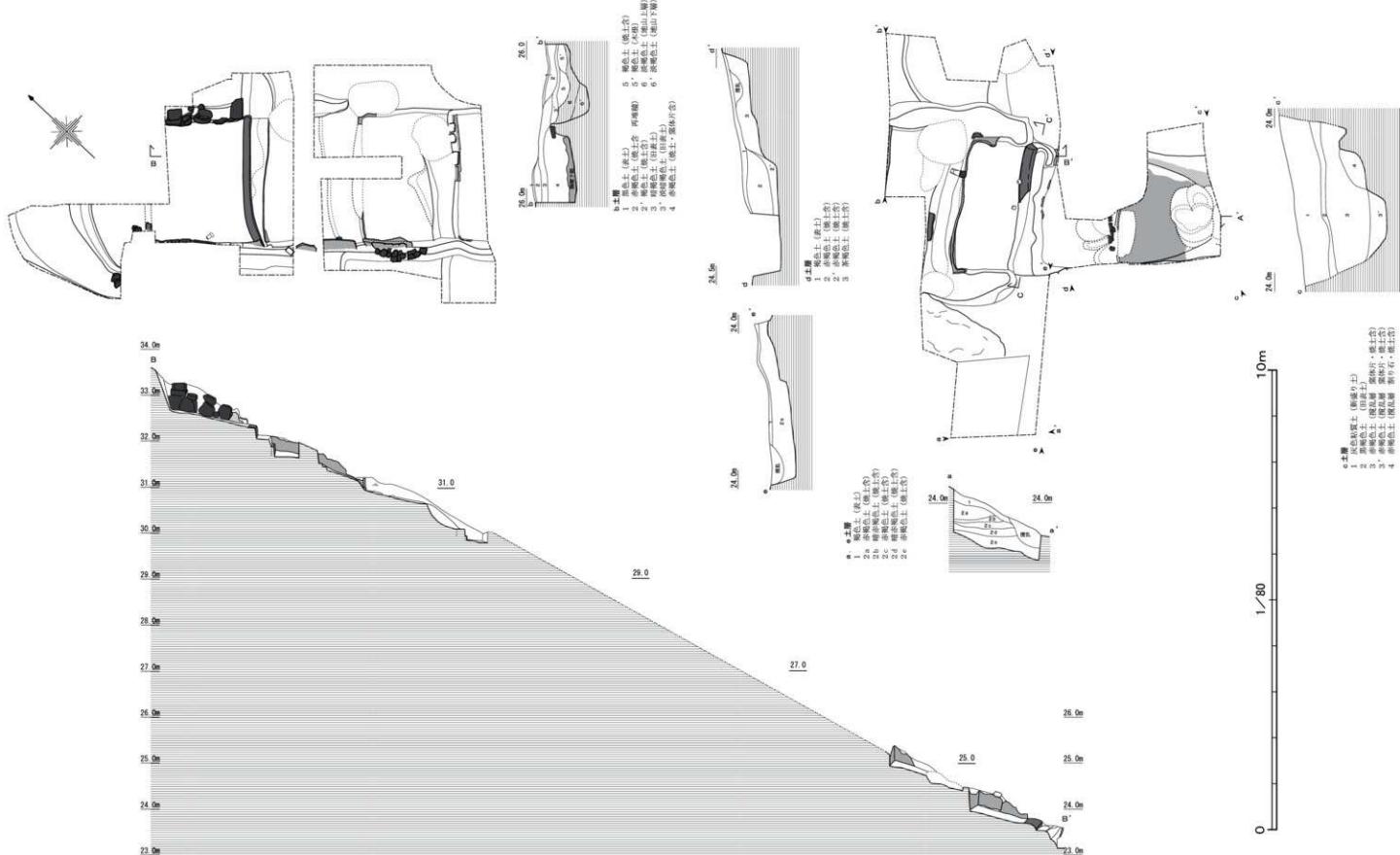
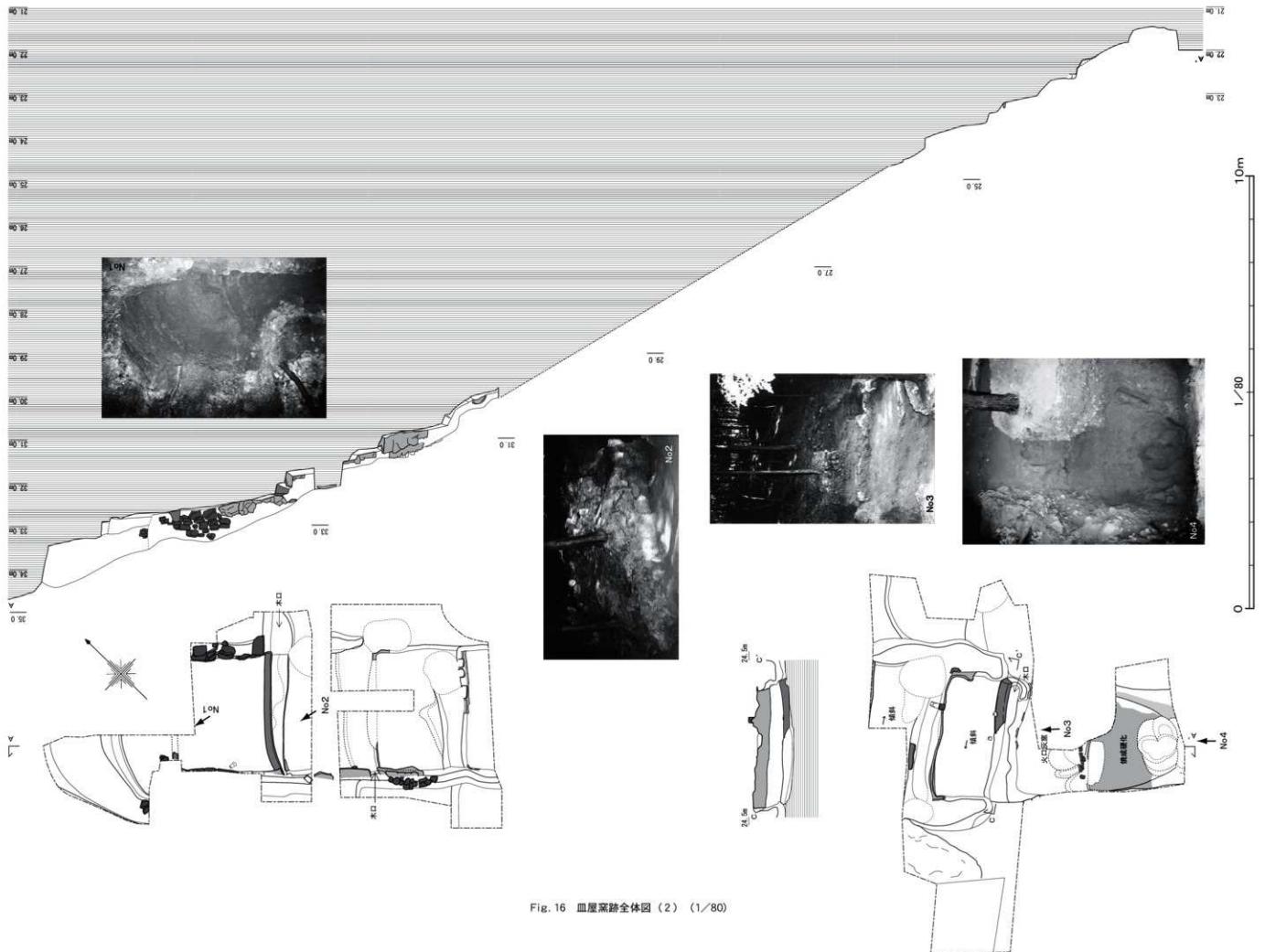


Fig. 14 血屋窯跡周辺地形図 (1/400)





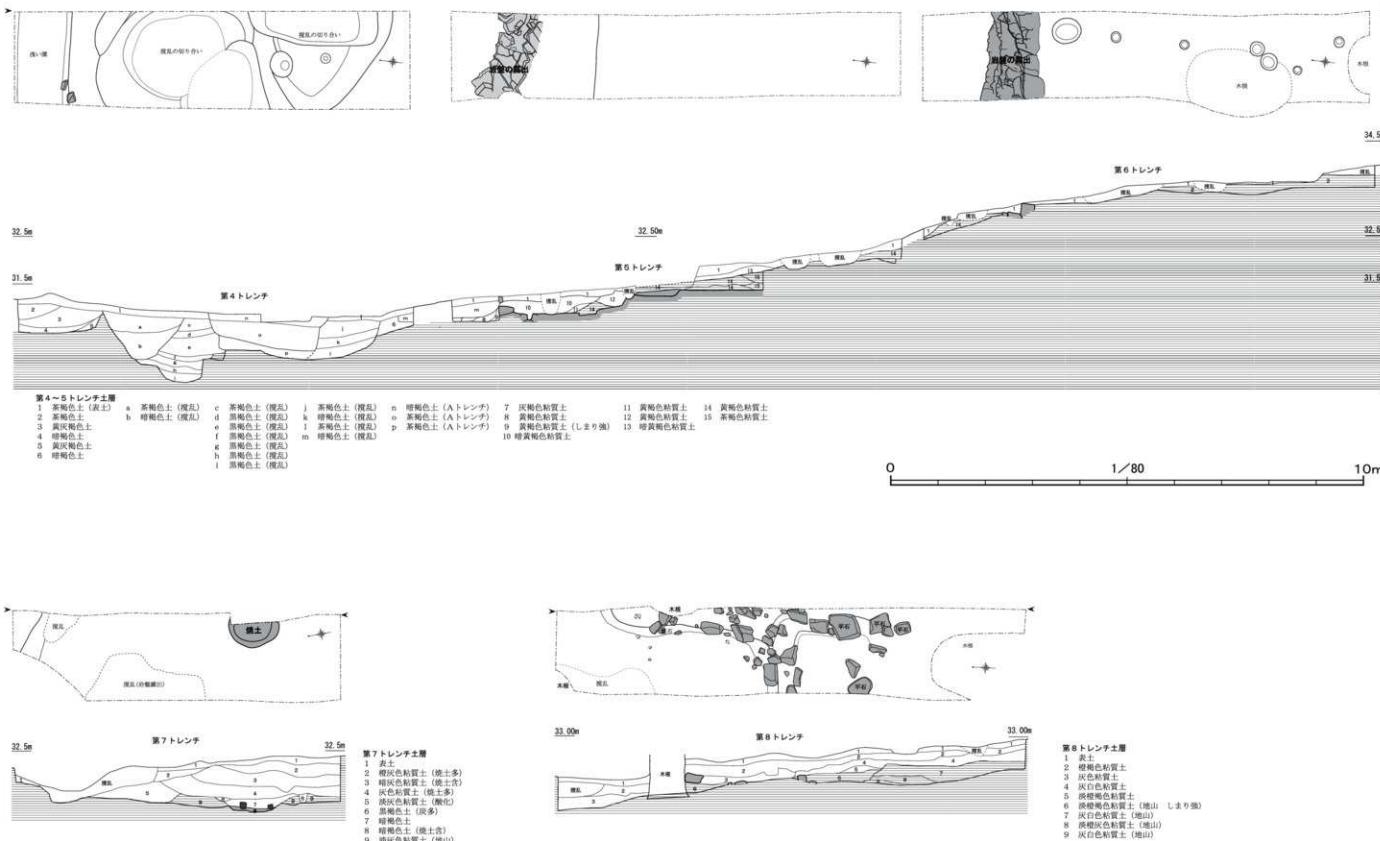
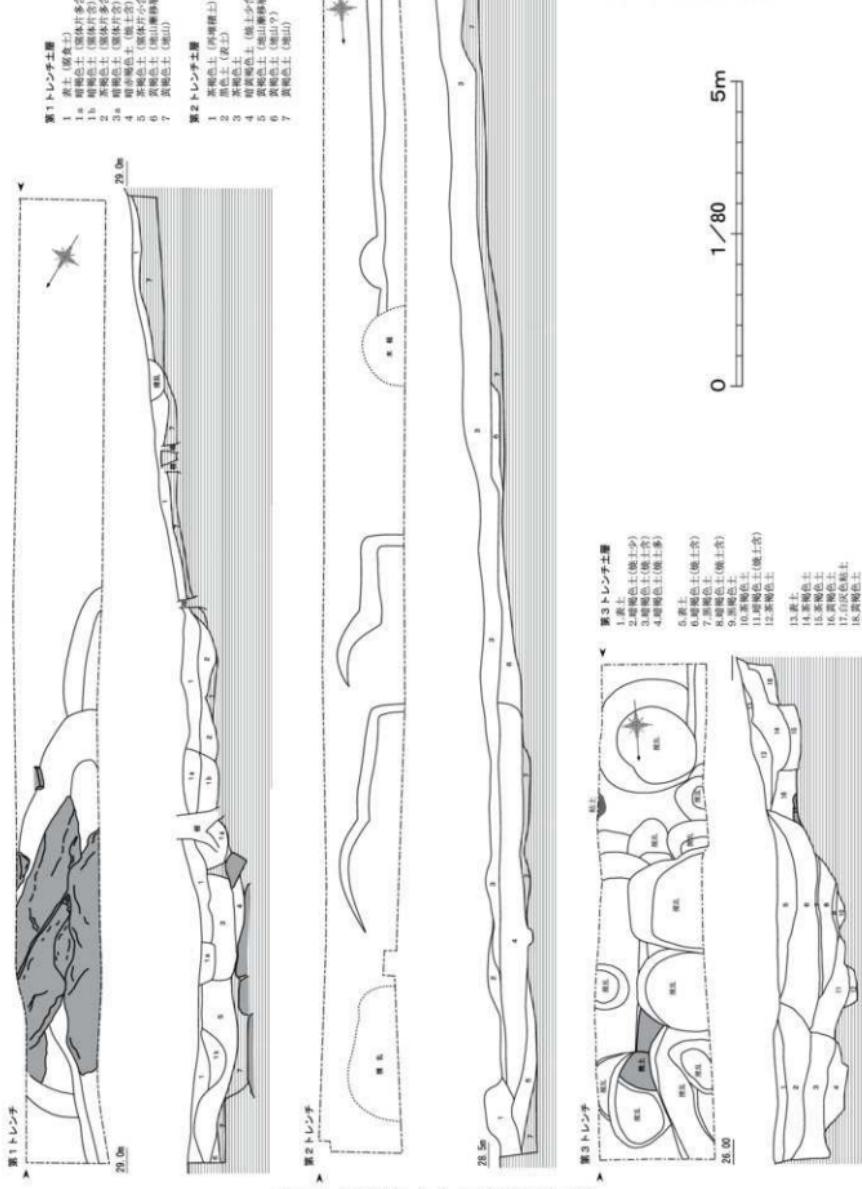


Fig. 17 血屋窯跡4~6、7、8トレンチ図 (1/80)



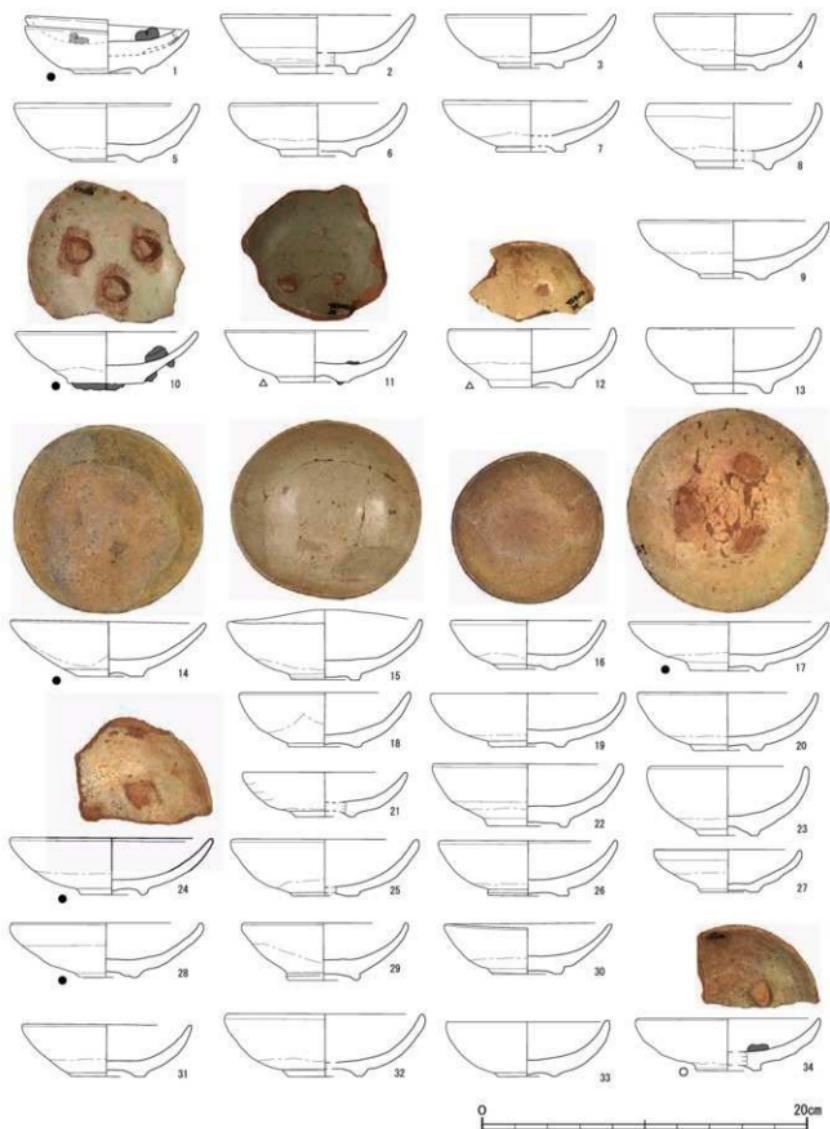


Fig. 19 血屋窯跡出土遺物実測図（1）

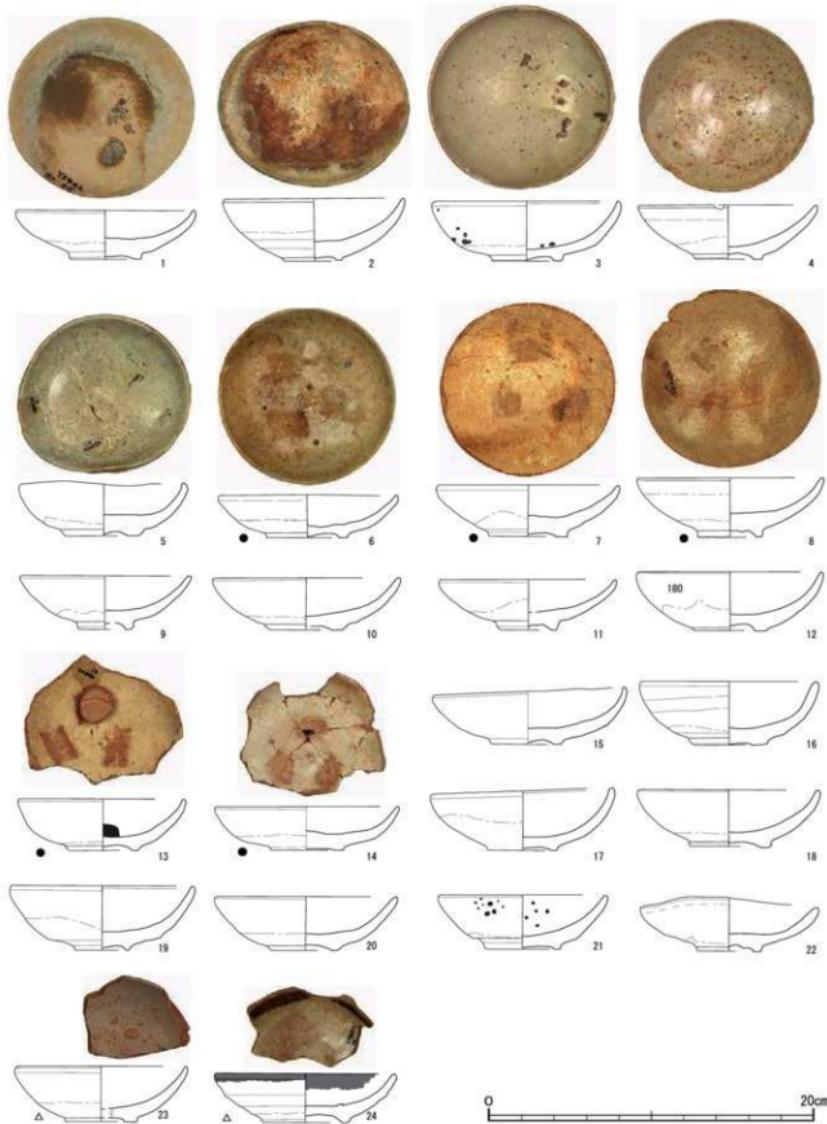


Fig. 20 皿屋窯跡出土遺物実測図（2）

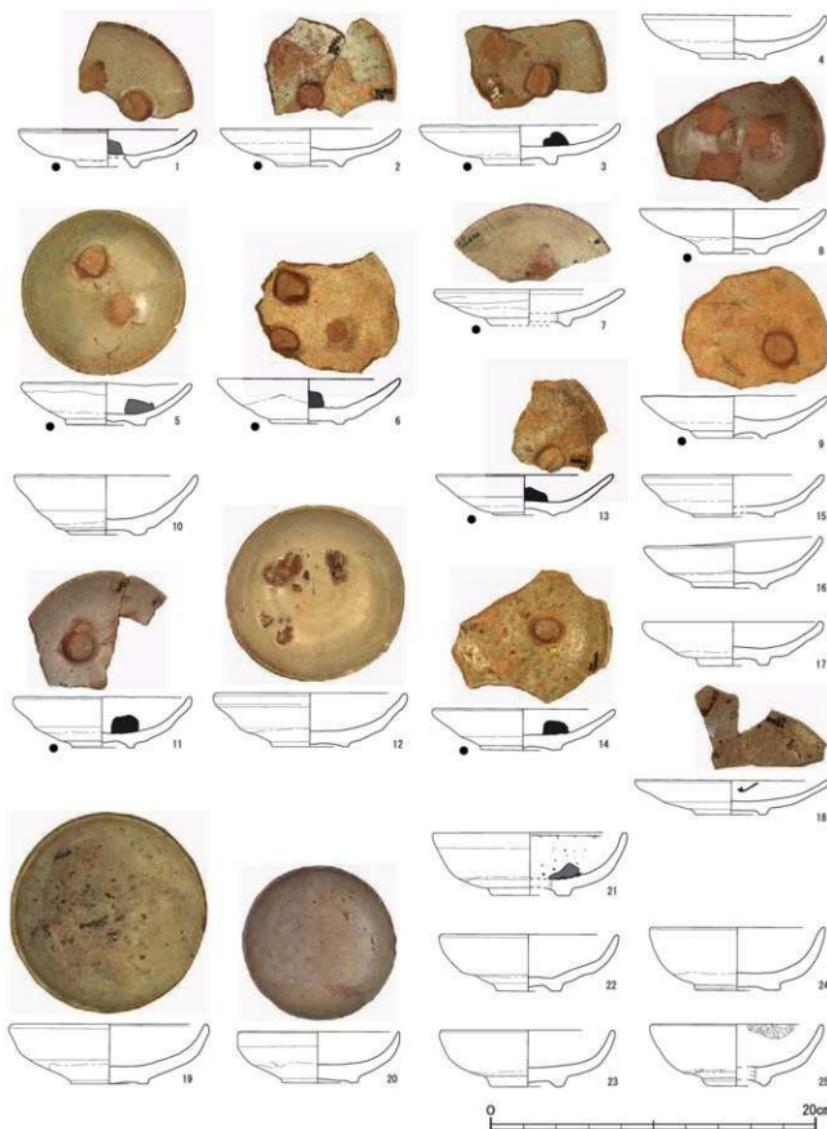


Fig. 21 血屋窯跡出土遺物実測図（3）



Fig. 22 血星窯跡出土遺物実測図（4）

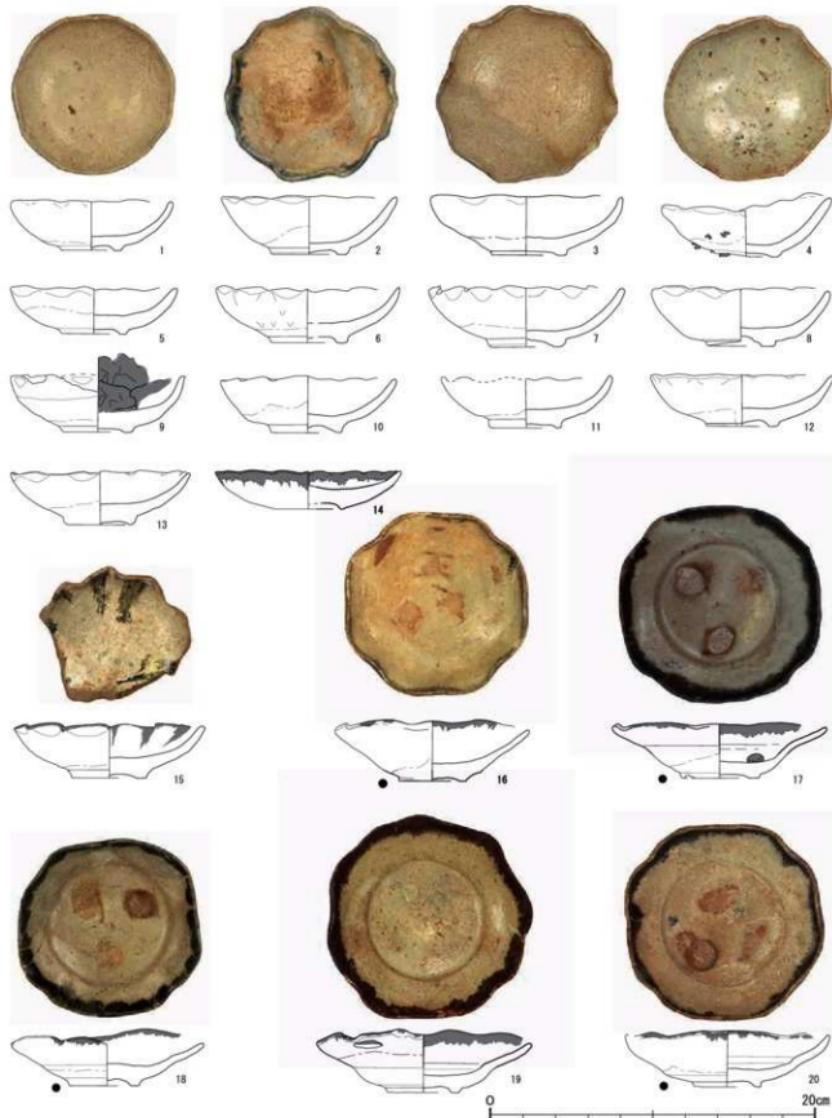


Fig. 23 血屋窯跡出土遺物実測図（5）

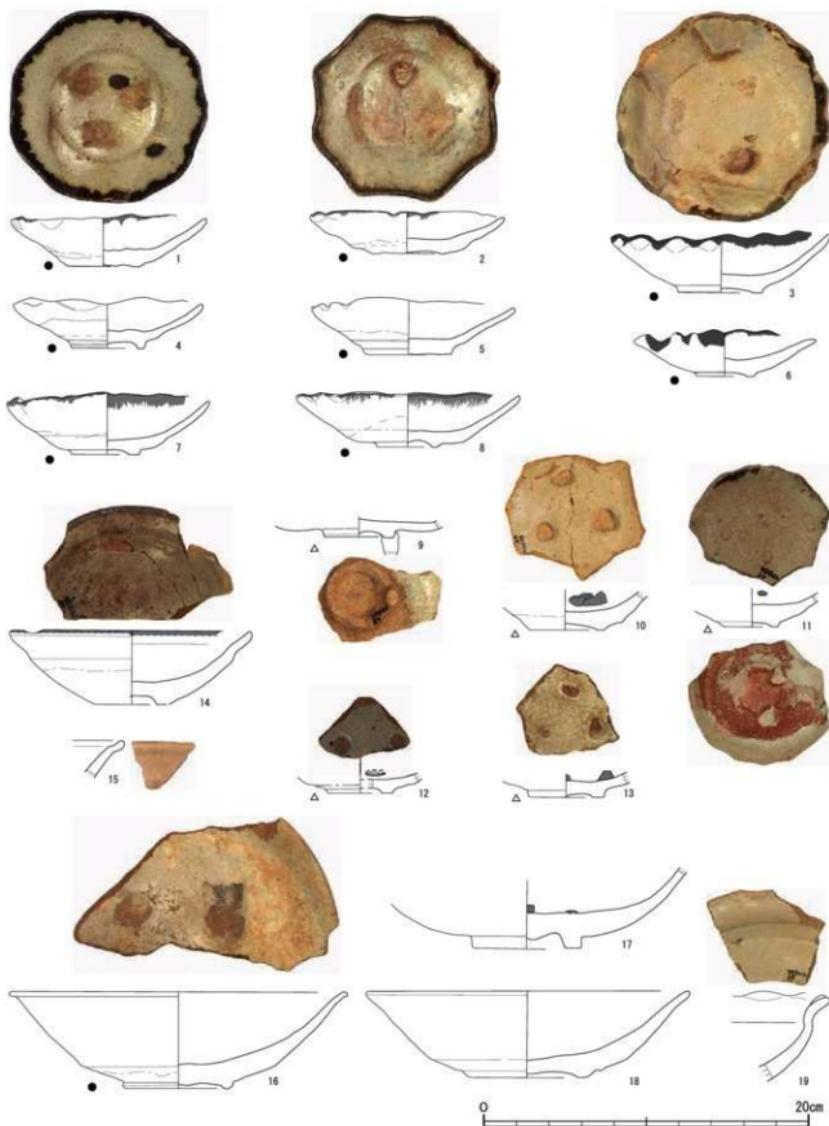


Fig. 24 血星窯跡出土遺物実測図（6）

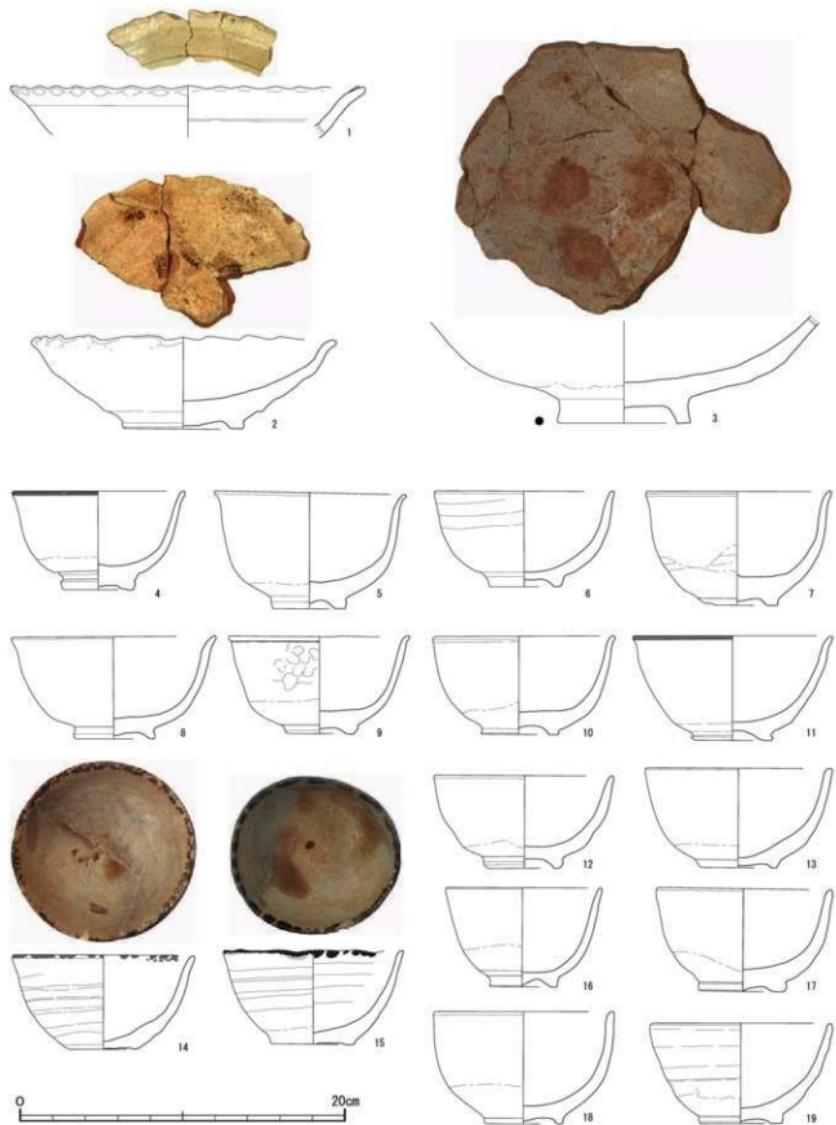


Fig. 25 血屋窯跡出土遺物実測図（7）

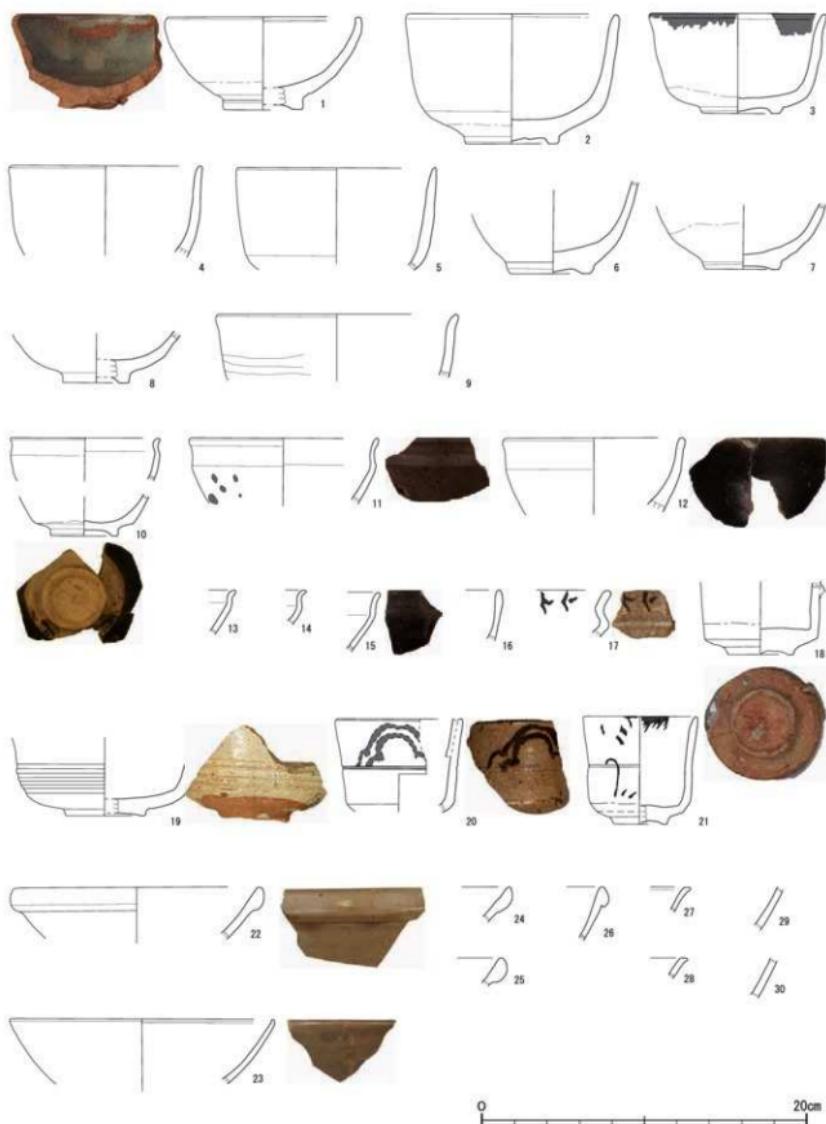


Fig. 26 血星窯跡出土遺物実測図 (8)

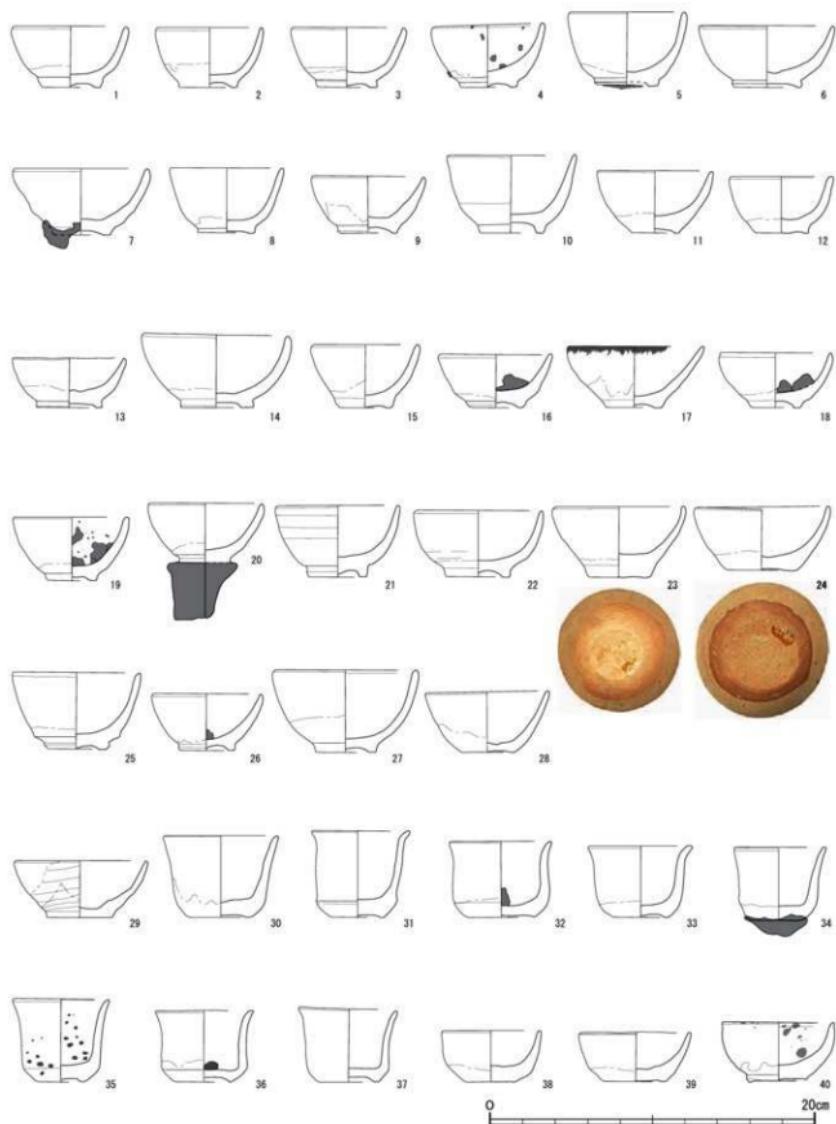


Fig. 27 血屋窯跡出土遺物実測図（9）

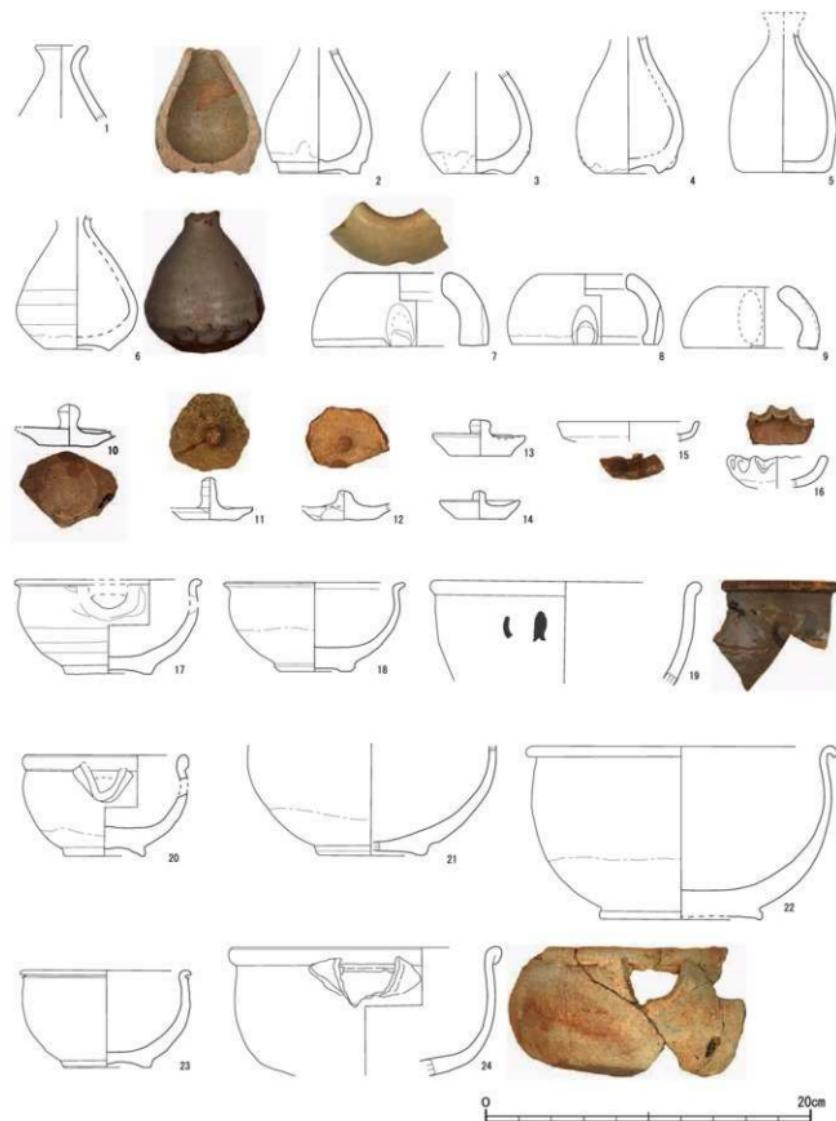


Fig. 28 血星窯跡出土遺物実測図 (10)



Fig. 29 血屋窯跡出土遺物実測図 (11)

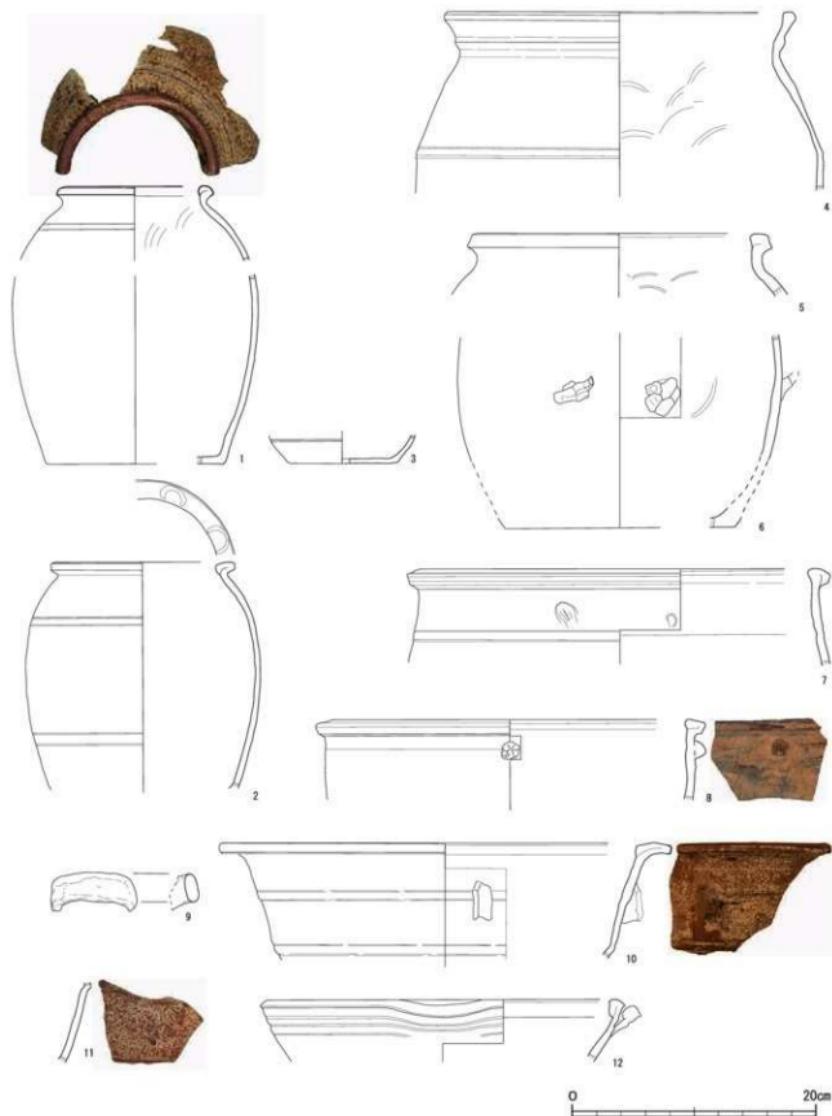


Fig. 30 皿屋窯跡出土遺物実測図 (12)



Fig. 31 血屋窯跡出土遺物実測図 (13)

第V章 皿屋上窯跡の調査

第1節 遺構

位置と調査区

皿屋上窯は、大字稗田字杉谷の溜池に面した丘陵の南斜面に築かれており、皿屋溜池窯と呼ばれたこともあるが、その北西約120mには平成9年度に調査を行った皿屋窯跡が存在する。平成11年度の調査区(YS01)では、胴木間から上に約4mと窯尻から下に約5mを検出したが、その間は農道のために削平されていた。その断面を観察すると、床面は地山を約30cm掘込んで設けられていた。また床面の焼土化している厚さが薄いことから、その操業期間は比較的短期間であったと考えられる。

露出している窯跡断面を基準に、地形の傾斜に沿って中心線を想定し、農道の下に第1トレンチ、上部に第2トレンチを設けたが、第1トレンチにおいては窯体が東隅で検出されたため、さらに調査区を東に拡張した。また物原を確認するため第3、第4トレンチを設定したところ、第3トレンチにおいて大量の陶器が出土したが、その堆積状況よりこれらは物原というよりも、農道掘削の際の再堆積と判断された。

窯跡の構造 (Fig33・34)

窯体の勾配角は約22度で、全長は水平距離で16.4mを測る。その幅は胴木間直上で約1.5m、窯尻で約1.0mを測り、窯尻に向けて狭くなっている。胴木間は円形で、径約2mの浅い摺り鉢状を呈し、左右に直径約30・深さ15cm程のビットが存在する。窯尻は直線的で、ほぼ垂直に20cmほど立ち上がっている。

また窯の上部構造物については、天井・側壁とも全て崩れ落ちているため不明であるが、色見孔の蓋が出土している。窯横からの出入口については、本窯跡の中央部が大きく削平されていることからその存否は不明であるが、薪の投入口は設けられていたと思われる。胴木間周辺においては数個のビットが検出されていることから、何らかの上屋施設があったことが予想される。また窯尻の東にサブトレンチを設定したところ、焼土を含み固く締まった淡褐色と茶褐色の土層が確認され、その中にパックするように薬灰釉の碗が据えられていた。窯祭祀に伴う遺物と考えられよう。

現在肥前で確認されている窯跡は、他の岸岳系古窯跡群を含め、全て燃焼室の床面が階段状に連なり、その間に各部屋を仕切る壁が設けられている登窯である。これらに対し皿屋上窯は、床面が直線的で燃成室を仕切る壁も無い無段単室の窯で、韓國慶尚道尊池里で発掘された甕器窯に酷似する。この窯は焚口が削平されているためその詳細は不明であるが、同じく無段の単室窯であり、製品も甕・甕の蓋・德利といった陶器製の貯蔵器を中心に焼成しており、皿屋上窯と同様の特徴を持っている。なお日本国内では、鹿児島県の加治木町で類似する窯が発見されている。



Fig. 32 血屋上窓跡周辺地形図 (1/400)

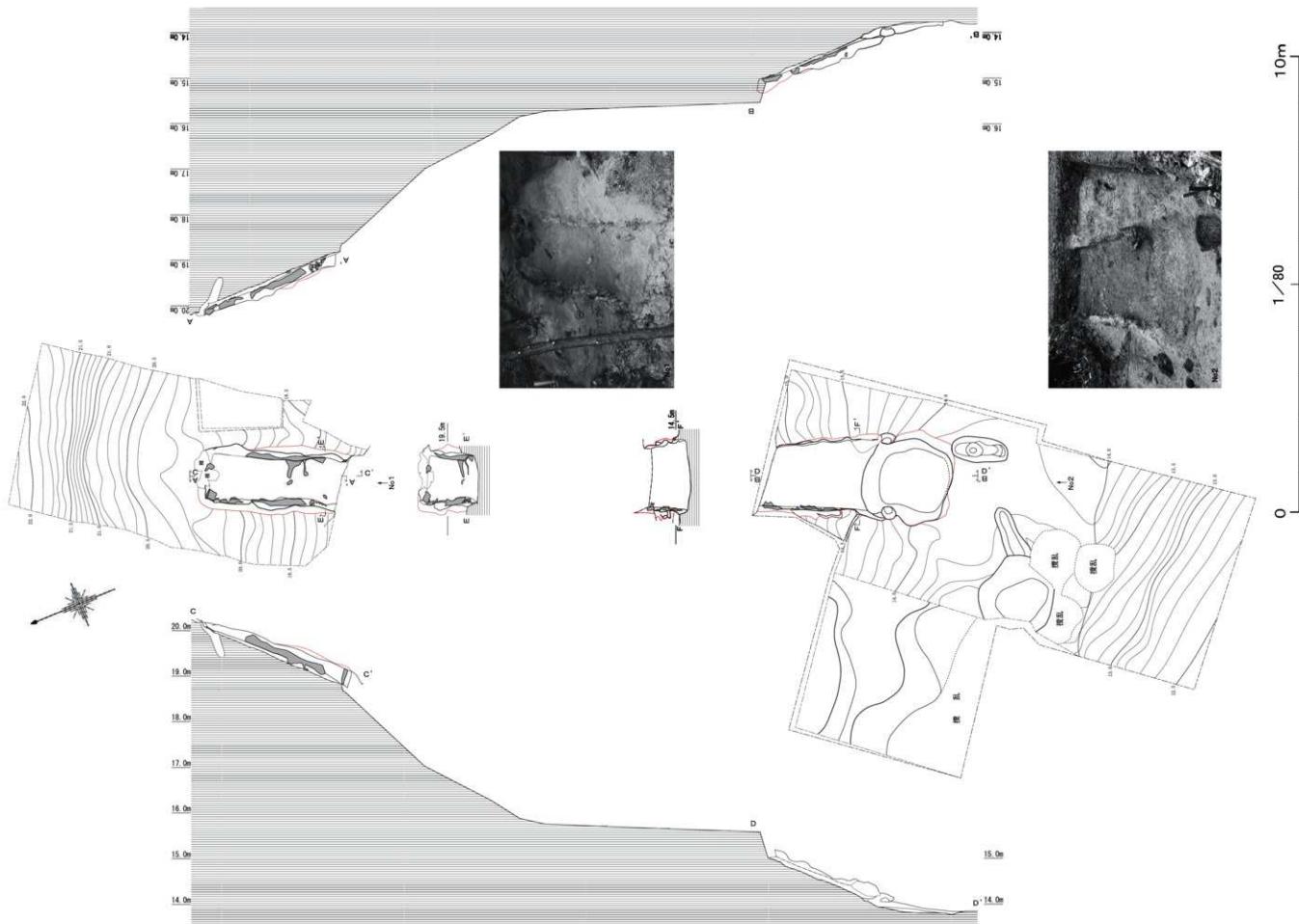


Fig. 33 血屋上墓跡全体図 (1) (1/80)

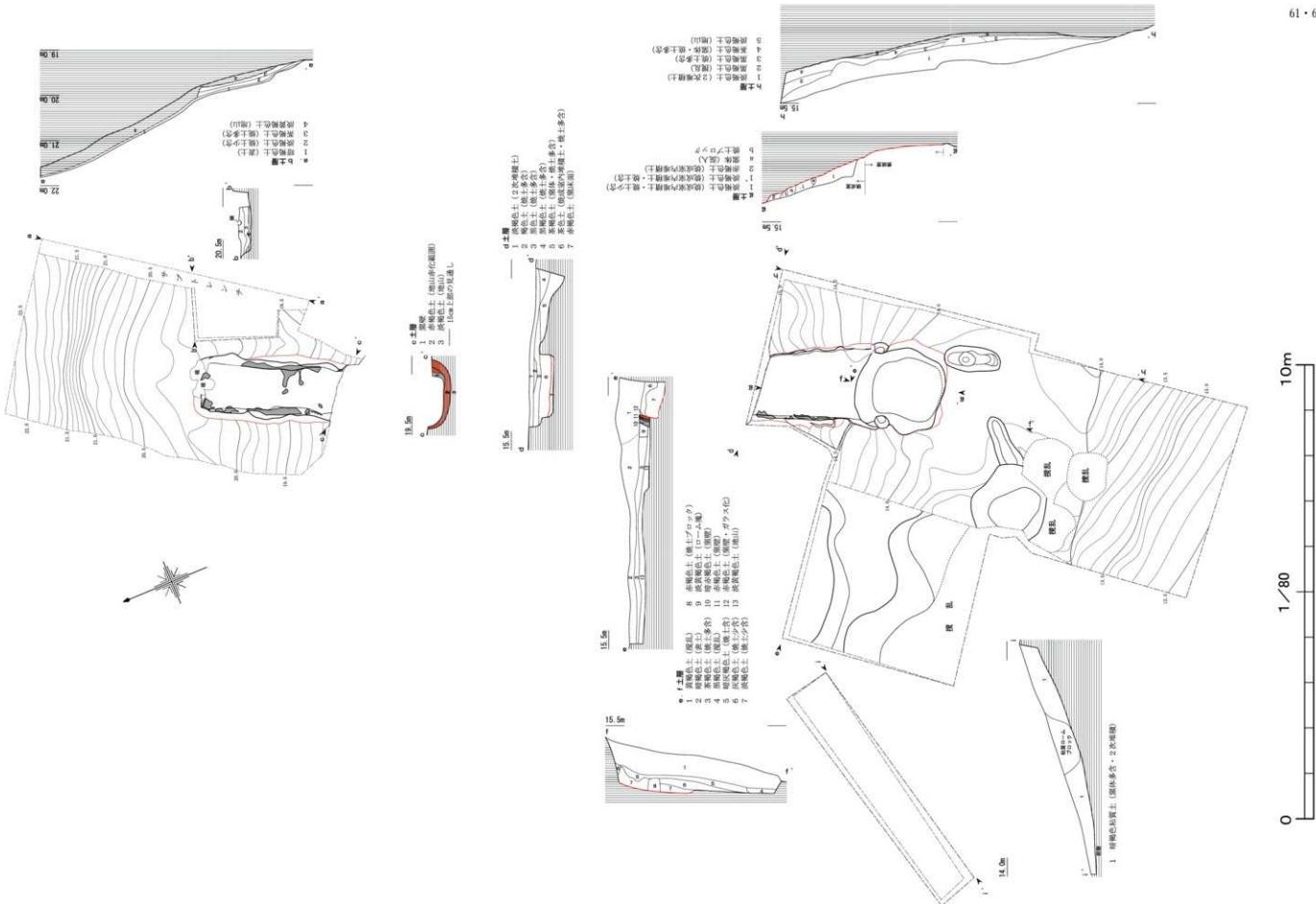


Fig. 34 皿屋上棲跡全体図(2) (1/80)

第2節 遺物

出土した陶器は甕・壺・蓋・片口鉢・鉢・徳利などがほとんどで(Fig36~42)、碗・皿類(Fig35)は極端に少なく、本窯は基本的にタタキ成形の貯蔵器を焼成した窯である。Fig35-1は藁灰釉の碗で、胎土・釉薬の特徴から皿屋窯または帆柱窯の製品と考えられる。第1節で述べたように、この碗は窯に伴う出土状況を示しており、その先後関係は即断できないが、少なくとも皿屋上窓と皿屋窓、または帆柱窓が、同時に創業していた時期があったと考えて良いだろう。

甕などの貯蔵器は全て土灰釉を掛けているが、焼成温度が低いためか発色の弱いものも多い。また素焼き状態のものも存在することから、現在の製法と同様に、素焼きと釉掛け後の2段階の焼成を行っている可能性もある。内面の叩き痕は青海波紋を呈していないことから、その当具は彫り込みを施さない平滑なものと想定される。また、この叩き痕をきれいにならし消して仕上げている製品が多い。

窯積めの方法は、床面にハマ(一方が厚く一方が薄い)を置き、甕などの大型製品を水平に据え、背を上に向けた貝を口唇に並べ置き、その上に片口鉢などの中型製品を乗せて焼いている。上に重ねた製品における貝目は、片口鉢などは口唇に、瓶類や甕蓋などは底部に存在する。

碗・皿類 Fig35には、ロクロ成形の製品を一括して掲載した。No1は、藁灰釉の碗(Ⅱ)で、多少の歪みはあるもののほぼ完形であり、内面には窯灰の釉着が見られる。No2から5までが土灰釉の碗で、Ⅱ類とⅢ類が存在する。No6は土灰釉の皿(Ⅰa)であるが、見込み中央には施釉後焼成前に「×」の窯印を刻んでおり、No5の碗と同様、疊付けを除き全面に釉薬が掛かっている。

壺 Fig36-1~8は壺で、横耳の付くもの(No1)と縦耳のもの(No2・5・6)の2者が出土している。

鉢 No11と12はタタキ技法の鉢で、前者は単純口縁のIVb類、後者は扁平な胴部のVI類と考えられる。

徳利 No13以降は、いわゆる船徳利(Ⅱ)である。胴部はタタキ技法で成形されるが、頸部から口縁にかけてはロクロ回転により形が整えられている。

甕 Fig37-1からFig40-9は、皿屋上窓から最も多く出土した器種である甕である。分類でいうとそのほとんどがIV類に該当し、器高40cmにもおよぶ大型品から30cm前後の中型品、10cm以下の小型品まで焼成しているようである。器壁は良く叩き締められており、持ち上げてみると驚くほど軽い。大型品の口縁部は複合口縁となっており、基本的に外に折り返して重ねるもの(2a・2b)と外方に粘土帯を貼り付けるもの(3a・3b)の2者が存在する。また胴上部の装飾としては、併行沈線文と押捺を施す横帶文が見られる。※Tab10 甕・鉢類の口縁形態参照

甕蓋 Fig40-10から18は甕類の蓋で、その多くは天井部が平坦なⅢ類であるが、胴部が弱く内湾しつつ開くⅢb類については、浅鉢となる可能性もある。なおNo15は取っ手が付く特異な器形(IV類)で、岸岱古窯跡群では、唯一の出土例である。

鉢 No19から22は鉢の取っ手で、No22は皿屋窓(Fig30-10)や飯洞窓上窓(Fig72-11)のような鉢に付くものであろう。No19~21は、朝鮮半島の甕器分類における釜の把手に類似する。

片口鉢 皿屋上窓において、甕の次に多く出土したのが片口鉢である(Fig41・42)。皿屋窓ではロクロ成形の碗に片口が付くものであったが、本窓では逆「L」字形口縁、タタキ成形の鉢に注ぎ口が付けかれている。ほぼ全ての口唇に貝目が残り、甕または鉢同士で重ね焼きが行われていたことがわかる。

窯道具 では、トチンは出土しておらず、断面が三角形の大型のハマが特徴的である。また色見孔の蓋も2個体出土しており、窯上構造の推定にとって重要である。



Fig. 35 血屋上窯跡出土遺物実測図（1）

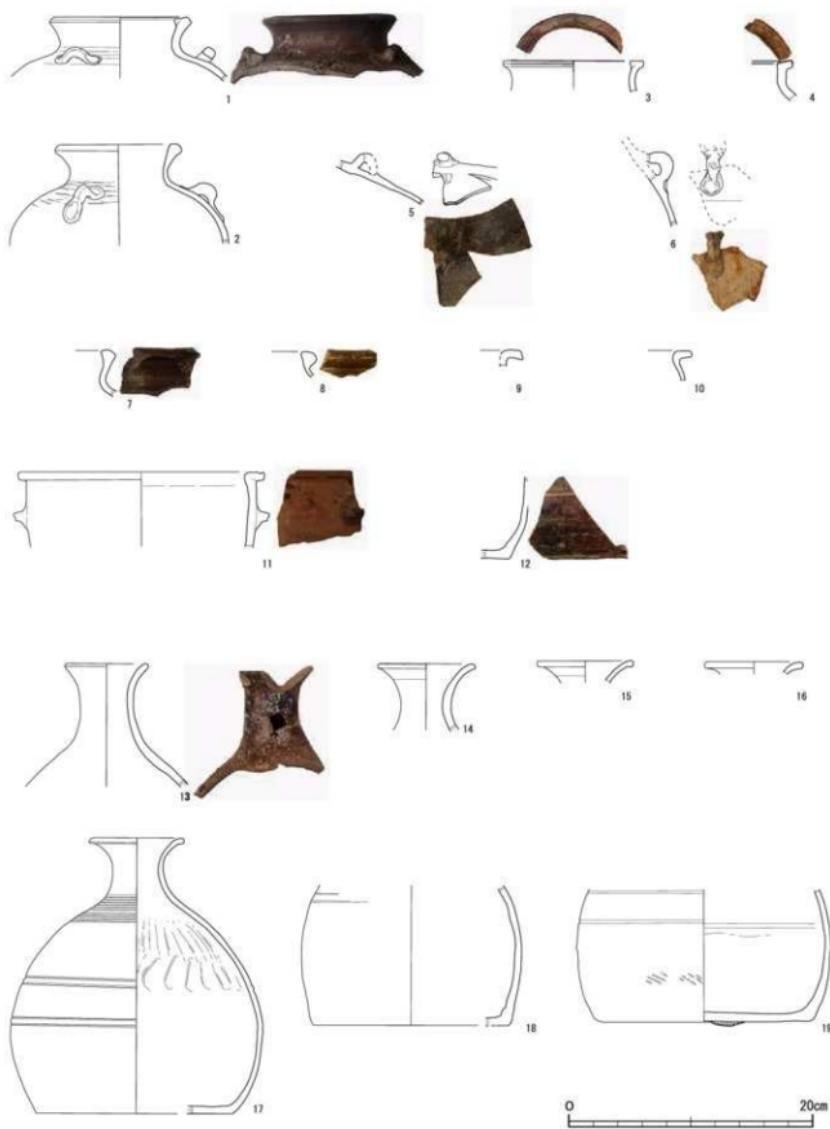


Fig. 36 血屋上窯跡出土遺物実測図（2）

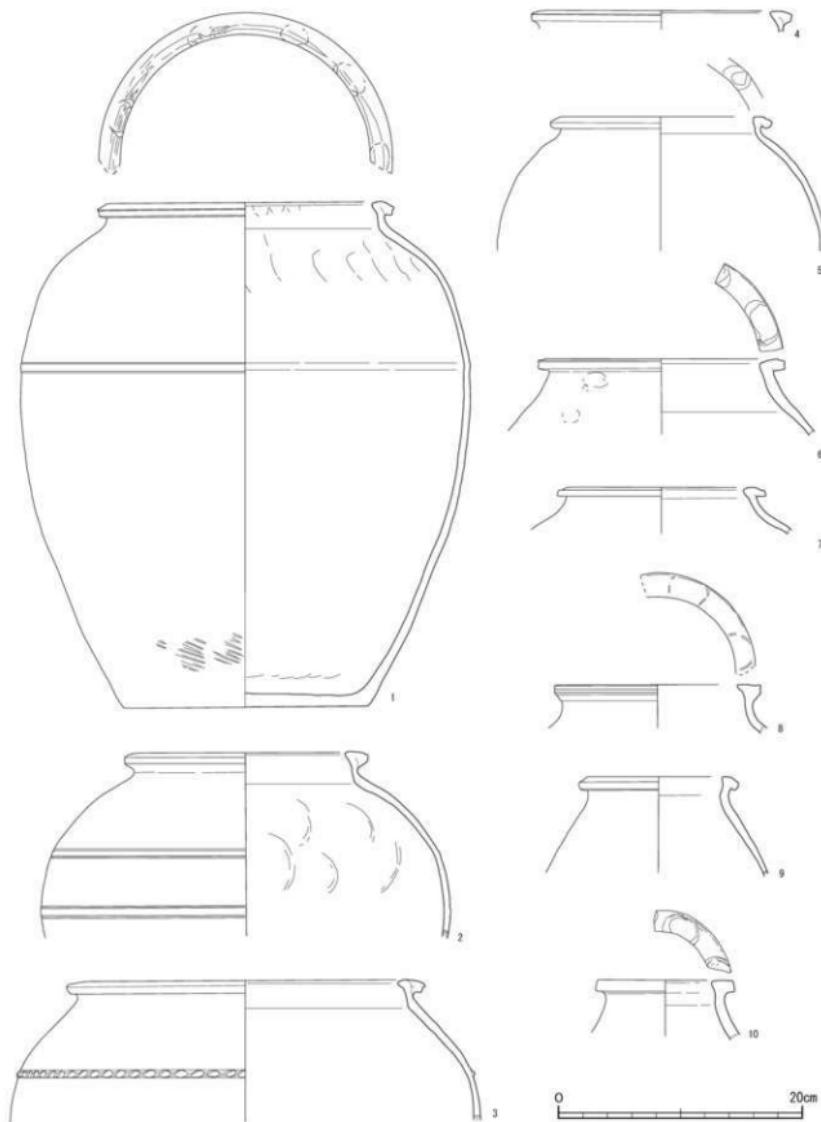


Fig. 37 血屋上窯跡出土遺物実測図（3）

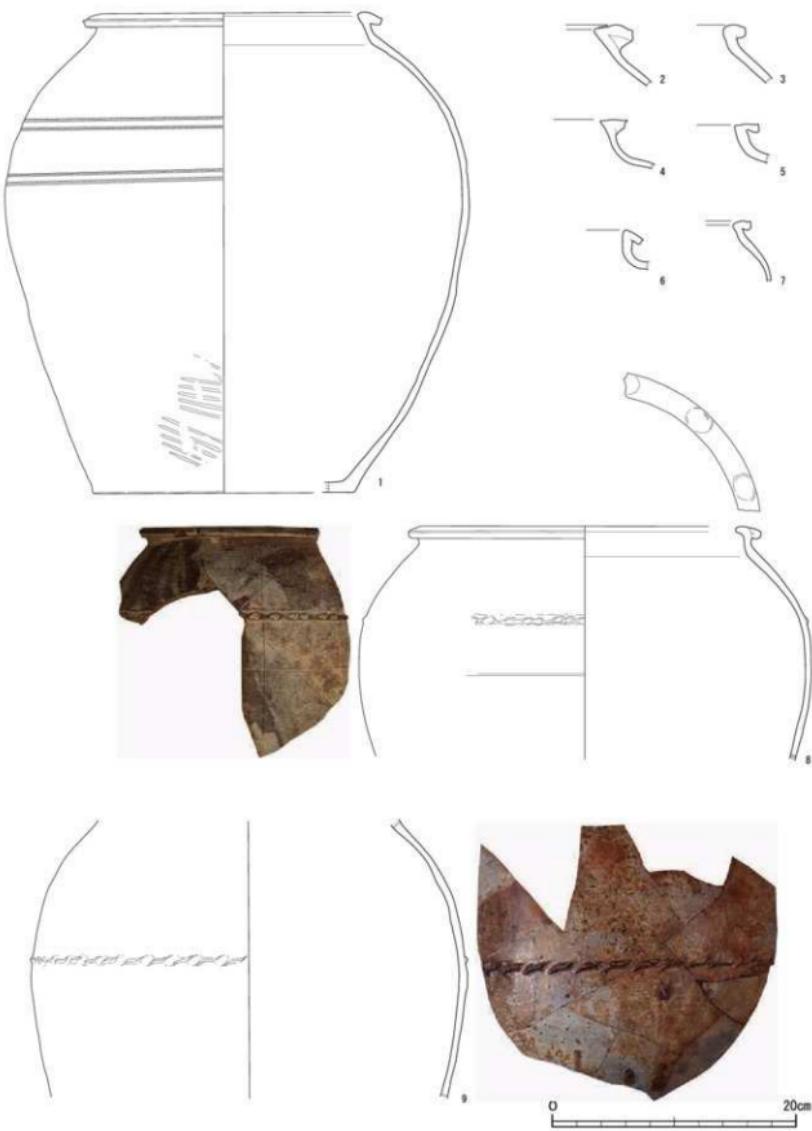


Fig. 38 血屋上窯跡出土遺物実測図（4）

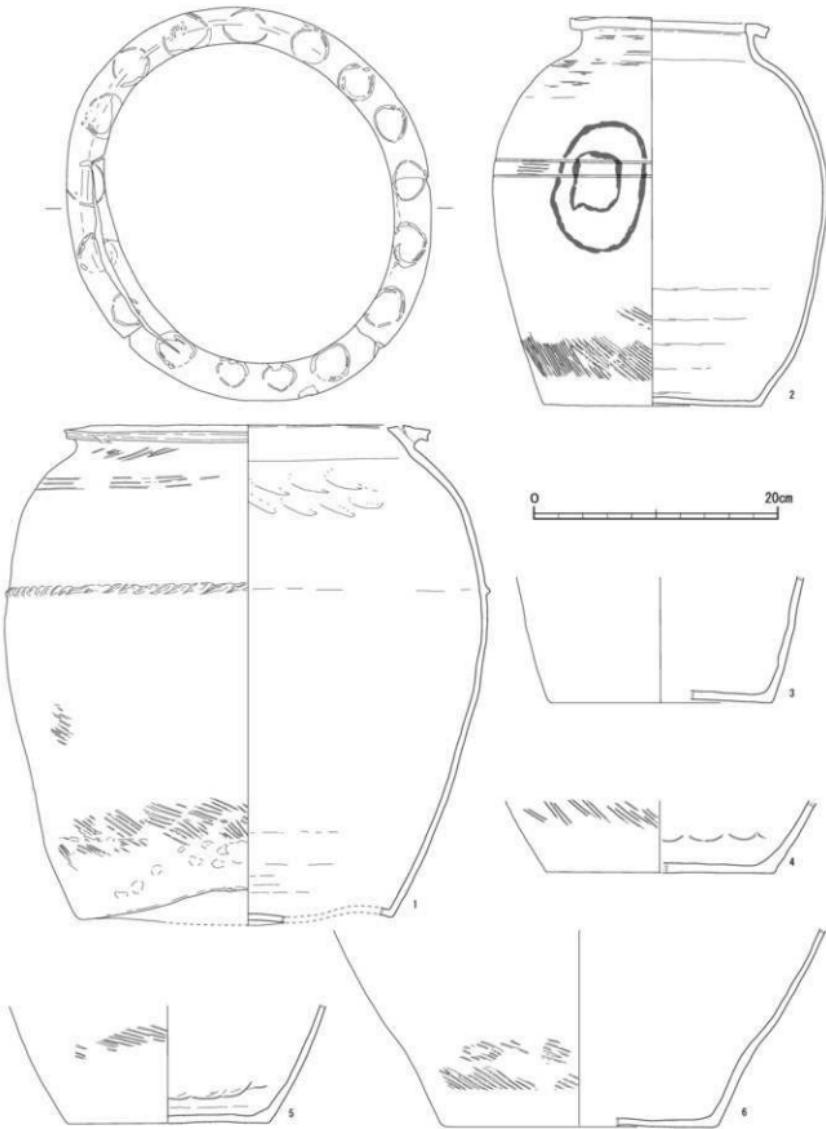


Fig. 39 血屋上窯跡出土遺物実測図（5）

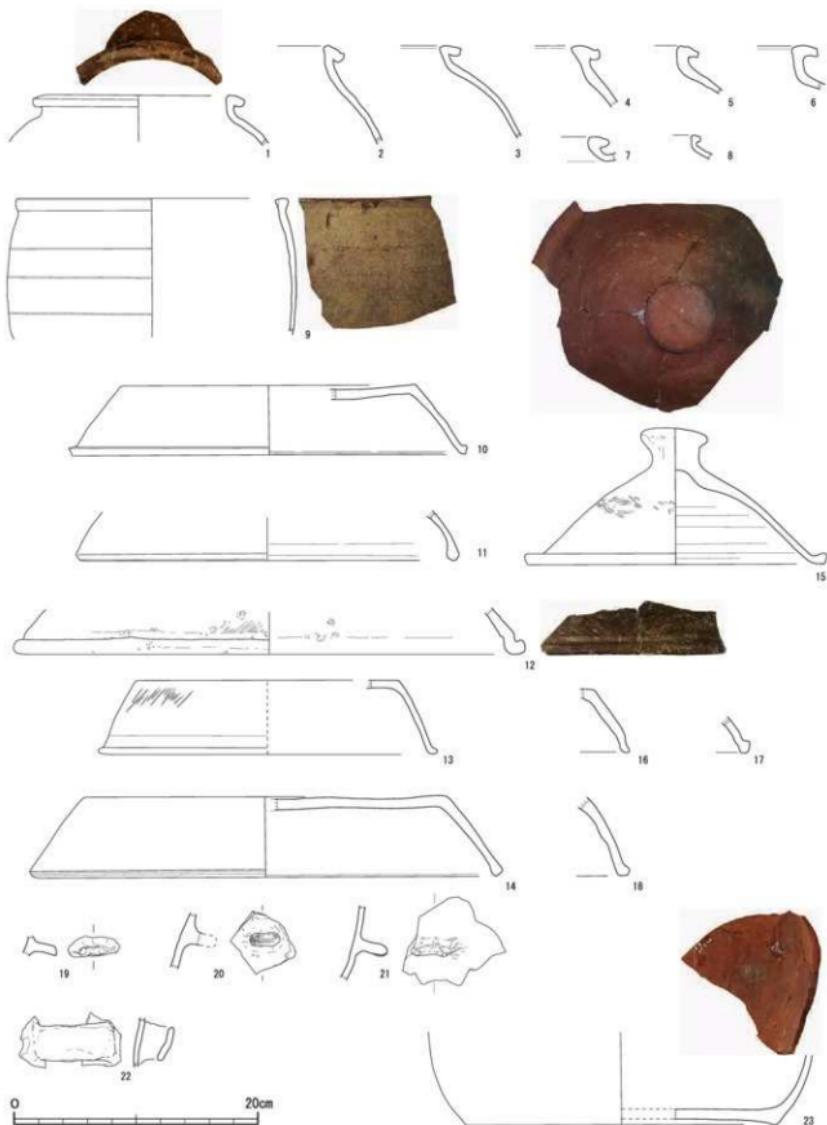


Fig. 40 血屋上窯跡出土遺物実測図（6）

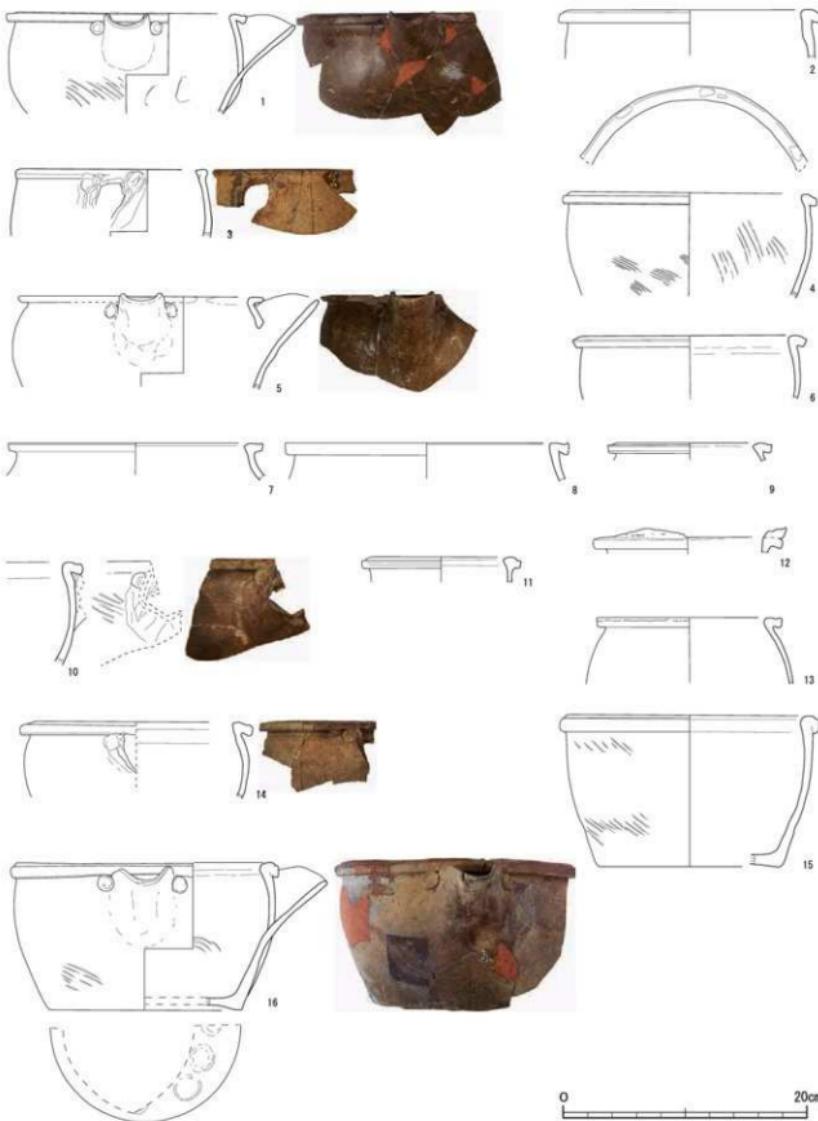


Fig. 41 血屋上窯跡出土遺物実測図（7）

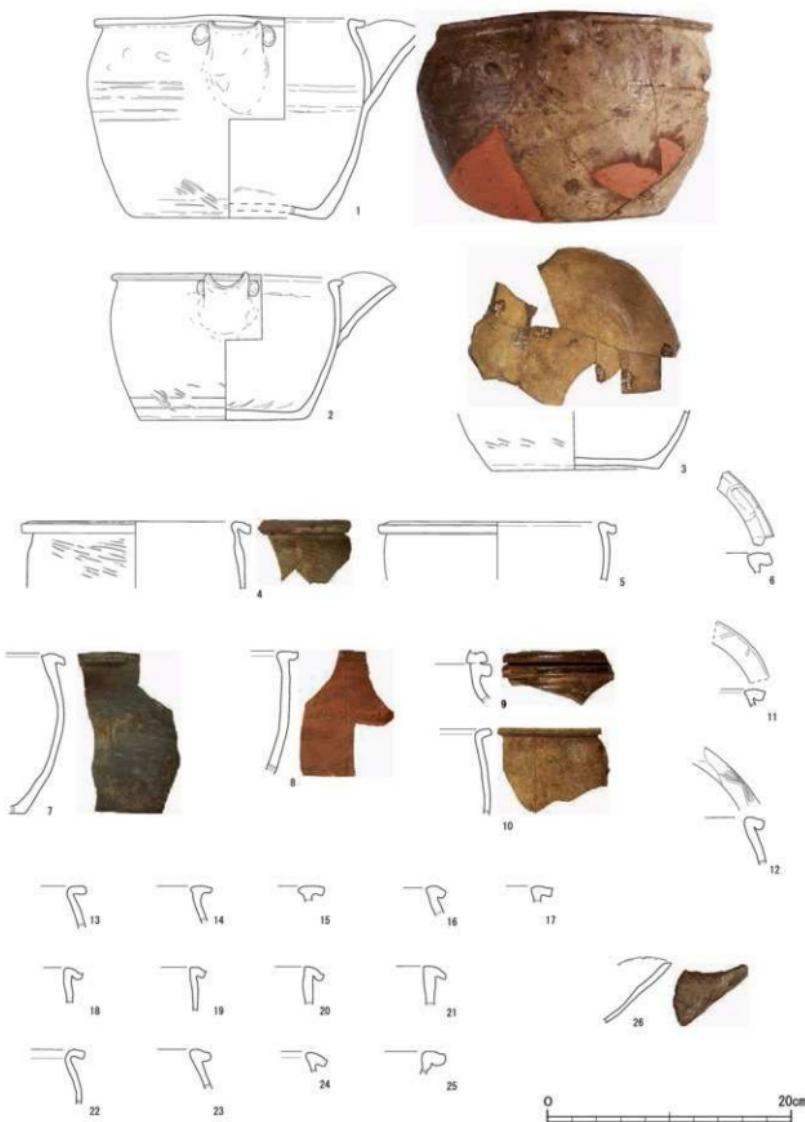


Fig. 42 血屋上窯跡出土遺物実測図（8）

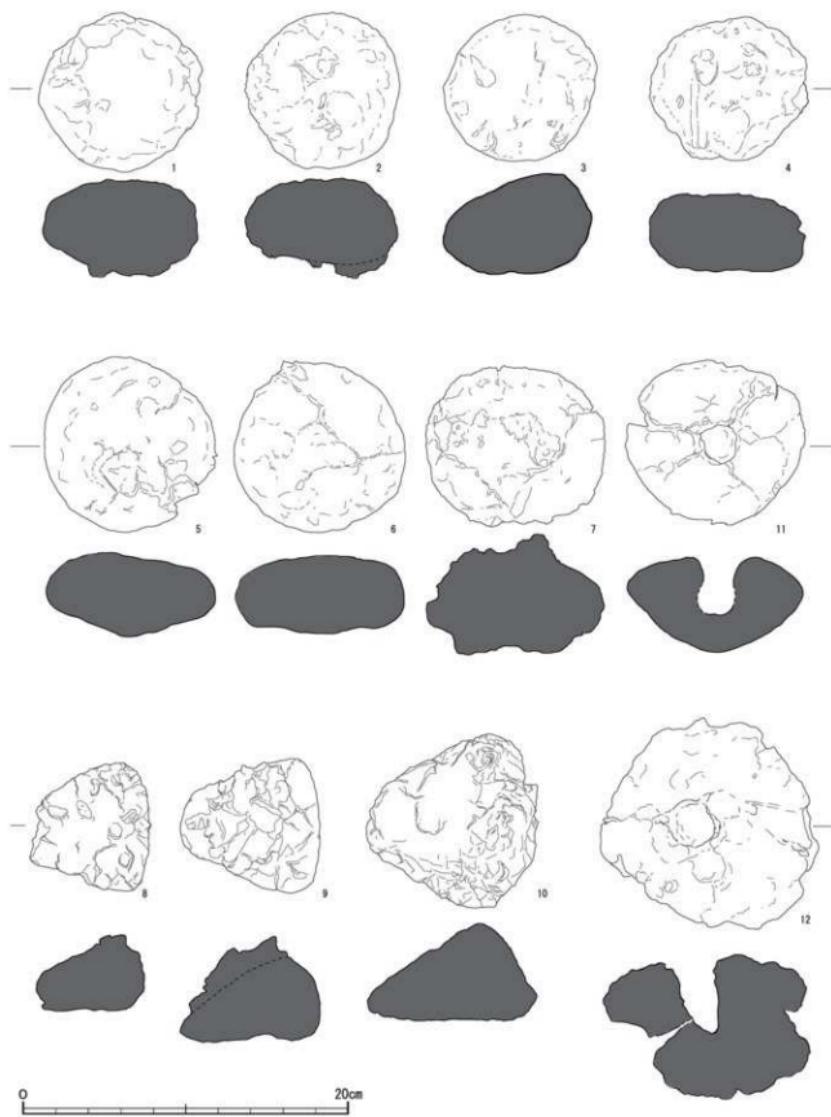


Fig. 43 血屋上窯跡出土遺物実測図 (9)

第VI章 帆柱窯跡の調査

第1節 遺構

位置と調査区

帆柱窯は、唐津市北波多稗田の帆柱国有林地内、帆柱の新溜池をさらに遡った谷奥の杉林内に存在する。帆柱窯跡は、九州陶磁文化館の調査によってすでに燃焼室が1室（Bトレンチ）検出されているが、窯跡全体の規模を確認するため、Bトレンチの上方、標高約71m付近に第1トレンチ、以下1m刻みで第2トレンチ、第3トレンチ、そしてBトレンチの下方に第4・5トレンチを設定した。さらに、窯跡北東の緩斜面にも窯壁片が散布していることから、第6・7・11トレンチを、物原の確認のため、北側に回りこむ小枝谷との境に第8から10トレンチを設定した。

窯跡の概要

窯跡は、標高約61から71mの斜面部に、等高線に対してやや斜行して築かれている。全長は、未発掘の焚き口までを含めると30mを越え、北波多に残る古窯跡の中では最も長い窯である。また焼成室は火口灰窯を含めて14室程度と考えられるが、その平面プランは、方形でもやや歪んだ形状を呈している。

また燃焼室（胴木間）の直上には、大きく擾乱を受けているものの、奥行きの狭い火口灰窯と思われる部屋が存在しており、同構造の部屋が皿屋窯においても検出されていることから、両者は製品の共通性が示すとおり、同系列の窯であったと理解できる。

窯跡の構造

以下その構造について述べると、

- ①出入り口については、擾乱を受けている部分が多いため、確認できたのは右方向だけであるが、逆方向のものも存在した可能性がある。
- ②胴木間（燃焼室）奥壁には、大きな一枚岩が存在していた。胴木間から火口灰窯にかけて最も激しく擾乱を受けているが、奥壁はこの一枚岩を取り込み、高く立ち上がる可能性が高い。岩は約1/3より上の部分が、特に強く火をうけている。
- ③PL 4-5は第2・3室間の隔壁であるが、その段差は比較的低い。
- ④分煙柱は、粘土塊を芯にさらに粘土を巻いて形作っており、その数は6本である。各隔壁における通煙孔の幅は、おおむね15から20cm程であるが、外側ほど幅広になるという、飯洞窯下窯で指摘されているような、明確な規則性は窺えない。
- ⑤窯戸の煙出しも、焼成室と同様、分煙柱を立てた状態で一列に配置している。その後方には浅い溝が存在するものの、奥壁がそのまま窯戸になっており、煙突等の特別な施設は持たないようである。
- ⑥火床跡は何回も補修され前面にせり出しており、それに伴い火床の幅が狭くなっている。
- ⑦窯の左（南西側）には、上屋の柱穴（直径約30cm）がほぼ1m間隔で並び、焼成室に付随してフラットな面が存在する。

周辺の調査

第6トレンチのほぼ中央より、長さ約3m、深さ50cmの長方形の土坑が検出されている（SK01）。底面は炭化物が堆積し、側面は火を受けて赤化していた。同様な土坑は、皿屋窯付近でも確認されているが、その性格は不明である。また丘陵の東は急傾斜で谷となっているが、その裾部に設置した第10トレンチからは、生焼けの碗・皿類が比較的まとまって出土している（PL 5-8）。

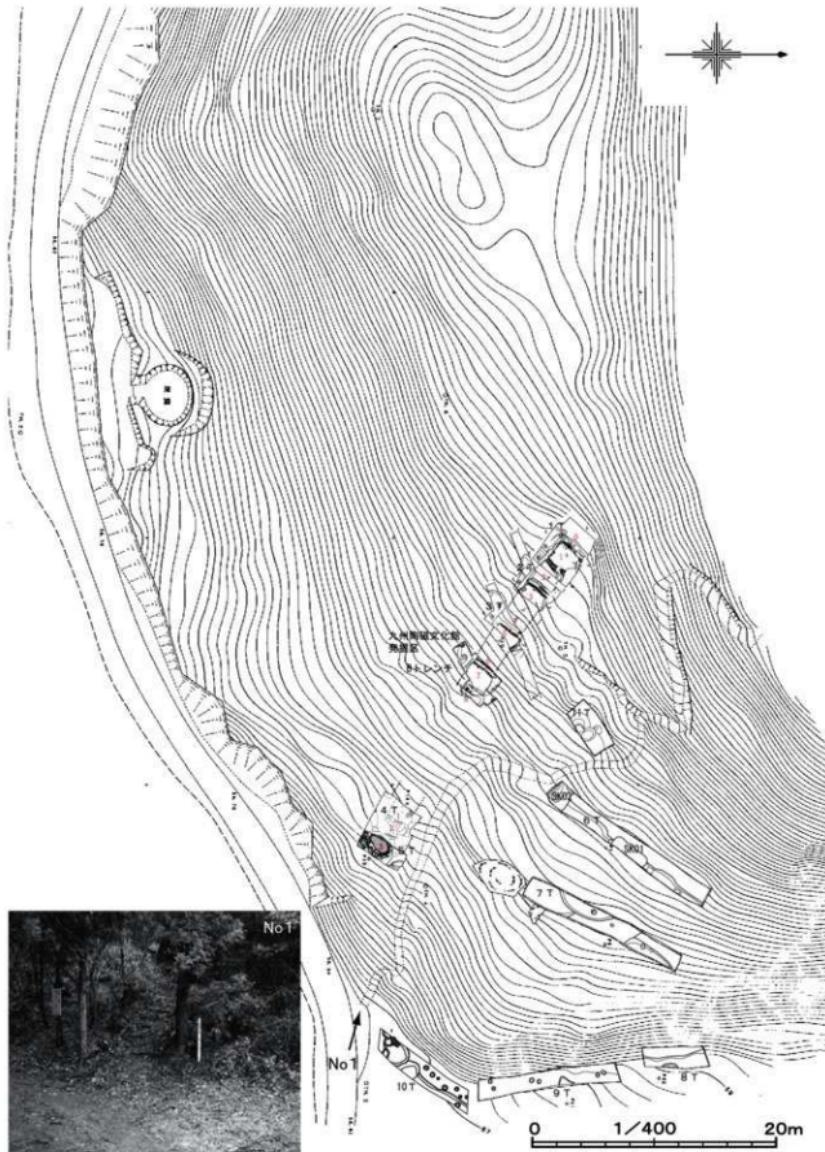


Fig. 44 帆柱窓跡周辺地形図 (1/400)

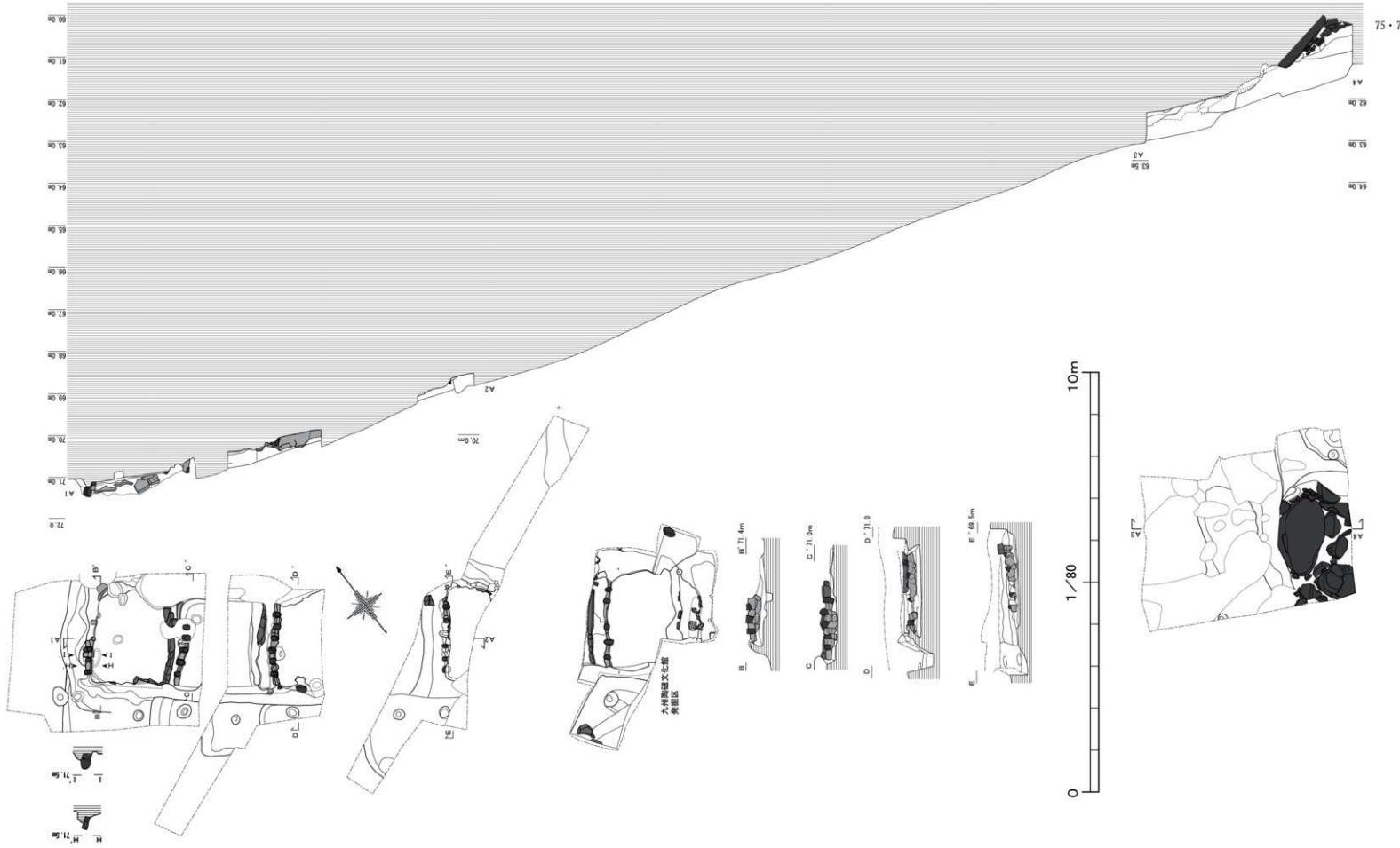
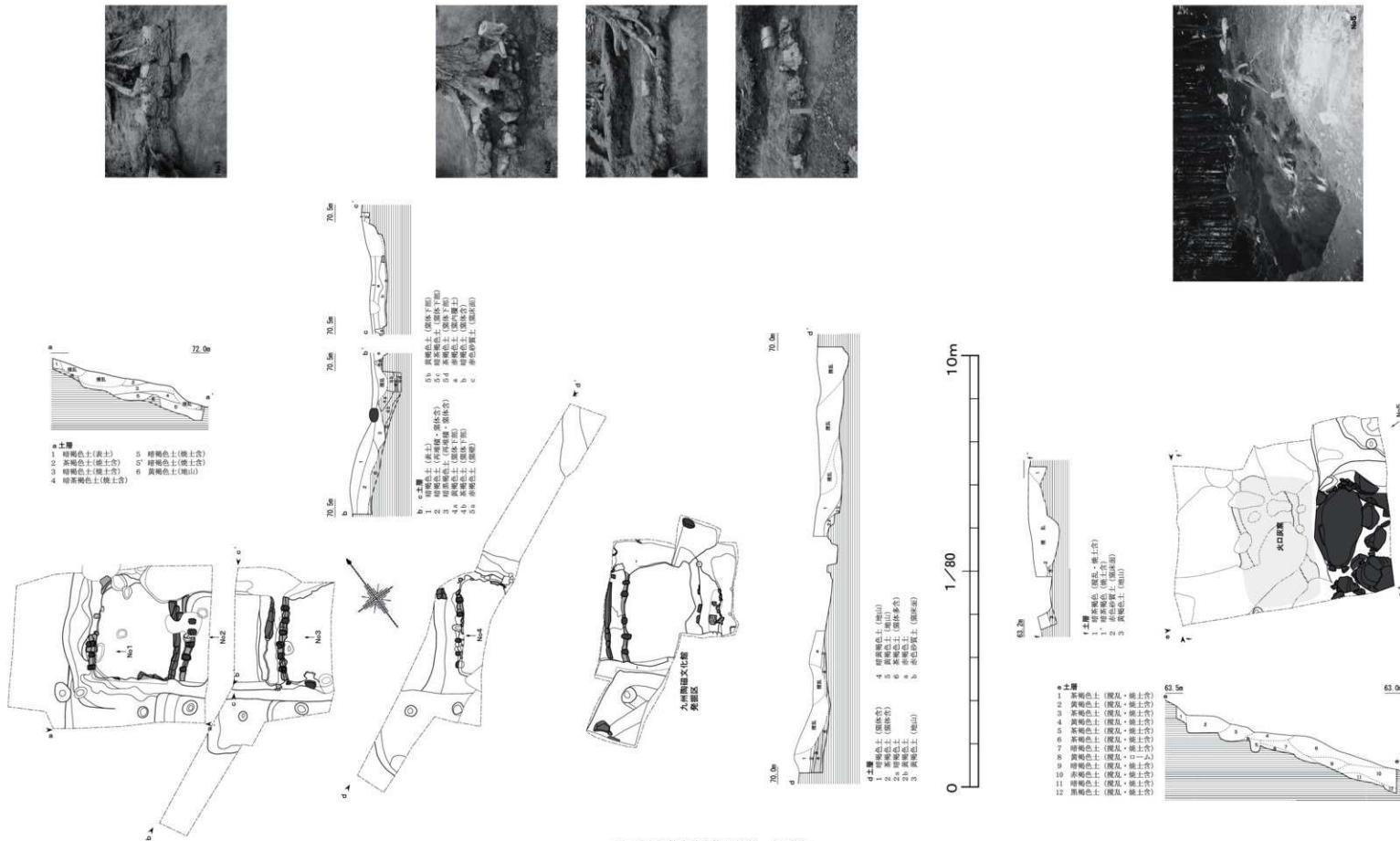
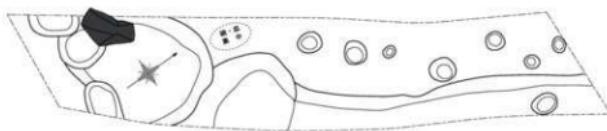


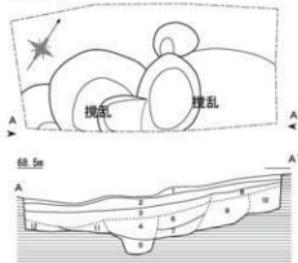
Fig. 45 航柱墓跡全体図 (1) (1/80)



第10トレンチ



第11トレンチ



第11トレンチ土層

- | | |
|--------------------|-----------------|
| 1 棕灰色土 (表土) | 7 苍褐色土 (窓体片少含) |
| 2 棕色土 | 8 苍褐色土 (窓体片少含) |
| 3 灰褐色土 | 9 棕色土 (窓体片少含) |
| 4 苍褐色土 (陶器片・窓体片含) | 10 棕色土 (窓体片少含) |
| 5 棕褐色土 (陶器片・窓体片少含) | 11 苍褐色土 (窓体片少含) |
| 6 灰褐色土 (陶器片・窓体片多含) | 12 棕色土 (窓体片少含) |

第6トレンチ SK01

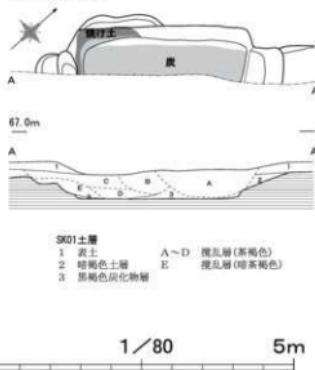


Fig. 47 帆柱窓跡 6、10、11トレンチ図 (1/80)

第2節 遺 物

帆柱窯からは、碗、皿、小杯、鉢、片口鉢、瓶、壺、甕などが出土している。製品の多くはロクロで成形されたもので、釉薬は皿屋窯と同様、失透白色の藁灰釉を基本とし、石灰釉(透明釉)や土灰釉製品は客体的存在である。なおタタキ技法は、甕・片口鉢・徳利などに見られる。

皿屋窯出土の皿類には、釉剥ぎの胎土目積という特徴的な技法が多く見られたのに対し、帆柱窯では重ね積みの痕跡を持つ製品は少ない。また生焼けの製品は比較的少なく、皿屋窯よりは歩留まりの良い窯であったと考えられる。

皿類 丸皿 (I a・b・c類)、端反皿 (II a・c類)、縁立皿 (IV類)、波縁皿 (V類)、大皿 (IX類) が出土している。その多くは、重ね積み痕跡を持たない藁灰釉製品である。Fig48-12・13・15・16は、石灰釉(透明釉)製品で、前3者はピン状の胎土目が付着している。No14は藁灰釉製品で團子状の胎土目が釉着しているが、釉薬を剥いた痕跡は見受けられない。No18~20は、土灰釉製品である。

波縁皿 (V) は比較的多く出土しているが、口縁に鉄釉をかけるものも存在する (Fig49-1~3)。Fig49-5~14は縁立皿。Fig49-16・17は大皿であるが、同一個体の可能性もある。なお特殊なものとして、口唇に間隔をあけて押捺を施す皿も出土している (Vib: Fig48-24)。

碗類 I・II・III類ともに出土しており (Fig49-18~Fig51-16)、I類には口縁に鉄釉をかける皮鰐手のものが存在する (Fig50-8~10)。またIII類の2個体 (Fig50-27・28) が石灰釉である以外は、全て藁灰釉製品である。また碗・皿類の底裏は全て露胎であり、腰部はロクロ左回転で工具削りが施されている。さらに高台置付の調整については、回転糸切痕をそのまま残すものも少量存在するが、工具で糸切痕を削り落として平らに仕上げるものが多い。なおFig52-No19と20は土灰釉の大型品である。

小杯 (Fig52-1~14) では、碗形を呈するもの (I類) と筒形を呈するもの (II類) が出土している。

壺類 Fig52-No15は、頸部が強く括れる土灰釉の小壺であるが、その口縁を欠いている。Fig53-No24から33は無頸壺で、No25~29・31には鉄絵が描かれている。また、特殊な器形として、円筒形の素焼き製品 (Fig52-No16) が出土しているが、花入れと考えることもできよう。

鉢類 Fig51-17~24は、鉢に分類したが、向付などを想定して製作されたものであろう。No17・21~24は施釉の跡が見られず、本窯では特別な製品について、二度焼きを行った可能性もある。Fig53-20から23は鉢IIに分類しているが、用途としては香炉が考えられる。

瓶・徳利 瓶 (Fig53-1~4) は全て藁灰釉であるが、無花果形の徳利には土灰釉も存在する。No5から14は徳利であるが、いずれもI類であり、胴下部が強く張る船徳利 (II類) は出土していない。施釉には藁灰と土灰の両者が存在し、胴部は紐作りの後タタキ、口頸部はロクロ調整である。

片口碗 Fig53-No15から19は片口?碗で、全て藁灰釉の製品である。

甕・片口鉢・擂鉢 帆柱窯においては、甕類の出土は少なく、その器形が明確なのはIII類の1個体のみである (Fig54-1) が、タタキの當て具としては、No3の内面に見られるように同心円を刻み込んだものが使用されているようである。Fig54-4から11が片口鉢であるが、その口縁は全て内重の複合口縁を呈しており、本窯の特徴と言える。また破片ではあるが擂鉢も出土している。

窯道具は、トチンとハマが出土している (Fig55・56)。トチンでは「I」形がその大部分を占めるが、大型品では円筒形に近い形態のものも見受けられる。製品が釉着しているものが2個体出土しており、Fig51-15がトチン、同16がハマである。また、高台置付けに砂粒が付着する碗・皿が多く存在することから、窯床面は砂が敷かれていた、いわゆる砂床であった可能性が高い。なお3足の付く、素焼きでハマ状の遺物 (Fig56-10) が出土しているが、1点のみの出土であり、窯道具であるかは類例を待ちたい。

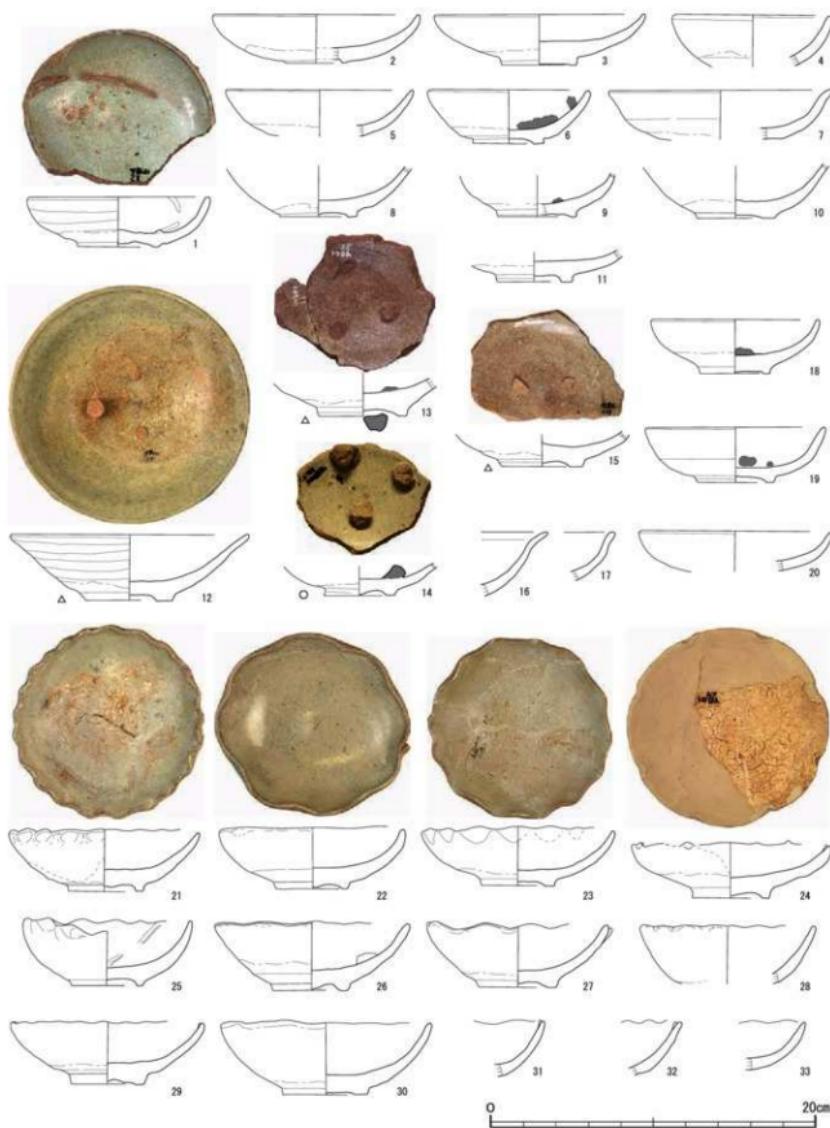


Fig. 48 帆柱窯跡出土遺物実測図（1）

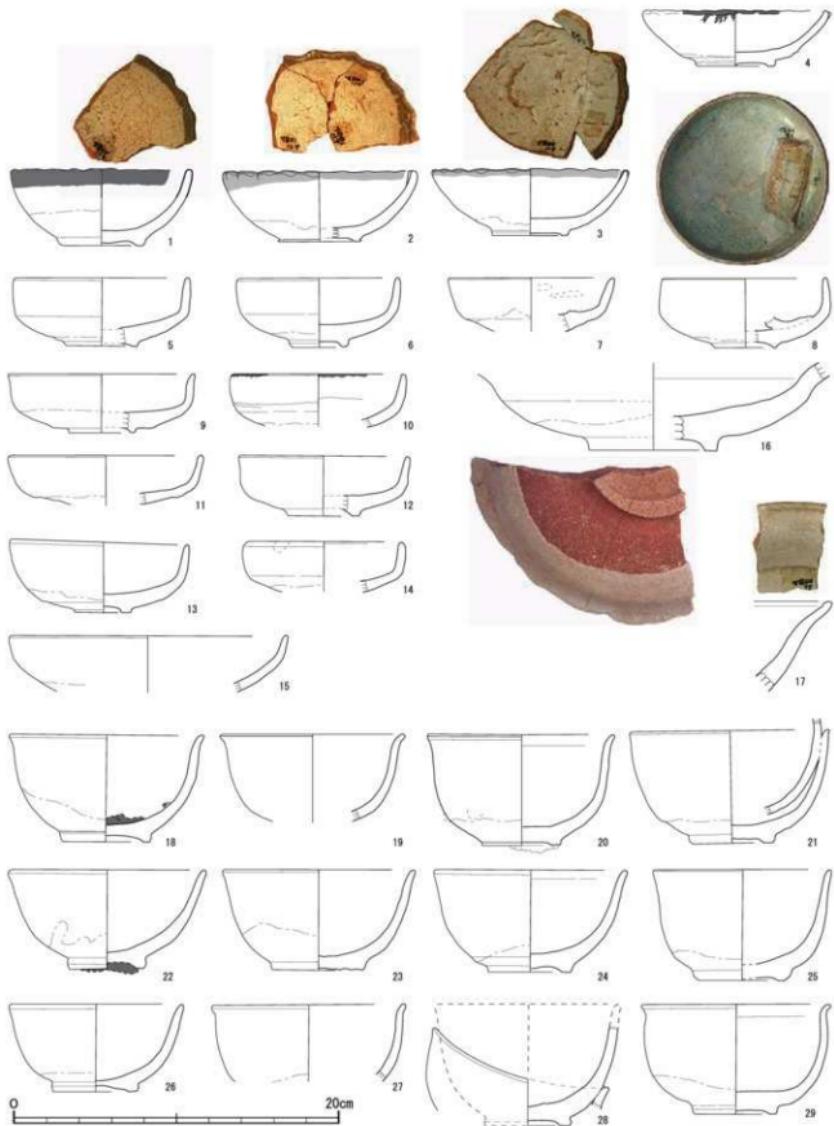


Fig. 49 帆柱窯跡出土遺物実測図（2）

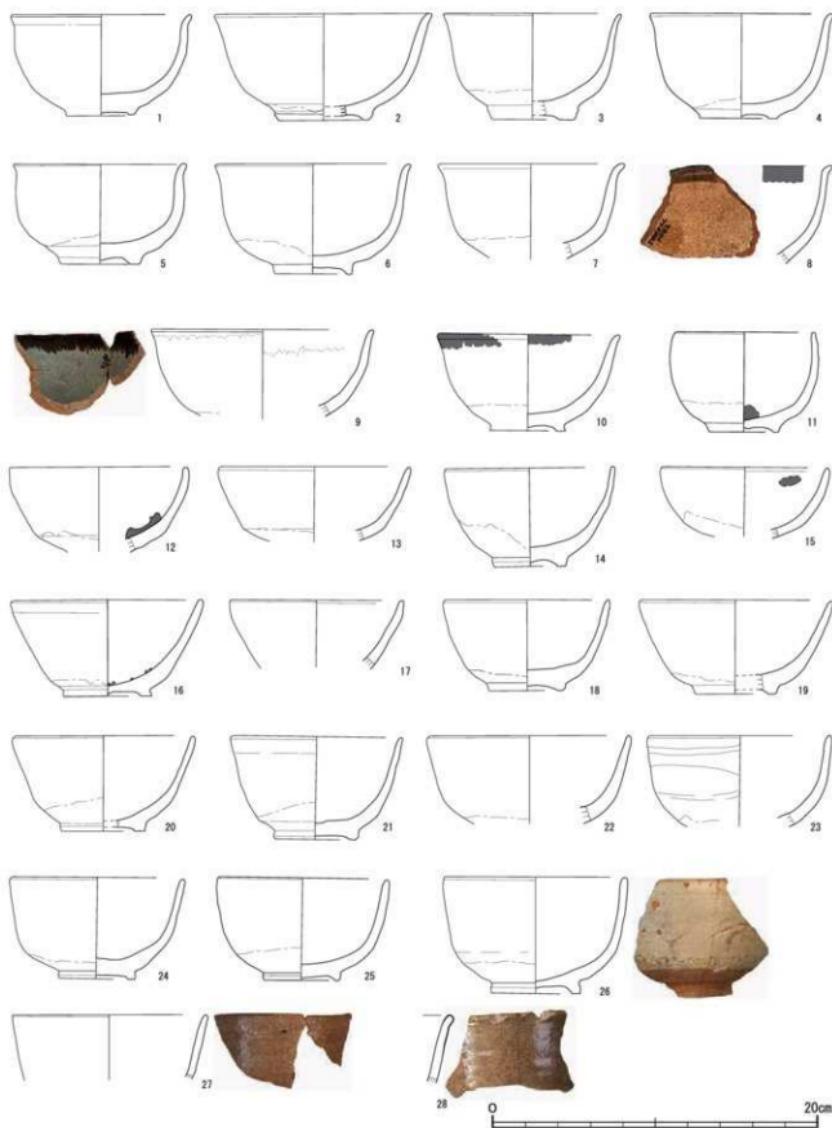


Fig. 50 帆柱窯跡出土遺物実測図（3）



Fig. 51 帆柱窯跡出土遺物実測図（4）



Fig. 52 帆柱窓跡出土遺物実測図（5）



Fig. 53 帆柱窓跡出土遺物実測図（6）



Fig. 54 帆柱窯跡出土遺物実測図（7）

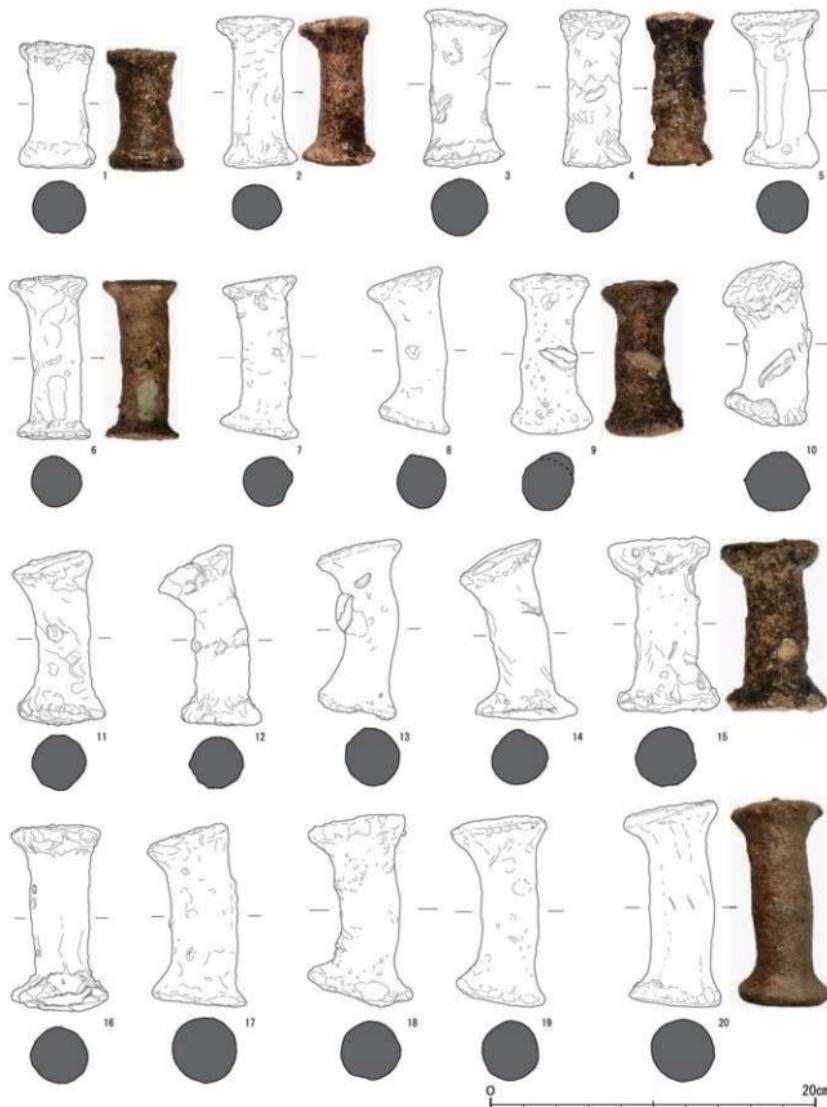


Fig. 55 帆柱窓跡出土遺物実測図 (8)

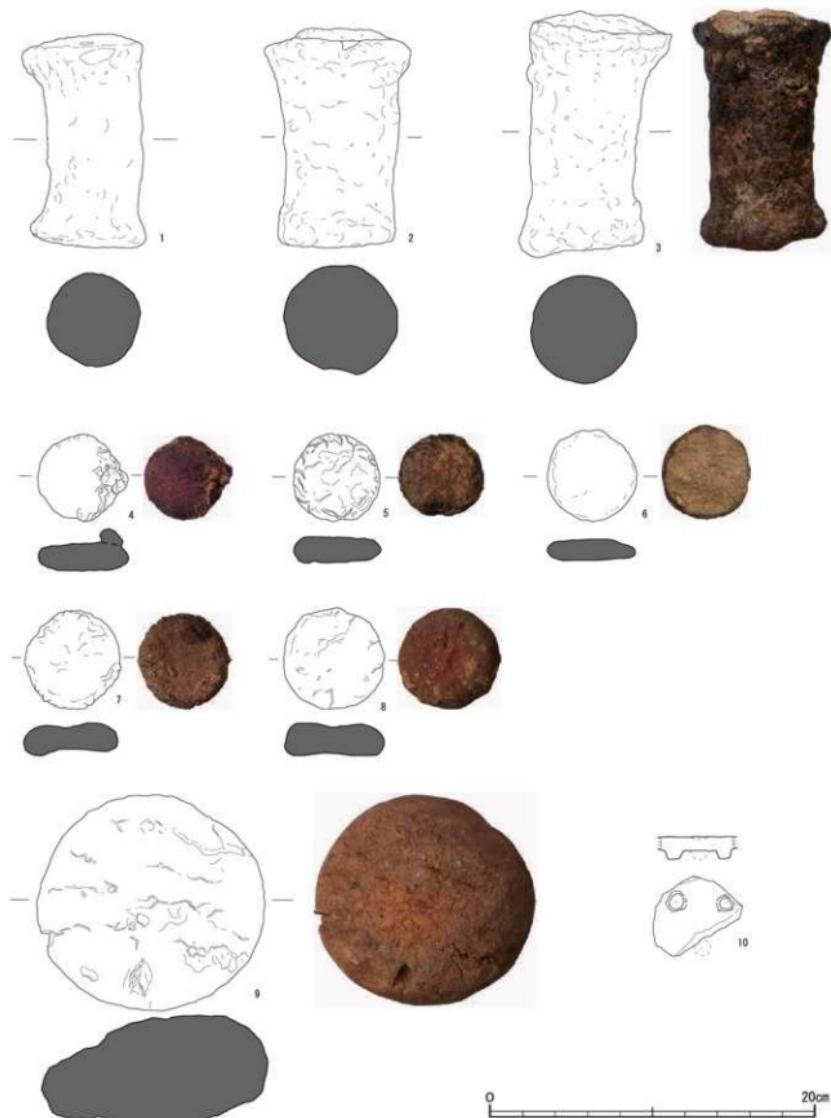


Fig. 56 帆柱窓跡出土遺物実測図（9）

第VII章 飯洞甕窯跡の調査

第1節 位置と調査区

1. 位置と環境

飯洞甕窯は、大字稗田字帆柱の通称「船越り」という岸岳山麓に所在する。北波多地域の中心である徳須恵から橋を渡り、稗田の集落を過ぎると、波多総鎮守社である波多八幡神社に出る。ここから小川に沿い、岸岳を目指して20分ほど歩くと、「古窯の森公園」に至る。飯洞甕窯はこの公園の最奥部、檜林中に存在し、そのすぐ下を溪流が流れている。上窯と下窯は、丘陵の西斜面に約50m隔てて築かれている。

2. 調査区

①平成10・11年度の調査

道路拡張工事に伴って実施した小規模な緊急調査を、1次調査とした。その調査区は、当時の川の対岸にあたる。飯洞甕上窯については、上方をAトレンチ、下方にBトレンチを、周辺部左斜面に1・2・5・6、窯跡上方に7、右斜面に3・4の合計7つのトレンチを設定した。

飯洞甕下窯は、昭和31年の調査により全面が発掘され、第5室と6室間の隔壁が完全に残るなど保存状態の良い窯跡であることが確認されていた。平成元年に東中川氏等により実測図が作成されて以降、長らく調査は行われていなかったが、別窯の存否確認のため、平成11年度に窯跡の周辺において小規模なトレンチ（1～4）調査を行った。

②平成27年度～H28年度の調査

飯洞甕下窯及び、飯洞甕上・下窯の窯場遺構を確認するため、両窯周辺に12か所のトレンチ（12～15、17～24）を設定した。下窯に設定したトレンチは、窯尻部に1か所（17）及び下窯左右にそれぞれ2か所（18～20.23）である。

下窯の北斜面に3段存在、上・下窯間にも2段の平坦面が存在する。これらは窯場における作業面であったと考えられるが、上窯南の平坦面2か所については、旧坑口が隣接することから、窯場操業時の地形であるかは不明である。また地形図では明瞭でないが、上・下窯間上段平坦面（15トレンチ）から下窓に続く切岸状の段が存在し、両窯と作業空間をつなぐ道であった可能性を指摘できる。

また上窯の南東約30mには、差し渡し20m以上の岩陰が存在するが、奥行き5mほどにもなり、ここも作業スペースとして利用されたと考えられる。

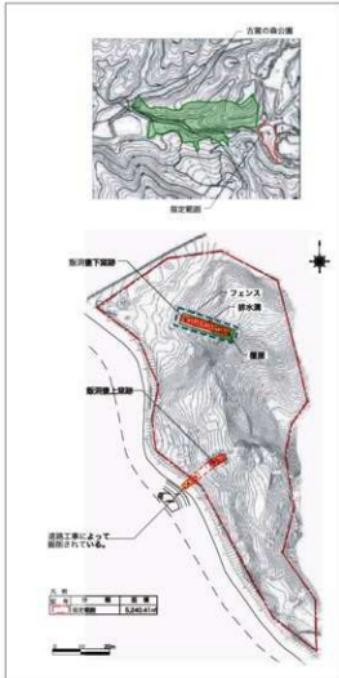


Fig. 57 飯洞甕窯跡の周辺環境

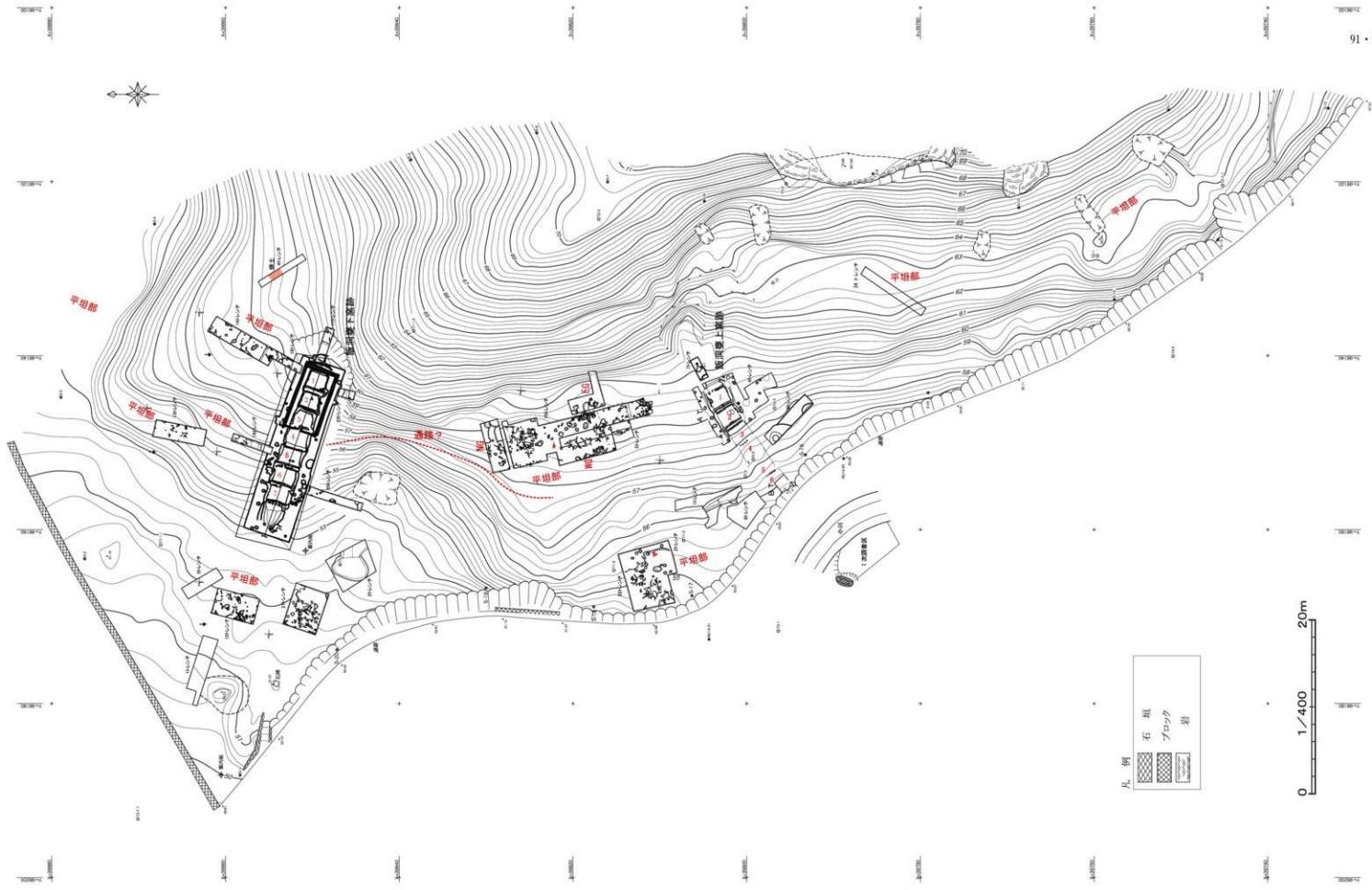


Fig. 58 飯洞塗上・下塗跡周辺地形図 (1/400)

これら窯場遺構を確認するために設定したトレントの位置は、下窯北斜面に2箇所（13.14）、前庭部に2か所（12.21）。上・下窯間に2か所（15.22）、上窯の南に1か所（24）である。

なお15トレントに関しては、石組み遺構の広がりを確認するため北への拡張（Nグリッド）、平坦部と斜面部との境を確認するため東への拡張（Eグリッド）、掘立柱建物存否確認のため西への拡張（Wグリッド）を行った。

第2節 飯洞窯上窯跡の構造

飯洞窯上窯の勾配角は約16度で、下窯の15.5度と近似する。

今回の調査では、焼成室2室分を検出したが、その下方にはさらに4から5室の存在が推定され、全部で6から7室程度の登窯と考えられる。胴木間及び下の教室は道路により切り取られているため全長は不明であるが、窯の中心線はやや北に湾曲している。

最上室は、奥行約220cm、幅225cmを測り、奥壁の煙出には、分焰柱が直線上に並んでいる。分焰柱は6ないし7本で砂岩割石を芯に、粘土を巻いて方形の柱としている。窯尻は側壁からつながって閉じているが、奥壁と窯尻間には約60cmの空間が存在し、その上部から煙を排出していたと考えられる。

第2室目の法量は、奥行約231cm、幅224cmで、上下隔壁の分焰柱の数はともに7本である。なお第3室以下の未発掘区においても、4.7mの間隔で分焰柱が露出しており、これを2等分すると2.35mとなり、第3室以下の焼成室も上記2室とほぼ同じ規模になると考えられる。

隔壁は砂岩の割石を横に積み上げ、粘土で表面を塗りこめて仕上げている。火床境は皿屋窯と同じく、その上面から前面にかけて粘土を貼っており、火を強く受けてガラス化し、ハマや皿が軸着していた。さらに火床境と火床は何回も補修されているようで、最終段階の火床境は、火床内のかなり浅い位置での重ねがめくれていた。

通常肥前の登窯の出入り口（木口）は、次節の飯洞窯下窯に見られるように、焚口から向かって右に設けられることが多いが、本窯の火床側壁を観察すると、最上室は向かって右側が、2室目は左側が平坦になっており、交互に木口が設けられているようである。

また縦断面を観察すると、飯洞窯上窯は同下窯や皿屋窯と比べ焼成室間の段差が小さい。焼成室の奥壁が低いため、窯勾配角と焼成室床面傾斜角が同じで、火床の凹を考慮から外すと、焼成室の床面はほぼ一直線となっている。窯壁の外側には上屋の柱穴と思われるピット（P1～6）が存在するが、側溝は検出されなかった。

第3節 飯洞窯下窯跡の構造

昭和31年の発掘調査以降、埋め戻されていた胴木間から第4燃焼室までの再検出を、平成29年度に実施した。窯跡は焚口から窯尻まで残り、焼成室は7室である。飯洞窯下窯の勾配角は約15.5度で、下窯の16度と近似する。窯の全長は、第1室奥壁から焚口まで18.8mを測り、中心線はほぼ直線となる。また奥壁背後のU字溝の位置に窯尻を想定すると、全長は19.6mとなる。

各焼成室の入り口は、上窯と異なり、向かって右に統一されているが、第4室目と第6室目の火床部分において、側壁が外側にめくれる状況が観察され、木口については左側にも存在した可能性を指摘しうる。また胴木間については、浅く扁平な構造と考えられてきたが、再検出の結果、深さ約1mの舟底状を呈することが確認された。また皿屋窯や帆柱窯で見られた火口灰窯は存在しない。

下窯の北斜面に設定した18.19トレントにおいて、幅約2m深さ40cm程度の溝状遺構を検出した。しかし両トレントでは、窯からの距離が異なる。窯を構築する際、壁上となる粘土を周りから採掘した結果、

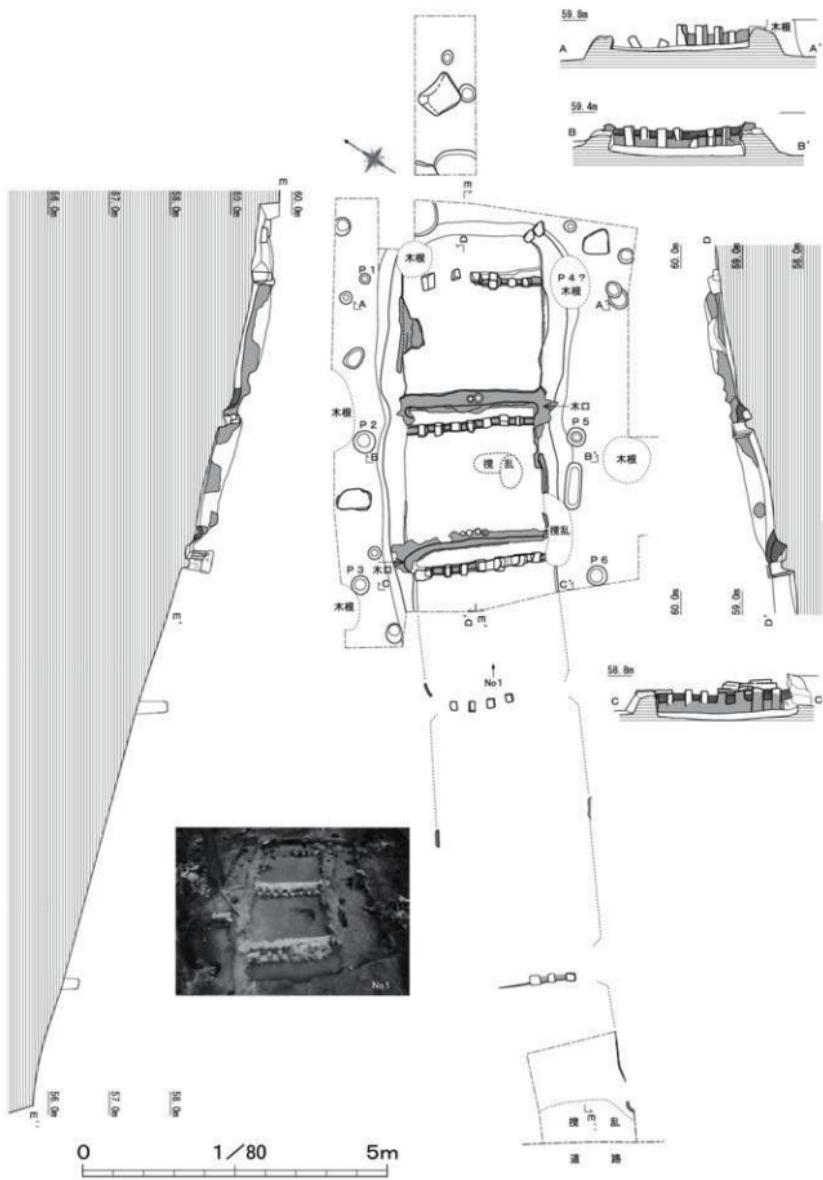


Fig. 59 飯洞廬上窯跡全体図（1）（1/80）

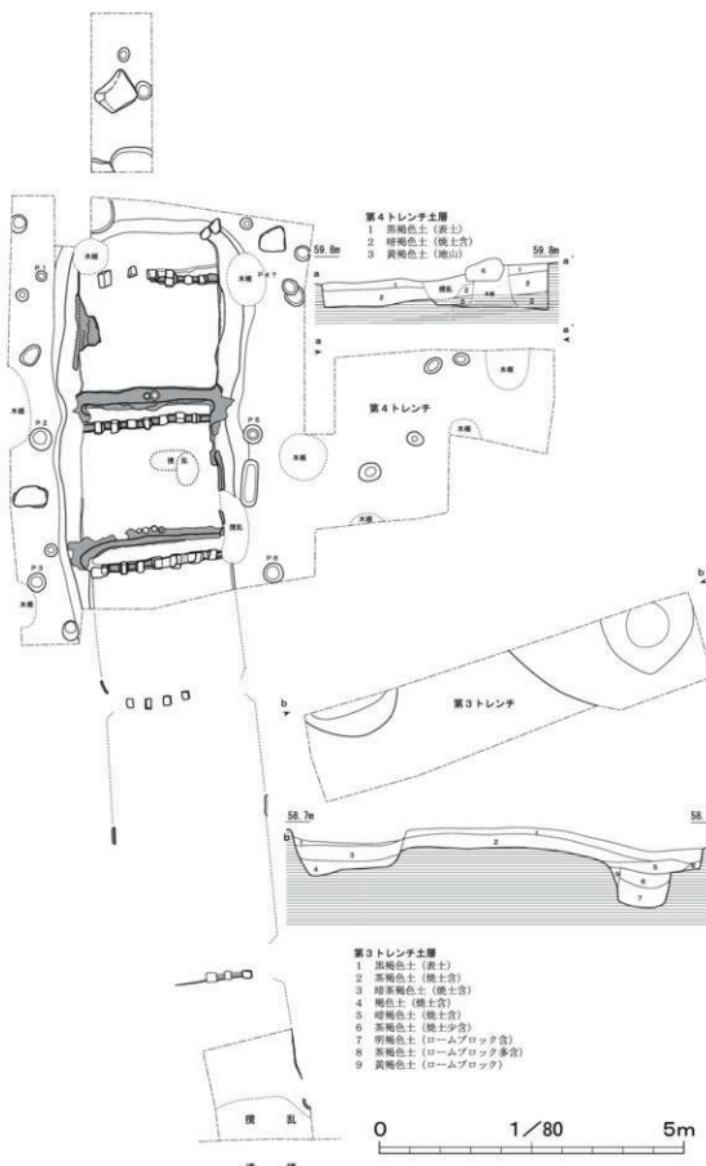


Fig. 60 飯洞窓上窯跡全体図 (2) (1/80)

周囲に溝状の掘り込みが残ったものと考えられる。

また覆屋根の柱穴と考えられるビットは、側壁から1m以内の範囲で検出されているが、桁・梁とともに直線的には並ばない。

最上室は、奥行約250cm、幅210cmを測る。奥壁の煙出には、分焰柱の痕跡が直線的に並んでおり、その数と間隔を測ると、第2-3室間の隔壁と同様6本程度と考えられる。強い火力を受け、ガラス化した火床境が残るが、隔壁は基部の段差が存在するのみである。また床面南東隅には、窯道具であるハマのスタンプが合計11か所残っている。出入口は、窯尻に向かって右側で確認されている。

第2室目の法量は、奥行約220cm、幅200cmで、第1室同様火床境が良好に残る。第2-3室間の隔壁は、現況で高さ120cmを測るが、その上部が僅かにカーブすることから、旧天井もほぼこの高さであったことがわかる。また隔壁背後（火床境）の高さは80cm以下と低く、ほぼ四つん這いの状態で窯詰は行われたと考えられる。隔壁は粘土の塗込式であるが、崩落している部分を観察すると、少なくともその下半は砂岩削石を心材として積み上げている。また分焰柱の数は、1本欠落しているが6本で、上窯同様砂岩削石を芯に粘土を巻いて方形の柱としている。

第3室目の法量は、奥行約220cm、幅230cmを測る。隔壁から続く側壁が比較的良好に残るが、東部分は内側に倒れ込んでおり、不安定である。火床境は南北分が残存しているが、北半分はモルタルによる後世の補修である。出入口は、第1・2室同様向かって右側に設けられている。

第4室以下胴木間（燃焼室）までが、平成29年度に再検出した範囲である。

第4室目の法量は、奥行約230cm、幅220cmを測る。出入口は他の燃焼室同様右側に設けられているが、先に述べたように、木口については左側にも存在した可能性が高い。

第5室目の法量は、奥行約230cm、幅220cmを測る。火床境はガラス化し、第6室間との隔壁には分焰柱心材の砂岩下部が5か所に残る。なお欠落部を含めると、分焰柱は6本となる。

第6室目の法量は、奥行約230cm、幅240cmである。火床境はガラス化して良く残るが、隔壁分焰柱は1本しか残っていない。なお左側壁の外側において、床面のように焼土化した硬化面が検出されたが、その範囲は部分的であり性格は不明である。

第7室目の幅は220cmであるが、奥行きは210cmと、他の焼成室と比べやや短い。

焼成室（胴木間）との境には、5個の砂岩が弧状に埋め込まれているが、ここから急角度で落ち込み、燃焼室床面に至る。床面は比較的平坦で、砂岩が平面的に敷かれていた。

燃焼室の土層観察において、最上層がかつて床面と考えられていた面である。堅く締まった焼砂が厚く堆積していたことから、この面を燃焼室の床面と判断したのである。焼砂層の下には、天井や側壁の崩落窯体片を多量に含む焼土層が存在し、その最下部には炭化物層が薄く堆積している。なお焼土層からは、多量のトチングが出土している。

焼成室は、焚口から分焰柱まで長さ290cm幅約200cmで、深さ約100cmの舟底状を呈する。焚口には地山を掘りこみ2本の立石が据えられており、さらに付近より大量の砂岩ブロックが検出されたことから、砂岩を組んで焚口を構築していたと考えられる。

なお焚口の右側には土坑状の掘り込みが存在し、炭化物が堆積していた。掻き出した焼（おき）を集めめた穴ではないか、という指摘を受けたが、その性格は今後の検討課題である。



Fig. 61 飯洞壁下窓跡全体図 (1) (1/80)

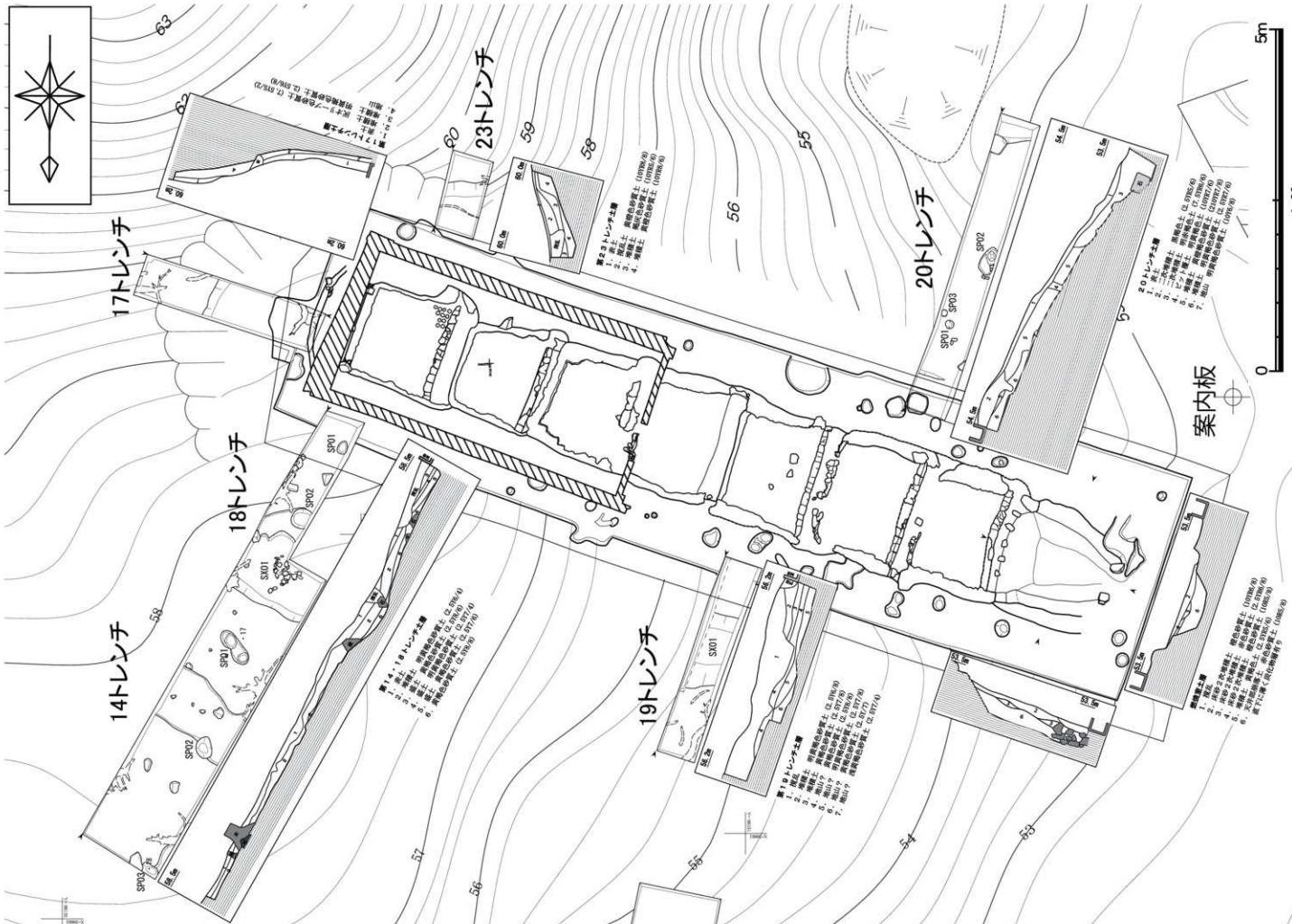


Fig. 62 漢洞裏下室跡全体図 (2) (1/80)

第4節 周辺部の調査

1. 平成10年度 飯洞窯上窯跡周辺の調査

第1・5トレンチでは傾斜に併行して段切りが施され、平坦面を形作っている状況が観察された。また第2トレンチでは、1辺3m以上・深さ30cmほどの掘り込みの中から、白色粘土の固まりが出土しており、生産に関わる遺構が窯周辺に存在することが確認された。

また1次調査区は焚口の前方にあるが、彌唐津碗をはじめ比較的多くの遺物が出土している。調査区の南西端は落ち込みが土砂により埋められており、かつての川はこの南西を流れていると考えられる。

2. 平成11年度 飯洞窯下窯跡周辺の調査

飯洞窯下窯跡の南に南北方向の落ち込みが見られたため、その中程にトレンチを設定した（第2トレンチ）。遺物は比較的多く出土したものとの遺構は検出されず、この落ち込みは後世の坑口の一部であると想定している。

窯後方の緩傾斜面に設定した第4トレンチでは焼土が検出されたが、周辺に窯構築材の散布は見られず、窯場施設に伴う遺構と考えられる。

3. 平成27・28年度 飯洞窯上・下窯周辺の調査

約50m離れて築かれた上窯と下窯の中間には、上下2段の平坦面が造成されている。

上段平坦面からは、炭混じりの土が互層に堆積した方形土坑と、テーブル状の板石組遺構が検出されたが（15トレンチNグリッド）、いずれも類例が見当たらず、その性格については現在検討中である。なお板石については、窯跡の西を隣接して流れる小川の河床から切り出されたものと考えられる。また板石組遺構の南側からは碗・皿類が集中して出土している。

板石組遺構の約7m南からは、青銅製の箸が1本（両端欠損）出土した（15トレンチWグリッド）。40年ほど前、近辺から同じく青銅製品（匙？）が3本掘り出されたとの情報を得ているが、これらの青銅製品については、朝鮮半島製の可能性が高い。またここでも隣接して碗・皿類が集中して出土している。

なお出土した食器類は、通常鉢々器としての利用を想させるが、朝鮮半島の事例を勘案すると、祭祀に伴う遺物である可能性が高い。

下段（5・22トレンチ）では白色粘土塊および、ハマが数多く出土しており（貝目痕跡を持つ物は少ない）、作陶および窯出後の作業空間であったと推定される。なお粘土塊は、そのまま陶土として利用可能のことである。

・13トレンチ

2段掘り込みのロクロビットを1個検出した。唐津焼及び曾畠式土器、石器類が少量出土した。

・14トレンチ

溝状の落ち込みと小穴2個を検出した。小穴については、掘立柱建物である可能性がある。当該期の唐津焼の他、繩文土器及び石器類が少量出土した。

・12トレンチ

当該期（近世初頭）の小穴1個と繩文時代前期の集石遺構を検出した。陶器（唐津焼）少量と、曾畠式土器及び石器類が出土した。

・21トレンチ

北半では地山平坦面が検出されたが、南半部分は下窯跡南小谷（旧坑口）からの水みちとなり、礫が露出していた。

・15トレンチ

全体的に擾乱を受けていたが、調査坑北端では板石組の遺構が、中央では焼土坑が検出された。

板石組遺構の南から、完形品を含む碗皿類がまとめて出土した。

Nグリッドからは、テーブル状の板石組造構の北で炭混じりの土が互層に堆積した方形土坑を検出した。

Eグリッドでは小ピット以外の遺構は検出されなかったが、平坦面東端で斜面を切岸状に掘削した状況を確認した。

Wグリッドの表土直下には、堅く締まった層が存在する。その下から青銅製の箸（両端欠損）が1本出土し、隣接して碗・皿類が集中して出土している。

・22グリッド

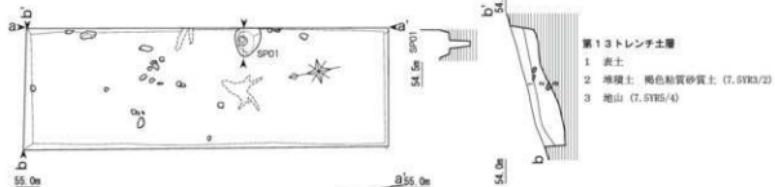
隣接する平成10年度第2試掘抗からは粘土塊が検出されているが、本試掘抗ではハマ（焼台）が数多く出土している。

・24トレンチ

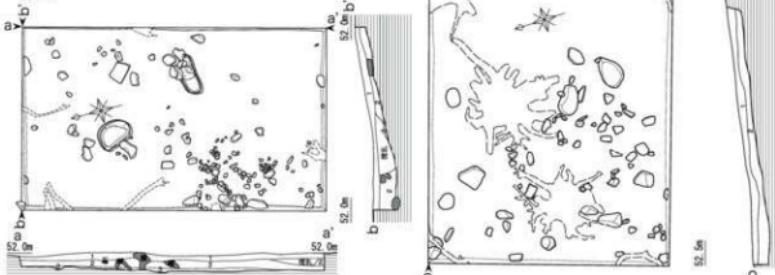
ボーリングステッキ調査により、飯洞窯上窯跡の南約20mで焼土が確認されたため、追加調査を実施した。5×5mの範囲で表土を除去した後に、約1×8mの試掘抗を設定し掘り下げを行った。

マーブル状胎土の甕や高台内まで施釉する土灰軸の皿が数多く出土しており、これらは皿屋上窯跡の製品様相と一致する。約1mの深さで焼けたボタ（石炭屑）が厚く堆積しており、かつて存在していた窯が、採炭により破壊された可能性も有る。

13T



12T



21T

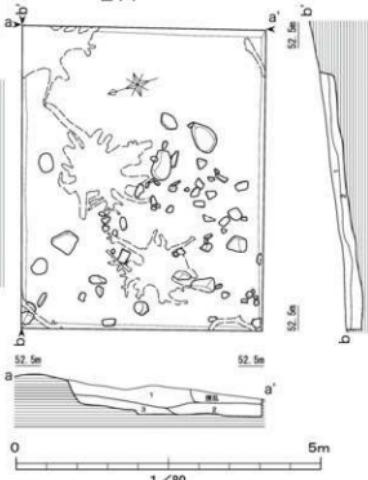
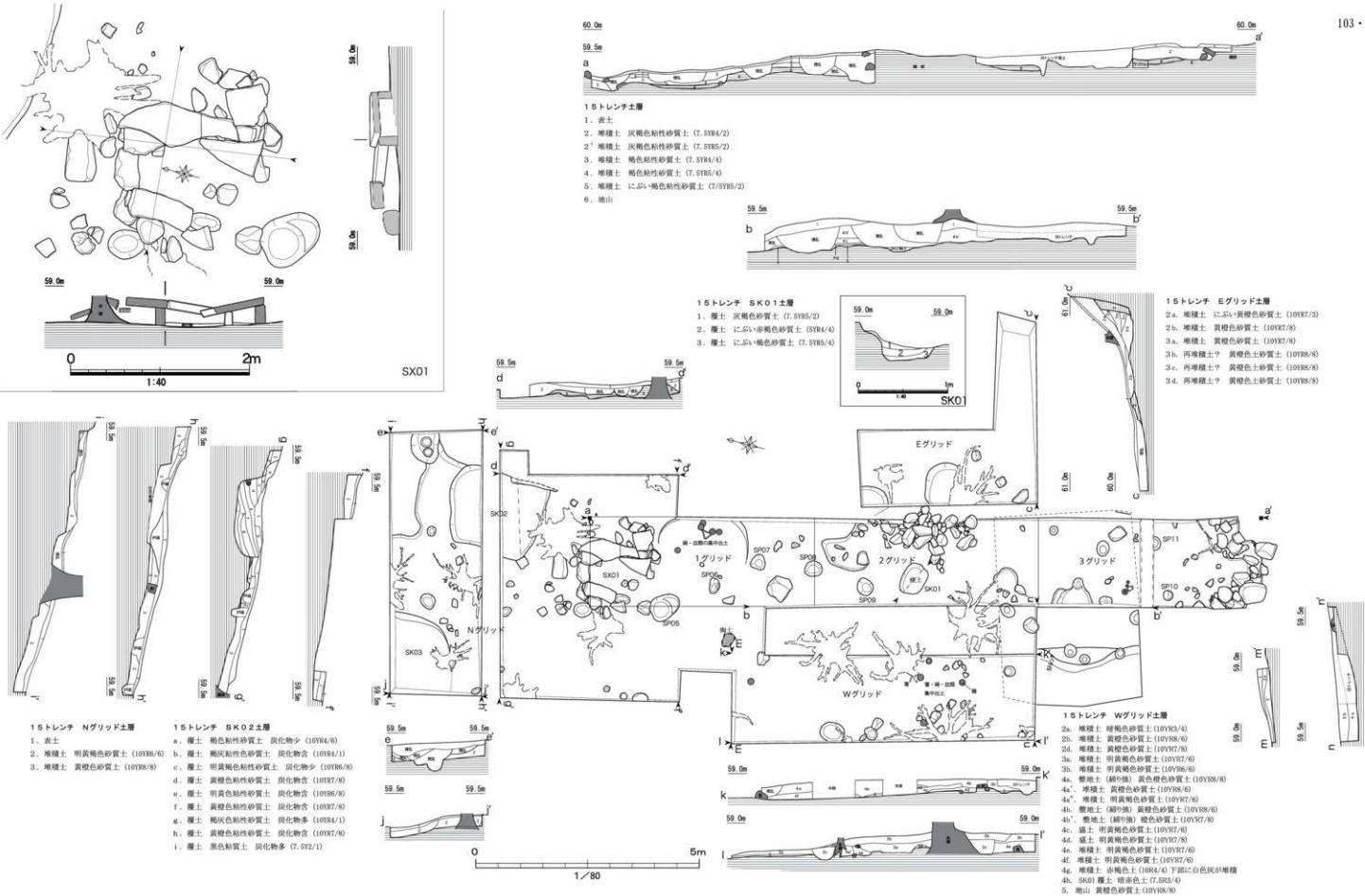


Fig. 63 飯洞窯跡周辺 12, 13, 21トレンチ図 (1/80)



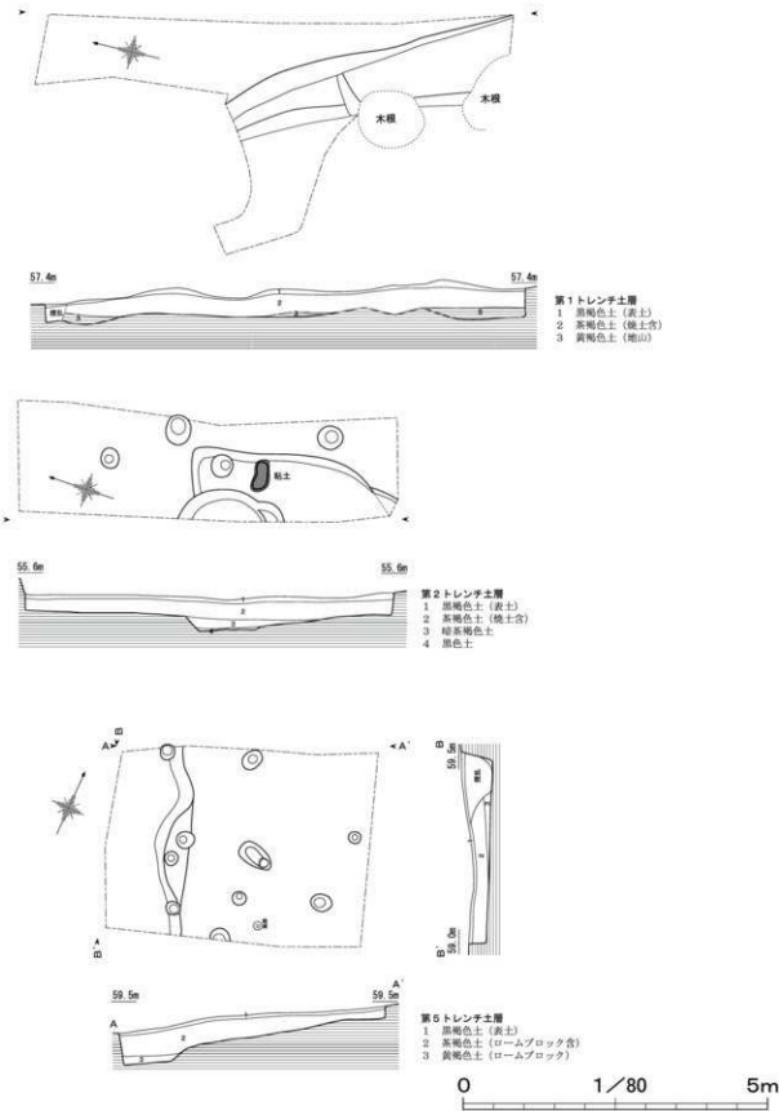


Fig. 65 飯洞窯跡周辺 1、2、5 トレンチ図 (1/80)

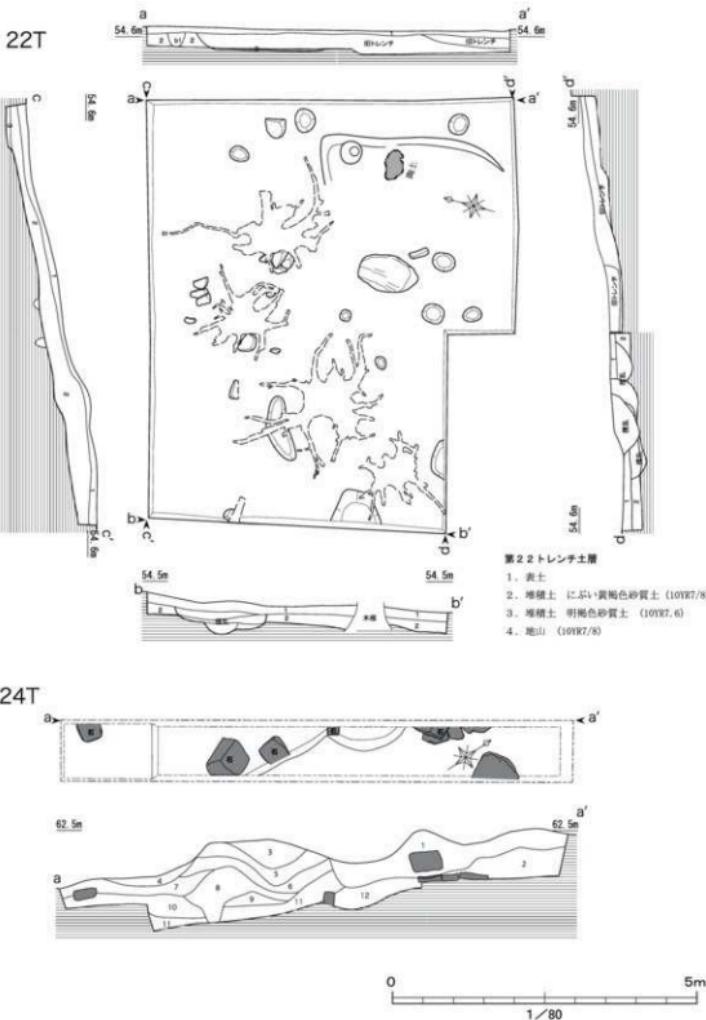


Fig. 66 飯洞壁窓跡周辺 22, 24 トレンチ図 (1/80)

第5節 遺物

Fig67～81が平成10・11年度、Fig82～88が平成27・28年度の調査で出土した遺物である。

「岸岳古窯跡群Ⅲ」においては、Fig67～75を飯洞窯上窯跡出土、Fig76～81を飯洞窯下窯跡出土として報告している。

Fig82～86（平成27・28年度）が上窯と下窯間の斜面平坦部（15・22トレンチ）と、上窯南東に設定した24トレンチからの出土遺物、Fig86が下窯周辺（12～14・17～20・21・23トレンチ）から出土した遺物である。またFig88には、縄文時代の遺物を一括して掲載した。

発掘された陶器には、皿・碗・鉢・壺・小杯・瓶・蓋・壺・鉢・徳利・ロクロの軸受け・鍾・片口鉢・甕・甕蓋などがあるが、特殊なものとして水滴や陶偶などが出土している。

飯洞窯上・下窯で焼成された製品は、土灰釉を主体とし、客体的に長石系釉が存在する。皿類では原則的に重ね積みを行わない。皿屋窯や帆柱窯で見られた胎土目は確認されていないが、蛇目釉剥ぎ（◎）や砂目（△）、陶石目（□）などが少量出土している。底部の施釉範囲については、腹部以下が露胎となるものが最も多いため、高台脇まで施釉するもの、高台内部まで全面施釉するものも一定量存在する。高台疊付の調整においても、工具削りによって平らに仕上るものと、端部が丸く納まるものの2者が有るが、全面に施釉する場合、高台調整は全て後者である。なお、全面施釉の高台疊付けには砂粒が付着しており、窯の床面は砂床であったと推定できる。

皿類 丸皿（I a・b類）、端反皿（II a～d類）、溝縁皿（III類）、縁立皿（IV類）、波縁皿（V類）が出土しているが、そのほとんどは丸皿と縁立皿であり、その他の器形は僅かである。

釉輪に関して述べると、丸皿は、Fig68-12・13・15、Fig82-1・2・10、Fig85-5が長石系釉である以外は全て土灰釉である。Fig68-12・13、Fig85-5が文様を持つことからも、長石系釉製品は丸皿の中では特種例として考えて良いだろう。なおFig68-6は土灰釉の上に濃緑色の釉薬を流しかけているが、縁立皿（Fig68-27）や小鉢（Fig70-1・2・5・6）などに類例があることから、一定の施釉技法として確立していたのであろう。縁立皿では、土灰釉と長石系釉がほぼ半々の割合で施釉されているが、Fig68-31と32に関しては、絵付けを施すことから有脚（Fig71-22）の向付である可能性もある。

Fig85-1は、内面はもとより高台内にも鉄絵を描いている。岸岳古窯跡群出土とされる製品によく見られる抽象的な文様で、見込みには3か所の陶石目が存在する。一覧表では皿に分類しているが、残存する口縁のカーブを詳細に観察すると、器形は隅丸方形となる可能性が高い。また飯洞窯から出土する波縁皿（III類）には文様を描くものがあるが（Fig85-3・4）、本窯から出土する絵唐津には、黒色ではなく濃緑色に発色するものが多い。

また目跡について述べると、丸皿では蛇目釉剥ぎが1点（Fig82-20）見られるのみであるが、端反皿には一定量の蛇目釉剥ぎや砂目（Fig68-7、Fig77-14、Fig82-36、Fig83-1・3、Fig87-11）が存在する。さらに陶石目は、鉢I（向付？）や中・大型の皿で使用している。

なお、朝鮮半島産の灰青沙器が2点出土している（Fig70-21・22）。

碗類 I類からV類の全てが出土しているが、通常サイズのものはほぼII類で、土灰釉製品である。またI類でも大型品の2個体（Fig69-9・11）と装飾を施す茶碗であるIV類は、長石系釉製品となっている。No9は見込みから底裏にヒビが貫通しており、これに鉄釉を垂らして塞いでいる。IV類は、Fig69-1・4・6が彫唐津、2が絵唐津、3と5が彫絵唐津であり、No1の高台は二重高台となっている。なおFig84-4は作りが薄手で、茶碗と評価しても良い仕上がりである。

さらに注目すべき出土遺物として、天目茶碗（Fig69-21、Fig84-16）があげられる。上窯北西平面からの出土であるが、美濃大窯第4段階末の製品で、16世紀末の年代が与えられている。（註1）

またFig77-22の鉄軸碗も胎土が異なっており、他窯からの搬入品であろう。

鉢類 小鉢では、碗形を呈するもの（I類）と筒形を呈するもの（II類）、大型の鉢（III類）が出土している。II類（Fig70-1~8、Fig84-19・20・22・23）には、土灰釉の上にさらに濃緑色の釉薬を上掛するものが多く見られる。Fig70-19~20は口縁が内側に屈曲する器形で、帆柱窯の例と同様（Fig53）香炉と考えたい。

またI類では、変形皿VIA類と類似したものが比較的多く出土している（Fig70-11・12、Fig78-15、Fig83-4・5・6）。皿屋窯のように口縁鉄軸掛けはしないが、長石系釉を厚くかけ、貫入が景気となっている。一方、単純口縁のものには文様を描くことが多く、Fig78-7・8は幅広の外反する口縁内面に列点文を廻らし、後者は見込みにも文様を描いている。なお描画の釉薬は、前者が濃緑釉、後者が鉄釉である。

さらに、いずれも破片ではあるがFig70-13~18、Fig84-19・20は筒形（II類）を呈すると推定され、Fig70-13とFig84-19は四方手の筒向付となる。なお、Fig70-9・10は破片資料であるが、内面と外面とで釉薬が異なる（透明一緑色、透明一褐色）、特殊な施釉を行っている。またFig71-12は、長石系釉を掛けた耳付鉢の破片であり、濃緑色の筆絵が描かれている。

叩き成形で大型の鉢（Fig72-11~15）には、取手の付くもの、幅広の複合口縁を持つものなどが出士している。またFig87-25は、皿屋上窯出土例と同様釜の把手部分と考えられる。

小壺 I類とII類が出土している。小壺については、長石系釉が主体で、土灰釉が客体的である。底部は高台を削り出すものと、基筒底の2者が存在する。また口縁に鉄軸で黒く輪を描く、いわゆる皮鈴手（Fig84-24・25）も出土している。

壺類 ロクロ成形と叩き成形の2者が出土している。両者とも無・短頭で中型のもの（Fig71-3・4・9・10）、もしくは蓋受を作り出すもの（Fig71-8、Fig79-14）は、手指への転用も可能である。Fig71-9・10は土灰釉製品で、その器形から水差しと考えたい。

甕類 叩き成形の甕にも、小型の甕（Fig71-5~7等）と比較的大型の甕が存在する。小型の甕のNo5は、内外面にタタキ痕跡を明瞭に残すが、それが一種の模様となっている。また口縁は「L」字形を呈するが、通常外に折り返すところを、上部から粘土帯を貼り付けている。なお極小の甕も2個体出土している（Fig71-6・7）。大型の甕にはI類・IV類・VI類が存在するが、内面のタタキ目を撫でて磨り消しているものが多く、皿屋上窯製品と類似する。口縁形態には、1a・2a・2b・3bと幾つかのバリエーションが見られる。

瓶・徳利 瓶はI類とII類が出土している（Fig71-1・2、Fig85-8）。岸岳古窯跡群でのII類の出土は本例（Fig71-2）のみで、さらに鉄軸を掛けるなど特殊である。またFig85-8は口縁を欠損するものの、肩部以上には土灰釉に濃緑釉を上掛けしている優品である。

胴部が比較的細い徳利I類は、2例（Fig79-8、Fig86-17）出土しているが、いずれも濃緑の飴釉を掛けている。胴下部が張るII類（舟徳利）が数多く出土し、皿屋上窯との関連性をうかがわせる。胴部は紐作りのタタキ成形、口頭部はロクロ整形であるが、胴部内面には、細かい同心円を刻んだ当て具痕跡が明瞭に残る。なおFig71-16は、朝鮮半島産のものに良く見られる、口縁下部が膨らむ器形であるが（III類）、長石系釉の上に緑色の釉薬で文様を描く特殊例である。

片口鉢 朝鮮王朝期における、甕器主要器種（甕・甌・片口）の内の一つである。本窯からは数多く出土している。口縁形態は、1a類、2a類、2c類、3類が出土している。

蓋 小型でロクロ成形と、中・大型の叩き成形の2者が存在する。口径から類推すると、前者は徳利とセットになるのであろうか。III・IV類は甕の蓋であるが、V類は伝世品の類似から手指の蓋と考えられる。

擂鉢 軸薬は不明であるが、II類が出土している (Fig71-39~41, Fig78-18・19)。

ロクロの軸受け 土灰釉 (Fig71-24・25, Fig86-23) と長石系釉製品 (Fig71-No26) が出土している。

鍤 無釉と土灰釉製品が出土している。

水滴 土灰釉製品で、扁平な体部である (Fig71-21)。

陶偶 動物を手づくねで成形し鉄軸を掛けた陶製品である (Fig85-21)。頭部と脚を1本欠損しており、背面に別個体の接続痕跡がある。

特殊な器形 Fig85-7は、頭部が緩やかに屈曲し直線的に立ち上がる、薄づくりの叩き成形の製品である。茶道具の手指の可能性もあるが、径が小さい。花生か?

不明製品 Fig71-22・23とも長石系釉を掛けている。22は向付の脚とも考えられるが、玉状の23は何に使用されるものなのか不明である。

硯 粘板岩製の硯である (Fig71-42)。

青銅製箸両端を欠損しているが、残存長16.3cmを測る (Fig85-20)。基部は断面長方形を呈すが、

約1/3から先は円形となる。付近からは、完形に近い碗皿類がまとまって出土している。朝鮮半島産か?

窯道具 トチンには「I」形 (A) と円柱形 (B) の両者がみられ、ハマも出土している。ハマには貝目痕跡を残すものや2つ重ねたものが存在する。またFig86-21・22は素焼きの製品で、ロクロに据える削り台と考えられる。

その他、平成27・28年度の調査で取り上げたトチンとハマの数量は、以下のとおりであるが、トチンは「I形」が85%と主体を占める。円柱型は15%に留まり、21Tと22Tで比較的多く出土しているが、下窯周辺と上窯周辺での出現率は、ほぼ変わらない。

ハマは、貝目無が82%、有が18%であるが、その出現率を見ると、134点出土した22トレンチにおいては僅か2%で、貝目痕跡を持つハマは下窯周辺から多く出土していることがわかる。

トチン				
トレンチ	A	B	合計	出土率
19T		1	1	100%
20T	4		4	0%
23T	2		2	0%
21T	39	5	44	11%
15T	2		2	0%
22T	96	22	118	18%
24T	12		12	0%
計	155	28	183	15%
	85%	15%		

ハマ				
トレンチ	無	貝	合計	出土率
18T		13	13	100%
19T	14	11	25	44%
20T	4	2	6	33%
21T	10	9	19	47%
15T	6		6	0%
22T	131	3	134	2%
24T	13	1	14	7%
計	178	39	217	
	82%	18%		

Tab. 11 窯道具の出土数と出土率

註1 藤沢良祐氏と横崎彰一氏のご教示による。

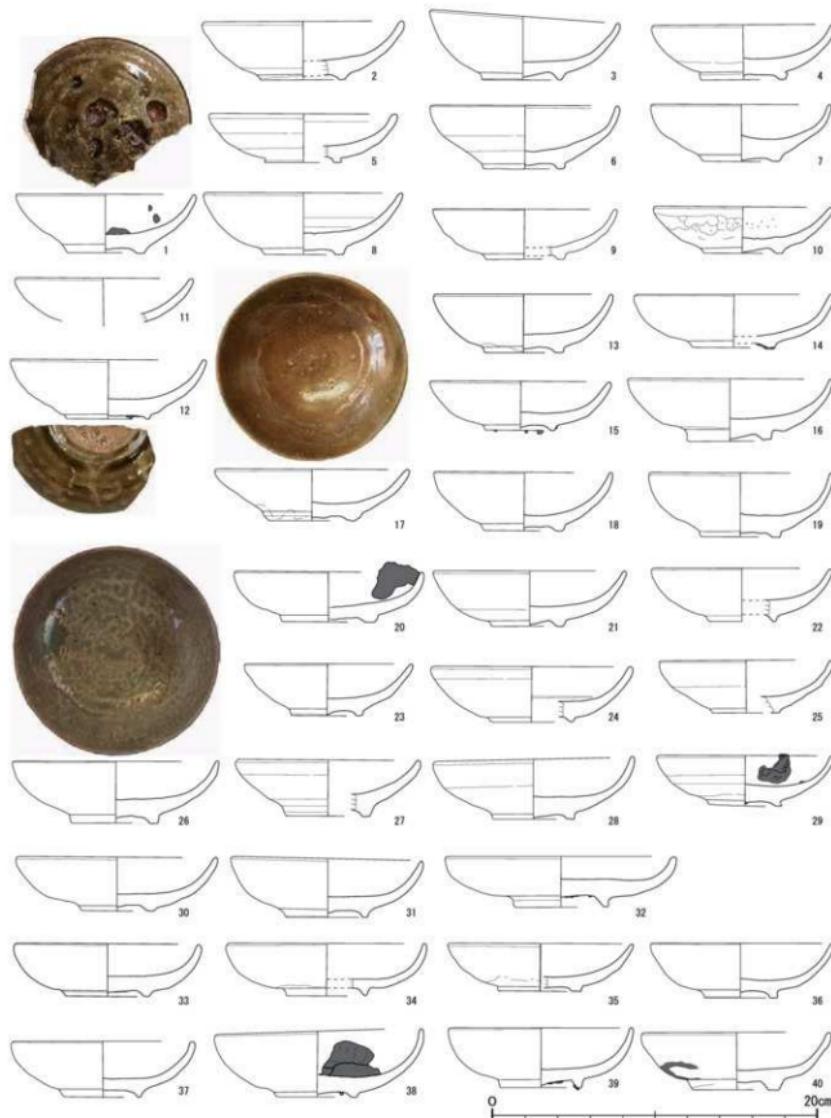


Fig. 67 飯洞窯跡出土遺物実測図（1）

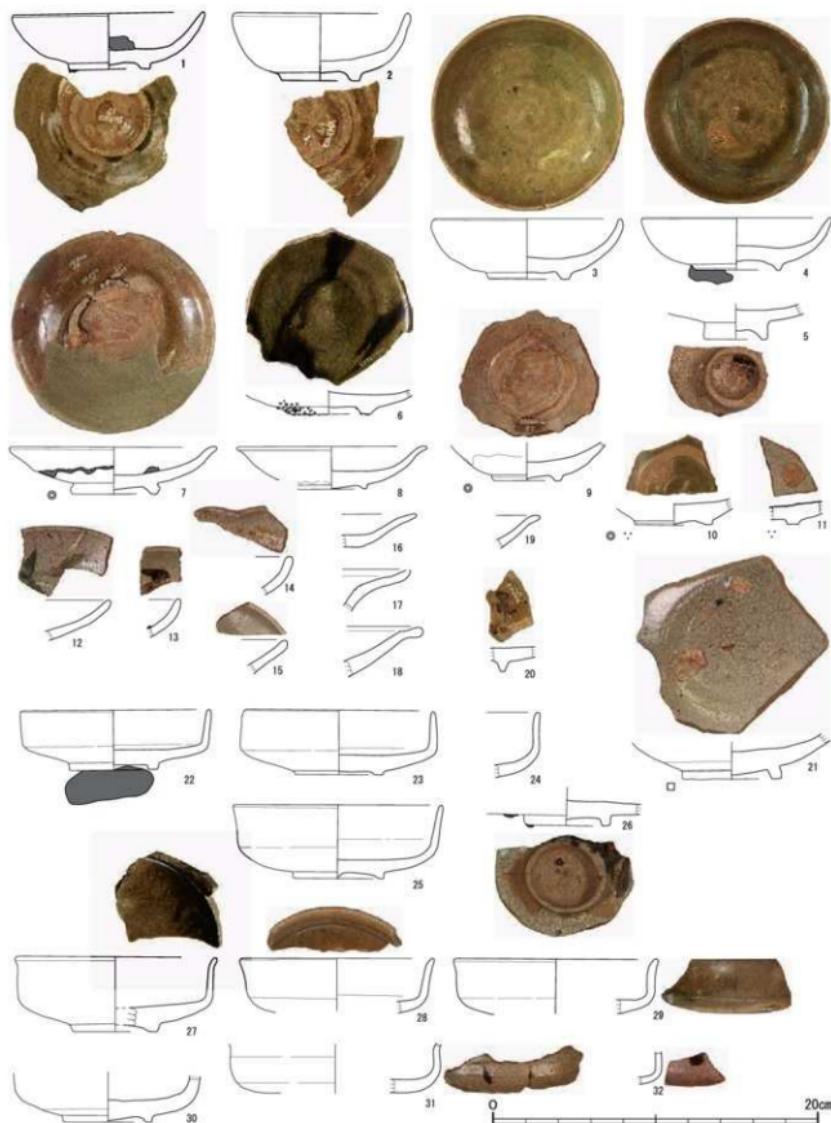


Fig. 68 飯洞窯跡出土遺物実測図（2）

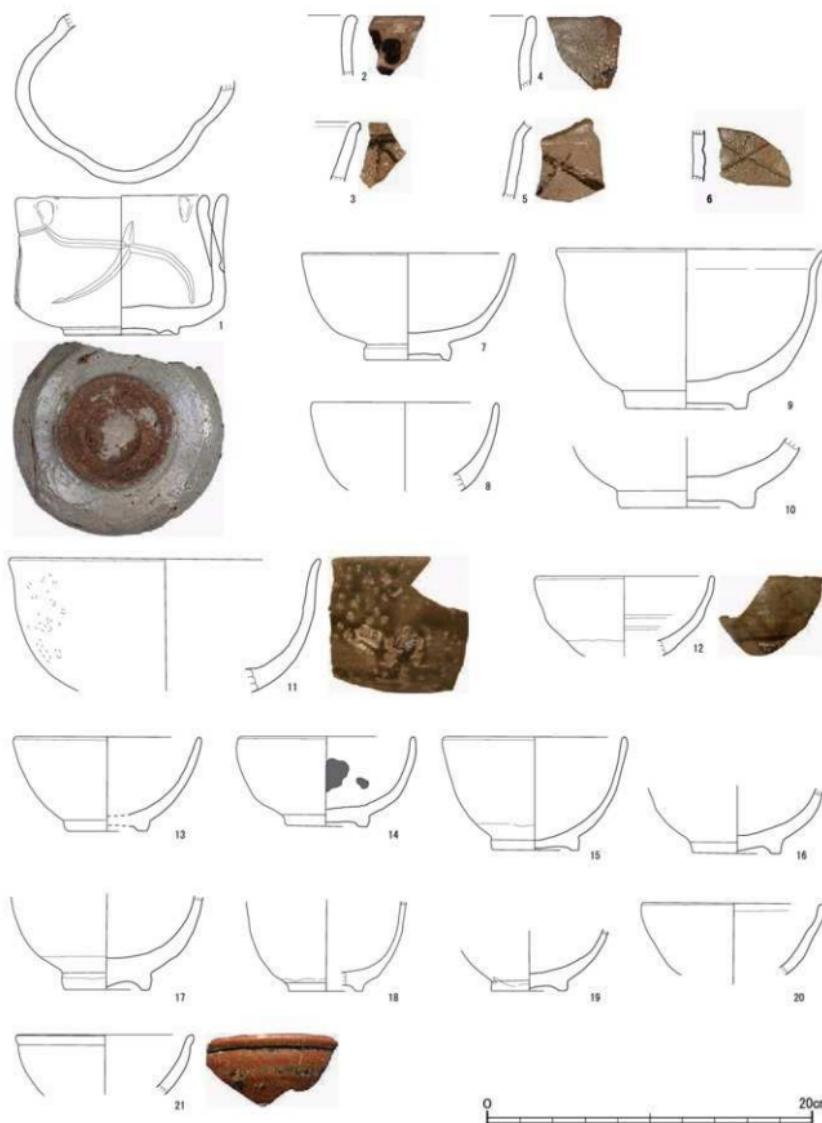


Fig. 69 飯洞廬跡出土遺物実測図（3）



Fig. 70 飯洞窯跡出土遺物実測図（4）



Fig. 71 飯洞廐窯跡出土遺物実測図（5）

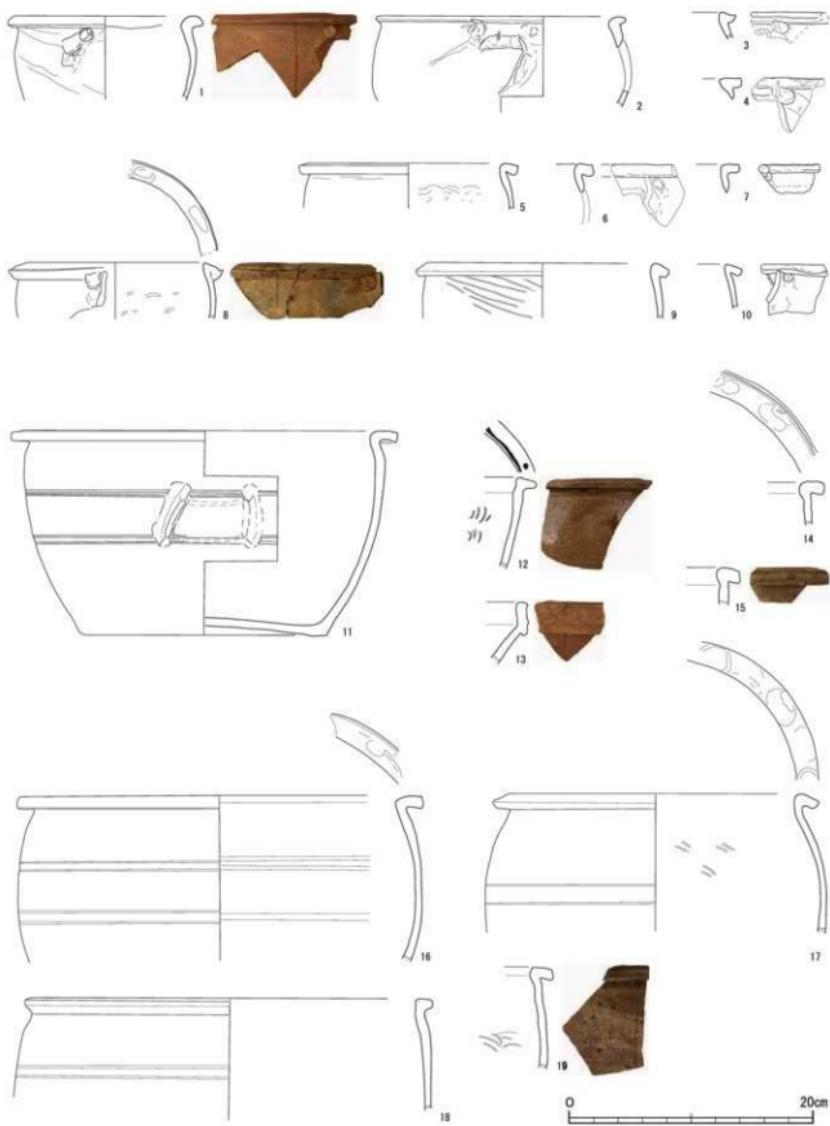


Fig. 72 飯洞窯跡出土遺物実測図（6）

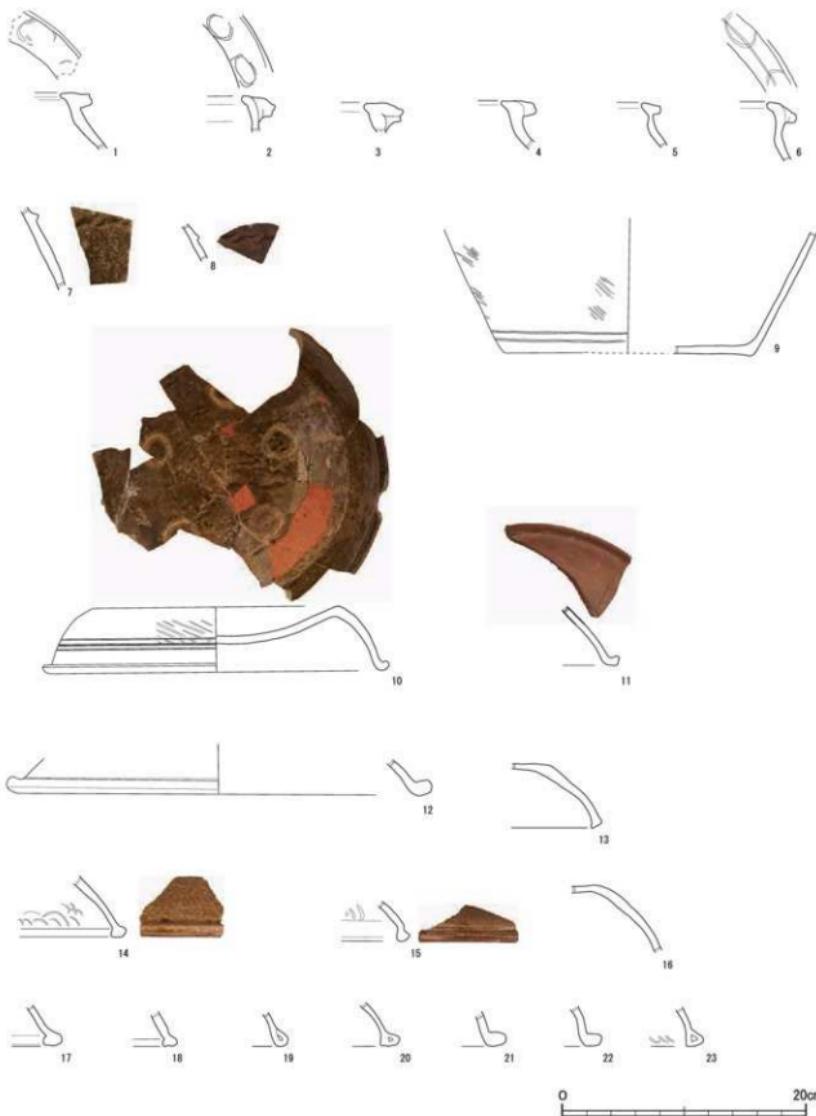


Fig. 73 飯洞廬跡出土遺物実測図（7）



Fig. 74 飯洞窯跡出土遺物実測図（8）

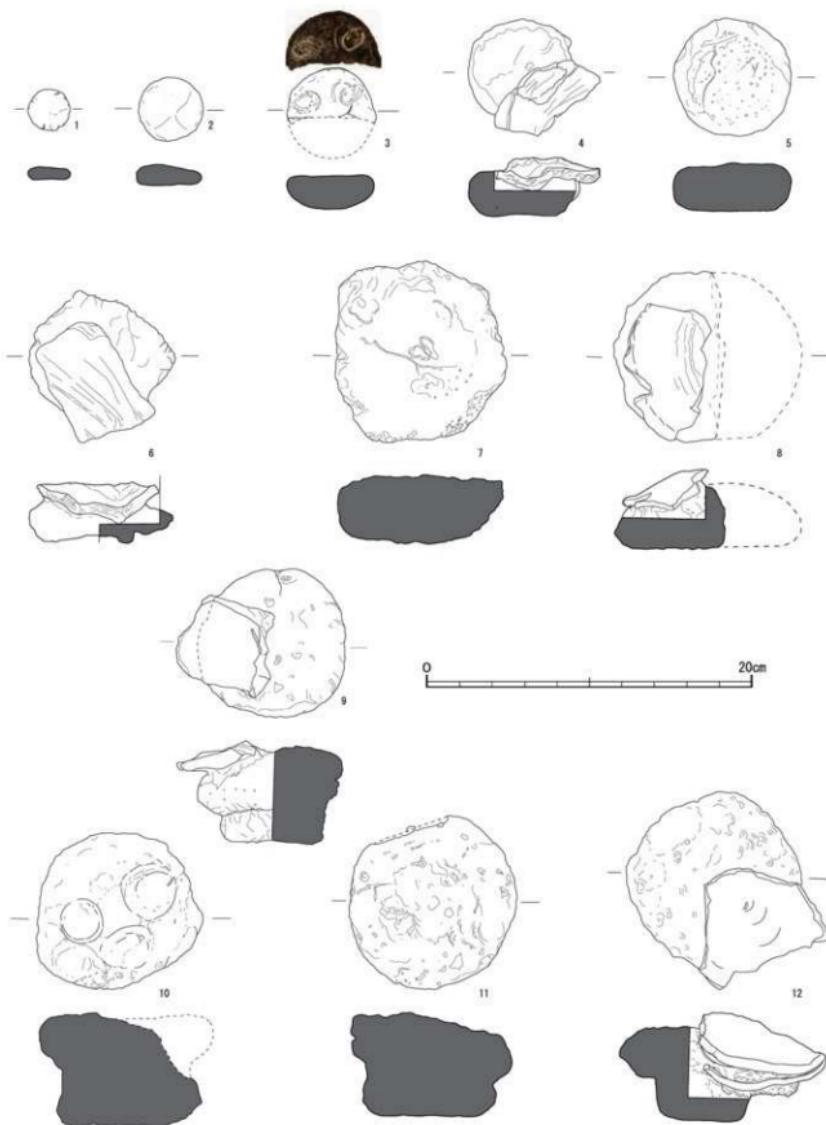


Fig. 75 飯洞廐窓跡出土遺物実測図（9）

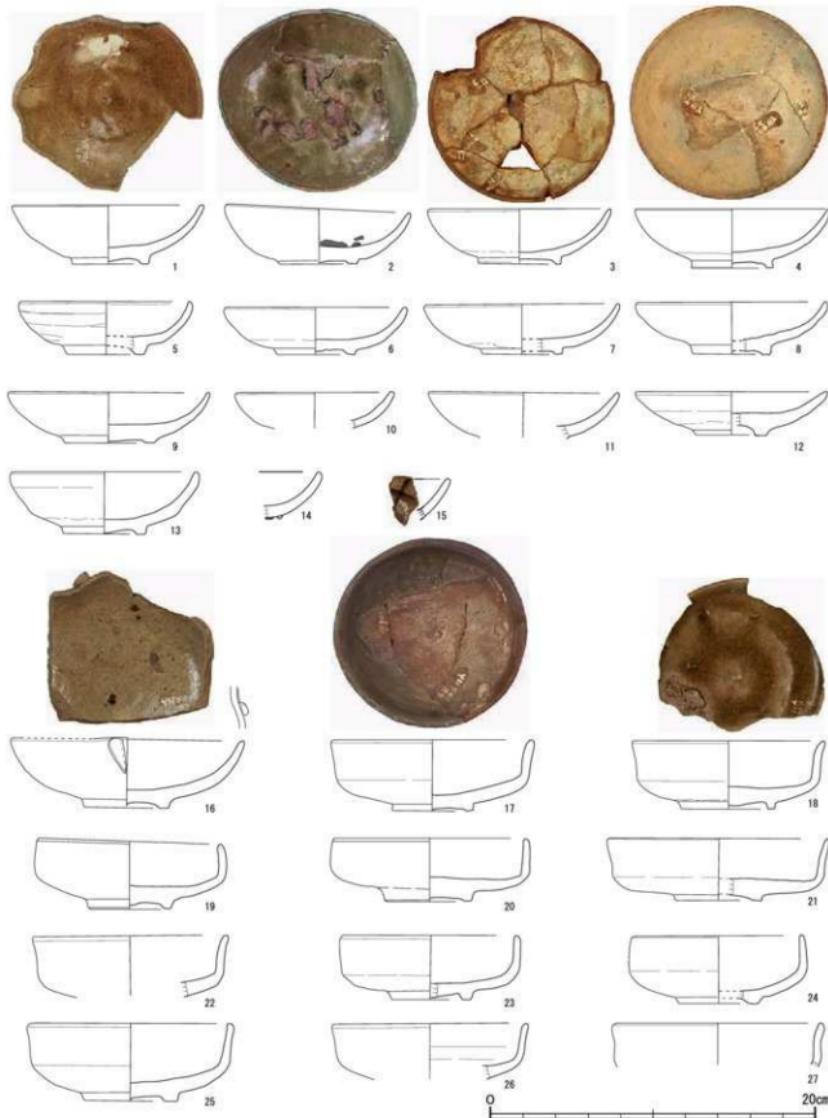


Fig. 76 飯洞窯跡出土遺物実測図 (10)

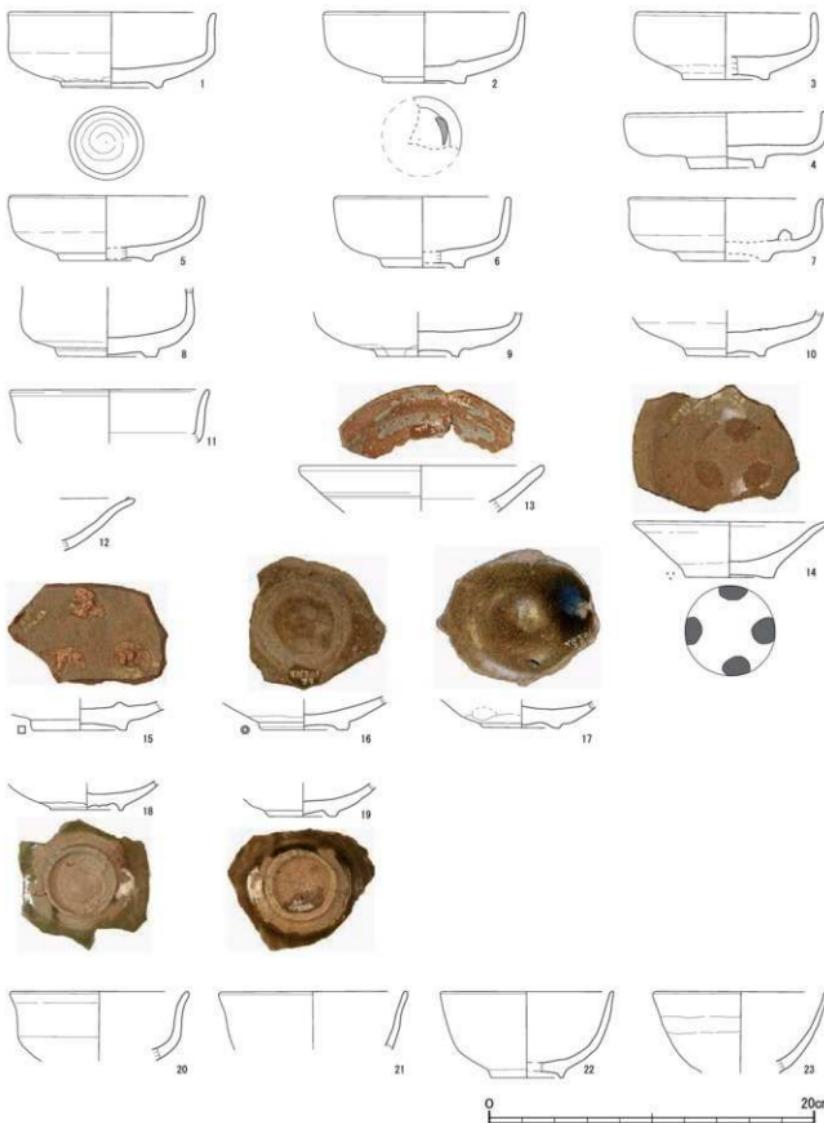


Fig. 77 飯洞窯跡出土遺物実測図 (11)

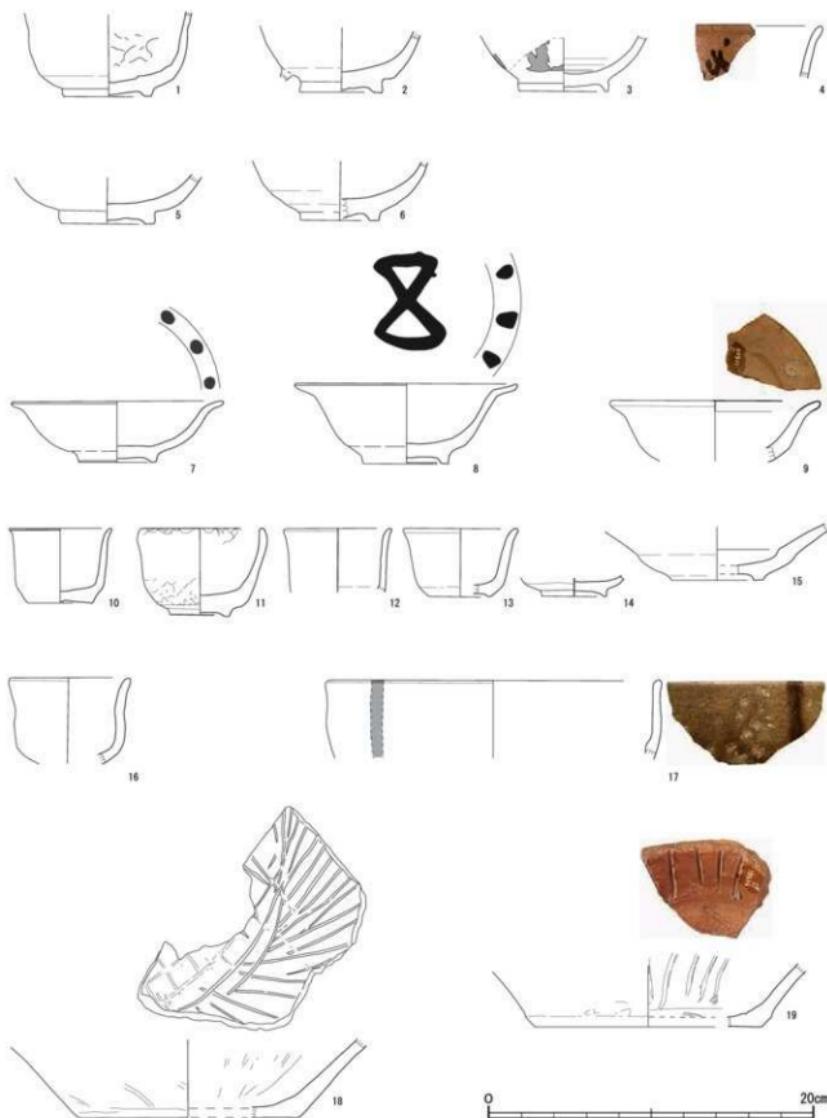


Fig. 78 飯洞窯跡出土遺物実測図 (12)

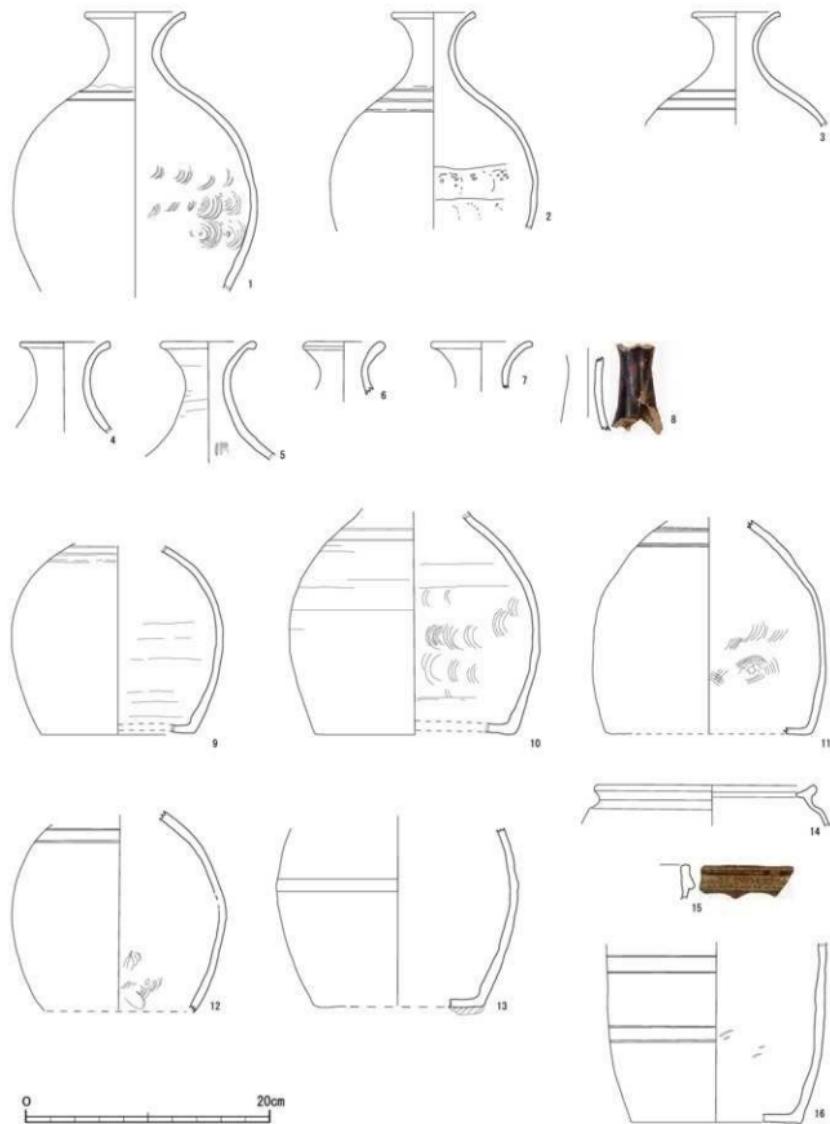


Fig. 79 飯洞窯跡出土遺物実測図 (13)

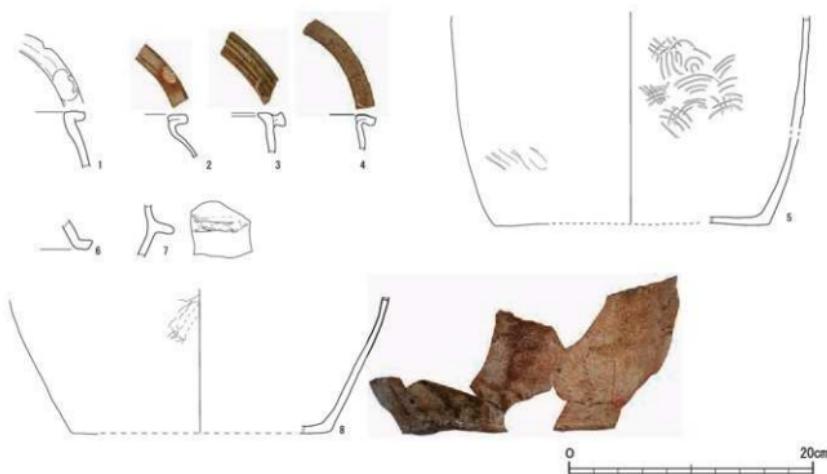


Fig. 80 飯洞廐窯跡出土遺物実測図 (14)



Fig. 81 飯洞廬跡出土遺物実測図 (15)

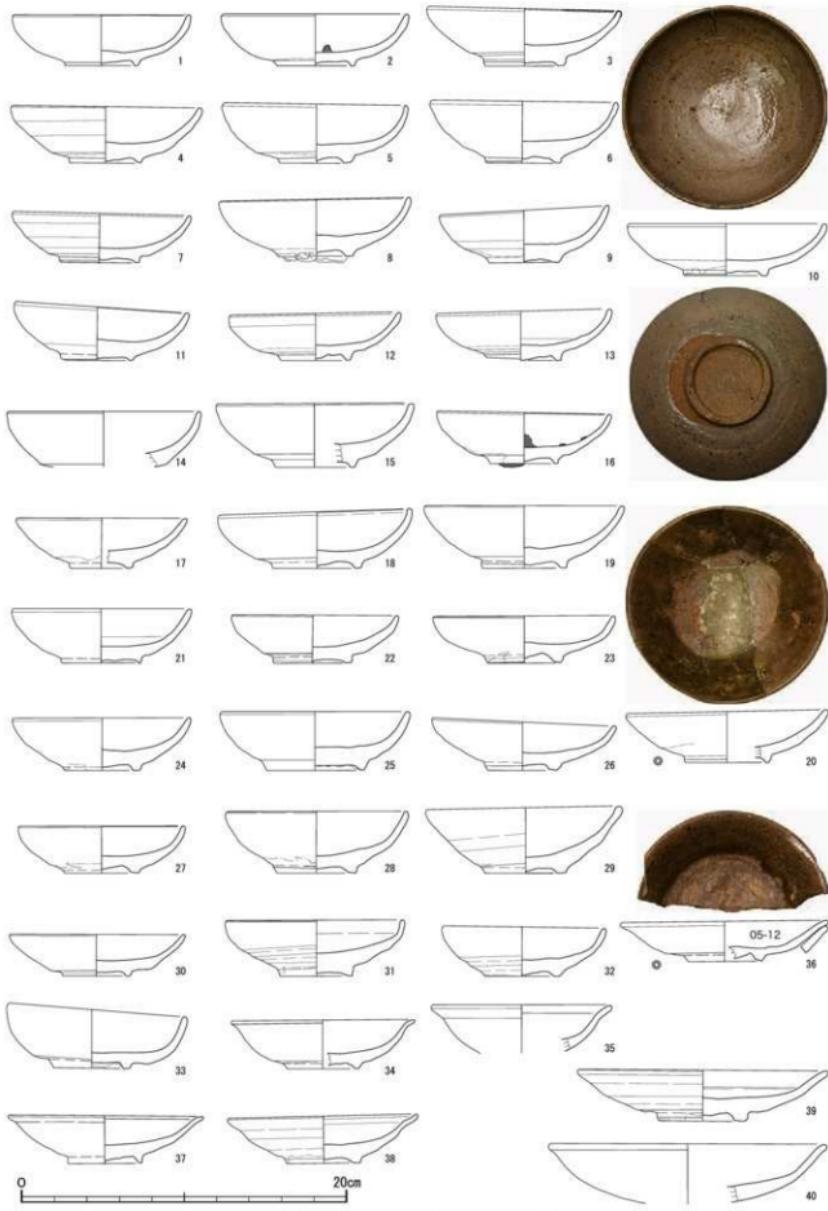


Fig. 82 飯洞甕窯跡出土遺物実測図 (16)

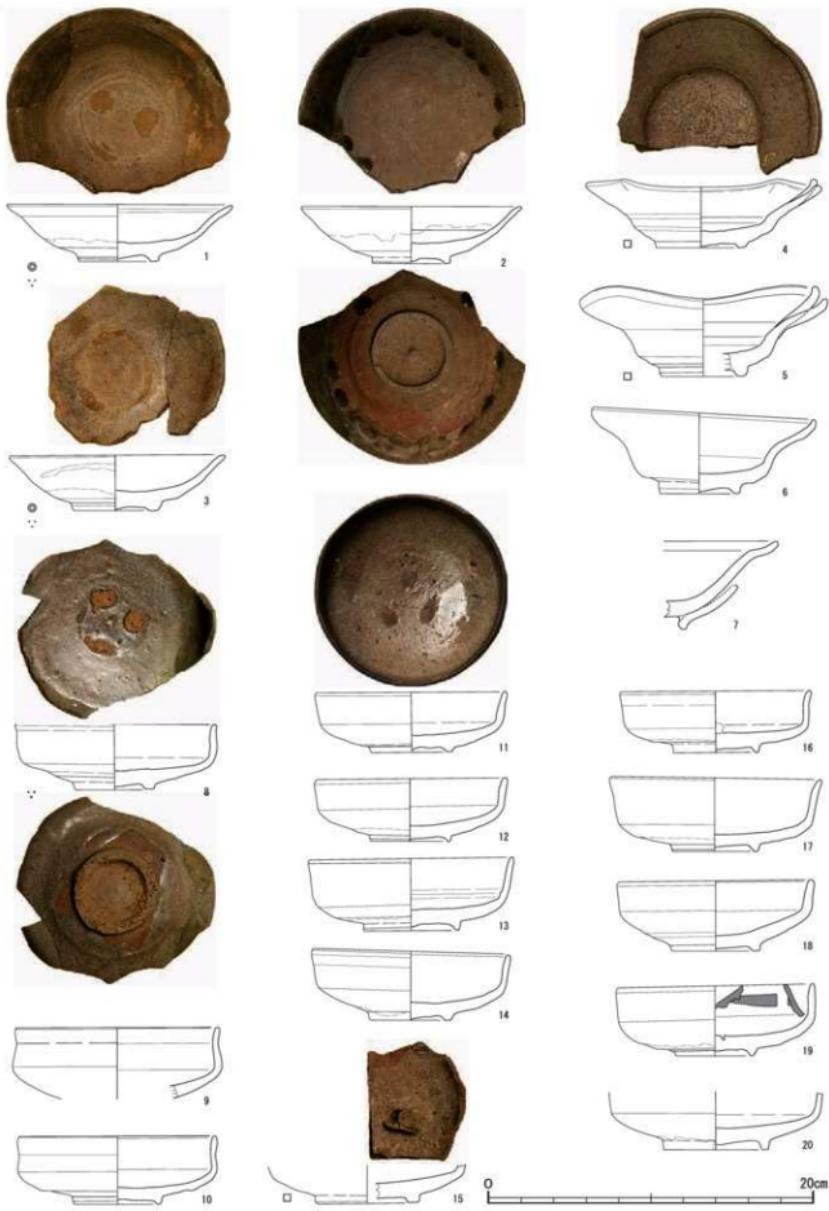


Fig. 83 飯洞窯跡出土遺物実測図 (17)

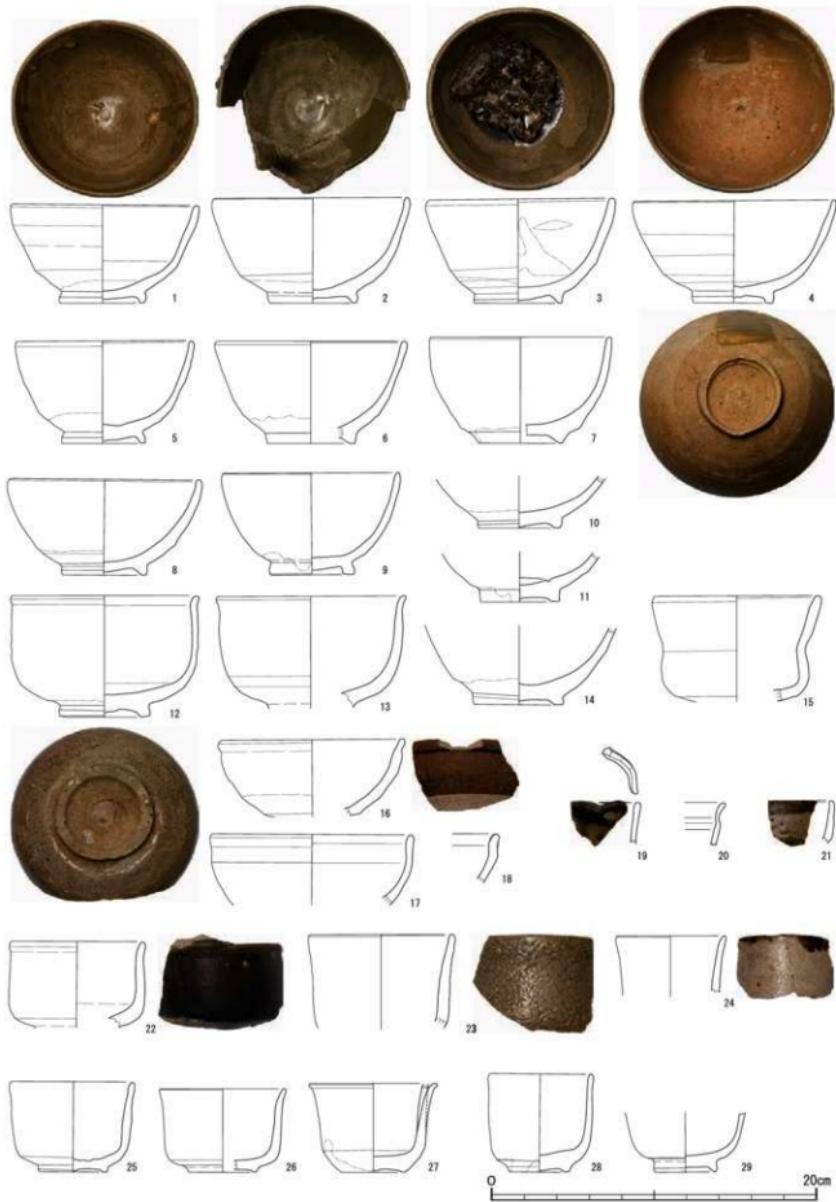


Fig. 84 飯洞窯跡出土遺物実測図 (18)

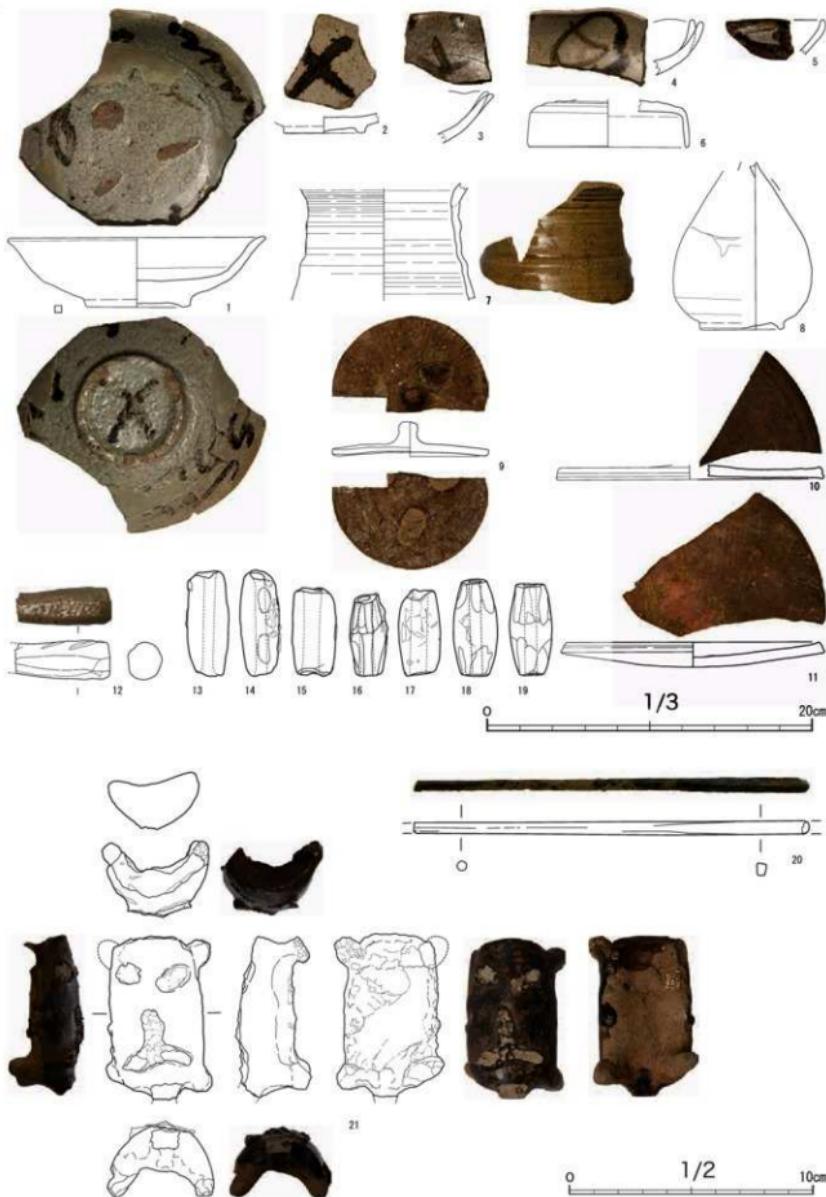


Fig. 85 飯洞窯跡出土遺物実測図 (19)



Fig. 86 飯洞廻墓跡出土遺物実測図 (20)

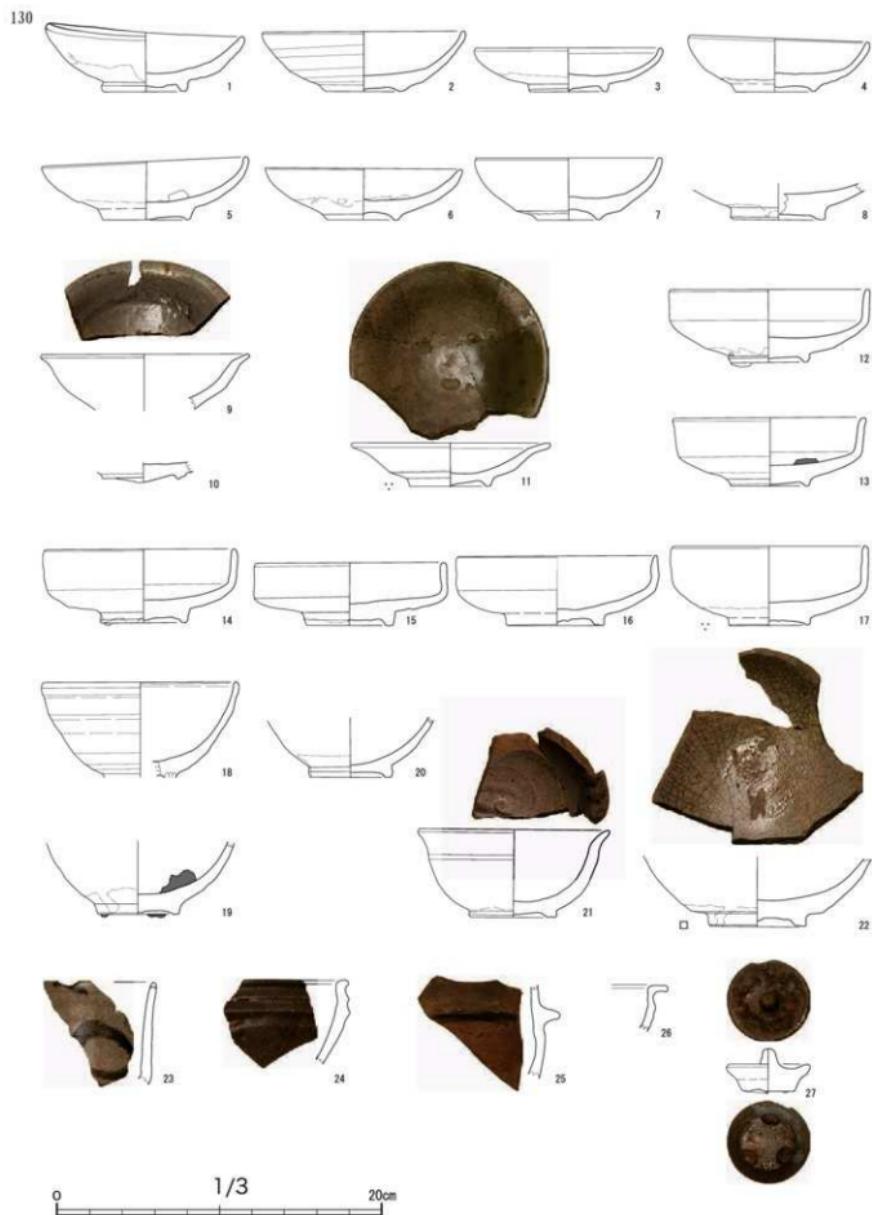


Fig. 87 飯洞窯跡出土遺物実測図 (21)

縄文時代の遺物

①土器 (Fig88-1~6)

図示したのは、6点である。1～5は、赤褐色を呈し、胎土に滑石もしくは、滑石粒を混入し、沈線文を施文する曾畠系統土器である。いずれも器壁が薄い。1はやや内湾する口縁部で、平坦になる口唇部には斜位に沈線が施文される。内面には口唇直下に横引き平行短沈線で3段の内面施文がされ、外側は平行沈線が口縁から脇部にかけて施されるものか。沈線はそろわざ、簡略化した粗放な施文である。小形の円筒形土器であろう。

2は同じく、外側に横位の平行沈線を施すもので、口縁部は緩く外反するものか、沈線の幅も広く、粗放である。3と4は接合する個体で、やや粗放な鋸歯文を持つ脇部破片である。

5は2と同じく幅広の沈線をもつもので、小片のため部位は分からぬ。6は胎土に金雲母を含む土器片。上段に縱の短沈線が連続して施文されるように見える。外側整形は条痕文によるものと考えられるが摩耗が著しく判別し難い。内面に、接合面の段が見られる。総じて、縄文時代前期の土器群とみなされる。

②石器 (Fig88-7~14)

各トレンチから剥片、碎片が計20点ほど出土したが、そのうち8点を図示した。7～11は石鏃である。いずれも、黒曜石を素材とする。7は抉りの弱い脚部の不明瞭な三角石鏃。やや厚い素材を使う。素材剥離面が表裏に残る。8は鍔形の角ばった脚部を持つ、やや長身の石鏃。9は小形の小さい脚部を作り出すもの。全体に焼成によるものか外側が変色する。10は不純物の混じる灰黒色を呈する黒曜石で、薄い剥片素材の石鏃。先端部と脚部が丁寧に、鋭く作り出されて尖る。11は尖った長い脚部をもつもので、先端部を欠失する。7～9は前期に特有の脚部の作り出しの弱い石鏃である。

12は亞角礫の黒曜石を素材とした石核である。伊万里の腰岳産の黒曜石とされる。細かい剥離で打面を形成して、上下に転移する打面から小さい剥離を行ったもので、外側全体に自然礫面が多く見られることから、目的的な剥片剥離はあまり連続しなかったものと思われる。

13と14は安山岩製の縦長剥片を素材とする削器(スクレイバー)である。13は主剥離面から裏面に調整剥離を施し、長軸に直交して先端部側にやや角度のある刃部を作り出すもの。14は縦長剥片の打面側を除く全側縁に主剥離面から裏面に調整剥離を施し、刃部を形成したものである。側縁は使用痕か、摩滅して丸みを帯びる。

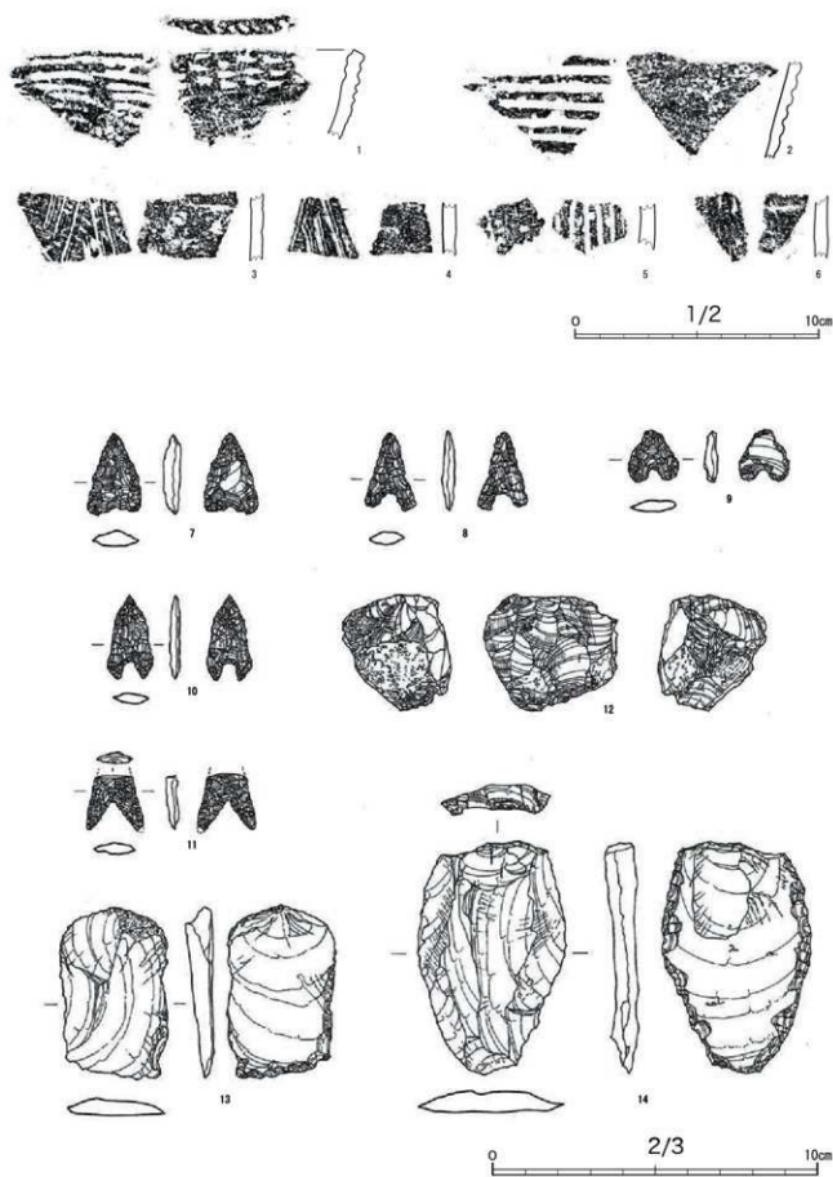


Fig. 88 飯洞窯跡出土遺物実測図 (22)

第Ⅷ章 史跡整備にむけて

第1節 史跡指定の概要

1. 史跡指定の概要

- ①名 称 (旧名称) 肥前陶器窯跡 小峰窯跡・大谷窯跡・鍋谷窯跡・附土師場物原山
(新名称) 肥前陶器窯跡
- ②指 定 面 積 (昭和15年指定面積) 8,609.48m²
(平成17年追加指定面積) 13,785.26m² (多久市唐人古場窯跡含む)
- ③指 定 年 月 日 平成17年7月14日 (文部科学省告示第106号)
- ④基 準 特別史跡名勝天然記念物及び史跡名勝天然記念物指定基準
(昭和26年文化財保護委員会告示第2号) 史跡の部六による。
- ⑤説 明 我が国最大の近世窯跡である窯跡のうち、最古期の近世窯跡と考えられ、朝鮮半島との技術交流により肥前陶器が成立した過程を示す窯6基と、唐津藩の御用窯で献上唐津を産出した窯1基を追加指定し、併せて名称変更する。

2. 指定に至る経緯

武雄市の北部の内田、黒牟田一帯の窯場の製品は武雄唐津北部系に分類され、その窯場の中心的窯群が、「肥前陶器窯跡」である。このうち、内田系は小峰窯跡と大谷窯跡、黒牟田系は鍋谷窯跡と土師場物原山からなる。内田と黒牟田は、標高303mの竹古場山山麓の南北に相対する位置関係にある。

小峰窯跡は2基からなり、全22mと31mとされている。製品には陶器と磁器があり、陶器は三島手、刷毛目の優品が多い。磁器は染付と青磁で、有田周辺で発生した後に導入されたものと考えられ、築窯は17世紀前半ごろとされる。

大谷窯跡は小峰窯跡の西方約200mに位置し、窯は全長87mで武雄唐津北部系の窯としては、最大級である。製品は小峰窯跡と同様に、陶器と磁器である。陶器は刷毛目や褐釉と綠釉による二彩などで、窯跡一帯にはそれらの技法が駆使された大皿の破片が多い。17世紀後半ごろが下限と考えられる。

鍋谷窯跡は全長27mで、窯室数は14~16室と推測されている。製品は陶器だけで素朴な味を持つ絵唐津の皿、碗、鉢類である。窯詰め技法は胎土目積で、築窯は16世紀末前後と考えられ、黒牟田一帯では最も古いと言われている。

土師場物原山は、約60mの小山状に堆積している。物原に散布する破片は、黒牟田の特徴である黒釉や銅綠釉を施した土瓶やすり鉢など多種多様な日常雑器で、表面採取品で見る限り江戸時代中期から後期のものが多い。これらの窯跡は、文禄・慶長の役で朝鮮半島から渡来した陶工たちの影響下で発展していった窯跡群と考えられている。

一方、唐津市北波多の岸岳山麓5基の窯跡と、多久市唐人古場窯跡（金ヶ江三兵衛が最初に築いた窯とされる）1基、唐津市街に所在する御茶盤窯跡が上記に示した理由で追加指定と名称変更を受けた。

第2節 史跡の本質的価値と構成要素

史跡に指定された北波多地域の5基の窯跡と「御茶盤窯跡」は、それぞれ肥前における近世窯業の誕生と、唐津藩領における陶器生産の最終段階を示す窯跡（群）である。

前者（岸岳古窯跡群）は、朝鮮半島からの技術体系を直接導入し、日本の嗜好に合った製品の生産を模索した近世窯業揺籃期の窯跡群であるが、その故郷である朝鮮半島と同様、ロクロ成形で碗・皿類を作成した集団（皿屋窯跡）と、叩き成形で甕・壺類を作成した集団（皿屋上窯跡）が別々の窯を築いている。肥前国内外を問わず、その他の窯業地では両者が融合し、同じ窯で操業していることが多いが、岸岳古窯跡群のように、同一地域で朝鮮半島における陶器生産の2つの型が、そのままの形で見られるのは非常に稀である。

御茶盤窯は享保19年(1734)に築かれた窯であるが、ここで焼かれた製品は献上唐津とも呼ばれている。大名による將軍家への献上には「例年献上」と「随時の献上」があるが、『武鑑』によると、陶磁器を例年献上品の一つとした大名は6家にすぎない（但し土器は除く）。磁器では佐賀藩鍋島家、平戸藩松浦家、陶器は高松藩松平家、岡山藩池田家、中村藩相馬家、そして唐津藩の6藩である。御茶盤窯は、將軍家そして藩主への献上品を焼成する御用窯として創業し、高い技術のもと、良質な陶器を製作し続け幕末を迎えた。

保存管理計画書においては、史跡の本質的価値を指定書の説明に基づき3点に集約し、さらに肥前窯業の全体を俯瞰し、「今後検討が必要な価値」として2点を記述している。基本計画では、上記に述べた史的意義を踏まえ、これらを整理し以下の5点にまとめた。

肥前陶器窯跡総体が有する価値

- ④近世窯業の発展をリードした、新興窯業地「肥前」
- ⑤茶器としての唐津焼

史跡の本質的価値

- ①朝鮮半島の技術そのものにより築かれた窯
朝鮮半島甕器窯と酷似した、窯の構造とその製品。
★皿屋上窯
- ②我が国最古期の近世窯業窯跡群
近世窯業の揺籃期を示す、多様な窯の構造とその製品。
★岸岳古窯跡群
(皿屋上窯跡・飯洞裴上・下窯跡、皿屋窯跡、帆柱窯跡)
- ③献上唐津を輩出した御用窯
良好に残る窯と、高い技術で焼かれた製品
★御茶盤窯跡

第3節 整備の基本方針

1. 整備の基本方針

整備にあたっては、史跡の適正な保存を図るとともに、肥前陶器窯跡が日本の窯業史において果たした役割、文化財としての価値をわかり易く伝え、多くの人々が訪れ、学ぶことの出来る施設・環境を整備する。なお、具体的な整備事業の推進にあたっては、事前の各種調査の成果を踏まえるとともに、保存整備検討委員会の意見を尊重し、府内関係部局・各種関係機関・地元とも協議して合意形成に努めながら取り組むものとする。

2. 計画の範囲

現在唐津市内には、近世から近代にかけて築かれた窯跡が21基確認されている。このうち岸岳山麓に分布する5基の窯跡（皿屋上窯跡、皿屋窯跡、帆柱窯跡、飯洞廬上窯跡、飯洞廬下窯跡）と、唐津城下、唐人町の御茶盃窯跡が、平成17年（2005）7月に史跡「肥前陶器窯跡」に追加指定された。

前者は唐津焼の源流、後者は「献上唐津」を焼いた御用窯としての評価である。本計画の対象とする範囲は、唐津市内に残るこの6ヶ所の窯跡と、史跡の適切な保存と活用に必要と考えられる周辺地とする。ただし、市内に残る他の窯跡についても連動・統一性のある活用を見通し、将来的に一体的な保存整備を検討する。

またその北部が旧唐津藩領に含まれ、史跡と密接な関係を有する窯跡が存在する伊万里市、さらには肥前に於ける近世窯業の発展にとって、重要な役割を果たした陶磁器窯が集中する武雄市・有田町などとも連携を図り、その成立・発展・成熟の過程をトータルとして理解できる仕組みづくりを検討する。

3. 遺跡の保存及び環境の保全

遺構については、史跡の本質的価値の主体であり、確実な保存を行う。事前に調査及び保存処理方法等の検討を行い、将来にわたって適正な状態のもとに維持できるよう努力する。また岸岳古窯跡群については、盗掘による遺構の破壊という特殊事情が存在するため、その防止策を含めて保存・整備方法を検討する。

合わせて、窯跡のたたずまいを保全するため、緑豊かな自然環境の維持・増進を図り、歴史的環境を体感できる場として、周辺区域と一体となった整備に取り組む。

4. 段階的な整備の実施

現在唐津市内で肥前陶器窯跡として指定されているのは、御茶盃窯跡と岸岳古窯跡群の計6基である。個々の窯跡は分散して存在し、土地の所有形態、遺存状況、自然環境も様々である。このことから、保護の緊急性・整備効果を勘案し、優先順位を定め、段階的な整備を実施していくこととする。

第1期事業では、「古窯の森公園」内に所在する、飯洞廬上・下窯跡およびその周辺について重点的に整備を行うものとし、その他の窯跡については、保護対策上必要な措置を講ずることとする。また、飯洞廬上・下窯跡以外の窯跡（皿屋窯跡・皿屋上窯跡・帆柱窯跡・御茶盃窯跡）の本格的整備については、中・長期の第Ⅱ期・第Ⅲ期計画において改めて策定することとするが、各窯跡への見学ルートについては、案内看板や地図を設置するとともに、草刈・簡易階段の設置などアクセス路を確保し、見学者が迷わないように配慮する。

第4節 第Ⅰ期整備計画の概要

1. 第Ⅰ期整備計画の概要

飯洞窯上・下窯跡は、中山間部に整備された公園内に存在する。この公園は「古窯の森公園」と名付けられており、飯洞窯上・下窯跡はその重要な構成要素となっている。また公園とその周辺は、初夏のアジサイ・スイレン、秋の紅葉、さらに蛩鑑賞、観月茶会、野鳥観察など、唐津市民にとって憩いの場となっており、自然・歴史に親しむ環境が整えられている。さらに公園内は市有地であるため、史跡指定地も含めて広い範囲の整備が可能である。

公園のシンボルでもある「飯洞窯下窯跡」は、岸岳古窯跡群の中で最も適りの良い窯跡であり、現在覆屋を設置し露出展示を行っている。また飯洞窯上窯跡も調査後埋戻されているものの、飯洞窯下窯跡に隣接しているため、一体的な整備が可能である。周辺の環境も含めてこのような条件から、両窯跡を核として、第Ⅰ期の保存整備事業を実施するが、両窯跡及びその他の周辺の整備概要は、下記のとおりである。

①-A 飯洞窯下窯跡の整備

外部フェンス・覆屋・側溝等、老朽化した現構造物を撤去し、新たに展示のための施設を設ける。また、側壁・隔壁等の上部構造は、露出展示に耐えうるよう、欠損部分の充填、工学的補強を行う。露出展示部分以外は、遺構に損傷を与えないように十分注意し、遺構の保護・保存のための養生盛土を行う。

歴史的背景・技術系譜など、肥前陶器窯跡全体の解説については、主にガイダンス施設（唐津城天守閣新展示室）において行うが、飯洞窯下窯跡展示施設においても次の通り解説を行うものとする。

- ・岸岳古窯跡群の解説パネル
- ・窯場構造の解説パネル
- ・窯構造の解説パネル
- ・飯洞窯下窯跡のミニチュア模型（作業風景の再現）
- ・デジタルコンテンツ（仮想現実等）を利用した映像・画像・音声解説等
- ・窯跡各部位の表示板

①-B 飯洞窯上窯跡の整備

遺構に損傷を与えないように十分注意し、遺構の保護・保存のための養生盛土を行った上で、遺構直上に、窯跡床面を模式的に表現する。材質に関しては、地下遺構に影響を与せず、また露天での展示に耐えうる素材を使用する。

①-C・D 工房跡等及び史跡園内の整備

飯洞窯上窯跡と飯洞窯下窯跡は約50mを隔てて隣接するが、かつてその周辺には様々な作業施設が配置され、一体となって窯場を形成していたと考えられる。補足の発掘調査を実施し（H27～29）、確認された遺構については、その残存状況等に応じ盛土養生を行った上で、最も適した表現方法を選択することとする。

史跡園内窯跡を中心に、園路、ベンチ等の休憩施設を設置し、指定地内の一体的整備を行う。なお指定地内樹木の伐採については、史跡の保存・整備上に必要な範囲に留めることとする。

②ガイダンス施設の設置

史跡に関する学術的情報を、専門家のみならず、来訪者全員にわかり易く説明し、史跡の有する価値を伝達するため、ガイダンス施設の設置を検討する。また建物内部には、解説展示部門のほか管理部門・学習部門・サービス部門を設け、本史跡全体の活動拠点とする。

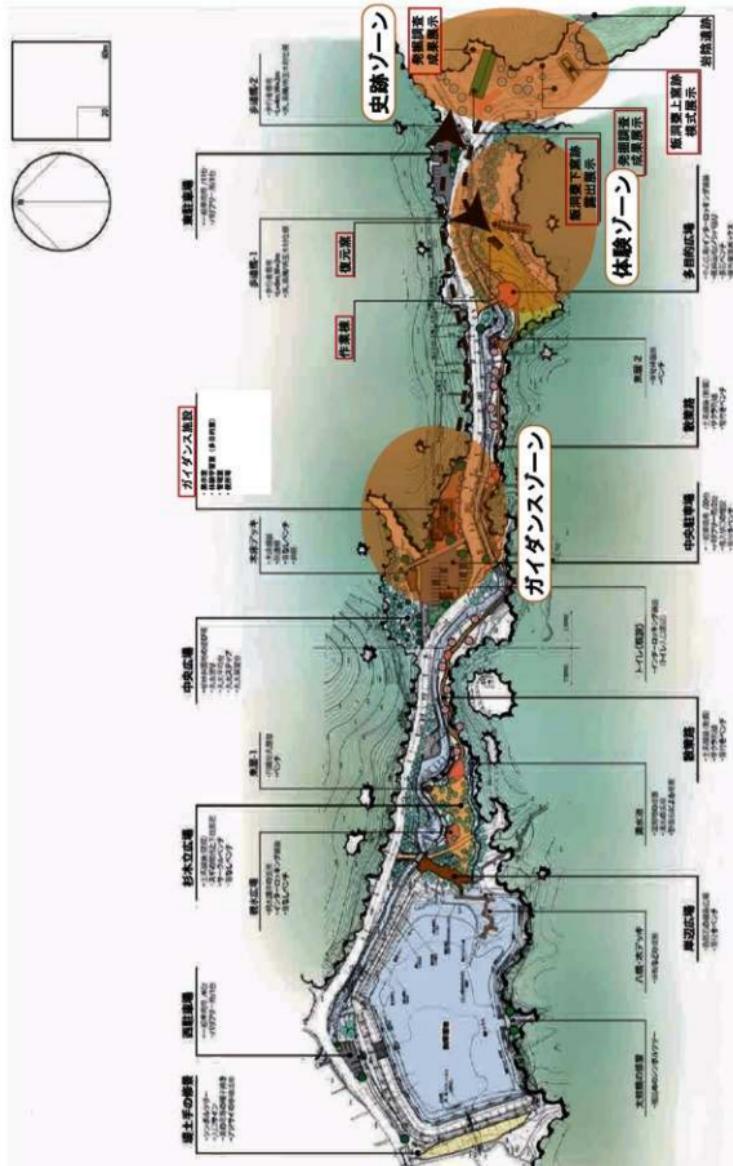


Fig. 89 古窯の森公園ゾーニング計画図

③体験学習施設の設置

窯全体の構造や、どのように陶器が焼かれたのかというイメージ化を助けるため、飯洞窯下窯跡の構造を基に復元窯を作製する。製作段階より地元窯元をはじめとする住民の参加を求め、整備後のメンテナンスや、焼成体験などソフト事業への協力を促す契機とする。また焼成体験に伴う各種作業を行っための作業棟を設置し、復元窯とともに一体的に運営する。

2. 整備後の管理・運営に関する計画

整備後においても、常に保守・点検を実施することにより、史跡の良好な状態の維持に努める。

(1) 日常的な維持管理（一般職員等により実施）

- ①窯跡（遺構表現）及び園路等に関する見回り・清掃
- ②露出展示施設の保存状態に関する見回り・清掃
- ③ガイダンス施設内外の見回り・清掃
- ④盗掘に関する見回り
- ⑤清掃・除草、灌水・散水等
- ⑥消耗品等の交換
- ⑦その他日常的に必要な維持的措置

(2) 定期的な維持管理（職員、又は専門業者委託により実施）

- ①指定地全域に及ぶ定期的な見回り
- ②史跡の良好な状態を維持するための定期的清掃・樹木剪定等
- ③薬剤の塗布等、良好な保存処理状態を維持するための点検・措置
- ④保存処理の効果に関するデータの蓄積
- ⑤露出展示施設・ガイダンス施設等史跡内諸施設の保守管理
- ⑥法令等に定められた建物・設備・機器等の定期的な保守管理
- ⑦展示施設等の補修・修理

3. 整備後の公開・活用に関する計画

現地説明会・講演会・ワークショップ等史跡に親しむ機会や、集会の場所を設けることにより、地域住民と史跡との接点を確保し、ボランティア活動のみならず、NPO その他の団体が、史跡の管理・運営及び公開・活用に参加しやすい環境を整備する。さらに復元窯における焼成実験等、地域住民が関わることが可能な、参加型の事業について検討する。

4. 周辺の文化財及び文化施設との連携

遺跡は単独で存在するものではなく、地域の歴史的・文化的・自然的文脈のなかで、様々な歴史遺産との深い関係の中に存在するものである。本事業では、これら多様な文化財との関係を十分視野に入れた活用を目指すとともに「古窯の森公園」「唐津城天守閣展示施設」などの拠点的施設との連携により、事業を展開していくこととする。



Fig. 90 整備地完成予想



Fig. 91 飯洞塹上窯跡展示施設完成予想図



Fig. 92 飯洞廻下窯跡展示施設完成予想図



Fig. 93 体験窯・作業棟完成予想図

付 編

1. 皿屋窯跡出土遺物一覧
2. 皿屋上窯跡出土遺物一覧
3. 帆柱窯跡出土遺物一覧
4. 飯洞甕窯跡出土遺物一覧
5. 窯道具一覧
6. 主要参考文献

Tab. 12 血屋窯跡出土遺物一覽（1）

品目	形態	寸法	材質	表面性状	地表・底面		埋蔵・深度	総量 (kg)	備考
					底面	側面			
18 1 YS701 R. 700 開口部 突起 無色 透明 塩化	直筒	底面 R. 700	透明 無色 塩化	透明 無色 塩化	直筒 底面 R. 700	透明 無色 塩化	直筒・底面 底面	10.0 3.6	底面に縦溝有り 底面に縦溝有り
19 23 YS701 150 CT 直 1b 開口部 突起 無色 透明 塩化	直筒	底面 R. 150	透明 無色 塩化	透明 無色 塩化	直筒 底面 R. 150	透明 無色 塩化	直筒・底面 底面	11.4 4.0	底面に縦溝有り 底面に縦溝有り
19 24 YS701 150 CT 直 1b 開口部 突起 無色 透明 塩化	直筒	底面 R. 150	透明 無色 塩化	透明 無色 塩化	直筒 底面 R. 150	透明 無色 塩化	直筒・底面 底面	11.4 4.0	底面に縦溝有り 底面に縦溝有り
20 1 25 6 YS701 25 AT 直 1b 開口部 突起 無色 透明 塩化	直筒	底面 R. 25	透明 無色 塩化	透明 無色 塩化	直筒 底面 R. 25	透明 無色 塩化	直筒・底面 底面	11.3 4.4	底面に縦溝有り 底面に縦溝有り
20 2 25 7 YS701 30 AT 直 1b 開口部 突起 無色 透明 塩化	直筒	底面 R. 30	透明 無色 塩化	透明 無色 塩化	直筒 底面 R. 30	透明 無色 塩化	直筒・底面 底面	11.2 3.7	縫合部有り 縫合部有り
20 3 25 6 YS701 16 AT 直 1b 開口部 突起 無色 透明 塩化	直筒	底面 R. 16	透明 無色 塩化	透明 無色 塩化	直筒 底面 R. 16	透明 無色 塩化	直筒・底面 底面	11.6 4.3	縫合部有り 縫合部有り
20 4 25 8 YS701 40 AT 直 1b 開口部 突起 無色 透明 塩化	直筒	底面 R. 40	透明 無色 塩化	透明 無色 塩化	直筒 底面 R. 40	透明 無色 塩化	直筒・底面 底面	11.0 4.2	縫合部有り 縫合部有り
20 5 25 10 YS701 42 AT 直 1b 開口部 突起 無色 透明 塩化	直筒	底面 R. 42	透明 無色 塩化	透明 無色 塩化	直筒 底面 R. 42	透明 無色 塩化	直筒・底面 底面	10.3 4.4	縫合部有り 縫合部有り
20 6 25 11 YS701 30 AT 直 1b 開口部 突起 無色 透明 塩化	直筒	底面 R. 30	透明 無色 塩化	透明 無色 塩化	直筒 底面 R. 30	透明 無色 塩化	直筒・底面 底面	11.0 4.0	底面に縦溝有り 底面に縦溝有り
20 7 25 12 YS701 32 AT 直 1b 開口部 突起 無色 透明 塩化	直筒	底面 R. 32	透明 無色 塩化	透明 無色 塩化	直筒 底面 R. 32	透明 無色 塩化	直筒・底面 底面	11.3 4.7	縫合部有り 縫合部有り
20 8 25 13 YS701 30 AT 直 1b 開口部 突起 無色 透明 塩化	直筒	底面 R. 30	透明 無色 塩化	透明 無色 塩化	直筒 底面 R. 30	透明 無色 塩化	直筒・底面 底面	11.6 4.0	縫合部有り 縫合部有り
20 9 YS701 NF 直 1b 開口部 突起 無色 透明 塩化	直筒	底面 R. 1b	透明 無色 塩化	透明 無色 塩化	直筒 底面 R. 1b	透明 無色 塩化	直筒・底面 底面	10.6 3.5	縫合部有り 縫合部有り
20 10 YS701 10 AT 直 1b 開口部 突起 無色 透明 塩化	直筒	底面 R. 10	透明 無色 塩化	透明 無色 塩化	直筒 底面 R. 10	透明 無色 塩化	直筒・底面 底面	11.4 4.3	縫合部有り 縫合部有り
20 11 25 14 YS701 175 AT 直 1b 開口部 突起 無色 透明 塩化	直筒	底面 R. 175	透明 無色 塩化	透明 無色 塩化	直筒 底面 R. 175	透明 無色 塩化	直筒・底面 底面	11.0 3.5	縫合部有り 縫合部有り
20 12 YS701 160 AT 直 1b 開口部 突起 無色 透明 塩化	直筒	底面 R. 160	透明 無色 塩化	透明 無色 塩化	直筒 底面 R. 160	透明 無色 塩化	直筒・底面 底面	11.6 4.4	縫合部有り 縫合部有り
20 13 YS701 94 AT 直 1b 開口部 突起 無色 透明 塩化	直筒	底面 R. 94	透明 無色 塩化	透明 無色 塩化	直筒 底面 R. 94	透明 無色 塩化	直筒・底面 底面	10.3 4.2	縫合部有り 縫合部有り
20 14 YS701 182 AT 直 1b 開口部 突起 無色 透明 塩化	直筒	底面 R. 182	透明 無色 塩化	透明 無色 塩化	直筒 底面 R. 182	透明 無色 塩化	直筒・底面 底面	11.4 4.4	縫合部有り 縫合部有り
20 15 25 15 YS701 34 AT 直 1b 開口部 突起 無色 透明 塩化	直筒	底面 R. 34	透明 無色 塩化	透明 無色 塩化	直筒 底面 R. 34	透明 無色 塩化	直筒・底面 底面	11.9 4.3	縫合部有り 縫合部有り
20 16 25 16 YS701 317 AT 直 1b 開口部 突起 無色 透明 塩化	直筒	底面 R. 317	透明 無色 塩化	透明 無色 塩化	直筒 底面 R. 317	透明 無色 塩化	直筒・底面 底面	11.0 4.8	縫合部有り 縫合部有り
20 17 25 16 YS701 6 AT 直 1b 開口部 突起 無色 透明 塩化	直筒	底面 R. 6	透明 無色 塩化	透明 無色 塩化	直筒 底面 R. 6	透明 無色 塩化	直筒・底面 底面	11.4 4.4	縫合部有り 縫合部有り
20 18 YS701 138 AT 直 1b 開口部 突起 無色 透明 塩化	直筒	底面 R. 138	透明 無色 塩化	透明 無色 塩化	直筒 底面 R. 138	透明 無色 塩化	直筒・底面 底面	11.2 4.8	縫合部有り 縫合部有り
20 19 25 17 YS701 129 AT 直 1b 開口部 突起 無色 透明 塩化	直筒	底面 R. 129	透明 無色 塩化	透明 無色 塩化	直筒 底面 R. 129	透明 無色 塩化	直筒・底面 底面	11.4 4.4	縫合部有り 縫合部有り
20 20 YS701 97 AT 直 1b 開口部 突起 無色 透明 塩化	直筒	底面 R. 97	透明 無色 塩化	透明 無色 塩化	直筒 底面 R. 97	透明 無色 塩化	直筒・底面 底面	11.5 4.2	縫合部有り 縫合部有り
20 21 YS701 220 AT 直 1b 開口部 突起 無色 透明 塩化	直筒	底面 R. 220	透明 無色 塩化	透明 無色 塩化	直筒 底面 R. 220	透明 無色 塩化	直筒・底面 底面	10.8 4.8	縫合部有り 縫合部有り
20 22 YS701 117 AT 直 1b 開口部 突起 無色 透明 塩化	直筒	底面 R. 117	透明 無色 塩化	透明 無色 塩化	直筒 底面 R. 117	透明 無色 塩化	直筒・底面 底面	11.5 4.3	縫合部有り 縫合部有り
20 23 YS701 119 AT 直 1b 開口部 突起 無色 透明 塩化	直筒	底面 R. 119	透明 無色 塩化	透明 無色 塩化	直筒 底面 R. 119	透明 無色 塩化	直筒・底面 底面	11.0 4.4	縫合部有り 縫合部有り
20 24 YS701 132 AT 直 1b 開口部 突起 無色 透明 塩化	直筒	底面 R. 132	透明 無色 塩化	透明 無色 塩化	直筒 底面 R. 132	透明 無色 塩化	直筒・底面 底面	11.2 3.6	縫合部有り 縫合部有り
21 1 YS701 125 3T 直 1b 開口部 突起 無色 透明 塩化	直筒	底面 R. 125	透明 無色 塩化	透明 無色 塩化	直筒 底面 R. 125	透明 無色 塩化	直筒・底面 底面	11.0 3.8	縫合部有り 縫合部有り
21 2 YS701 75 AT 直 1b 開口部 突起 無色 透明 塩化	直筒	底面 R. 75	透明 無色 塩化	透明 無色 塩化	直筒 底面 R. 75	透明 無色 塩化	直筒・底面 底面	11.5 4.3	縫合部有り 縫合部有り
21 3 YS701 117 AT 直 1b 開口部 突起 無色 透明 塩化	直筒	底面 R. 117	透明 無色 塩化	透明 無色 塩化	直筒 底面 R. 117	透明 無色 塩化	直筒・底面 底面	12.0 4.4	縫合部有り 縫合部有り
21 4 25 18 YS701 43 AT 直 1b 開口部 突起 無色 透明 塩化	直筒	底面 R. 43	透明 無色 塩化	透明 無色 塩化	直筒 底面 R. 43	透明 無色 塩化	直筒・底面 底面	11.9 4.0	縫合部有り 縫合部有り
21 5 25 19 YS701 23 AT 直 1b 開口部 突起 無色 透明 塩化	直筒	底面 R. 23	透明 無色 塩化	透明 無色 塩化	直筒 底面 R. 23	透明 無色 塩化	直筒・底面 底面	10.6 4.9	縫合部有り 縫合部有り
21 6 YS701 87 3T 直 1b 開口部 突起 無色 透明 塩化	直筒	底面 R. 87	透明 無色 塩化	透明 無色 塩化	直筒 底面 R. 87	透明 無色 塩化	直筒・底面 底面	11.2 4.5	縫合部有り 縫合部有り

Tab. 12 目蓋深跡出土遺物一覧（2）

Tab. 12 四層墓跡出土遺物一覽 (3)

番号	出土場所	地質	性質	種類	基盤	土	埋蔵	細部・表面等		総量 (kg)	寸法(横×縦×高)	備考
								層位	性質			
22	Y5-F6-N1	層出地	粘土 泥炭	土器	良好	土器	土器	土器	土器	11.3	3.3	土器
22	14-26	Y5-F6-N1	3T	II	V	土器	土器	土器	土器	10.2	4.8	土器
22	15-26	Y5-F6-N1	3T	II	V	土器	土器	土器	土器	11.7	4.6	土器
22	16-26	Y5-F6-N1	4T	II	V	土器	土器	土器	土器	11.7	4.6	土器
22	17-26	Y5-F6-N1	4T	II	V	土器	土器	土器	土器	10.8	4.4	土器
22	18-26	Y5-F6-N1	7D	II	V	土器	土器	土器	土器	10.4	3.8	土器
22	1-26	Y5-F6-N1	11A	II	V	土器	土器	土器	土器	10.0	3.6	土器
22	2-26	Y5-F6-N1	11B	II	V	土器	土器	土器	土器	10.8	4.7	土器
23	3-26	Y5-F6-N1	4T	II	V	土器	土器	土器	土器	11.8	4.8	土器
23	4-26	Y5-F6-N1	16	II	V	土器	土器	土器	土器	10.5	3.3	土器
23	5-26	Y5-F6-N1	3T	II	V	土器	土器	土器	土器	10.2	4.0	土器
23	6-26	Y5-F6-N1	17F	II	V	土器	土器	土器	土器	11.2	4.8	土器
23	7	Y5-F6-N1	14B	II	V	土器	土器	土器	土器	12.0	4.4	土器
23	8	Y5-F6-N1	14C	II	V	土器	土器	土器	土器	11.0	3.3	土器
23	9	Y5-F6-N1	15D	II	V	土器	土器	土器	土器	10.6	4.2	土器
23	10	Y5-F6-N1	14B	II	V	土器	土器	土器	土器	10.7	4.3	土器
23	11	Y5-F6-N1	21E	II	V	土器	土器	土器	土器	10.5	4.4	土器
23	12	Y5-F6-N1	21F	II	V	土器	土器	土器	土器	11.2	4.8	土器
23	13	Y5-F6-N1	20D	II	V	土器	土器	土器	土器	11.0	4.0	土器
23	14	Y5-F6-N1	20L	II	V	土器	土器	土器	土器	11.8	4.8	土器
23	15	Y5-F6-N1	14A	II	V	土器	土器	土器	土器	11.6	4.8	土器
23	16-26	Y5-F6-N1	9E	II	V	土器	土器	土器	土器	12.0	4.0	土器
23	17-26	Y5-F6-N1	10J	II	V	土器	土器	土器	土器	11.5	4.8	土器
23	18-27	1-Y5-F6-N1	65	3T	II	土器	土器	土器	土器	11.8	4.4	土器
23	19-27	2-Y5-F6-N1	56	II	V	土器	土器	土器	土器	11.3	4.8	土器
23	20-27	3-4-Y5-F6-N1	16D	II	V	土器	土器	土器	土器	11.8	4.2	土器
24	1-27	6-Y5-F6-N1	33	II	V	土器	土器	土器	土器	11.0	4.5	土器
24	2-27	22-Y5-F6-N1	4T	II	V	土器	土器	土器	土器	12.0	4.8	土器
24	3-27	6-Y5-F6-N1	32	II	V	土器	土器	土器	土器	11.5	4.6	土器
24	4-27	9-Y5-F6-N1	30	II	V	土器	土器	土器	土器	11.0	4.2	土器
24	5-27	10-Y5-F6-N1	42	II	V	土器	土器	土器	土器	11.8	4.2	土器
24	6	Y5-F6-N1	43	II	V	土器	土器	土器	土器	11.2	4.5	土器
24	7-27	11-Y5-F6-N1	35	II	V	土器	土器	土器	土器	12.5	4.4	土器

Tab. 12 目築跡出土遺物一覧 (4)

番号	出土場所	地層	性質	種類	基盤	寸法	材質	絶対年齢・相対年齢等		総量 (kg)	備考
								絶対年齢	相対年齢		
24 8 27 12 YS701 230 CF 砂	底面地	生土	砂	底面地	良質	1m × 0.5m × 0.1m	陶器(焼成灰)	昭和40年(1965)前	上層部	13.8	3.3 柱穴の土上に「縦井」(1965)
24 9 27 12 YS701 230 CF 砂	底面地	生土	砂	底面地	良質	1m × 0.5m × 0.1m	陶器(焼成灰)	昭和40年(1965)前	上層部	4.2	「縦井」(1965)
24 10 10 YS701 254 JT 砂	底面地	生土	砂	底面地	良質	1m × 0.5m × 0.1m	陶器(焼成灰)	昭和40年(1965)前	上層部	5.6	「縦井」(1965)
24 11 YS701 276 JT 砂	底面地	生土	砂	底面地	良質	1m × 0.5m × 0.1m	陶器(焼成灰)	昭和40年(1965)前	上層部	3.4	「縦井」(1965)
24 12 YS701 215 JT 砂	底面地	生土	砂	底面地	良質	1m × 0.5m × 0.1m	陶器(焼成灰)	昭和40年(1965)前	上層部	4.0	「縦井」(1965)
24 13 YS701 275 JT 砂	底面地	生土	砂	底面地	良質	1m × 0.5m × 0.1m	陶器(焼成灰)	昭和40年(1965)前	上層部	4.6	「縦井」(1965)
24 14 YS701 131 JT 砂	底面地	生土	砂	底面地	良質	1m × 0.5m × 0.1m	陶器(焼成灰)	昭和40年(1965)前	上層部	15.0	「縦井」(1965)
24 15 YS701 231 JT 砂	底面地	生土	砂	底面地	良質	1m × 0.5m × 0.1m	陶器(焼成灰)	昭和40年(1965)前	上層部	-	「縦井」(1965)
24 16 YS701 168 JT 砂	底面地	生土	砂	底面地	良質	1m × 0.5m × 0.1m	陶器(焼成灰)	昭和40年(1965)前	上層部	3.8	「縦井」(1965)
24 17 YS701 275 JT 砂	底面地	生土	砂	底面地	良質	1m × 0.5m × 0.1m	陶器(焼成灰)	昭和40年(1965)前	上層部	6.7	「縦井」(1965)
24 18 YS701 74 JT 砂	底面地	生土	砂	底面地	良質	1m × 0.5m × 0.1m	陶器(焼成灰)	昭和40年(1965)前	上層部	20.0	「縦井」(1965)
24 19 YS701 265 JT 砂	底面地	生土	砂	底面地	良質	1m × 0.5m × 0.1m	陶器(焼成灰)	昭和40年(1965)前	上層部	-	「縦井」(1965)
25 1 YS701 256 JT 砂	底面地	生土	砂	底面地	良質	1m × 0.5m × 0.1m	陶器(焼成灰)	昭和40年(1965)前	上層部	22.0	-
25 2 YS701 166 JT 砂	底面地	生土	砂	底面地	良質	1m × 0.5m × 0.1m	陶器(焼成灰)	昭和40年(1965)前	上層部	18.8	「縦井」(1965)
25 3 27 13 YS701 257 JT 砂	底面地	生土	砂	底面地	良質	1m × 0.5m × 0.1m	陶器(焼成灰)	昭和40年(1965)前	上層部	4.2	「縦井」(1965)
25 4 YS701 289 BT 砂	底面地	生土	砂	底面地	良質	1m × 0.5m × 0.1m	陶器(焼成灰)	昭和40年(1965)前	上層部	10.0	「縦井」(1965)
25 5 27 14 YS701 2 Y JT 砂	底面地	生土	砂	底面地	良質	1m × 0.5m × 0.1m	陶器(焼成灰)	昭和40年(1965)前	上層部	11.8	4.6 「縦井」(1965)
25 6 YS701 106 JT 砂	底面地	生土	砂	底面地	良質	1m × 0.5m × 0.1m	陶器(焼成灰)	昭和40年(1965)前	上層部	10.0	4.8 「縦井」(1965)
25 7 27 15 YS701 22 JT 砂	底面地	生土	砂	底面地	良質	1m × 0.5m × 0.1m	陶器(焼成灰)	昭和40年(1965)前	上層部	11.8	5.7 「縦井」(1965)
25 8 YS701 85 JT 砂	底面地	生土	砂	底面地	良質	1m × 0.5m × 0.1m	陶器(焼成灰)	昭和40年(1965)前	上層部	12.0	4.9 「縦井」(1965)
25 9 27 16 YS701 80 JT 砂	底面地	生土	砂	底面地	良質	1m × 0.5m × 0.1m	陶器(焼成灰)	昭和40年(1965)前	上層部	11.2	4.2 「縦井」(1965)
25 10 27 17 YS701 12 JT 砂	底面地	生土	砂	底面地	良質	1m × 0.5m × 0.1m	陶器(焼成灰)	昭和40年(1965)前	上層部	11.2	4.1 「縦井」(1965)
25 11 YS701 290 JT 砂	底面地	生土	砂	底面地	良質	1m × 0.5m × 0.1m	陶器(焼成灰)	昭和40年(1965)前	上層部	12.2	5.6 「縦井」(1965)
25 12 YS701 37 JT 砂	底面地	生土	砂	底面地	良質	1m × 0.5m × 0.1m	陶器(焼成灰)	昭和40年(1965)前	上層部	11.1	4.8 「縦井」(1965)
25 13 27 18 YS701 101 JT 砂	底面地	生土	砂	底面地	良質	1m × 0.5m × 0.1m	陶器(焼成灰)	昭和40年(1965)前	上層部	11.0	4.8 「縦井」(1965)
25 14 27 19 YS701 4 JT 砂	底面地	生土	砂	底面地	良質	1m × 0.5m × 0.1m	陶器(焼成灰)	昭和40年(1965)前	上層部	11.2	4.8 「縦井」(1965)
25 15 27 20 YS701 7 JT 砂	底面地	生土	砂	底面地	良質	1m × 0.5m × 0.1m	陶器(焼成灰)	昭和40年(1965)前	上層部	11.2	5.1 「縦井」(1965)
25 16 27 21 YS701 11 JT 砂	底面地	生土	砂	底面地	良質	1m × 0.5m × 0.1m	陶器(焼成灰)	昭和40年(1965)前	上層部	36.4	5.1 「縦井」(1965)
25 17 28 1 YS701 63 JT 砂	底面地	生土	砂	底面地	良質	1m × 0.5m × 0.1m	陶器(焼成灰)	昭和40年(1965)前	上層部	10.0	5.4 「縦井」(1965)
25 18 28 2 YS701 161 JT 砂	底面地	生土	砂	底面地	良質	1m × 0.5m × 0.1m	陶器(焼成灰)	昭和40年(1965)前	上層部	11.2	4.9 「縦井」(1965)
25 19 28 3 YS701 10 JT 砂	底面地	生土	砂	底面地	良質	1m × 0.5m × 0.1m	陶器(焼成灰)	昭和40年(1965)前	上層部	11.4	5.2 「縦井」(1965)
26 1 YS701 202 AT 砂	底面地	生土	砂	底面地	良質	1m × 0.5m × 0.1m	陶器(焼成灰)	昭和40年(1965)前	上層部	12.0	5.7 「縦井」(1965)

Tab. 12 目屋聚跡出土遺物一覧 (5)

品目	番号	材質	主な形状	寸法	表面・内部		備考	通量 (cm)	出土地点
					外観	内観			
目蓋	Y5-761, Y5-762	陶器	丸筒形	直径約28mm	直筒	直筒	直筒	13.2, 8.6	西
26. 2	26. 4	Y5-763, Y5-764	陶器	丸筒形	直筒	直筒	直筒	11.0, 6.2	西
26. 3	26. 5	Y5-765, Y5-766	陶器	丸筒形	直筒	直筒	直筒	12.0, -	西
26. 4	Y5-767, 202	陶器	丸筒形	直筒	直筒	直筒	-	-	西
26. 5	Y5-768, 344	陶器	丸筒形	直筒	直筒	直筒	-	-	西
26. 6	Y5-769, 414	陶器	丸筒形	直筒	直筒	直筒	-	-	西
26. 7	Y5-770, 281	陶器	丸筒形	直筒	直筒	直筒	-	-	西
26. 8	Y5-771, 220	陶器	丸筒形	直筒	直筒	直筒	-	-	西
26. 9	Y5-772, 240	陶器	丸筒形	直筒	直筒	直筒	-	-	西
26. 10	Y5-773, 306	陶器	丸筒形	直筒	直筒	直筒	-	-	西
26. 11	Y5-774, 193	陶器	丸筒形	直筒	直筒	直筒	-	-	西
26. 12	Y5-775, 208	陶器	丸筒形	直筒	直筒	直筒	-	-	西
26. 13	Y5-776, 111	陶器	丸筒形	直筒	直筒	直筒	-	-	西
26. 14	Y5-777, 212	陶器	丸筒形	直筒	直筒	直筒	-	-	西
26. 15	Y5-778, 198	陶器	丸筒形	直筒	直筒	直筒	-	-	西
26. 16	Y5-779, 272	陶器	丸筒形	直筒	直筒	直筒	-	-	西
26. 17	26. 6	Y5-780, 240	陶器	丸筒形	直筒	直筒	-	-	西
26. 18	26. 7	Y5-781, 197	陶器	丸筒形	直筒	直筒	-	-	西
26. 19	Y5-782, 353	陶器	丸筒形	直筒	直筒	直筒	-	-	西
26. 20	26. 8	Y5-783, 188	陶器	丸筒形	直筒	直筒	-	-	西
26. 21	26. 9	Y5-784, 189	陶器	丸筒形	直筒	直筒	-	-	西
26. 22	Y5-785, 234	陶器	丸筒形	直筒	直筒	直筒	-	-	西
26. 23	Y5-786, 169	陶器	丸筒形	直筒	直筒	直筒	-	-	西
26. 24	Y5-787, 246	陶器	丸筒形	直筒	直筒	直筒	-	-	西
26. 25	Y5-788, 237	陶器	丸筒形	直筒	直筒	直筒	-	-	西
26. 26	Y5-789, 171	陶器	丸筒形	直筒	直筒	直筒	-	-	西
26. 27	Y5-790, 232	陶器	丸筒形	直筒	直筒	直筒	-	-	西
26. 28	Y5-791, 217	陶器	丸筒形	直筒	直筒	直筒	-	-	西
26. 29	Y5-792, 235	陶器	丸筒形	直筒	直筒	直筒	-	-	西
26. 30	Y5-793, 333	陶器	丸筒形	直筒	直筒	直筒	-	-	西
27. 1	Y5-794, 100	AY-144	丸筒形	直筒	直筒	直筒	-	-	西
27. 2	Y5-795, 280	AY-145	丸筒形	直筒	直筒	直筒	-	-	西
27. 3	27. 8	Y5-796, 261	AY-146	丸筒形	直筒	直筒	-	-	西

Tab. 12 目蓋深跡出土遺物一覧 (6)

Tab. 12 血屋窯跡出土遺物一覽 (7)

番号	発見場所	地層	層位	性質	形態(表面)	形態(裏面)	材質	寸法	説明	細部・表面特徴等		重量(g)	寸法(目盛り)	備考
										横幅	高さ			
27	Y5701 R. 70c	層壓跡	土	骨角	丸形	丸形	骨角	17	骨角の外側に凹溝	1.5	0.5	6.0	1.4	
27	26	28	Y5701 171	土	直角	直角	骨角	17	骨角の外側に凹溝	1.5	0.5	6.1	1.5	
27	27	28	Y5701 172	土	直角	直角	骨角	17	骨角の外側に凹溝	1.5	0.5	6.1	1.5	
27	28	Y5701 152	土	直角	直角	直角	骨角	17	骨角の外側に凹溝	1.5	0.5	6.0	1.5	
27	29	28	Y5701 33	土	直角	直角	骨角	17	骨角の外側に凹溝	1.5	0.5	6.0	1.5	
27	40	Y5701 72	土	直角	直角	直角	骨角	17	骨角の外側に凹溝	1.5	0.5	6.0	1.5	
28	1	Y5701 249	土	直角	直角	直角	骨角	17	骨角の外側に凹溝	1.5	0.5	6.0	1.5	
28	2	Y5701 265	土	直角	直角	直角	骨角	17	骨角の外側に凹溝	1.5	0.5	6.0	1.5	
28	3	Y5701 259	土	直角	直角	直角	骨角	17	骨角の外側に凹溝	1.5	0.5	6.0	1.5	
28	4	28	Y5701 101	土	直角	直角	骨角	17	骨角の外側に凹溝	1.5	0.5	6.0	1.5	
28	5	Y5701 209	土	直角	直角	直角	骨角	17	骨角の外側に凹溝	1.5	0.5	6.0	1.5	
28	6	28	Y5701 103	土	直角	直角	骨角	17	骨角の外側に凹溝	1.5	0.5	6.0	1.5	
28	7	Y5701 101	土	直角	直角	直角	骨角	17	骨角の外側に凹溝	1.5	0.5	6.0	1.5	
28	8	Y5701 296	土	直角	直角	直角	骨角	17	骨角の外側に凹溝	1.5	0.5	6.0	1.5	
28	9	Y5701 301	土	直角	直角	直角	骨角	17	骨角の外側に凹溝	1.5	0.5	6.0	1.5	
28	10	Y5701 107	土	直角	直角	直角	骨角	17	骨角の外側に凹溝	1.5	0.5	6.0	1.5	
28	11	Y5701 223	土	直角	直角	直角	骨角	17	骨角の外側に凹溝	1.5	0.5	6.0	1.5	
28	12	Y5701 214	土	直角	直角	直角	骨角	17	骨角の外側に凹溝	1.5	0.5	6.0	1.5	
28	13	Y5701 303	土	直角	直角	直角	骨角	17	骨角の外側に凹溝	1.5	0.5	6.0	1.5	
28	14	Y5701 294	土	直角	直角	直角	骨角	17	骨角の外側に凹溝	1.5	0.5	6.0	1.5	
28	15	Y5701 207	土	直角	直角	直角	骨角	17	骨角の外側に凹溝	1.5	0.5	6.0	1.5	
28	16	Y5701 106	土	直角	直角	直角	骨角	17	骨角の外側に凹溝	1.5	0.5	6.0	1.5	
28	17	Y5701 118	土	直角	直角	直角	骨角	17	骨角の外側に凹溝	1.5	0.5	6.0	1.5	
28	18	29	Y5701 115	土	直角	直角	骨角	17	骨角の外側に凹溝	1.5	0.5	6.0	1.5	
28	19	Y5701 109	土	直角	直角	直角	骨角	17	骨角の外側に凹溝	1.5	0.5	6.0	1.5	
28	20	29	Y5701 46	土	直角	直角	骨角	17	骨角の外側に凹溝	1.5	0.5	6.0	1.5	
28	21	Y5701 280	土	直角	直角	直角	骨角	17	骨角の外側に凹溝	1.5	0.5	6.0	1.5	
28	22	Y5701 90	土	直角	直角	直角	骨角	17	骨角の外側に凹溝	1.5	0.5	6.0	1.5	
28	23	Y5701 116	土	直角	直角	直角	骨角	17	骨角の外側に凹溝	1.5	0.5	6.0	1.5	
28	24	Y5701 547	土	直角	直角	直角	骨角	17	骨角の外側に凹溝	1.5	0.5	6.0	1.5	
28	19	2	Y5701 105	土	直角	直角	骨角	17	骨角の外側に凹溝	1.5	0.5	6.0	1.5	
28	2	Y5701 140	土	直角	直角	直角	骨角	17	骨角の外側に凹溝	1.5	0.5	6.0	1.5	
28	3	Y5701 240	土	直角	直角	直角	骨角	17	骨角の外側に凹溝	1.5	0.5	6.0	1.5	

Tab. 12 目層壓跡出土遺物一覧(8)

件番	形	材	表面	土色	被覆	表面所	色調(表面)	底色(底土)	底紙	紙	土	底紙	細部目印・既存の箇所等		表面(底紙)	表面(底紙)底紙等	表面(底紙)底紙等	底紙(底紙)	口端(底紙)	口端(底紙)		
													表面	底紙								
29 4	Y字形	PVC	漆	圓筒形	漆	土色	朱	上端部	朱	朱	朱	朱	朱	朱	朱	朱	朱	朱	朱	朱	朱	
29 5	Y字形	286	3.1	漆	漆	朱	朱	上端部	朱	朱	朱	朱	朱	朱	朱	朱	朱	朱	朱	朱	朱	
29 6	Y字形	245	3.7	漆	漆	朱	朱	上端部	朱	朱	朱	朱	朱	朱	朱	朱	朱	朱	朱	朱	朱	
29 7	Y字形	348	3.7	漆	漆	朱	朱	上端部	朱	朱	朱	朱	朱	朱	朱	朱	朱	朱	朱	朱	朱	
29 8	Y字形	207	2.68	漆	漆	朱	朱	上端部	朱	朱	朱	朱	朱	朱	朱	朱	朱	朱	朱	朱	朱	
29 9	Y字形	300	2.68	漆	漆	朱	朱	上端部	朱	朱	朱	朱	朱	朱	朱	朱	朱	朱	朱	朱	朱	
29 10	Y字形	241	1.77	漆	漆	朱	朱	上端部	朱	朱	朱	朱	朱	朱	朱	朱	朱	朱	朱	朱	朱	
29 11	Y字形	228	2.68	漆	漆	朱	朱	—	朱	朱	朱	朱	朱	朱	朱	朱	朱	朱	朱	朱	朱	
29 12	29	4	Y字形	162	3.7	漆	漆	上端部	朱	朱	朱	朱	朱	朱	朱	朱	朱	朱	朱	朱	朱	朱
29 13	29	6	Y字形	201	4.7	漆	漆	上端部	朱	朱	朱	朱	朱	朱	朱	朱	朱	朱	朱	朱	朱	朱
29 14	Y字形	279	4.7	漆	漆	朱	朱	上端部	朱	朱	朱	朱	朱	朱	朱	朱	朱	朱	朱	朱	朱	
29 15	Y字形	206	3.7	漆	漆	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
29 16	Y字形	308	3.7	漆	漆	朱	朱	上端部	朱	朱	朱	朱	朱	朱	朱	朱	朱	朱	朱	朱	朱	
29 17	Y字形	207	2.68	漆	漆	朱	朱	上端部	朱	朱	朱	朱	朱	朱	朱	朱	朱	朱	朱	朱	朱	
29 18	Y字形	207	3.7	漆	漆	朱	朱	上端部	朱	朱	朱	朱	朱	朱	朱	朱	朱	朱	朱	朱	朱	
29 19	Y字形	226	1.77	漆	漆	朱	朱	上端部	朱	朱	朱	朱	朱	朱	朱	朱	朱	朱	朱	朱	朱	
29 20	Y字形	226	2.68	漆	漆	朱	朱	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
30 1	Y字形	304	4.7	漆	漆	V	朱	上端部	朱	朱	朱	朱	朱	朱	朱	朱	朱	朱	朱	朱	朱	
30 2	Y字形	310	4.7	漆	漆	V	朱	上端部	朱	朱	朱	朱	朱	朱	朱	朱	朱	朱	朱	朱	朱	
30 3	Y字形	255	4.7	漆	漆	V	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
30 4	Y字形	238	4.7	漆	漆	V	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
30 5	Y字形	239	3.7	漆	漆	V	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
30 6	Y字形	251	4.7	漆	漆	V	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
30 7	Y字形	265	3.7	漆	漆	V	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
30 8	Y字形	203	4.7	漆	漆	V	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
30 9	Y字形	221	3.7	漆	漆	V	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
30 10	Y字形	279	2.68	漆	漆	V	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
30 11	Y字形	273	4.7	漆	漆	V	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
30 12	Y字形	256	3.7	漆	漆	V	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	

Tab. 12 目屢藻跡出土遺物一覧（9）

Tg	No.	出土地点	測定番号	出土品種	形状・特徴	測定値(測定式)	色調(測定式)	組織	土	底	検査結果(測定値等)		測定(年)	備考		
											測定値(%)	測定範囲	測定値(%)	測定範囲		
25. 1	29	7	Y5.010 50	ET 漆器	直筒 筒	直筒 筒	二-五-褐色 Hue(10YR 3/1)	褐色 Hue(10YR 3/2)	褐色 Hue(10YR 3/2)	褐色 Hue(10YR 3/2)	7	褐色(7-74%)	61.2	6.5		
26. 2		Y5.010 20	ET 漆器	直筒 筒	直筒 筒	二-五-褐色 Hue(10YR 3/1)	褐色 Hue(10YR 3/2)	褐色 Hue(10YR 3/2)	褐色 Hue(10YR 3/2)	褐色 Hue(10YR 3/2)	7	褐色(7-74%)	61.0	-		
26. 3		Y5.010 13	直筒 漆器	直筒 筒	直筒 筒	二-五-褐色 Hue(10YR 3/2)	褐色 Hue(10YR 3/2)	褐色 Hue(10YR 3/2)	褐色 Hue(10YR 3/2)	褐色 Hue(10YR 3/2)	—	—	11.0	-		
26. 4		Y5.010 68	ET 漆器	直筒 筒	直筒 筒	二-五-褐色 Hue(10YR 3/2)	褐色 Hue(10YR 3/2)	褐色 Hue(10YR 3/2)	褐色 Hue(10YR 3/2)	褐色 Hue(10YR 3/2)	—	—	11.0	-		
26. 5	29	8	Y5.010 14	ET 漆器	直筒 筒	直筒 筒	二-五-褐色 Hue(10YR 3/2)	褐色 Hue(10YR 3/2)	褐色 Hue(10YR 3/2)	褐色 Hue(10YR 3/2)	褐色 Hue(10YR 3/2)	—	—	11.0	-	
26. 6	8	Y5.010 25	直筒 漆器	直筒 筒	直筒 筒	二-五-褐色 Hue(10YR 3/2)	褐色 Hue(10YR 3/2)	褐色 Hue(10YR 3/2)	褐色 Hue(10YR 3/2)	褐色 Hue(10YR 3/2)	—	—	11.0	-		
26. 7		Y5.010 82	ET 漆器	直筒 筒	直筒 筒	二-五-褐色 Hue(10YR 3/2)	褐色 Hue(10YR 3/2)	褐色 Hue(10YR 3/2)	褐色 Hue(10YR 3/2)	褐色 Hue(10YR 3/2)	—	—	11.0	-		
26. 8		Y5.010 96	ET 漆器	直筒 筒	直筒 筒	二-五-褐色 Hue(10YR 3/2)	褐色 Hue(10YR 3/2)	褐色 Hue(10YR 3/2)	褐色 Hue(10YR 3/2)	褐色 Hue(10YR 3/2)	—	—	11.0	-		
26. 9	11	Y5.010 57	ET 漆器	直筒 筒	直筒 筒	二-五-褐色 Hue(10YR 3/2)	褐色 Hue(10YR 3/2)	褐色 Hue(10YR 3/2)	褐色 Hue(10YR 3/2)	褐色 Hue(10YR 3/2)	—	—	11.0	-		
26. 10	29	6	Y5.010 56	ET 漆器	直筒 筒	直筒 筒	二-五-褐色 Hue(10YR 3/2)	褐色 Hue(10YR 3/2)	褐色 Hue(10YR 3/2)	褐色 Hue(10YR 3/2)	褐色 Hue(10YR 3/2)	—	—	11.0	-	
26. 11		Y5.010 83	ET 漆器	直筒 筒	直筒 筒	二-五-褐色 Hue(10YR 3/2)	褐色 Hue(10YR 3/2)	褐色 Hue(10YR 3/2)	褐色 Hue(10YR 3/2)	褐色 Hue(10YR 3/2)	—	—	11.0	-		
26. 12		Y5.010 63	直筒 漆器	直筒 筒	直筒 筒	二-五-褐色 Hue(10YR 3/2)	褐色 Hue(10YR 3/2)	褐色 Hue(10YR 3/2)	褐色 Hue(10YR 3/2)	褐色 Hue(10YR 3/2)	—	—	11.0	-		
26. 13		Y5.010 46	ET 漆器	直筒 筒	直筒 筒	二-五-褐色 Hue(10YR 3/2)	褐色 Hue(10YR 3/2)	褐色 Hue(10YR 3/2)	褐色 Hue(10YR 3/2)	褐色 Hue(10YR 3/2)	—	—	11.0	-		
26. 14		Y5.010 28	直筒 漆器	直筒 筒	直筒 筒	二-五-褐色 Hue(10YR 3/2)	褐色 Hue(10YR 3/2)	褐色 Hue(10YR 3/2)	褐色 Hue(10YR 3/2)	褐色 Hue(10YR 3/2)	—	—	11.0	-		
26. 15		Y5.010 92	直筒 漆器	直筒 筒	直筒 筒	二-五-褐色 Hue(10YR 3/2)	褐色 Hue(10YR 3/2)	褐色 Hue(10YR 3/2)	褐色 Hue(10YR 3/2)	褐色 Hue(10YR 3/2)	—	—	11.0	-		
26. 16		Y5.010 81	ET 漆器	直筒 筒	直筒 筒	二-五-褐色 Hue(10YR 3/2)	褐色 Hue(10YR 3/2)	褐色 Hue(10YR 3/2)	褐色 Hue(10YR 3/2)	褐色 Hue(10YR 3/2)	—	—	11.0	-		
26. 17		Y5.010 64	ET 漆器	直筒 筒	直筒 筒	二-五-褐色 Hue(10YR 3/2)	褐色 Hue(10YR 3/2)	褐色 Hue(10YR 3/2)	褐色 Hue(10YR 3/2)	褐色 Hue(10YR 3/2)	—	—	11.0	-		
26. 18		Y5.010 85	ET 漆器	直筒 筒	直筒 筒	二-五-褐色 Hue(10YR 3/2)	褐色 Hue(10YR 3/2)	褐色 Hue(10YR 3/2)	褐色 Hue(10YR 3/2)	褐色 Hue(10YR 3/2)	—	—	11.0	-		
26. 19		Y5.010 90	ET 漆器	直筒 筒	直筒 筒	二-五-褐色 Hue(10YR 3/2)	褐色 Hue(10YR 3/2)	褐色 Hue(10YR 3/2)	褐色 Hue(10YR 3/2)	褐色 Hue(10YR 3/2)	—	—	11.0	-		
26. 20		Y5.010 91	ET 漆器	直筒 筒	直筒 筒	二-五-褐色 Hue(10YR 3/2)	褐色 Hue(10YR 3/2)	褐色 Hue(10YR 3/2)	褐色 Hue(10YR 3/2)	褐色 Hue(10YR 3/2)	—	—	11.0	-		
26. 21	29	13	Y5.010 54	ET 漆器	直筒 筒	直筒 筒	二-五-褐色 Hue(10YR 3/2)	褐色 Hue(10YR 3/2)	褐色 Hue(10YR 3/2)	褐色 Hue(10YR 3/2)	褐色 Hue(10YR 3/2)	—	—	11.0	-	
26. 22		Y5.010 100	ET 漆器	直筒 筒	直筒 筒	二-五-褐色 Hue(10YR 3/2)	褐色 Hue(10YR 3/2)	褐色 Hue(10YR 3/2)	褐色 Hue(10YR 3/2)	褐色 Hue(10YR 3/2)	—	—	11.0	-		
26. 23		Y5.010 67	ET 漆器	直筒 筒	直筒 筒	二-五-褐色 Hue(10YR 3/2)	褐色 Hue(10YR 3/2)	褐色 Hue(10YR 3/2)	褐色 Hue(10YR 3/2)	褐色 Hue(10YR 3/2)	—	—	11.0	-		
26. 24		Y5.010 80	ET 漆器	直筒 筒	直筒 筒	二-五-褐色 Hue(10YR 3/2)	褐色 Hue(10YR 3/2)	褐色 Hue(10YR 3/2)	褐色 Hue(10YR 3/2)	褐色 Hue(10YR 3/2)	—	—	11.0	-		
26. 25		Y5.010 27	直筒 漆器	直筒 筒	直筒 筒	二-五-褐色 Hue(10YR 3/2)	褐色 Hue(10YR 3/2)	褐色 Hue(10YR 3/2)	褐色 Hue(10YR 3/2)	褐色 Hue(10YR 3/2)	—	—	11.0	-		
26. 26		Y5.010 53	ET 漆器	直筒 筒	直筒 筒	二-五-褐色 Hue(10YR 3/2)	褐色 Hue(10YR 3/2)	褐色 Hue(10YR 3/2)	褐色 Hue(10YR 3/2)	褐色 Hue(10YR 3/2)	—	—	11.0	-		

Tab. 13 四層上塗跡出土遺物一覧（1）

件名	件号	性別	年齢	出土地点	遺物名	材質	形状・特徴	表面・裏面	色調(裏)	底紙	土	底紙	検査結果(顕微鏡観察等)			通量(cm)	測定小面積	測定面積	口部	目録	備考	
													断面・底面	断面(底)	底面(底)							
27-4	Y8.010	男	50歳代	Ⅳ区	骨盤	N	上端幅 N	上端幅 N	灰褐色 N	骨盆(He.25.8R.2)	骨盆	骨盆 骨盆(He.25.8R.2)	9.9±				31.1	-	-	1985.11.17		
27-5	Y8.010	6	2-7才	男	N	上端幅 N	上端幅 N	灰褐色 N	骨盆(He.25.8R.2)	骨盆	骨盆 骨盆(He.25.8R.2)	9.9±				31.2	-	-	1985.11.17			
27-6	Y8.010	99	1T	男	N	上端幅 N	上端幅 N	灰褐色 N	骨盆(He.25.8R.2)	骨盆	骨盆 骨盆(He.25.8R.2)	9.9±				31.2	-	-	1985.11.17			
27-7	Y8.010	94	1T	男	N	上端幅 N	上端幅 N	灰褐色 N	骨盆(He.25.8R.2)	骨盆	骨盆 骨盆(He.25.8R.2)	9.9±				31.1	-	-	1985.11.17			
27-8	Y8.010	1	2T	男	N	上端幅 N	上端幅 N	灰褐色 N	骨盆(He.25.8R.2)	骨盆	骨盆 骨盆(He.25.8R.2)	9.9±				31.0	-	-	1985.11.17			
27-9	Y8.010	38	1T	男	N	上端幅 N	上端幅 N	灰褐色 N	骨盆(He.25.8R.2)	骨盆	骨盆 骨盆(He.25.8R.2)	9.9±				31.0	-	-	1985.11.17			
27-10	Y8.010	107	1T	男	N	上端幅 N	上端幅 N	灰褐色 N	骨盆(He.25.8R.2)	骨盆	骨盆 骨盆(He.25.8R.2)	9.9±				31.1	-	-	1985.11.17			
28-1	29	15	Y8.010	51	2T	男	N	上端幅 N	上端幅 N	灰褐色 N	骨盆(He.25.8R.2)	骨盆	骨盆 骨盆(He.25.8R.2)	9.9±				31.2	31.4	30.2	1985.11.17	
28-2	29	7	Y8.010	72	1T	男	N	上端幅 N	上端幅 N	灰褐色 N	骨盆(He.25.8R.2)	骨盆	骨盆 骨盆(He.25.8R.2)	9.9±				31.1	-	-	1985.11.17	
28-3	29	53	Y8.010	68	1T	男	N	上端幅 N	上端幅 N	灰褐色 N	骨盆(He.25.8R.2)	骨盆	骨盆 骨盆(He.25.8R.2)	9.9±				31.1	-	-	1985.11.17	
28-4	29	78	Y8.010	78	2T	男	N	上端幅 N	上端幅 N	灰褐色 N	骨盆(He.25.8R.2)	骨盆	骨盆 骨盆(He.25.8R.2)	9.9±				31.1	-	-	1985.11.17	
28-5	29	65	Y8.010	65	2T	男	N	上端幅 N	上端幅 N	灰褐色 N	骨盆(He.25.8R.2)	骨盆	骨盆 骨盆(He.25.8R.2)	9.9±				31.1	-	-	1985.11.17	
28-6	29	60	Y8.010	60	2T	男	N	上端幅 N	上端幅 N	灰褐色 N	骨盆(He.25.8R.2)	骨盆	骨盆 骨盆(He.25.8R.2)	9.9±				31.1	-	-	1985.11.17	
28-7	29	79	2T	男	N	上端幅 N	上端幅 N	灰褐色 N	骨盆(He.25.8R.2)	骨盆	骨盆 骨盆(He.25.8R.2)	9.9±				31.1	-	-	1985.11.17			
28-8	29	65	Y8.010	17	2T	男	N	上端幅 N	上端幅 N	灰褐色 N	骨盆(He.25.8R.2)	骨盆	骨盆 骨盆(He.25.8R.2)	9.9±				31.1	-	-	1985.11.17	
28-9	29	113	51	5T	男	N	上端幅 N	上端幅 N	灰褐色 N	骨盆(He.25.8R.2)	骨盆	骨盆 骨盆(He.25.8R.2)	9.9±				31.1	-	-	1985.11.17		
29-1	Y8.010	131	6T	男	N	上端幅 N	上端幅 N	灰褐色 N	骨盆(He.25.8R.2)	骨盆	骨盆 骨盆(He.25.8R.2)	9.9±				31.0	31.0	31.3	1985.11.17			
29-2	29	16	Y8.010	56	6T	男	N	上端幅 N	上端幅 N	灰褐色 N	骨盆(He.25.8R.2)	骨盆	骨盆 骨盆(He.25.8R.2)	9.9±				31.2	31.2	31.5	1985.11.17	
29-3	29	111	111	6T	男	N	上端幅 N	上端幅 N	灰褐色 N	骨盆(He.25.8R.2)	骨盆	骨盆 骨盆(He.25.8R.2)	9.9±				31.1	-	-	1985.11.17		
29-4	29	15	Y8.010	115	6T	男	N	上端幅 N	上端幅 N	灰褐色 N	骨盆(He.25.8R.2)	骨盆	骨盆 骨盆(He.25.8R.2)	9.9±				31.1	-	-	1985.11.17	
29-5	29	117	6T	男	N	上端幅 N	上端幅 N	灰褐色 N	骨盆(He.25.8R.2)	骨盆	骨盆 骨盆(He.25.8R.2)	9.9±				31.1	-	-	1985.11.17			
29-6	29	119	6T	男	N	上端幅 N	上端幅 N	灰褐色 N	骨盆(He.25.8R.2)	骨盆	骨盆 骨盆(He.25.8R.2)	9.9±				31.0	31.0	31.3	1985.11.17			
40-1	Y8.010	12	6T	男	N	上端幅 N	上端幅 N	灰褐色 N	骨盆(He.25.8R.2)	骨盆	骨盆 骨盆(He.25.8R.2)	9.9±				31.2	31.2	31.5	1985.11.17			
40-2	29	22	Y8.010	22	6T	男	N	上端幅 N	上端幅 N	灰褐色 N	骨盆(He.25.8R.2)	骨盆	骨盆 骨盆(He.25.8R.2)	9.9±				31.1	-	-	1985.11.17	
40-3	29	43	6T	男	N	上端幅 N	上端幅 N	灰褐色 N	骨盆(He.25.8R.2)	骨盆	骨盆 骨盆(He.25.8R.2)	9.9±				31.1	-	-	1985.11.17			
40-4	Y8.010	84	6T	男	N	上端幅 N	上端幅 N	灰褐色 N	骨盆(He.25.8R.2)	骨盆	骨盆 骨盆(He.25.8R.2)	9.9±				31.1	-	-	1985.11.17			
40-5	Y8.010	34	6T	男	N	上端幅 N	上端幅 N	灰褐色 N	骨盆(He.25.8R.2)	骨盆	骨盆 骨盆(He.25.8R.2)	9.9±				31.1	-	-	1985.11.17			
40-6	Y8.010	41	6T	男	N	上端幅 N	上端幅 N	灰褐色 N	骨盆(He.25.8R.2)	骨盆	骨盆 骨盆(He.25.8R.2)	9.9±				31.1	-	-	1985.11.17			
40-7	Y8.010	40	6T	男	N	上端幅 N	上端幅 N	灰褐色 N	骨盆(He.25.8R.2)	骨盆	骨盆 骨盆(He.25.8R.2)	9.9±				31.1	-	-	1985.11.17			
40-8	Y8.010	37	6T	男	N	上端幅 N	上端幅 N	灰褐色 N	骨盆(He.25.8R.2)	骨盆	骨盆 骨盆(He.25.8R.2)	9.9±				31.1	-	-	1985.11.17			

Tab. 13 皿屋上塚跡出土遺物一覧（2）

番号	件名	性質	出土場所	出土地点	地層	種類	材質	色調(表色)	表面(表皮)	検査結果(顕微鏡観察等)		通量(cm)	備考
										断面(断面)	断面(断面)		
49 9	Y8.10.10 10 6T 鉢	土器	上層地	V1 上層地	土器	輪郭	粘土	黒褐色	滑面	直筒型	直筒型	21.1	-
49 10 20	Y8.10.10 10 2T 瓶	土器	上層地	B1a 上層地	-	直筒型	粘土	黒褐色	滑面	直筒型	直筒型	31.6	無鉛發光
49 11	Y8.10.10 24 2T 瓶	土器	上層地	土器	土器	直筒型	粘土	黒褐色	滑面	直筒型	直筒型	31.7	-
49 12	Y8.10.10 112 2T 瓶	土器	上層地	土器	土器	直筒型	粘土	黒褐色	滑面	直筒型	直筒型	41.0	-
49 13	Y8.10.10 11 6T 瓶	土器	上層地	土器	土器	直筒型	粘土	黒褐色	滑面	直筒型	直筒型	41.0	-
49 14 20	Y8.10.10 115 6T 瓶	土器	上層地	土器	土器	直筒型	粘土	黒褐色	滑面	直筒型	直筒型	38.3	無鉛
49 15 20	Y8.10.10 3 118 直筒	瓶	N	-	-	直筒型	粘土	黒褐色	滑面	直筒型	直筒型	31.7	内壁に少許内部子口状の凹部
49 16	Y8.10.10 75 2T 瓶	土器	黒褐色?	土器	土器	直筒型	粘土	黒褐色	滑面	直筒型	直筒型	7	-
49 17	Y8.10.10 35 6T 瓶	土器	黒褐色?	土器	土器	直筒型	粘土	黒褐色	滑面	直筒型	直筒型	7	-
49 18	Y8.10.10 78 直筒	瓶	黒褐色?	土器	土器	直筒型	粘土	黒褐色	滑面	直筒型	直筒型	7	-
49 19	Y8.10.10 80 2T 瓶	土器	-	直筒	直筒	直筒型	粘土	黒褐色	滑面	直筒型	直筒型	7	-
49 20	Y8.10.10 90 2T 28?	土器	上層地	土器	土器	直筒型	粘土	黒褐色	滑面	直筒型	直筒型	9.9	-
49 21	Y8.10.10 88 2T 38?	土器	黒褐色?	土器	土器	直筒型	粘土	黒褐色	滑面	直筒型	直筒型	7	-
49 22	Y8.10.10 49 2T 38?	土器	上層地	土器	土器	直筒型	粘土	黒褐色	滑面	直筒型	直筒型	9.9	-
49 23	Y8.10.10 114 6T B 瓶	土器	-	直筒	直筒	直筒型	粘土	黒褐色	滑面	直筒型	直筒型	9.9	-
49 1	Y8.10.10 55 2T 1/1直	土器	上層地	土器	土器	直筒型	粘土	黒褐色	滑面	直筒型	直筒型	9.9	-
49 2	Y8.10.10 100 1T 1/1直?	土器	上層地	土器	土器	直筒型	粘土	黒褐色	滑面	直筒型	直筒型	31.6	-
49 3	Y8.10.10 3 2T 1/1直	土器	上層地	土器	土器	直筒型	粘土	黒褐色	滑面	直筒型	直筒型	15.7	-
49 4	Y8.10.10 2 1T 1/1直	土器	上層地	土器	土器	直筒型	粘土	黒褐色	滑面	直筒型	直筒型	31.0	-
49 5	Y8.10.10 16 5T 1/1直	土器	上層地	土器	土器	直筒型	粘土	黒褐色	滑面	直筒型	直筒型	35.5	-
49 6	Y8.10.10 90 2T 1/1直?	土器	上層地	土器	土器	直筒型	粘土	黒褐色	滑面	直筒型	直筒型	31.2	-
49 7	Y8.10.10 97 2T 1/1直?	土器	上層地	-	-	直筒型	粘土	黒褐色	滑面	直筒型	直筒型	31.0	-
49 8	Y8.10.10 98 2T 1/1直?	土器	上層地	-	-	直筒型	粘土	黒褐色	滑面	直筒型	直筒型	21.3	-
49 9	Y8.10.10 104 2T 1/1直?	土器	上層地	土器	土器	直筒型	粘土	黒褐色	滑面	直筒型	直筒型	11.4	-
49 10	Y8.10.10 21 5T 1/1直	土器	上層地	土器	土器	直筒型	粘土	黒褐色	滑面	直筒型	直筒型	9.9	-
49 11	Y8.10.10 108 5T 1/1直?	土器	上層地	土器	土器	直筒型	粘土	黒褐色	滑面	直筒型	直筒型	13.1	-
49 12	Y8.10.10 103 2T 1/1直?	土器	上層地	土器	土器	直筒型	粘土	黒褐色	滑面	直筒型	直筒型	15.6	-
49 13	Y8.10.10 96 5T 1/1直?	土器	上層地	土器	土器	直筒型	粘土	黒褐色	滑面	直筒型	直筒型	9.9	-
49 14	Y8.10.10 9 6T 1/1直	土器	上層地	土器	土器	直筒型	粘土	黒褐色	滑面	直筒型	直筒型	61.2	-
49 15	Y8.10.10 67 1/1直?	土器	上層地	土器	土器	直筒型	粘土	黒褐色	滑面	直筒型	直筒型	31.2	内壁に少許内部子口状の凹部

Tab. 13 四層上窯跡出土遺物一覧（3）

番号	件名	基準	出土場所	地質	種類	形状・大きさ	色調(表生)	地城	土	焼成	検定(目印・測定値等)			通量(cm)	測定位置	備考
											長	幅	高			
47-16	20	4	YAS-101	E5	6T	1/1:18.6	1a	上・右端	—	—	—	—	—	—	—	—
47-17	20	5	YAS-101	E22	6T	1/1:18.6	1a	上・右端	—	—	—	—	—	—	—	—
47-2	20	6	YAS-101	E20	6T	1/1:18.6	1a	上・右端	—	—	—	—	—	—	—	—
47-3	20	7	YAS-101	E10	6T	1/1:18.6	1a	上・右端	—	—	—	—	—	—	—	—
47-4	20	8	YAS-101	E10	6T	1/1:18.6	1a	上・右端	—	—	—	—	—	—	—	—
47-5	20	9	YAS-101	E10	6T	1/1:18.6	1a	上・右端	—	—	—	—	—	—	—	—
47-6	20	10	YAS-101	E6	6T	1/1:18.6	1a	上・右端	—	—	—	—	—	—	—	—
47-7	20	11	YAS-101	E5	6T	1/1:18.6	1a	上・右端	—	—	—	—	—	—	—	—
47-8	20	12	YAS-101	E20	6T	1/1:18.6	1a	上・右端	—	—	—	—	—	—	—	—
47-9	20	13	YAS-101	E10	6T	1/1:18.6	1a	上・右端	—	—	—	—	—	—	—	—
47-10	20	14	YAS-101	E10	6T	1/1:18.6	1a	上・右端	—	—	—	—	—	—	—	—
47-11	20	15	YAS-101	E10	6T	1/1:18.6	1a	上・右端	—	—	—	—	—	—	—	—
47-12	20	16	YAS-101	E10	6T	1/1:18.6	1a	上・右端	—	—	—	—	—	—	—	—
47-13	20	17	YAS-101	E10	6T	1/1:18.6	1a	上・右端	—	—	—	—	—	—	—	—
47-14	20	18	YAS-101	E2	6T	1/1:18.6	1a	上・右端	—	—	—	—	—	—	—	—
47-15	20	19	YAS-101	E10	6T	1/1:18.6	1a	上・右端	—	—	—	—	—	—	—	—
47-20	21	20	YAS-101	E2	6T	1/1:18.6	1a	上・右端	—	—	—	—	—	—	—	—
47-21	21	21	YAS-101	E2	6T	1/1:18.6	1a	上・右端	—	—	—	—	—	—	—	—
47-22	21	22	YAS-101	E2	5T	1/1:18.6	1a	上・右端	—	—	—	—	—	—	—	—
47-23	21	23	YAS-101	E2	6T	1/1:18.6	1a	上・右端	—	—	—	—	—	—	—	—
47-24	21	24	YAS-101	E1	6T	1/1:18.6	1a	上・右端	—	—	—	—	—	—	—	—
47-25	21	25	YAS-101	E2	6T	1/1:18.6	1a	上・右端	—	—	—	—	—	—	—	—
47-26	21	26	YAS-101	E1	6T	1/1:18.6	—	上・右端	—	—	—	—	—	—	—	—

Tab. 13 四層上塗跡出土遺物一覧（4）

Tab. 14 朝桂墓跡出土遺物一覽 (1)

件名	凡	件	測定値	地質	性質	種類	形態	表面(表面)	色調(地土)	地	土	鉱脈	成形	両面の表面調査		測量(表)	備考	
														表面	裏面			
49 5	YH01 112	03T	Ⅲ	N	風化地	鉄錆	球状	球状(表面)	褐色(地土)25YR 6/2	風化地	Ⅲ	風化地	球状	球状(表面)と風化地(裏面)	褐色	褐色(裏面)	108 4.4	4.2
49 6	YH01 154	04S-T	Ⅲ	N	風化地	鉄錆	球状	球状(表面)	褐色(地土)25YR 6/2	風化地	Ⅲ	風化地	球状	球状(表面)と風化地(裏面)	褐色	褐色(裏面)	102 3.6	4.3
49 7	YH01 113	04S-T	Ⅲ	N	風化地	鉄錆	球状	球状(表面)	褐色(地土)25YR 6/2	風化地	Ⅲ	風化地	球状	球状(表面)と風化地(裏面)	褐色	褐色(裏面)	102 -	-
49 8 30 14	YH01 59	09T	Ⅲ	N	風化地	鉄錆	球状	球状(表面)	褐色(地土)25YR 6/2	風化地	Ⅲ	風化地	球状	球状(表面)と風化地(裏面)	褐色	褐色(裏面)	101 3.8	4.3
49 9	YH01 59	05T	Ⅲ	N	風化地	鉄錆	球状	球状(表面)	褐色(地土)25YR 6/2	風化地	Ⅲ	風化地	球状	球状(表面)と風化地(裏面)	褐色	褐色(裏面)	116 4.0	3.6
49 10	YH01 109	09T	Ⅲ	N	風化地	鉄錆	球状	球状(表面)	褐色(地土)25YR 6/2	風化地	Ⅲ	風化地	球状	球状(表面)と風化地(裏面)	褐色	褐色(裏面)	108 -	-
49 11	YH01 146	07S-KO	Ⅲ	N	風化地	鉄錆	球状	球状(表面)	褐色(地土)25YR 6/2	風化地	Ⅲ	風化地	球状	球状(表面)と風化地(裏面)	褐色	褐色(裏面)	120 -	-
49 12	YH01 62	09T	Ⅲ	N	風化地	鉄錆	球状	球状(表面)	褐色(地土)25YR 6/2	風化地	Ⅲ	風化地	球状	球状(表面)と風化地(裏面)	褐色	褐色(裏面)	105 4.4	3.8
49 13	YH01 9	11T	Ⅲ	N	風化地	鉄錆	球状	球状(表面)	褐色(地土)25YR 6/2	風化地	Ⅲ	風化地	球状	球状(表面)と風化地(裏面)	褐色	褐色(裏面)	114 3.5	4.3
49 14	YH01 130	11T	Ⅲ	N	風化地	鉄錆	球状	球状(表面)	褐色(地土)25YR 6/2	風化地	Ⅲ	風化地	球状	球状(表面)と風化地(裏面)	褐色	褐色(裏面)	100 -	-
49 15	YH01 65	09T	I	Fe	風化地	鉄錆	球状	球状(表面)	褐色(地土)25YR 6/2	風化地	Ⅲ	風化地	球状	球状(表面)と風化地(裏面)	褐色	褐色(裏面)	112 -	-
49 16	YH01 116	12T	Ⅲ	Fe	風化地	鉄錆	球状	球状(表面)	褐色(地土)25YR 6/2	風化地	Ⅲ	風化地	球状	球状(表面)と風化地(裏面)	褐色	褐色(裏面)	105 -	-
49 17	YH01 72	03T	Ⅲ	Fe?	風化地	鉄錆	球状	球状(表面)	褐色(地土)25YR 6/2	風化地	Ⅲ	風化地	球状	球状(表面)と風化地(裏面)	褐色	褐色(裏面)	106 3.7	-
49 18	YH01 66	04S-T	Ⅲ	Fe	風化地	鉄錆	球状	球状(表面)	褐色(地土)25YR 6/2	風化地	Ⅲ	風化地	球状	球状(表面)と風化地(裏面)	褐色	褐色(裏面)	120 5.5	4.6
49 19	YH01 148	04S-T	Ⅲ	Fe	風化地	鉄錆	球状	球状(表面)	褐色(地土)25YR 6/2	風化地	Ⅲ	風化地	球状	球状(表面)と風化地(裏面)	褐色	褐色(裏面)	105 -	-
49 20	YH01 172	04S-T	Ⅲ	Fe	風化地	鉄錆	球状	球状(表面)	褐色(地土)25YR 6/2	風化地	Ⅲ	風化地	球状	球状(表面)と風化地(裏面)	褐色	褐色(裏面)	116 4.0	4.8
49 21	YH01 93	06T	Ⅲ	Fe	風化地	鉄錆	球状	球状(表面)	褐色(地土)25YR 6/2	風化地	Ⅲ	風化地	球状	球状(表面)と風化地(裏面)	褐色	褐色(裏面)	122 5.0	4.9
49 22	YH01 103	06T	Ⅲ	Fe	風化地	鉄錆	球状	球状(表面)	褐色(地土)25YR 6/2	風化地	Ⅲ	風化地	球状	球状(表面)と風化地(裏面)	褐色	褐色(裏面)	122 4.8	4.1
49 23	YH01 22	07T	Ⅲ	Fe	風化地	鉄錆	球状	球状(表面)	褐色(地土)25YR 6/2	風化地	Ⅲ	風化地	球状	球状(表面)と風化地(裏面)	褐色	褐色(裏面)	118 5.6	4.2
49 24	YH01 21	07T	Ⅲ	Fe	風化地	鉄錆	球状	球状(表面)	褐色(地土)25YR 6/2	風化地	Ⅲ	風化地	球状	球状(表面)と風化地(裏面)	褐色	褐色(裏面)	118 5.2	4.3
49 25	YH01 44	07S-KO	Ⅲ	Fe	風化地	鉄錆	球状	球状(表面)	褐色(地土)25YR 6/2	風化地	Ⅲ	風化地	球状	球状(表面)と風化地(裏面)	褐色	褐色(裏面)	110 3.2	3.8
49 26	YH01 65	07S-KO	Ⅲ	Fe	風化地	鉄錆	球状	球状(表面)	褐色(地土)25YR 6/2	風化地	Ⅲ	風化地	球状	球状(表面)と風化地(裏面)	褐色	褐色(裏面)	106 3.2	3.4
49 27	YH01 64	07S-KO	Ⅲ	Fe	風化地	鉄錆	球状	球状(表面)	褐色(地土)25YR 6/2	風化地	Ⅲ	風化地	球状	球状(表面)と風化地(裏面)	褐色	褐色(裏面)	120 -	-
49 28	YH01 30	10T	Ⅲ	Fe	風化地	鉄錆	球状	球状(表面)	褐色(地土)25YR 6/2	風化地	Ⅲ	風化地	球状	球状(表面)と風化地(裏面)	褐色	褐色(裏面)	116 5.1	4.7
49 29	YH01 63	07S-KO	Ⅲ	Fe	風化地	鉄錆	球状	球状(表面)	褐色(地土)25YR 6/2	風化地	Ⅲ	風化地	球状	球状(表面)と風化地(裏面)	褐色	褐色(裏面)	110 4.4	4.2
50 1	YH01 168	07S-KO	Ⅲ	Fe	風化地	鉄錆	球状	球状(表面)	褐色(地土)25YR 6/2	風化地	Ⅲ	風化地	球状	球状(表面)と風化地(裏面)	褐色	褐色(裏面)	114 -	-
50 2	YH01 131	12T	Ⅲ	Fe	風化地	鉄錆	球状	球状(表面)	褐色(地土)25YR 6/2	風化地	Ⅲ	風化地	球状	球状(表面)と風化地(裏面)	褐色	褐色(裏面)	132 5.5	4.6
50 3	YH01 140	07S-KO	Ⅲ	Fe	風化地	鉄錆	球状	球状(表面)	褐色(地土)25YR 6/2	風化地	Ⅲ	風化地	球状	球状(表面)と風化地(裏面)	褐色	褐色(裏面)	110 5.0	4.5
50 4	YH01 19	15S	Ⅲ	Fe	風化地	鉄錆	球状	球状(表面)	褐色(地土)25YR 6/2	風化地	Ⅲ	風化地	球状	球状(表面)と風化地(裏面)	褐色	褐色(裏面)	112 5.8	-
50 5	YH01 1	12T	Ⅲ	Fe	風化地	鉄錆	球状	球状(表面)	褐色(地土)25YR 6/2	風化地	Ⅲ	風化地	球状	球状(表面)と風化地(裏面)	褐色	褐色(裏面)	106 4.8	4.2
50 6	YH01 8	12T	Ⅲ	Fe	風化地	鉄錆	球状	球状(表面)	褐色(地土)25YR 6/2	風化地	Ⅲ	風化地	球状	球状(表面)と風化地(裏面)	褐色	褐色(裏面)	120 4.8	4.8
50 7	YH01 131	12T	Ⅲ	Fe	風化地	鉄錆	球状	球状(表面)	褐色(地土)25YR 6/2	風化地	Ⅲ	風化地	球状	球状(表面)と風化地(裏面)	褐色	褐色(裏面)	114 -	-
50 8	YH01 140	07S-KO	Ⅲ	Fe	風化地	鉄錆	球状	球状(表面)	褐色(地土)25YR 6/2	風化地	Ⅲ	風化地	球状	球状(表面)と風化地(裏面)	褐色	褐色(裏面)	114 -	-
50 9	YH01 111	05T	Ⅲ	Fe	風化地	鉄錆	球状	球状(表面)	褐色(地土)25YR 6/2	風化地	Ⅲ	風化地	球状	球状(表面)と風化地(裏面)	褐色	褐色(裏面)	138 -	-
50 10	YH01 109	11T	Ⅲ	Fe	風化地	鉄錆	球状	球状(表面)	褐色(地土)25YR 6/2	風化地	Ⅲ	風化地	球状	球状(表面)と風化地(裏面)	褐色	褐色(裏面)	112 5.9	3.9
50 11	YH01 30	11T	Ⅲ	Fe	風化地	鉄錆	球状	球状(表面)	褐色(地土)25YR 6/2	風化地	Ⅲ	風化地	球状	球状(表面)と風化地(裏面)	褐色	褐色(裏面)	88 4.2	4.1
50 12	YH01 120	03T	Ⅲ	Fe	風化地	鉄錆	球状	球状(表面)	褐色(地土)25YR 6/2	風化地	Ⅲ	風化地	球状	球状(表面)と風化地(裏面)	褐色	褐色(裏面)	110 -	-

Tab. 14 釧路藻跡出土遺物一覧 (2)

T/F	No.	件名	地點	性質	地層	地質 (表面)	地質 (剖面)	地層	土	鉱脈	構造の地質的特徴等			深度 (m)	地質	地層		
											岩石	地質学的特徴	地質学的特徴	地質学的特徴				
50 13	YH01 130	545-T	洞	日	風致隙	633/Hen/2071	二段の風致隙	良好	良好	良好	柱状	柱状	柱状	柱状	11.8	-	-	
50 14	YH01 2	44-T	洞	日	風致隙	633/Hen/2071	二段の風致隙	良好	良好	良好	柱状	柱状	柱状	柱状	10.4	4.0	-	
50 15	YH01 96	91-T	洞	日	風致隙	633/Hen/2071	二段の風致隙	良好	良好	良好	柱状	柱状	柱状	柱状	10.4	-	-	
50 16	YH01 317	36-T	洞	日	風致隙	633/Hen/2071	二段の風致隙	良好	良好	良好	柱状	柱状	柱状	柱状	12.0	5.8	-	
50 17	YH01 56	67-T	洞	日	風致隙	633/Hen/2071	二段の風致隙	良好	良好	良好	柱状	柱状	柱状	柱状	10.8	-	-	
50 18 31	YH01 110	107-T/60-T	洞	日	風致隙	633/Hen/2071	二段の風致隙	良好	良好	良好	柱状	柱状	柱状	柱状	11.2	4.6	3.6	
50 19	YH01 110	11-T	洞	日	風致隙	633/Hen/2071	二段の風致隙	良好	良好	良好	柱状	柱状	柱状	柱状	12.0	5.0	3.6	
50 20	YH01 110	12-T	洞	日	風致隙	633/Hen/2071	二段の風致隙	良好	良好	良好	柱状	柱状	柱状	柱状	11.2	5.1	3.8	
50 21 21	YH01 120	10-T	洞	日	風致隙	633/Hen/2071	二段の風致隙	良好	良好	良好	柱状	柱状	柱状	柱状	10.0	3.2	3.1	
50 22	YH01 115	93-T	洞	日	風致隙	633/Hen/2071	二段の風致隙	良好	良好	良好	柱状	柱状	柱状	柱状	12.0	-	-	
50 23	YH01 131	96-T	洞	日	風致隙	633/Hen/2071	二段の風致隙	良好	良好	良好	柱状	柱状	柱状	柱状	11.4	-	-	
50 24 31	YH01 131	10-T	洞	日	風致隙	633/Hen/2071	二段の風致隙	良好	良好	良好	柱状	柱状	柱状	柱状	10.0	4.7	4.2	
50 25	YH01 131	11-T	洞	日	風致隙	633/Hen/2071	二段の風致隙	良好	良好	良好	柱状	柱状	柱状	柱状	10.0	4.8	3.1	
50 26	YH01 131	11-T	洞	日	風致隙	633/Hen/2071	二段の風致隙	良好	良好	良好	柱状	柱状	柱状	柱状	11.8	5.4	3.1	
50 27	YH01 130	13-T	洞	日	石炭隙	633/Hen/2071	二段の石炭隙	良好	良好	良好	柱状	柱状	柱状	柱状	12.0	-	-	
50 28	YH01 16	12-T	洞?	日	石炭隙	633/Hen/2071	二段の石炭隙	良好	良好	良好	柱状	柱状	柱状	柱状	—	-	-	
51 1	YH01 122	03-T	洞	日	風致隙	633/Hen/2071	二段の風致隙	良好	良好	良好	柱状	柱状	柱状	柱状	—	4.0	-	
51 2	YH01 143	045-T	洞	—	風致隙	633/Hen/2071	二段の風致隙	良好	良好	良好	柱状	柱状	柱状	柱状	—	4.7	-	
51 3	YH01 177	05-T	洞	—	風致隙	633/Hen/2071	二段の風致隙	良好	良好	良好	柱状	柱状	柱状	柱状	—	5.4	-	
51 4	YH01 135	05-T	洞	—	風致隙	633/Hen/2071	二段の風致隙	良好	良好	良好	柱状	柱状	柱状	柱状	—	4.5	-	
51 5	YH01 39	01-T/60-T	洞	—	風致隙	633/Hen/2071	二段の風致隙	良好	良好	良好	柱状	柱状	柱状	柱状	—	5.0	-	
51 6	YH01 81	075-T/20-T	洞	—	風致隙	633/Hen/2071	二段の風致隙	良好	良好	良好	柱状	柱状	柱状	柱状	—	4.5	-	
51 7	YH01 74	07-T/80-T	洞	—	風致隙	633/Hen/2071	二段の風致隙	良好	良好	良好	柱状	柱状	柱状	柱状	—	4.7	-	
51 8	YH01 90	09-T	洞	—	風致隙	633/Hen/2071	二段の風致隙	良好	良好	良好	柱状	柱状	柱状	柱状	—	16	-	
51 9	YH01 131	07-T	洞	—	風致隙	633/Hen/2071	二段の風致隙	良好	良好	良好	柱状	柱状	柱状	柱状	—	4.4	-	
51 10	YH01 105	10-T	洞	—	風致隙	633/Hen/2071	二段の風致隙	良好	良好	良好	柱状	柱状	柱状	柱状	—	4.4	-	
51 11	YH01 106	11-T	洞	—	風致隙	633/Hen/2071	二段の風致隙	良好	良好	良好	柱状	柱状	柱状	柱状	—	5.3	-	
51 12	YH01 103	12-T	洞	—	風致隙	633/Hen/2071	二段の風致隙	良好	良好	良好	柱状	柱状	柱状	柱状	—	4.5	-	
51 13	YH01 106	12-T	洞	—	風致隙	633/Hen/2071	二段の風致隙	良好	良好	良好	柱状	柱状	柱状	柱状	—	4.8	-	
51 14	YH01 130	11-T	洞	—	風致隙	633/Hen/2071	二段の風致隙	良好	良好	良好	柱状	柱状	柱状	柱状	—	5.0	-	
51 15	YH01 105	10-T	洞	—	風致隙	633/Hen/2071	二段の風致隙	良好	良好	良好	柱状	柱状	柱状	柱状	—	4.6	-	
51 16	YH01 161	17-T	洞?	—	風致隙	633/Hen/2071	二段の風致隙	良好	良好	良好	柱状	柱状	柱状	柱状	—	4.6	-	
51 17	YH01 152	高層	洞?	—	風致隙	633/Hen/2071	二段の風致隙	良好	良好	良好	柱状	柱状	柱状	柱状	—	16	-	
51 18	YH01 73	06-T	洞?	—	風致隙	633/Hen/2071	二段の風致隙	良好	良好	良好	柱状	柱状	柱状	柱状	—	3.9	-	
51 19	YH01 152	12-T	洞?	—	風致隙	633/Hen/2071	二段の風致隙	良好	良好	良好	柱状	柱状	柱状	柱状	—	—	-	
51 20 31	YH01 104	11-T	洞	—	風致隙	633/Hen/2071	二段の風致隙	良好	良好	良好	柱状	柱状	柱状	柱状	—	13.0	5.2	4.2
51 21 25	YH01 99	075-T/60-T	洞?	—	風致隙	633/Hen/2071	二段の風致隙	良好	良好	良好	柱状	柱状	柱状	柱状	—	12.2	4.5	-

Tab. 14 釧路藻跡出土遺物一覧 (3)

件名	凡	N	器種	部	地質	性質	目	特徴	施用	地質	土	鐵紙	底紙	色調(底土)	施用(表面)	地	土	鐵紙	底紙	成形	縫合・接合	被覆の有無	被覆の有無	縫合の有無	口徑	底径	高さ		
S1 22			YH01 21	11-T	14	1	7	網状(底土W7)	網状(底土W7)	鐵紙?	良好?	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
S1 23	21	6	YH01 09	高麗	14	1	2	網状(底土W16)	網状(底土W16)	鐵紙?	良好?	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
S1 24			YH01 05	○(7)N(2)	14	1	7	網状(底土W16)	網状(底土W16)	鐵紙?	良好?	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
S2 1	21	10	YH01 106	9-T	145	1	44	直筒(底土W16)	直筒(底土W16)	鐵紙?	良好?	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
S2 2	21	10	YH01 173	10-T	44F	1	44	直筒(底土W16)	直筒(底土W16)	鐵紙?	良好?	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
S2 3			YH01 186	0-T	146	1	44	直筒(底土W16)	直筒(底土W16)	鐵紙?	良好?	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
S2 4			YH01 132	14-T	146	1	44	直筒(底土W16)	直筒(底土W16)	鐵紙?	良好?	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
S2 5			YH01 134	0-T	146	1	44	直筒(底土W16)	直筒(底土W16)	鐵紙?	良好?	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
S2 6	21	11	YH01 103	0-T	146	1	44	直筒(底土W16)	直筒(底土W16)	鐵紙?	良好?	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
S2 7	21	12	YH01 107	0-T	146	1	44	直筒(底土W16)	直筒(底土W16)	鐵紙?	良好?	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
S2 8			YH01 5	11-T	146	1	44	直筒(底土W16)	直筒(底土W16)	鐵紙?	良好?	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
S2 9	19	13	YH01 161	12-T	44F	1	44	直筒(底土W16)	直筒(底土W16)	鐵紙?	良好?	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
S2 10	21	13	YH01 184	12-T	44F	1	44	直筒(底土W16)	直筒(底土W16)	鐵紙?	良好?	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
S2 11			YH01 53	0-T	146	1	44	直筒(底土W16)	直筒(底土W16)	鐵紙?	良好?	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
S2 12			YH01 05	07)N(2)	146	1	44	直筒(底土W16)	直筒(底土W16)	鐵紙?	良好?	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
S2 13			YH01 16	0-T	146	1	44	直筒(底土W16)	直筒(底土W16)	鐵紙?	良好?	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
S2 14	21	14	YH01 163	0-T	146	1	44	直筒(底土W16)	直筒(底土W16)	鐵紙?	良好?	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
S2 15			YH01 70	0-T	147	1	44	直筒(底土W16)	直筒(底土W16)	鐵紙?	良好?	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
S2 16			YH01 05	07)S(2)	0	N	—	直筒(底土W16)	直筒(底土W16)	鐵紙?	良好?	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
S2 17	21	15	YH01 195	12-T	35	14	—	直筒(底土W16)	直筒(底土W16)	鐵紙?	良好?	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
S2 18			YH01 01T	0-T	147	1	44	直筒(底土W16)	直筒(底土W16)	鐵紙?	良好?	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
S2 19			YH01 0	0-T	147	1	44	直筒(底土W16)	直筒(底土W16)	鐵紙?	良好?	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
S2 20			YH01 34	12-T	147	1	44	直筒(底土W16)	直筒(底土W16)	鐵紙?	良好?	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
S2 21			YH01 106	0-T	147	1	44	直筒(底土W16)	直筒(底土W16)	鐵紙?	良好?	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
S2 22			YH01 15	11-T	147	1	44	直筒(底土W16)	直筒(底土W16)	鐵紙?	良好?	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
S2 23	21	16	YH01 60	0-T	147	1	44	直筒(底土W16)	直筒(底土W16)	鐵紙?	良好?	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
S2 24			YH01 137	13-T	147	1	44	直筒(底土W16)	直筒(底土W16)	鐵紙?	良好?	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
S2 25	2		YH01 144	14-T	147	1	44	直筒(底土W16)	直筒(底土W16)	鐵紙?	良好?	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
S2 26	21	17	YH01 61	0-T	147	1	44	直筒(底土W16)	直筒(底土W16)	鐵紙?	良好?	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
S2 27			YH01 39	12-T	147	1	44	直筒(底土W16)	直筒(底土W16)	鐵紙?	良好?	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
S2 28			YH01 126	10-T	147	1	44	直筒(底土W16)	直筒(底土W16)	鐵紙?	良好?	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
S2 29			YH01 35	0-T	147	1	44	直筒(底土W16)	直筒(底土W16)	鐵紙?	良好?	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
S2 30			YH01 13	11-T	147	1	44	直筒(底土W16)	直筒(底土W16)	鐵紙?	良好?	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
S2 31			YH01 136	10-T	147	1	44	直筒(底土W16)	直筒(底土W16)	鐵紙?	良好?	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
S2 32			YH01 36	12-T	147	1	44	直筒(底土W16)	直筒(底土W16)	鐵紙?	良好?	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
S2 33			YH01 38	0-T	147	1	44	直筒(底土W16)	直筒(底土W16)	鐵紙?	良好?	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
S2 34			YH01 22	0-T	147	1	44	直筒(底土W16)	直筒(底土W16)	鐵紙?	良好?	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
S2 35			YH01 39	11-T	147	1	44	直筒(底土W16)	直筒(底土W16)	鐵紙?	良好?	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
S2 36			YH01 14	0-T	147	1	44	直筒(底土W16)	直筒(底土W16)	鐵紙?	良好?	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
S2 37	21	18	YH01 37	0-T	147	1	44	直筒(底土W16)	直筒(底土W16)	鐵紙?	良好?	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

Tab. 14 朝鮮深跡出土遺物一覧 (4)

件名	品目	No.	発見地	層位	性質	目	分類	種類	形態(表面)	色調(裏面)	地	土	鐵板	瓦	石	焼成	輪郭・縫隙	輪郭(裏面)	輪郭の裏面焼成跡	輪郭の裏面焼成跡	法量(㌘)	備考		
53 13	YH01	68	10T	鉢	1	上灰陶	灰陶	灰陶(表面)	灰陶(裏面)	良好	タガシミナガ	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
53 14	YH01	69	01T	鉢	1	底灰陶	灰陶	灰陶(表面)	灰陶(裏面)	良好	タガシミナガ	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
53 15	YH01	100	10T	(1)灰陶?	1	底灰陶	灰陶	灰陶(表面)	灰陶(裏面)	良好	タガシミナガ	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
53 16	YH01	76	10T	11)灰陶?	1	底灰陶	灰陶	灰陶(表面)	灰陶(裏面)	良好	タガシミナガ	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
53 17	YH01	78	05T	11)灰陶?	1	底灰陶	灰陶	灰陶(表面)	灰陶(裏面)	良好	タガシミナガ	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
53 18	YH01	44	11T	11)灰陶?	1	底灰陶	灰陶	灰陶(表面)	灰陶(裏面)	良好	タガシミナガ	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
53 19	YH01	65	03T	(1)灰陶?	1	底灰陶	灰陶	灰陶(表面)	灰陶(裏面)	良好	タガシミナガ	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
53 20	YH01	94	05T	鉢	1	底灰陶	灰陶	灰陶(表面)	灰陶(裏面)	良好	タガシミナガ	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
53 21	YH01	23	12T	鉢	14	上灰陶	灰陶	灰陶(表面)	灰陶(裏面)	二八)焼成灰陶	良好	タガシミナガ	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
53 22	YH01	17	04T	鉢	14	上灰陶	灰陶	灰陶(表面)	灰陶(裏面)	二八)焼成灰陶	良好	タガシミナガ	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
53 23	YH01	95	06T	鉢	14	上灰陶	灰陶	灰陶(表面)	灰陶(裏面)	二八)焼成灰陶	良好	タガシミナガ	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
53 24	YH01	80	04T	鉢	14	上灰陶	灰陶	灰陶(表面)	灰陶(裏面)	二八)焼成灰陶	良好	タガシミナガ	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
53 25	YH01	101	06T	鉢	14	上灰陶	灰陶	灰陶(表面)	灰陶(裏面)	二八)焼成灰陶	良好	タガシミナガ	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
53 26	YH01	105	08T	鉢	14	上灰陶	灰陶	灰陶(表面)	灰陶(裏面)	二八)焼成灰陶	良好	タガシミナガ	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
53 27	YH01	106	06T	鉢	14	上灰陶	灰陶	灰陶(表面)	灰陶(裏面)	二八)焼成灰陶	良好	タガシミナガ	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
53 28	YH01	79	07T	06C?	01	1a	灰灰陶	灰陶	灰陶(表面)	灰陶(裏面)	二八)焼成灰陶	良好	タガシミナガ	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
53 29	YH01	200	12T	鉢	1a	灰灰陶	灰陶	灰陶(表面)	灰陶(裏面)	二八)焼成灰陶	良好	タガシミナガ	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
53 30	YH01	103	01T	鉢	1a	灰灰陶	灰陶	灰陶(表面)	灰陶(裏面)	二八)焼成灰陶	良好	タガシミナガ	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
53 31	YH01	198	12T	鉢?	—	灰灰陶	灰陶	灰陶(表面)	灰陶(裏面)	二八)焼成灰陶	良好	タガシミナガ	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
53 32	YH01	36	01T	06C?	01	—	灰灰陶	灰陶	灰陶(表面)	灰陶(裏面)	二八)焼成灰陶	良好	タガシミナガ	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
53 33	YH01	23	11T	鉢	1a	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?		
54 1	YH01	26	01T	鐵?	11	上灰陶	鉄	鉄(表面)	鉄(裏面)	良好	タガシミナガ	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
54 2	YH01	134	12T	鐵?	—	上灰陶	鉄	鉄(表面)	鉄(裏面)	良好	タガシミナガ	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
54 3	YH01	11	18T	鐵?	01T	鉢?	鉄	鉄(表面)	鉄(裏面)	良好	タガシミナガ	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
54 4	YH01	20	10T	25	09T	1/11	鉢?	鉄	鉄(表面)	鉄(裏面)	良好	タガシミナガ	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
54 5	YH01	101	00T	1/11	鉢?	鉄	鉄	鉄(表面)	鉄(裏面)	良好	タガシミナガ	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
54 6	YH01	35	01T	1/1	鉢?	鉄	鉄	鉄(表面)	鉄(裏面)	良好	タガシミナガ	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
54 7	YH01	26	01T	1/11	鉢?	鉄	鉄	鉄(表面)	鉄(裏面)	良好	タガシミナガ	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
54 8	YH01	30	04T	1/1	鉢?	鉄	鉄	鉄(表面)	鉄(裏面)	良好	タガシミナガ	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
54 9	YH01	10	11T	1/11	鉢?	鉄	鉄	鉄(表面)	鉄(裏面)	良好	タガシミナガ	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
54 10	YH01	32	01T	1/11	鉢?	鉄	鉄	鉄(表面)	鉄(裏面)	良好	タガシミナガ	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
54 11	YH01	102	06T	03/03/01	1/1	上灰陶	鉄	鉄(表面)	鉄(裏面)	良好	タガシミナガ	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
54 12	YH01	60	06T	1	鉢?	鉄	鉄	鉄(表面)	鉄(裏面)	良好	タガシミナガ	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
54 13	YH01	36	03T	1	鉢?	鉄	鉄	鉄(表面)	鉄(裏面)	良好	タガシミナガ	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
54 14	YH01	199	12T	鉢?	—	上灰陶	鉄	鉄(表面)	鉄(裏面)	良好	タガシミナガ	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
54 15	YH01	34	06T	1	鉢?	鉄	鉄	鉄(表面)	鉄(裏面)	良好	タガシミナガ	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		

Tab. 14 釧路藻跡出土遺物一覧 (5)

番号	品目	形	寸法	材質	経年変化・状況		測定の六面体平均値	測定値 (cm)	備考
					初期	後期			
67-1	YMH-02-54	三脚	1.8	上部脚	底付	底付	底付	1.8	上部脚
67-2	YMH-02-43	三脚	1.8	上部脚	底付	底付	底付	1.8	上部脚
67-3	YMH-02-201	三脚	1.8	上部脚	底付	底付	底付	1.8	上部脚
67-4	YMH-02-43	三脚	1.8	上部脚	底付	底付	底付	1.8	上部脚
67-5	YMH-02-44	三脚	1.8	上部脚	底付	底付	底付	1.8	上部脚
67-6	YMH-02-37	三脚	1.8	上部脚	底付	底付	底付	1.8	上部脚
67-7	YMH-02-73	三脚	1.8	上部脚	底付	底付	底付	1.8	上部脚
67-8	YMH-02-40	三脚	1.8	上部脚	底付	底付	底付	1.8	上部脚
67-9	YMH-02-111	三脚	1.8	上部脚	底付	底付	底付	1.8	上部脚
67-10	YMH-02-15	三脚	1.8	上部脚	底付	底付	底付	1.8	上部脚
67-11	YMH-02-76	三脚	1.8	上部脚	底付	底付	底付	1.8	上部脚
67-12	YMH-02-95	三脚	1.8	上部脚	底付	底付	底付	1.8	上部脚
67-13	YMH-02-66	三脚	1.8	上部脚	底付	底付	底付	1.8	上部脚
67-14	YMH-02-113	三脚	1.8	上部脚	底付	底付	底付	1.8	上部脚
67-15	YMH-02-98	三脚	1.8	上部脚	底付	底付	底付	1.8	上部脚
67-16	YMH-02-91	三脚	1.8	上部脚	底付	底付	底付	1.8	上部脚
67-17	YMH-02-21	三脚	5	下脚	底付	底付	底付	5	下脚
67-18	YMH-02-96	三脚	1.8	上部脚	底付	底付	底付	1.8	上部脚
67-19	YMH-02-98	三脚	1.8	上部脚	底付	底付	底付	1.8	上部脚
67-20	YMH-02-110	三脚	1.8	上部脚	底付	底付	底付	1.8	上部脚
67-21	YMH-02-29	三脚	1.8	上部脚	底付	底付	底付	1.8	上部脚
67-22	YMH-02-47	—	1.8	上部脚	底付	底付	底付	1.8	上部脚
67-23	YMH-02-253	—	1.8	上部脚	底付	底付	底付	1.8	上部脚
67-24	YMH-02-67	—	1.8	上部脚	底付	底付	底付	1.8	上部脚
67-25	YMH-02-97	—	1.8	上部脚	底付	底付	底付	1.8	上部脚
67-26	YMH-02-31	三脚	1.8	上部脚	底付	底付	底付	1.8	上部脚
67-27	YMH-02-47	—	1.8	上部脚	底付	底付	底付	1.8	上部脚
67-28	YMH-02-23	三脚	1.8	上部脚	底付	底付	底付	1.8	上部脚
67-29	YMH-02-78	三脚	1.8	上部脚	底付	底付	底付	1.8	上部脚
67-30	YMH-02-94	三脚	1.8	上部脚	底付	底付	底付	1.8	上部脚
67-31	YMH-02-80	三脚	1.8	上部脚	底付	底付	底付	1.8	上部脚
67-32	YMH-02-44	三脚	1.8	上部脚	底付	底付	底付	1.8	上部脚
67-33	YMH-02-24	三脚	1.8	上部脚	底付	底付	底付	1.8	上部脚
67-34	YMH-02-40	三脚	1.8	上部脚	底付	底付	底付	1.8	上部脚
67-35	YMH-02-34	三脚	1.8	上部脚	底付	底付	底付	1.8	上部脚
67-36	YMH-02-242	P-4	1.8	上部脚	底付	底付	底付	1.8	上部脚
67-37	YMH-02-71	三脚	1.8	上部脚	底付	底付	底付	1.8	上部脚
67-38	YMH-02-204	三脚	1.8	上部脚	底付	底付	底付	1.8	上部脚
67-39	YMH-02-94	三脚	1.8	上部脚	底付	底付	底付	1.8	上部脚
67-40	YMH-02-200	三脚	1.8	上部脚	底付	底付	底付	1.8	上部脚
68-1	YMH-02-125	三脚	1.8	上部脚	底付	底付	底付	1.8	上部脚
68-2	YMH-02-3	三脚	1.8	上部脚	底付	底付	底付	1.8	上部脚
68-3	YMH-02-24	三脚	1.8	上部脚	底付	底付	底付	1.8	上部脚

Tab. 15 飲食器類跡出土遺物一覧 第1次～3次（1）

番号	品目	形	寸法	材質	表面処理	色調(参考)	組成	部	寸法	組成の内訳		備考
										部	寸法	
66. 4	21	25	YH.02. 2	7.7	丸	1.4	上端部 丸型	丸型	1.4	内側 外側	内側 外側	内側 外側
66. 5	YH.01. 30	—	丸?	—	丸型	—	内側 外側	内側 外側	—	内側 外側	内側 外側	内側 外側
66. 6	YH.02. 26	丸?	—	丸型	—	内側 外側	内側 外側	内側 外側	—	内側 外側	内側 外側	内側 外側
66. 7	YH.02. 52	丸	3.8	丸型	—	内側 外側	内側 外側	内側 外側	—	内側 外側	内側 外側	内側 外側
66. 8	YH.02. 62	丸?	—	丸型	—	内側 外側	内側 外側	内側 外側	—	内側 外側	内側 外側	内側 外側
66. 9	YH.02. 37	丸?	—	丸型	—	内側 外側	内側 外側	内側 外側	—	内側 外側	内側 外側	内側 外側
66. 10	YH.01. 130	—	丸	—	丸型	—	内側 外側	内側 外側	—	内側 外側	内側 外側	内側 外側
66. 11	YH.02. 60	丸?	—	丸型	—	内側 外側	内側 外側	内側 外側	—	内側 外側	内側 外側	内側 外側
66. 12	YH.02. 154	丸?	1.8	丸型	—	内側 外側	内側 外側	内側 外側	—	内側 外側	内側 外側	内側 外側
66. 13	YH.02. 268	丸?	1.4	丸型	—	内側 外側	内側 外側	内側 外側	—	内側 外側	内側 外側	内側 外側
66. 14	YH.02. 216	丸?	1.6	丸型	—	内側 外側	内側 外側	内側 外側	—	内側 外側	内側 外側	内側 外側
66. 15	YH.02. 171	丸?	1.4	丸型	—	内側 外側	内側 外側	内側 外側	—	内側 外側	内側 外側	内側 外側
66. 16	YH.02. 209	丸?	1.6	丸型	—	内側 外側	内側 外側	内側 外側	—	内側 外側	内側 外側	内側 外側
66. 17	YH.02. 173	丸?	1.7	丸型	—	内側 外側	内側 外側	内側 外側	—	内側 外側	内側 外側	内側 外側
66. 18	YH.02. 136	丸?	—	丸型	—	内側 外側	内側 外側	内側 外側	—	内側 外側	内側 外側	内側 外側
66. 19	YH.02. 196	丸?	—	丸型	—	内側 外側	内側 外側	内側 外側	—	内側 外側	内側 外側	内側 外側
66. 20	YH.02. 83	丸?	—	丸型	—	内側 外側	内側 外側	内側 外側	—	内側 外側	内側 外側	内側 外側
66. 21	YH.02. 90	丸?	—	丸型	—	内側 外側	内側 外側	内側 外側	—	内側 外側	内側 外側	内側 外側
66. 22	YH.02. 246	丸?	—	丸型	—	内側 外側	内側 外側	内側 外側	—	内側 外側	内側 外側	内側 外側
66. 23	YH.02. 249	A.T	—	丸型	—	内側 外側	内側 外側	内側 外側	—	内側 外側	内側 外側	内側 外側
66. 24	YH.02. 198	丸?	—	丸型	—	内側 外側	内側 外側	内側 外側	—	内側 外側	内側 外側	内側 外側
66. 25	YH.02. 248	TT	—	丸型	—	内側 外側	内側 外側	内側 外側	—	内側 外側	内側 外側	内側 外側
66. 26	YH.02. 269	丸?	N	丸型	—	内側 外側	内側 外側	内側 外側	—	内側 外側	内側 外側	内側 外側
66. 27	YH.02. 36	丸?	N	丸型	—	内側 外側	内側 外側	内側 外側	—	内側 外側	内側 外側	内側 外側
66. 28	YH.02. 29	丸?	N	丸型	—	内側 外側	内側 外側	内側 外側	—	内側 外側	内側 外側	内側 外側
66. 29	YH.02. 61	丸?	N	丸型	—	内側 外側	内側 外側	内側 外側	—	内側 外側	内側 外側	内側 外側
66. 30	YH.01. 96	—	丸	—	丸型	—	内側 外側	内側 外側	—	内側 外側	内側 外側	内側 外側
66. 31	YH.02. 199	丸?	N	丸型	—	内側 外側	内側 外側	内側 外側	—	内側 外側	内側 外側	内側 外側
66. 32	YH.02. 144	丸?	N	丸型	—	内側 外側	内側 外側	内側 外側	—	内側 外側	内側 外側	内側 外側
66. 33	YH.02. 120	—	丸	—	丸型	—	内側 外側	内側 外側	—	内側 外側	内側 外側	内側 外側
66. 34	YH.02. 245	丸?	N	丸型	—	内側 外側	内側 外側	内側 外側	—	内側 外側	内側 外側	内側 外側
66. 35	YH.02. 190	丸?	N	丸型	—	内側 外側	内側 外側	内側 外側	—	内側 外側	内側 外側	内側 外側
66. 36	YH.02. 30	丸?	N	丸型	—	内側 外側	内側 外側	内側 外側	—	内側 外側	内側 外側	内側 外側
66. 37	YH.02. 107	丸?	N	丸型	—	内側 外側	内側 外側	内側 外側	—	内側 外側	内側 外側	内側 外側
66. 38	YH.02. 247	丸?	N	丸型	—	内側 外側	内側 外側	内側 外側	—	内側 外側	内側 外側	内側 外側
66. 39	YH.02. 114	丸?	N	丸型	—	内側 外側	内側 外側	内側 外側	—	内側 外側	内側 外側	内側 外側
66. 40	YH.02. 142	丸?	N	丸型	—	内側 外側	内側 外側	内側 外側	—	内側 外側	内側 外側	内側 外側
66. 41	YH.02. 122	丸?	N	丸型	—	内側 外側	内側 外側	内側 外側	—	内側 外側	内側 外側	内側 外側
66. 42	YH.02. 244	丸?	N	丸型	—	内側 外側	内側 外側	内側 外側	—	内側 外側	内側 外側	内側 外側
66. 43	YH.02. 105	—	丸	—	丸型	—	内側 外側	内側 外側	—	内側 外側	内側 外側	内側 外側
66. 44	YH.02. 123	丸?	N	丸型	—	内側 外側	内側 外側	内側 外側	—	内側 外側	内側 外側	内側 外側

Tab. 15 飲食器類窯跡出土遺物一覧 第1次～3次（2）

品番	No.	名前	説明	部類	色調(赤土)	焼成	施	土	成形	縦横(約)×高さ(約)cm		備考の文面記載箇所	備考の文面記載箇所
										横	縦		
69 15	YH1.02 60	27	陶	土	土褐色?	土器	灰陶(赤土)	土器	手打	11.0	5.3	6.9	
69 16	YH1.02 1	27	陶	土	土褐色?	土器	灰陶(赤土)	土器	手打	11.0	5.3	6.9	
69 17	YH1.02 34	31	陶	土	土褐色?	土器	灰陶(赤土)	土器	手打	11.0	5.3	6.9	
69 18	YH1.02 66	27	陶	土	土褐色?	土器	灰陶(赤土)	土器	手打	11.0	5.3	6.9	
69 19	YH1.02 75	—	陶	土	土褐色?	土器	灰陶(赤土)	土器	手打	11.0	5.3	6.9	
69 20	YH1.02 71	31	陶	土	土褐色?	土器	灰陶(赤土)	土器	手打	11.0	5.3	6.9	
69 21	YH1.02 34	27	陶	土	土褐色?	土器	灰陶(赤土)	土器	手打	11.0	5.3	6.9	
70 1	YH1.02 135	31	陶	土	土褐色?	土器	灰陶(赤土)	土器	手打	11.0	5.3	6.9	
70 2	YH1.02 89	67	陶	土	土褐色?	土器	灰陶(赤土)	土器	手打	11.0	5.3	6.9	
70 3	YH1.02 105	87	陶	土	土褐色?	土器	灰陶(赤土)	土器	手打	11.0	5.3	6.9	
70 4	YH1.02 124	—	陶	土	土褐色?	土器	灰陶(赤土)	土器	手打	11.0	5.3	6.9	
70 5	YH1.02 133	57	陶	土	土褐色?	土器	灰陶(赤土)	土器	手打	11.0	5.3	6.9	
70 6	YH1.02 120	31	陶	土	土褐色?	土器	灰陶(赤土)	土器	手打	11.0	5.3	6.9	
70 7	YH1.02 112	31	陶	土	土褐色?	土器	灰陶(赤土)	土器	手打	11.0	5.3	6.9	
70 8	YH1.02 96	27	陶	土	土褐色?	土器	灰陶(赤土)	土器	手打	11.0	5.3	6.9	
70 9	YH1.02 106	11	陶	土	土褐色?	土器	灰陶(赤土)	土器	手打	11.0	5.3	6.9	
70 10	YH1.02 84	37	陶?	—	土褐色?	土器	灰陶(赤土)	土器	手打	11.0	5.3	6.9	
70 11	YH1.02 106	11	陶	土	土褐色?	土器	灰陶(赤土)	土器	手打	11.0	5.3	6.9	
70 12	YH1.02 129	31	陶	土	土褐色?	土器	灰陶(赤土)	土器	手打	11.0	5.3	6.9	
70 13	YH1.02 106	31	陶	土	土褐色?	土器	灰陶(赤土)	土器	手打	11.0	5.3	6.9	
70 14	YH1.02 141	17	陶	土	土褐色?	土器	灰陶(赤土)	土器	手打	11.0	5.3	6.9	
70 15	YH1.02 105	31	陶	土	土褐色?	土器	灰陶(赤土)	土器	手打	11.0	5.3	6.9	
70 16	YH1.02 100	31	陶	土	土褐色?	土器	灰陶(赤土)	土器	手打	11.0	5.3	6.9	
70 17	YH1.02 137	31	陶	土	土褐色?	土器	灰陶(赤土)	土器	手打	11.0	5.3	6.9	
70 18	YH1.02 131	31	陶	土	土褐色?	土器	灰陶(赤土)	土器	手打	11.0	5.3	6.9	
70 19	YH1.02 144	—	陶	土	土褐色?	土器	灰陶(赤土)	土器	手打	11.0	5.3	6.9	
70 20	YH1.02 107	57	陶	土	土褐色?	土器	灰陶(赤土)	土器	手打	11.0	5.3	6.9	
70 21	YH1.02 121	31	陶?	土	土褐色?	土器	灰陶(赤土)	土器	手打	11.0	5.3	6.9	
70 22	YH1.02 122	31	陶?	土	土褐色?	土器	灰陶(赤土)	土器	手打	11.0	5.3	6.9	
70 23	YH1.02 120	31	陶?	土	土褐色?	土器	灰陶(赤土)	土器	手打	11.0	5.3	6.9	
70 24	YH1.02 126	—	陶?	土	土褐色?	土器	灰陶(赤土)	土器	手打	11.0	5.3	6.9	
70 25	YH1.02 125	31	陶?	土	土褐色?	土器	灰陶(赤土)	土器	手打	11.0	5.3	6.9	
70 26	YH1.02 120	31	陶?	土	土褐色?	土器	灰陶(赤土)	土器	手打	11.0	5.3	6.9	
70 27	YH1.02 120	31	陶?	土	土褐色?	土器	灰陶(赤土)	土器	手打	11.0	5.3	6.9	
70 28	YH1.02 127	31	陶?	土	土褐色?	土器	灰陶(赤土)	土器	手打	11.0	5.3	6.9	
70 29	YH1.02 121	97	陶?	土	土褐色?	土器	灰陶(赤土)	土器	手打	11.0	5.3	6.9	
70 30	YH1.02 102	31	陶?	土	土褐色?	土器	灰陶(赤土)	土器	手打	11.0	5.3	6.9	
70 31	YH1.02 103	31	陶?	土	土褐色?	土器	灰陶(赤土)	土器	手打	11.0	5.3	6.9	
70 32	YH1.02 138	31	陶?	土	土褐色?	土器	灰陶(赤土)	土器	手打	11.0	5.3	6.9	
70 33	YH1.02 141	97	陶?	土	土褐色?	土器	灰陶(赤土)	土器	手打	11.0	5.3	6.9	
70 34	YH1.02 125	—	陶?	土	土褐色?	土器	灰陶(赤土)	土器	手打	11.0	5.3	6.9	
70 35	YH1.02 102	97	陶?	土	土褐色?	土器	灰陶(赤土)	土器	手打	11.0	5.3	6.9	

Tab. 15 飲食器窯跡出土遺物一覧 第1次～3次(3)

Tab. 15 飯洞甕窯跡出土遺物一覽 第1次～3次 (4)

器 物	形	規	形	定	形	規	形	定	形	規	形	規	形	規	形	規	形	規	形	規
	形	規	形	定		形	規	形	定		形	規		形	規	形	規	形	規	
T2 2	W1.02 23.1	3.7	W1.04	目	上端狭	—	—	W1.02 23.0	3.7	W1.04	目	上端狭	—	W1.02 23.0	3.7	W1.04	目	上端狭	—	
T2 3	W1.02 23.0	3.7	W1.04	目	上端狭	—	—	W1.02 23.0	3.7	W1.04	目	上端狭	—	W1.02 23.0	3.7	W1.04	目	上端狭	—	
T2 4	W1.02 22.9	3.7	W1.04	目	上端狭	—	—	W1.02 22.9	3.7	W1.04	目	上端狭	—	W1.02 22.9	3.7	W1.04	目	上端狭	—	
T2 5	W1.02 23.5	3.7	W1.04	目	上端狭	—	—	W1.02 23.5	3.7	W1.04	目	上端狭	—	W1.02 23.5	3.7	W1.04	目	上端狭	—	
T2 6	W1.02 22.7	3.7	W1.04	目	上端狭	—	—	W1.02 22.7	3.7	W1.04	目	上端狭	—	W1.02 22.7	3.7	W1.04	目	上端狭	—	
T2 7	W1.02 22.6	3.7	W1.04	目	上端狭	—	—	W1.02 22.6	3.7	W1.04	目	上端狭	—	W1.02 22.6	3.7	W1.04	目	上端狭	—	
T2 8	W1.02 23.0	3.7	W1.04	目	上端狭	—	—	W1.02 23.0	3.7	W1.04	目	上端狭	—	W1.02 23.0	3.7	W1.04	目	上端狭	—	
T2 9	W1.02 22.9	3.7	W1.04	目	上端狭	—	—	W1.02 22.9	3.7	W1.04	目	上端狭	—	W1.02 22.9	3.7	W1.04	目	上端狭	—	
T2 10	W1.02 22.8	3.7	W1.04	目	上端狭	—	—	W1.02 22.8	3.7	W1.04	目	上端狭	—	W1.02 22.8	3.7	W1.04	目	上端狭	—	
T2 11 22	W1.02 24.5	—	W1.	目	上端狭	—	—	W1.02 24.5	—	W1.	目	上端狭	—	W1.02 24.5	—	W1.	目	上端狭	—	
T2 12	W1.02 196	—	W1.	目	上端狭	—	—	W1.02 196	—	W1.	目	上端狭	—	W1.02 196	—	W1.	目	上端狭	—	
T2 13	W1.02 195	4.1	W1.	目	上端狭	—	—	W1.02 195	4.1	W1.	目	上端狭	—	W1.02 195	4.1	W1.	目	上端狭	—	
T2 14	W1.02 247	2.7	W1.	目	上端狭	—	—	W1.02 247	2.7	W1.	目	上端狭	—	W1.02 247	2.7	W1.	目	上端狭	—	
T2 15	W1.02 199	2.7	W1.	目	上端狭	—	—	W1.02 199	2.7	W1.	目	上端狭	—	W1.02 199	2.7	W1.	目	上端狭	—	
T2 16	W1.02 245	3.7	W1.	目	上端狭	—	—	W1.02 245	3.7	W1.	目	上端狭	—	W1.02 245	3.7	W1.	目	上端狭	—	
T2 17	W1.02 245	—	W1.	目	上端狭	—	—	W1.02 245	—	W1.	目	上端狭	—	W1.02 245	—	W1.	目	上端狭	—	
T2 18	W1.02 199	3.7	W1.	目	上端狭	—	—	W1.02 199	3.7	W1.	目	上端狭	—	W1.02 199	3.7	W1.	目	上端狭	—	
T2 19	W1.02 246	—	W1.	目	上端狭	—	—	W1.02 246	—	W1.	目	上端狭	—	W1.02 246	—	W1.	目	上端狭	—	
T2 20	W1.02 246	—	W1.	目	上端狭	—	—	W1.02 246	—	W1.	目	上端狭	—	W1.02 246	—	W1.	目	上端狭	—	
T2 21	W1.02 246	—	W1.	目	上端狭	—	—	W1.02 246	—	W1.	目	上端狭	—	W1.02 246	—	W1.	目	上端狭	—	
T2 22	W1.02 246	—	W1.	目	上端狭	—	—	W1.02 246	—	W1.	目	上端狭	—	W1.02 246	—	W1.	目	上端狭	—	
T2 23	W1.02 246	—	W1.	目	上端狭	—	—	W1.02 246	—	W1.	目	上端狭	—	W1.02 246	—	W1.	目	上端狭	—	

Tab. 15 飲食器類跡出土遺物一覧 第1次～3次(5)

Tab. 15 飯洞甕窯跡出土遺物一覽 第1次～3次 (6)

件番	品名	形態	主成分	性状	表面・底面		測定値(%)	測定値(%)	測定値(%)
					底面	表面			
77-6	YMH101-09	直筒	N	1.25	上端部 底面	底面 底面	7.4%	7.4%	7.4%
77-7	YMH101-30	直筒	N	1.25	上端部 底面	底面 底面	7.4%	7.4%	7.4%
77-8	YMH101-35	直筒?	N	1.25	上端部 底面	底面 底面	7.4%	7.4%	7.4%
77-9	YMH101-96	直筒	N	1.25	上端部 底面	底面 底面	7.4%	7.4%	7.4%
77-10	YMH101-40	直筒	N	1.25	上端部 底面	底面 底面	7.4%	7.4%	7.4%
77-11	YMH101-84	直筒	N	1.25	上端部 底面	底面 底面	7.4%	7.4%	7.4%
77-12	YMH101-95	直筒	Ba	1.33	上端部 底面	底面 底面	7.4%	7.4%	7.4%
77-13	YMH101-37	直筒	Ba	1.33	上端部 底面	底面 底面	7.4%	7.4%	7.4%
77-14	YMH101-15	直筒	Ba	1.33	上端部 底面	底面 底面	7.4%	7.4%	7.4%
77-15	YMH101-33	直筒	Ba	1.33	上端部 底面	底面 底面	7.4%	7.4%	7.4%
77-16	YMH101-85	直筒?	Ba	1.33	上端部 底面	底面 底面	7.4%	7.4%	7.4%
77-17	YMH101-11	直筒	Ba	1.33	上端部 底面	底面 底面	7.4%	7.4%	7.4%
77-18	YMH101-90	直筒?	—	1.55	上端部 底面	底面 底面	7.4%	7.4%	7.4%
77-19	YMH101-28	直筒	—	1.55	上端部 底面	底面 底面	7.4%	7.4%	7.4%
77-20	YMH101-32	直筒	—	1.55	上端部 底面	底面 底面	7.4%	7.4%	7.4%
77-21	YMH101-96	直筒	B	2.15	上端部 底面	底面 底面	7.4%	7.4%	7.4%
77-22	YMH101-33	直筒	B	2.15	上端部 底面	底面 底面	7.4%	7.4%	7.4%
77-23	YMH101-37	直筒	B	2.15	上端部 底面	底面 底面	7.4%	7.4%	7.4%
78-1	YMH101-49	直筒?	—	2.05	上端部 底面	底面 底面	7.4%	7.4%	7.4%
78-2	YMH101-31	直筒	—	2.05	上端部 底面	底面 底面	7.4%	7.4%	7.4%
78-3	YMH101-40	直筒?	—	2.05	上端部 底面	底面 底面	7.4%	7.4%	7.4%
78-4	YMH101-44	直筒?	—	2.15	上端部 底面	底面 底面	7.4%	7.4%	7.4%
78-5	YMH101-20	直筒?	—	2.55	上端部 底面	底面 底面	7.4%	7.4%	7.4%
78-6	YMH101-24	直筒	—	2.55	上端部 底面	底面 底面	7.4%	7.4%	7.4%
78-7	YMH101-31	直筒	—	2.55	上端部 底面	底面 底面	7.4%	7.4%	7.4%
78-8	YMH101-80	直筒?	—	2.55	上端部 底面	底面 底面	7.4%	7.4%	7.4%
78-9	YMH101-36	直筒?	Ba	1.14	右端部 底面	底面 底面	7.4%	7.4%	7.4%
78-10	YMH101-4	直筒?	Ba	1.14	右端部 底面	底面 底面	7.4%	7.4%	7.4%
78-11	YMH101-34	直筒?	Ba	1.14	右端部 底面	底面 底面	7.4%	7.4%	7.4%
78-12	YMH101-94	直筒?	Ba	1.14	右端部 底面	底面 底面	7.4%	7.4%	7.4%
78-13	YMH101-21	直筒?	Ba	1.14	右端部 底面	底面 底面	7.4%	7.4%	7.4%
78-14	YMH101-91	直筒?	Ba	1.14	右端部 底面	底面 底面	7.4%	7.4%	7.4%

Tab. 15 飲食器窯跡出土遺物一覧 第1次～3次(7)

件番	所	名	属性	出土地點	種	分類	性質	地質	地層	埋蔵状況		測量(2m)	口徑(直)×高さ(横)	備考
										位置	深度(土)			
78-15	YH-103	35.	2T	II	15a?	人骨	骨	砂岩(He-230V)	砂岩(He-230V)	砂岩(He-230V)	砂岩(He-230V)	—	—	—
78-16	YH-103	43.	2T	小斜	II	303	骨	砂岩(He-230V)	砂岩(He-230V)	砂岩(He-230V)	砂岩(He-230V)	—	—	—
78-17	YH-103	31.	3T	24?	II	205	人骨	砂岩(He-230V)	砂岩(He-230V)	砂岩(He-230V)	砂岩(He-230V)	—	—	—
78-18	YH-103	71.	2T	24b?	II	2505	骨(頭骨)	砂岩(He-230V)	砂岩(He-230V)	砂岩(He-230V)	砂岩(He-230V)	—	—	—
78-19	YH-103	96.	2T	24b?	II	2105	骨(頭骨)	砂岩(He-230V)	砂岩(He-230V)	砂岩(He-230V)	砂岩(He-230V)	—	—	—
79-1	22	20	YH-103	37.	2T	骨料	II	2600	人骨	砂岩(He-230V)	砂岩(He-230V)	—	—	—
79-2	YH-103	36.	2T	骨料	II	2605	人骨	砂岩(He-230V)	砂岩(He-230V)	砂岩(He-230V)	砂岩(He-230V)	—	—	—
79-3	22	19	YH-103	83.	2T	骨料	II	2605	人骨	砂岩(He-230V)	砂岩(He-230V)	—	—	—
79-4	YH-103	66.	2T	骨料	II	2605	人骨	砂岩(He-230V)	砂岩(He-230V)	砂岩(He-230V)	砂岩(He-230V)	—	—	—
79-5	YH-103	60.	2T	骨料	II	2605	人骨	砂岩(He-230V)	砂岩(He-230V)	砂岩(He-230V)	砂岩(He-230V)	—	—	—
79-6	YH-103	40.	2T	骨料	II	2605	人骨	砂岩(He-230V)	砂岩(He-230V)	砂岩(He-230V)	砂岩(He-230V)	—	—	—
79-7	YH-103	61.	2T	骨料	II	2605	人骨	砂岩(He-230V)	砂岩(He-230V)	砂岩(He-230V)	砂岩(He-230V)	—	—	—
79-8	YH-103	62.	2T	骨料	I	2605	人骨	砂岩(He-230V)	砂岩(He-230V)	砂岩(He-230V)	砂岩(He-230V)	—	—	—
79-9	YH-103	34.	2T	骨料	II	2605	人骨	砂岩(He-230V)	砂岩(He-230V)	砂岩(He-230V)	砂岩(He-230V)	—	—	—
79-10	YH-103	35.	2T	骨料	II	2605	人骨	砂岩(He-230V)	砂岩(He-230V)	砂岩(He-230V)	砂岩(He-230V)	—	—	—
79-11	YH-103	26.	2T	骨料	II	2605	人骨	砂岩(He-230V)	砂岩(He-230V)	砂岩(He-230V)	砂岩(He-230V)	—	—	—
79-12	YH-103	39.	2T	骨料	II	2605	人骨	砂岩(He-230V)	砂岩(He-230V)	砂岩(He-230V)	砂岩(He-230V)	—	—	—
79-13	YH-103	83.	2T	骨	—	2105	人骨	砂岩(He-230V)	砂岩(He-230V)	砂岩(He-230V)	砂岩(He-230V)	—	—	—
79-14	YH-103	64.	2T	骨	II	2105	人骨	砂岩(He-230V)	砂岩(He-230V)	砂岩(He-230V)	砂岩(He-230V)	—	—	—
79-15	YH-103	75.	2T	骨	II	2605	人骨	砂岩(He-230V)	砂岩(He-230V)	砂岩(He-230V)	砂岩(He-230V)	—	—	—
79-16	YH-103	70.	2T	骨?	—	2105	人骨	砂岩(He-230V)	砂岩(He-230V)	砂岩(He-230V)	砂岩(He-230V)	—	—	—
80-1	YH-103	73.	3T	骨?	I	2105	人骨	砂岩(He-230V)	砂岩(He-230V)	砂岩(He-230V)	砂岩(He-230V)	—	—	—
80-2	YH-103	65.	2T	[1]134?	II	2105	人骨	砂岩(He-230V)	砂岩(He-230V)	砂岩(He-230V)	砂岩(He-230V)	—	—	—
80-3	YH-103	74.	2T	[1]134?	II	2405	人骨	砂岩(He-230V)	砂岩(He-230V)	砂岩(He-230V)	砂岩(He-230V)	—	—	—
80-4	YH-103	66.	2T	[1]134?	II	2405	人骨	砂岩(He-230V)	砂岩(He-230V)	砂岩(He-230V)	砂岩(He-230V)	—	—	—
80-5	20	21	YH-103	200.	3T	骨	—	2105	人骨	砂岩(He-230V)	砂岩(He-230V)	砂岩(He-230V)	砂岩(He-230V)	—
80-6	YH-103	96.	2T	骨	II	2105	人骨	砂岩(He-230V)	砂岩(He-230V)	砂岩(He-230V)	砂岩(He-230V)	—	—	—
80-7	YH-103	72.	2T	骨?	—	2605	人骨	砂岩(He-230V)	砂岩(He-230V)	砂岩(He-230V)	砂岩(He-230V)	—	—	—
80-8	YH-103	67.	2T	骨	—	2105	人骨	砂岩(He-230V)	砂岩(He-230V)	砂岩(He-230V)	砂岩(He-230V)	—	—	—

Tab. 15 飲洞廻跡出土遺物一覧 第1次～3次(8)

Tab. 16 飯洞甕窯跡出土遺物一覽 第4次・5次(1)

Tab. 16 飯洞甕窯跡出土遺物一覽 第4次・5次(2)

Tab. 16 飯洞甕窯跡出土遺物一覽 第4次・5次 (3)

T/No.	T/No.	遺物名	出土場所	目	性質	形	土	成形	測量 (cm)		備註(外観調査所)	寸法(外観調査所)
									長	幅		
86. 23	37	縫合針	14	上端	木製	木製(木製骨)	BFH	直角	—	—	—	—
87. 1	20. 18	YOSH1	37	縫合針	木	木製	木製(木製骨)	BFH	直角	—	—	—
87. 2	34	YOSH601	33	上端	木製	木製(木製骨)	BFH	直角	—	—	—	—
87. 3	22	YOSH700	33	上端	木製	木製(木製骨)	BFH	直角	—	—	—	—
87. 4	36	YOSH1	36	縫合針	木	木製	木製(木製骨)	BFH	直角	—	—	—
87. 5	32. 19	YOSH1	35	縫合針	木	木製	木製(木製骨)	BFH	直角	—	—	—
87. 6	7	YOSH1	41	縫合針	木	木製	木製(木製骨)	BFH	直角	—	—	—
87. 7	3	YOSH1	41	縫合針	木	木製	木製(木製骨)	BFH	直角	—	—	—
87. 8	9	YOSH1	42	縫合針	木	木製	木製(木製骨)	BFH	直角	—	—	—
87. 9	10	YOSH1	42	縫合針	木	木製	木製(木製骨)	BFH	直角	—	—	—
87. 11	20. 17	YOSH1	3	縫合針	木	木製	木製(木製骨)	BFH	直角	—	—	—
87. 12	3	YOSH1	2	縫合針	木	木製	木製(木製骨)	BFH	直角	—	—	—
87. 13	12	YOSH1	2	縫合針	木	木製	木製(木製骨)	BFH	直角	—	—	—
87. 14	2	YOSH1	3	縫合針	木	木製	木製(木製骨)	BFH	直角	—	—	—
87. 15	16	YOSH1	16	縫合針	木	木製	木製(木製骨)	BFH	直角	—	—	—
87. 16	19	YOSH1	19	縫合針	木	木製	木製(木製骨)	BFH	直角	—	—	—
87. 17	20	YOSH1	20	縫合針	木	木製	木製(木製骨)	BFH	直角	—	—	—
87. 18	1	YOSH1	1	縫合針	木	木製	木製(木製骨)	BFH	直角	—	—	—
87. 19	3	YOSH1	3	縫合針	木	木製	木製(木製骨)	BFH	直角	—	—	—
87. 20	15	YOSH601	15	上端	木製	木製(木製骨)	BFH	直角	—	—	—	—
87. 21	17	YOSH1	17	縫合針	木	木製	木製(木製骨)	BFH	直角	—	—	—
87. 22	21	YOSH1	21	縫合針?	—	木製	木製(木製骨)	BFH	直角	—	—	—
87. 23	69	YOSH1	69	縫合針	木	木製	木製(木製骨)	BFH	直角	—	—	—
87. 24	70	YOSH1	70	縫合針	木	木製	木製(木製骨)	BFH	直角	—	—	—
87. 25	76	YOSH1	76	縫合針	木	木製	木製(木製骨)	BFH	直角	—	—	—
87. 26	141	YOSH1	141	縫合針	木	木製	木製(木製骨)	BFH	直角	—	—	—
87. 27	14. 18	YOSH1	6	縫合針?	木	木製	木製(木製骨)	BFH	直角	—	—	—
88. 1	25. 19	YOSH1	71	縫合針	木	木製	木製(木製骨)	BFH	直角	—	—	—
88. 2	25. 19	YOSH1	72	縫合針	木	木製	木製(木製骨)	BFH	直角	—	—	—
88. 3	96	YOSH1	96	縫合針	木	木製	木製(木製骨)	BFH	直角	—	—	—
88. 4	25. 19	YOSH1	89	縫合針	木	木製	木製(木製骨)	BFH	直角	—	—	—
88. 5	25. 19	YOSH1	87	縫合針	木	木製	木製(木製骨)	BFH	直角	—	—	—
88. 6	35. 19	YOSH1	86	縫合針	木	木製	木製(木製骨)	BFH	直角	—	—	—
88. 7	25. 9	YOSH1	87	縫合針	木	木製	木製(木製骨)	BFH	直角	—	—	—
88. 8	25. 9	YOSH1	82	縫合針	木	木製	木製(木製骨)	BFH	直角	—	—	—
88. 9	25. 9	YOSH1	81	縫合針	木	木製	木製(木製骨)	BFH	直角	—	—	—
88. 10	25. 9	YOSH1	80	縫合針	木	木製	木製(木製骨)	BFH	直角	—	—	—
88. 11	25. 9	YOSH1	65	縫合針	木	木製	木製(木製骨)	BFH	直角	—	—	—
88. 12	YOSH1	67	縫合針	木	木製	木製(木製骨)	BFH	直角	—	—	—	—
88. 13	YOSH1	64	縫合針	木	木製	木製(木製骨)	BFH	直角	—	—	—	—

Tab. 16 飲洞獣跡跡出土遺物一覧 第4次・5次 (4)

Fig.	M	調査地	実測No.	出土地点	器種	色調(表面)	色調(鉢土)	地土	法面(cm)		備考
									復高さ	復高さ	
21	4	YS-F02	13	4T	トタン	にぶ・黒褐(0.5V6R)有	にぶ・黒褐(0.5V7R)無	0.5m大の砂利含む	2.4	8.3	
21	2	YS-F02	12	4T	トタン	にぶ・黒褐(0.5V7R)無	にぶ・黒褐(0.5V7R)無	0.5m大の砂利多く含む	2.7	9.0	鉢部分に陶片付着
21	3	YS-F02	10	4T	トタン	にぶ・黒褐(0.5V7R)無	にぶ・黒褐(0.5V7R)無	0.5m大の砂利多く含む	3.0	8.9	下部に1m大-3m大的付物多くあり ゆがみあり
21	4	YS-F02	7	4T	トタン	にぶ・黒褐(0.5V7R)無	にぶ・黒褐(0.5V7R)無	0.5m大の砂利多く含む	5.4	13.7	下部、部分欠損部分より上、下部陶片被覆有り
21	5	YS-F02	6	4T	トタン	にぶ・黒褐(0.5V7R)無	にぶ・黒褐(0.5V7R)無	0.5m大の砂利含む	3.4	10.2	上、下部共に高密度陶片あり 自然崩れの流れ痕あり
21	6	YS-F02	4	4T	トタン	にぶ・黒褐(0.5V7R)無	にぶ・黒褐(0.5V7R)無	0.5m大の砂利多く含む	3.1	10.2	上部砂利多付着
21	7	YS-F02	9	4T	トタン	黒褐(0.5V7R)無	にぶ・黒褐(0.5V7R)無	0.5m大の砂利多く含む	3.3	10.8	上部のみ砂利付あり 上部より中心部は薄、右側の砂利より左側より多い うす少し、下部強度が少し
21	8	YS-F02	1	4T	トタン	にぶ・黒褐(0.5V7R)無	青白(0.5V7R)無	黒褐・砂利含む	3.0	12.6	
21	9	YS-F02	3	4T	トタン	にぶ・黒褐(0.5V7R)無	青白(0.5V7R)無	黒褐	3.8	12.4	上部に幾つか鉢形、上部に高密度、右側の流れ痕あり
21	10	YS-F02	2	4T	トタン	にぶ・黒褐(0.5V7R)無	青白(0.5V7R)無	0.5m大の砂利含む	3.9	14.3	上部、下部共に陶片付着 下部-鉢形多付着
21	11	YS-F02	5	4T	トタン	にぶ・黒褐(0.5V7R)無	にぶ・黒褐(0.5V7R)無	0.5m大の砂利多く含む	5.6	13.1	上部に高密度
21	12	YS-F02	11	4T	トタン	にぶ・黒褐(0.5V7R)無	にぶ・黒褐(0.5V7R)無	0.5m大の砂利含む	5.5	14.0	上部に陶片の塊、全体に間に大きな隙間入り
21	13	YS-F02	14	4T	トタン	黒褐(0.5V7R)無	にぶ・黒褐(0.5V7R)無	黒褐色(0.5V7R)無 多数含む 0.5m-1.5m	100	—	上部に高密度あり
31	1	YS-L01	94	表層	ハマツ	黒褐(0.5V7R)無	黒褐(0.5V7R)無	0.5m-1.5m、大砂利など色々含む	9.5	57	
32	2	YS-L01	95	表層	ハマツ	赤褐(0.5V7R)無	黒褐(0.5V7R)無	石粒のもの、砂利など含む	0.4	5.3	
33	3	YS-L01	92	表層	ハマツ	黒褐(0.5V7R)無	黒褐(0.5V7R)無	石粒のもの、砂利など含む	0.3	6.2	
33	4	YS-L01	97	表層	ハマツ	黒褐(0.5V7R)無	黒褐(0.5V7R)無	石粒含む	9.6	4.8	
33	5	YS-L01	90	表層	ハマツ	黒褐(0.5V7R)無	黒褐(0.5V7R)無	黒色(0.5V7R)の部分(多くあり)含む	10.4	4.9	
33	6	YS-L01	81	表層	ハマツ	黒褐(0.5V7R)無	にぶ・黒褐(0.5V7R)無(生焼け部分)	黒褐	10.4	4.9	黒色の一部に自然崩れの跡あり 他は生焼けの状態
33	7	YS-L01	82	表層	ハマツ	黒褐(0.5V7R)無	黒褐(0.5V7R)無	0.5m大の砂利、石粒のもの	10.8	5.9	
33	8	YS-L01	92	表層	ハマツ	黒褐(0.5V7R)無	黒褐(0.5V7R)無	0.5m大の砂利含む	7.0	4.6	
33	9	YS-L01	93	表層	ハマツ	黒褐(0.5V7R)無	黒褐(0.5V7R)無	0.5m大の砂利多く含む	8.5	5.3	上部に付物多く付着
33	10	YS-L01	91	表層	ハマツ	黒褐(0.5V7R)無	黒褐(0.5V7R)無	0.5m大の砂利多く含む	10.3	6.0	全体にゴリゴリしている
33	11	YS-L01	96	表層	褐色孔窓	黒褐(0.5V7R)無	黒褐(0.5V7R)無	石粒 e t c 含む	10.9	5.8	
33	12	YS-L01	95	表層	褐色孔窓	黒褐(0.5V7R)無	にぶ・黒褐(0.5V7R)無(生焼け部分)	石粒 e t c 含む、全体に日干し	13.4	8.9	丸の形、一部焼け残し
45	1	YB01	35	2T	トタン	にぶ・黒褐(0.5V7R)無	黒褐(0.5V7R)無	0.5m大の砂利多く含む	3.2	7.7	
45	2	YB01	57	2T	トタン	にぶ・黒褐(0.5V7R)無	黒褐(0.5V7R)無	0.5m大の砂利多く含む	3.0	9.3	
45	3	YB01	49	2T	トタン	黒褐(0.5V7R)無	黒褐(0.5V7R)無	0.5m大の砂利多く含む	3.5	9.5	
45	4	YB01	50	2T	トタン	黒褐(0.5V7R)無	黒褐(0.5V7R)無	0.5m大の砂利多く含む	3.2	9.6	全体的に付物多く付き 黒褐色の塊を多く含む
45	5	YB01	38	2T	トタン	黒褐(0.5V7R)無	黒褐(0.5V7R)無	0.5m大の砂利多く含む	3.1	9.4	自然崩れの流れた板状性陶片付着 亂形器。
45	6	YB01	44	2T	トタン	にぶ・黒褐(0.5V7R)無	黒褐(0.5V7R)無	0.5m大の砂利多く含む	3.1	10.8	自然崩れの流れた器あり
45	7	YB01	41	2T	トタン	にぶ・黒褐(0.5V7R)無	黒褐(0.5V7R)無	0.5m大の砂利多く含む	3.1	9.6	レ・下限限か
45	8	YB01	39	2T	トタン	にぶ・黒褐(0.5V7R)無	黒褐(0.5V7R)無	0.5m大の砂利含む	3.0	9.6	鉢形的・円筒形付着 上部に蘆葦根付物付着
45	9	YB01	29	2T	トタン	黒褐(0.5V7R)無	にぶ・黒褐(0.5V7R)無	0.5m大の砂利含む	3.2	9.8	上部に砂利、鉢形的付着、瓦片付着 及び削ぎ落としたような形の器と斜めに付着するものと多岐ある
45	10	YB01	46	2T	トタン	黒褐(0.5V7R)無	黒褐(0.5V7R)無	0.5m大の砂利多く含む	3.8	10.6	黒褐(0.5V7R)無の一部が付着 瓦片付着 及び削ぎ落としたよ
45	11	YB01	45	2T	トタン	にぶ・黒褐(0.5V7R)無	黒褐(0.5V7R)無	0.5m大の砂利多く含む	3.3	10.5	斜面にゴリゴリして自然崩れが付いているが多く、斜面に瓦片や瓦片の端など付着するものと多岐ある
45	12	YB01	36	2T	トタン	にぶ・黒褐(0.5V7R)無	にぶ・黒褐(0.5V7R)無	0.5m大の砂利多く含む	3.1	11.0	瓦片風呂皿は変形した高脚器
45	13	YB01	55	2T	トタン	にぶ・黒褐(0.5V7R)無	黒褐(0.5V7R)無	0.5m大の砂利含む	3.3	10.7	上部に高密度、鉢形的・丸形容器付着
45	14	YB01	33	2T	トタン	にぶ・黒褐(0.5V7R)無	にぶ・黒褐(0.5V7R)無	0.5m大の砂利多く含む	3.4	10.8	自然崩れの流れた器、下部只見陶片あり
45	15	YB01	34	2T	トタン	黒褐(0.5V7R)無	にぶ・黒褐(0.5V7R)無	0.5m大の砂利多く含む	3.8	10.7	自然崩れなど、洗った痕が多くあり 小さな穴のあいている砂利多くあり
45	16	YB01	37	2T	トタン	オリーブ(0.5V7R)無	黒褐(0.5V7R)無	0.5m大の砂利多く含む	3.6	11.0	上部、高密度あり 下部に付着物多し
45	17	YB01	42	2T	トタン	黒褐(0.5V7R)無	黒褐(0.5V7R)無	0.5m大の砂利含む	4.0	11.0	斜面に瓦片風呂皿あり 下部に付着するものと多岐ある
45	18	YB01	40	2T	トタン	黒褐(0.5V7R)無	黒褐(0.5V7R)無	0.5m大の砂利含む	3.6	11.6	瓦片風呂皿は変形した高脚器
45	19	YB01	50	2T	トタン	黒褐(0.5V7R)無	黒褐(0.5V7R)無	0.5m大の砂利含む	3.6	11.6	レ・下限限か
45	20	YB01	54	2T	トタン	黒褐(0.5V7R)無	黒褐(0.5V7R)無	0.5m大の砂利多く含む	4.0	12.5	瓦片など半分に自然崩れのてり 手平は瓦片でいい
46	1	YB01	31	2T	トタン	黒褐(0.5V7R)無	黒褐(0.5V7R)無	0.5m大の砂利含む	5.8	11.4	上部、下部に瓦片風呂皿あり 鉢形的・丸形容器付着
46	2	YB01	53	2T	トタン	黒褐(0.5V7R)無	にぶ・黒褐(0.5V7R)無	0.5m大の砂利多く含む	7.0	13.5	上部に瓦片風呂皿あり、瓦片風呂皿と多岐
46	3	YB01	30	2T	トタン	にぶ・黒褐(0.5V7R)無	黒褐(0.5V7R)無	0.5m大の砂利含む	6.6	14.7	斜面に瓦片付着 刻印全体に気泡化と多岐

Tab. 17 窯道具一覧(1)

Fig.	M	調査地	実測No.	出土地点	器種	色調(表面)	色調(鉢土)	地土	法面(cm)		備考
									復高さ		
46	4	YHOI	47	ZT	ハマツ	灰褐色(Hue7.5YR4/2)地	灰白(Hue10YR7/1)	土大の砂粒多く含む	5.5	1.7	
46	5	YHOI	48	ZT	ハマツ	褐色(Hue10YR5/1)	灰白(Hue10YR7/2)	土大の砂粒多く含む	5.3	1.6	
46	6	YHOI	32	表層	ハマツ	褐色(Hue7.5YR4/2)	浅黄(Hue2.5YR7/3)	土大の砂粒含む	5.5	1.3	
46	7	YHOI	53	ZT	ハマツ	褐色(Hue7.5YR4/2)地	灰褐色(Hue7.5YR6/2)	土大の砂粒多く含む	5.7	1.8	
46	8	YHOI	51	ZT	ハマツ	にごり小柄(Hue25YR5/0)	灰褐色(Hue10YR6/2)	土大の砂粒多く含む	6.2	2.0	
46	9	YHOI	43	ZT	ハマツ	にごり・薄(Hue7.5YR5/3)地	にごり・薄(Hue7.5YR6/3)	土大の砂粒多く含む	14.0	6.5	
42	10	YHOI	104	OB7	ハマツ?	表層?	にごり・薄(Hue10YR7/3)	土大の砂粒多く含む	—	—	クロロ退色?
58	1	YH102	65	表層	トチソウ	にごり・黄褐色(Hue10YR5/4)	にごり・黄褐色(Hue10YR7/2)	土大の砂粒多く含む	2.6	8.4	河筋地帯あり
58	2	YH102	70	表層	トチソウ	灰褐色(Hue2.5YR7/0)	灰白(Hue2.5YR7/1)	無砂粒含む	3.4	12.9	上部地盤の鉛物付着
58	3	YH102	67	表層	トチソウ	灰褐色(Hue10YR6/2)	灰白(Hue2.5YR7/1)	土大の砂粒多く含む	5.4	15.5	上部地盤に砂粒あり下部地盤が多少あり
58	4	YH102	59	OB2	トチソウ	にごり・黄褐色(Hue10YR5/4)	灰白(Hue2.5YR7/0)	土大の砂粒多く含む	2.2	9.1	上部に青苔
58	5	YH102	60	OB2	トチソウ	にごり・黄褐色(Hue10YR5/3)地	灰白(Hue10YR6/1)	土大の砂粒含む	3.0	—	隙間にさびたような砂粒の回り付き有
58	6	YH102	68	表層	トチソウ	にごり・小柄(Hue5YR5/0)地	灰白(Hue10YR6/1)	土大の砂粒含む	6.8	—	表面から黒鉛、鈍次鉄鉱
58	7	YH102	60	OB2	トチソウ	にごり・黄褐色(Hue10YR5/4)	灰白(Hue2.5YR7/0)	無砂粒	4.0	13.9	上部地盤になじけ付したようなあとと上部頃に走る
58	8	YH102	69	表層	トチソウ	にごり・黄褐色(Hue10YR5/3)	灰白(Hue2.5YR7/0)	土大の砂粒、黑色含む	4.8	8.4	鷹爪付着
58	9	YH102	64	表層	トチソウ	にごり・黄褐色(Hue10YR5/1)地	にごり・黄褐色(Hue10YR7/2)	土大の砂粒多く含む	6.3	9.3	
58	10	YH102	68	表層	トチソウ	灰褐色(Hue2.5YR7/3)	無砂粒	2.8	5.2		
58	11	YH102	63	表層	トチソウ	灰(Hue10YR5/2)地	にごり・黄褐色(Hue7.5YR6/3)	土大の砂粒多く含む	7.6	16.2	上部に平行線あり全体的にゴマゴマとして自然地盤の砂粒多く含む
58	12	YH102	61	OB2	トチソウ	にごり・薄(Hue7.5YR5/3)	灰褐色(Hue7.5YR6/1)	無砂粒 砂粒を多少含む	5.1	7.4	隙間にさびたのみ付着かうすく層になっている
58	13	YH102	62	OB2	トチソウ	灰褐色(Hue2.5YR4/1)地	灰白(Hue2.5YR7/1)	土大の砂粒多く含む	7.8	8.7	全体に大きくて気泡多數(上部に地盤付着)
58	14	YH102	72	表層	トチソウ	黒褐色(Hue2.5YR3/1)	灰褐色(Hue10YR6/1)	土大の砂粒多く含む	5.5	9.8	鷹爪付着 上部に平行線あり
58	15	YH102	79	表層	トチソウ	灰褐色(Hue7.5YR5/2)地	にごり・黄褐色(Hue10YR5/3)地	土大の砂粒及び黑色の小さな	12.0	—	
58	1	YH102	66	表層	ハマツ	にごり・黄褐色(Hue10YR5/0)地	灰褐色(Hue2.5YR7/0)	土大の砂粒多く含む	5.2	1.4	
58	2	YH102	76	表層	ハマツ	灰褐色(Hue7.5YR5/2)	無砂粒	4.0	1.2		
58	3	YH102	71	表層	ハマツ	灰褐色(Hue10YR5/2)地	灰褐色(Hue10YR6/2)	無砂粒含む	10.8	4.1	上部に白目塗、複数あり
58	4	YH102	90	表層	ハマツ	にごり・小柄(Hue5YR5/0)地	灰褐色(Hue7.5YR6/2)	土大の砂粒多く含む	6.6	12.8	上部に鷹爪付着(Hue5YR5/0)ガラオーブ、複数(白目塗)
58	5	YH102	75	表層	ハマツ	灰褐色(Hue7.5YR5/2)	無砂粒	1.0	7.1		
58	6	YH102	89	表層	ハマツ	灰褐色(Hue10YR5/2)地	灰褐色(Hue7.5YR6/2)	土大の砂粒多く含む	8.8	2.5	上部に鷹爪付着(Hue5YR5/0)ガラオーブ、複数(白目塗)
58	7	YH102	86	表層	ハマツ	灰褐色(Hue10YR5/2)地	無砂粒	10.0	4.0		
58	8	YH102	87	表層	ハマツ	暗褐色(Hue10YR5/1)地	灰褐色(Hue10YR6/2)	土大の砂粒多く含む	10.2	3.5	上部に鷹爪付着、複数の心臓状凹凸あり、鉛鉱質(大粒)、(Hue5YR5/0)ガラオーブ(付着)して
59	9	YH102	73	表層	ハマツ	褐色(Hue10YR5/1)	灰褐色(Hue10YR6/1)	土大の砂粒多く含む	9.0	5.5	ハマツ? 鷹爪付着
59	10	YH102	77	表層	ハマツ	灰褐色(Hue10YR5/2)地	無砂粒	10.6	7.0	上部に鷹爪付着、鉛鉱質に気泡多數	
59	11	YH102	74	表層	ハマツ	灰褐色(Hue7.5YR5/0)地	灰褐色(Hue7.5YR6/1)	土大の砂粒多く含む	10.3	6.0	隙間にようじ、多處あり
59	12	YH102	76	表層	ハマツ	灰褐色(Hue10YR5/2)地	無砂粒及び黑色含む	11.2	5.7	上部に鷹爪(他の部分)付着 気泡多數	
59	1	YH102	28	ZT	トチソウ	にごり・薄(Hue7.5YR5/0)	灰褐色(Hue10YR6/2)	土大の砂粒多く含む	2.0	—	
60	2	YH102	16	ZT	トチソウ	にごり・薄(Hue2.5YR5/0)	灰褐色(Hue2.5YR7/2)	土大の砂粒多く含む	2.9	7.8	全体に色の濃度差あり下部に気泡部分あり
60	3	YH102	27	ZT	トチソウ	にごり・黄褐色(Hue10YR5/3)	灰褐色(Hue7.5YR6/2)	土大の砂粒多く含む	2.8	—	下部に自然鉱のたれあり土の上よりもある
60	4	YH102	17	ZT	トチソウ	褐色(Hue10YR5/0)	灰褐色(Hue2.5YR7/1)	土大の砂粒多く含む	3.1	11.8	下部に、鉛鉱、鉛鉱質などのが付着
60	5	YH102	15	ZT	トチソウ	灰褐色(Hue10YR5/2)	灰褐色(Hue2.5YR7/1)	土大の砂粒多く含む	3.3	16.0	下部に(同じ)大きな白色の付着物 全体にははり付いていたもの
60	6	YH102	19	ZT	トチソウ	灰褐色(Hue10YR5/2)地	にごり・薄(Hue10YR6/2)	土大の砂粒多く含む	5.9	9.4	全体的ゴマゴマとして形を小さくかねていて上部に白目塗
60	7	YH102	25	ZT	トチソウ	灰褐色(Hue7.5YR5/2)地	にごり・薄(Hue10YR6/2)	土大の砂粒多く含む	5.6	9.6	全体的にゴマゴマして気泡多數のたれでいて各種鉱物の付着
60	8	YH102	18	ZT	トチソウ	灰褐色(Hue7.5YR5/2)地	にごり・薄(Hue10YR6/2)	土大の砂粒多く含む	5.4	13.3	全体的に気泡の穴があり、ガラツリしている。自然鉱が流れたあとを含む。上部に白目塗
60	9	YH102	26	ZT	トチソウ	褐褐色(Hue25YR5/0)	灰褐色(Hue10YR6/1)	土大の砂粒多く含む	8.2	—	自然鉱のたれ? 色々な色調が併存している
60	10	YH102	23	ZT	ハマツ	褐色(Hue2.5YR3/1)	無砂粒	土大の砂粒含む	6.7	3.3	
60	11	YH102	21	ZT	ハマツ	堆土(?)	灰褐色(Hue2.5YR3/0)	無砂粒	12.9	7.3	堆土(?)と砂粒 多数の部分に自然鉱塊を2箇所
60	12	YH102	24	ZT	ハマツ	黒褐色(Hue7.5YR5/2)地	無砂粒	0.5m大の砂粒含む	6.8	1.9	上部に鷹爪付着と砂のかけ合いで
60	13	YH102	20	ZT	ハマツ	堆土(?)	灰褐色(Hue10YR6/2)	無砂粒	10.0	2.7	堆土(?)と砂粒 多数の部分に自然鉱塊を2箇所
60	14	YH102	22	ZT	ハマツ	褐色(Hue7.5YR5/0)	無砂粒	1m大の砂粒多く含む 堆土(?)	10.6	1.2	上部に白目塗あり 予部に(白の)軽い毛打及び砂粒多數

Tab. 17 窯道具一覧(2)

平成27・28年度飯糸窯跡出土（トチン）
※高／径が1.0以上

N o	件番 (H27)	調査地	出土地点	器種	色調(地土)	表面の ガラス化	歪み	分類の基準		A 「I」形を示すもの	B 円柱形を示すもの	C 下端のみ広がり「L」形を示すもの	判断が難しいもの	経の比率 中／上・下	分類
										A 「I」形を示すもの	B 円柱形を示すもの	C 下端のみ広がり「L」形を示すもの			
										（）	（）	（）			
								法量 (cm)	備考 (付着物等)	残存率	経の比率 中／上・下	経の比率 中／上・下			
1	1	YH05	15YNG	トチン	黄灰(Hue2.5W/1)	高	無	(6.0)	上端 6.0 中端 3.0 下端 —	高付付	—	—	—	0.47	A
2	2	YH05	15YNG	トチン	—	低	無	7.7	上端 4.2 中端 2.2 下端 4.3	—	—	—	—	—	A
3	3	YH05	15YNG	トチン	黄(Hue3.5Y/1)	低	無	5.9	上端 3.5 中端 2.5 下端 5.3	—	—	—	—	—	C
4	4	YH05	15YNG	トチン	—	低	無	6.0	上端 2.8 中端 2.8 下端 4.4	—	—	—	—	—	C
5	5	YH05	20Y	トチン	黄灰(Hue2.5W/1)	中	無	9.5	上端 5.0 中端 3.0 下端 5.5	高付付	—	—	—	—	B
6	6	YH05	20Y	トチン	黄灰(Hue2.5W/2)	中	無	(9.0)	上端 3.3 中端 1.5 下端 1.5	—	—	—	—	—	A
7	7	YH05	20Y	トチン	黄(Hue2.5W/1)	中	無	(7.0)	上端 5.7 中端 2.8 下端 —	—	—	—	—	—	A
8	8	YH05	20Y	トチン	黄灰(Hue2.5W/2)	中	無	(7.4)	上端 6.3 中端 3.0 下端 —	—	—	—	—	—	A
9	9	YH05	20Y	トチン	黄灰(Hue2.5W/1)	中	無	(6.0)	上端 6.5 中端 3.4 下端 —	高付付	—	—	—	—	A
10	10	YH05	21T	トチン	黄灰(Hue2.5W/1)	高	無	(10.4)	上端 3.1 中端 5.6 下端 —	—	—	—	—	—	A
11	11	YH05	21T	トチン	黄灰(Hue2.5W/2)	中	無	(8.1)	上端 3.3 中端 6.7 下端 6.1	—	—	—	—	—	A
12	12	YH05	21T	トチン	黄灰(Hue2.5W/2)	高	無	(7.0)	上端 3.2 中端 3.2 下端 —	—	—	—	—	—	A
13	13	YH05	21T	トチン	黄灰(Hue2.5W/1)	高	無	(7.1)	上端 3.2 中端 3.2 下端 7.2	—	—	—	—	—	A
14	14	YH05	21T	トチン	黄灰(Hue2.5W/1)	高	無	(10.0)	上端 3.2 中端 5.6 下端 —	高付付	—	—	—	—	A
15	15	YH05	21T	トチン	黄灰(Hue2.5W/1)	高	無	(10.2)	上端 3.1 中端 5.8 下端 5.8	—	—	—	—	—	A
16	16	YH05	21T	トチン	黄灰(Hue2.5W/1)	高	無	(8.5)	上端 6.0 中端 2.9 下端 —	高付付	—	—	—	—	A
17	17	YH05	21T	トチン	黄灰(Hue2.5W/2)	高	手	(8.1)	上端 5.7 中端 2.8 下端 —	高付付	—	—	—	—	A
18	18	YH05	21T	トチン	黄(Hue2.5W/1)	高	無	(8.1)	上端 3.5 中端 6.5 下端 —	—	—	—	—	—	A
19	19	YH05	21T	トチン	黄灰(Hue2.5W/2)	高	無	(7.3)	上端 2.8 中端 2.8 下端 —	—	—	—	—	—	A
20	20	YH05	21T	トチン	黄(Hue2.5W/1)	高	手	(7.2)	上端 3.2 中端 6.3 下端 —	—	—	—	—	—	A
21	21	YH05	21T	トチン	黄灰(Hue2.5W/1)	高	無	(8.4)	上端 3.0 中端 7.0 下端 —	—	—	—	—	—	A
22	22	YH05	21T	トチン	黄(Hue2.5W/2)	高	無	(8.1)	上端 3.8 中端 3.2 下端 —	高付付	—	—	—	—	A
23	23	YH05	21T	トチン	黄灰(Hue2.5W/1)	高	手	(7.9)	上端 3.0 中端 1.5 下端 —	—	—	—	—	—	A
24	24	YH05	21T	トチン	黄灰(Hue2.5W/2)	高	無	(5.5)	上端 6.6 中端 2.2 下端 —	高付付	—	—	—	—	A
25	25	YH05	21T	トチン	黄灰(Hue2.5W/2)	中	無	(6.2)	上端 3.2 中端 6.3 下端 —	—	—	—	—	—	A
26	26	YH05	21T	トチン	黄灰(Hue2.5W/1)	高	無	(6.0)	上端 2.8 中端 5.7 下端 —	—	—	—	—	—	A
27	27	YH05	21T	トチン	黄灰(Hue2.5W/1)	高	無	(10.1)	上端 2.8 中端 12.0 下端 —	—	—	—	—	—	A
28	28	YH05	21T	トチン	黄灰(Hue2.5W/1)	高	手	(7.5)	上端 2.3 中端 2.3 下端 —	—	—	—	—	—	A
29	29	YH05	21T	トチン	黄灰(Hue2.5W/2)	低	無	(8.0)	上端 3.0 中端 5.8 下端 —	—	—	—	—	—	A
30	30	YH05	21T	トチン	黄灰(Hue2.5W/1)	中	無	(5.1)	上端 3.3 中端 6.3 下端 —	—	—	—	—	—	A
31	31	YH05	21T	トチン	黄(Hue3W/4)	低	無	(6.0)	上端 6.8 中端 3.6 下端 —	高付付	—	—	—	—	A
32	32	YH05	21T	トチン	黄(Hue2.5W/1)	中	無	(5.5)	上端 2.7 中端 5.0 下端 —	—	—	—	—	—	A
33	33	YH05	21T	トチン	黄灰(Hue2.5W/1)	高	無	(3.0)	上端 2.8 中端 2.8 下端 —	—	—	—	—	—	A

Tab. 17 窯道具一覧 (3)

平成27・28年度飯洞窯跡出土（トチン）
※高／径が1.0以上

分類の基準	A	「I」形を有するもの
	B	円柱形を有するもの
	C	下端のみ広がり「I」形を見るもの
	()	判断が難しいもの

N o	件番 (H26) No	調査地	出土地点	器種	色調(地土)	表面の ガラス化	歪み	法量 (cm)		備考 (付着物等)	残存率	経の比率 中／上・下	分類
								高さ	徑				
34	34	YH05	ZTF	トチン	灰(3)(Hue2.5W7/1)	中	無	(5.1)	上端 — 中部 38 下端 —	—	1/3	0.6	A
35	35	YH05	ZTF	トチン	灰(3)(Hue2.5W7/1)	中	無	(6.8)	上端 — 中部 63 下端 —	—	1/2	—	A
36	36	YH05	ZTF	トチン	黄灰(Hue2.5W6/1)	中	無	(4.0)	上端 — 中部 65 下端 52	高台凹 下端 —	1/2	0.48	A
37	37	YH05	ZTF	トチン	灰(3)(Hue2.5W6/1)	中	無	(5.1)	上端 — 中部 34 下端 63	—	1/2	0.52	A
38	38	YH05	ZTF	トチン	灰(3)(Hue2.5W7/1)	中	無	(4.0)	上端 32 中部 51 下端 51	高台凹 下端 —	1/2	0.51	A
39	39	YH05	ZTF	トチン	灰黄(Hue2.5W7/2)	高	無	(4.6)	上端 30 中部 — 下端 —	—	1/2	0.49	A
40	40	YH05	ZTF	トチン	灰黄(Hue2.5W6/2)	中	無	(4.9)	上端 33 中部 64 下端 —	—	1/2	0.57	A
41	41	YH05	ZTF	トチン	灰(3)(Hue2.5W7/1)	中	無	(4.7)	上端 57 中部 27 下端 —	高台凹 下端 —	1/2	0.47	A
42	42	YH05	ZTF	トチン	灰(3)(Hue2.5W7/1)	中	無	(4.6)	上端 60 中部 28 下端 —	高台凹 下端 —	1/2	0.48	A
43	43	YH05	ZTF	トチン	黄灰(Hue2.5W6/1)	高	無	(4.7)	上端 48 中部 28 下端 —	—	1/2	0.58	A
44	44	YH05	ZTF	トチン	黄灰(Hue2.5W6/1)	高	無	(4.4)	上端 73 中部 65 下端 —	—	1/2	0.37	A
45	45	YH05	ZTF	トチン	灰(3)(Hue2.5W7/1)	高	無	(3.0)	上端 21 中部 21 下端 —	—	1/2	0.32	A
46	46	YH05	ZTF	トチン	灰黄(Hue2.5W6/1)	高	無	(2.0)	上端 73 中部 22 下端 —	—	1/2	0.3	A
47	47	YH05	ZTF	トチン	灰(3)(Hue2.5W7/1)	高	無	(3.4)	上端 77 中部 79 下端 (2.1)	—	1/2	0.62	A
48	48	YH05	ZTF	トチン	黄灰(Hue2.5W6/1)	中	無	11.2	上端 — 中部 23 下端 —	—	1/2	0.71	(A)
49	49	YH05	ZTF	トチン	黒褐(Hue2.5W3/1)	高	大	(11.0)	上端 59 中部 43 下端 —	—	1/2	0.69	(A)
50	48	YH05	ZTF	トチン	灰(3)(Hue2.5W6/1)	低	無	(6.0)	上端 54 中部 52 下端 —	—	1/2	0.65	(B)
51	49	YH05	ZTF	トチン	灰(3)(Hue2.5W6/1)	高	無	(4.0)	上端 68 中部 42 下端 —	高台凹 下端 —	1/2	0.62	(B)
52	50	YH05	ZTF	トチン	灰(3)(Hue2.5W6/1)	高	小	(8.0)	上端 56 中部 44 下端 —	—	1/2	0.79	(B)
53	53	YH05	ZTF	トチン	灰(3)(Hue2.5W6/1)	高	大	12.2	上端 69 中部 53 下端 50	—	1/2	0.51	A
54	54	YH05	ZTF	トチン	灰(3)(Hue2.5W7/1)	中	無	10.2	上端 24 中部 24 下端 52	—	1/2	0.40	A
55	55	YH05	ZTF	トチン	灰(3)(Hue2.5W7/1)	高	無	8.2	上端 45 中部 45 下端 45	—	1/2	0.64	A
56	56	YH05	ZTF	トチン	灰(3)(Hue2.5W6/1)	低	無	6.5	上端 40 中部 23 下端 23	—	1/2	0.56	A
57	57	YH05	ZTF	トチン	黄灰(Hue2.5W6/1)	低	無	5.5	上端 37 中部 18 下端 18	—	1/2	0.47	A
58	58	YH05	ZTF	トチン	—	高	大	12.5	上端 38 中部 58 下端 58	—	1/2	0.67	A
59	59	YH05	ZTF	トチン	暗灰(Hue2.5W6/1)	低	無	12.0	上端 65 中部 66 下端 66	—	1/2	0.58	A
60	60	YH05	ZTF	トチン	灰(3)(Hue2.5W6/1)	高	大	13.2	上端 40 中部 24 下端 24	—	1/2	0.48	A
61	61	YH05	ZTF	トチン	灰黄(Hue2.5W6/2)	高	無	12.4	上端 32 中部 26 下端 26	—	1/2	0.46	A
62	62	YH05	ZTF	トチン	黄灰(Hue2.5W6/1)	高	小	12.0	上端 40 中部 40 下端 72	—	1/2	0.56	A
63	72	YH05	ZTF	トチン	灰(3)(Hue2.5W6/1)	中	無	(7.3)	上端 65 中部 55 下端 55	—	1/2	0.52	A
64	73	YH05	ZTF	トチン	灰黄(Hue2.5W6/2)	中	無	(7.0)	上端 10.5 中部 56 下端 56	高台凹 下端 —	1/2	0.53	A
65	74	YH05	ZTF	トチン	灰黄(Hue2.5W6/2)	中	無	(6.2)	上端 5.1 中部 11.0 下端 11.0	—	1/2	0.88	A
66	75	YH05	ZTF	トチン	灰(3)(Hue2.5W6/1)	高	無	(5.0)	上端 45 中部 63 下端 63	—	1/2	0.53	A

Tab. 17 窯道具一覧 (4)

平成27・28年度飯糸窯跡出土（トチン）
※高／径が1.0以上

N o	件番 (H27) No	調査地	出土地点	器種	色調(地土)	表面の ガラス化	歪み	分類の基準		A 「I」形を示すもの	B 円柱形を示すもの	C 下端のみ広がり「L」形を示すもの	経の比率 中／上・下	分類
										()	判断が難しいもの			
								法量 (cm)	備考 (付着物等)	残存率				
								高さ	運	—	—	—	—	
67	76	YH05	22F	トチン	灰(Hue55W1)	中	無	13.0	上端 82 中段 44 下端 64	—	U1	—	0.47	A
68	77	YH05	22F	トチン	灰(Hue55W1)	高	無	13.5	上端 74 中段 36 下端 62	—	U1	—	0.58	A
69	78	YH05	22F	トチン	灰(Hue55W1)	高	無	(32.0)	上端 38 中段 72 下端 —	—	U1	—	0.53	A
70	79	YH05	22F	トチン	灰(Hue55W1)	高	無	(11.0)	上端 78 中段 38 下端 —	—	U1	—	0.5	A
71	80	YH05	22F	トチン	灰(Hue55W1)	高	大	(10.0)	上端 76 中段 38 下端 —	—	U1	—	0.56	A
72	81	YH05	22F	トチン	灰黄(Hue55W12)	高	小	(9.2)	上端 36 中段 36 下端 —	—	U1	—	0.48	A
73	82	YH05	22F	トチン	灰(5-黄褐)(Hue5W10)	高	無	13.5	上端 63 中段 44 下端 64	—	U1	—	0.55	A
74	83	YH05	22F	トチン	灰(3)(Hue25W11)	高	無	(6.0)	上端 76 中段 38 下端 —	—	U1	—	0.5	A
75	84	YH05	22F	トチン	灰(3)(Hue8W)	高	小	10.0	上端 86 中段 37 下端 72	—	U1	—	0.48	A
76	85	YH05	22F	トチン	灰(3)(Hue8W)	高	無	11.0	上端 62 中段 32 下端 61	—	U1	—	0.52	A
77	86	YH05	22F	トチン	灰黄(Hue55W12)	高	大	(32.0)	上端 66 中段 70 下端 (44)	—	U1	—	0.48	A
78	87	YH05	22F	トチン	灰(3)(Hue8W)	中	小	11.0	上端 29 中段 35 下端 —	—	U1	—	0.43	A
79	88	YH05	22F	トチン	灰(3)(Hue8W)	中	無	10.0	上端 60 中段 33 下端 56	—	U1	—	0.59	A
80	89	YH05	22F	トチン	灰黄(Hue55W12)	中	無	(8.0)	上端 32 中段 64 下端 —	—	U1	—	0.5	A
81	90	YH05	22F	トチン	灰(3)(Hue8W)	高	小	(8.0)	上端 68 中段 33 下端 —	—	U1	—	0.48	A
82	91	YH05	22F	トチン	灰(3)(Hue8W)	高	大	(9.0)	上端 — 中段 32 下端 61	—	U1	—	0.51	A
83	92	YH05	22F	トチン	灰(3)(Hue8W)	高	大	(8.0)	上端 33 中段 33 下端 61	—	U1	—	0.54	A
84	93	YH05	22F	トチン	灰(3)(Hue8W)	中	小	(8.0)	上端 33 中段 (6.5) 下端 —	—	U1	—	0.52	A
85	94	YH05	22F	トチン	灰(3)(Hue8W)	高	無	(8.0)	上端 32 中段 78 下端 —	—	U1	—	0.46	A
86	95	YH05	22F	トチン	灰(3)(Hue8W)	高	無	(7.0)	上端 33 中段 33 下端 —	—	U1	—	0.49	A
87	96	YH05	22F	トチン	灰(3)(Hue5W11)	高	無	(6.0)	上端 33 中段 70 下端 —	—	U1	—	0.44	A
88	97	YH05	22F	トチン	灰(3)(Hue8W)	高	無	(8.0)	上端 36 中段 62 下端 —	—	U1	—	0.58	A
89	98	YH05	22F	トチン	灰(3)(Hue8W)	高	無	12.0	上端 65 中段 67 下端 —	—	U1	—	0.46	A
90	99	YH05	22F	トチン	灰(3)(Hue8W)	高	無	(4.0)	上端 67 中段 32 下端 —	—	U1	—	0.48	A
91	100	YH05	22F	トチン	灰(3)(Hue8W)	高	無	10.0	上端 60 中段 31 下端 45	—	U1	—	0.52	A
92	101	YH05	22F	トチン	灰(3)(Hue8W)	高	無	(11.0)	上端 65 中段 60 下端 —	—	U1	—	0.48	A
93	102	YH05	22F	トチン	灰(3)(Hue8W)	中	無	11.0	上端 24 中段 24 下端 —	—	U1	—	0.41	A
94	103	YH05	22F	トチン	灰(3)(Hue5W11)	中	無	10.2	上端 27 中段 58 下端 —	—	U1	—	0.47	A
95	104	YH05	22F	トチン	灰(3)(Hue8W)	高	無	(8.0)	上端 28 中段 63 下端 (16.0)	—	U1	—	0.46	A
96	105	YH05	22F	トチン	灰(3)(Hue8W)	中	無	(10.0)	上端 30 中段 30 下端 —	—	U1	—	—	A
97	106	YH05	22F	トチン	灰(3)(Hue8W)	高	無	(6.0)	上端 63 中段 28 下端 64	—	U1	—	0.43	A
98	107	YH05	22F	トチン	灰(3)(Hue5W11)	高	無	(5.0)	上端 58 中段 28 下端 —	—	U1	—	0.5	A
99	108	YH05	22F	トチン	灰(3)(Hue8W)	高	無	(6.0)	上端 27 中段 27 下端 —	—	U1	—	0.42	A

Tab. 17 窯道具一覧 (5)

平成27・28年度飯洞窯跡出土（トチン）
※高／径が1.0以上

N o	件番 (目次 No)	調査地	出土地点	器種	色調(地土)	表面の ガラス化	歪み	分類の基準	A 「I」形を有するもの				
									B 円柱形を有するもの				
									C 下端のみ広がり「I」形を見るもの				
									() 判断が難しいもの				
100	109	YH05	22F	トチン	灰(0)Hue87(1)	高	小	(5.4)	上部 — 中部 27 — 下部 56 —	— — —	U2 U1	0.48	A
101	110	YH05	22F	トチン	灰(0)Hue97(1)	高	無	(6.2)	上部 — 中部 28 — 下部 44 —	— — —	U2 U1	0.66	A
102	111	YH05	22F	トチン	灰(0)Hue88(1)	高	無	(3.3)	上部 — 中部 61 — 下部 62 —	— — —	U2 U1 U1	0.44	A
103	113	YH05	22F	トチン	灰(0)Hue97(1)	低	無	(5.2)	上部 — 中部 22 — 下部 67 —	— — —	U2 U1 U1	0.87	A
104	114	YH05	22F	トチン	灰(0)Hue97(1)	高	無	(2.3)	上部 — 中部 30 — 下部 67 —	— — —	U2 U1 U1	0.45	A
105	115	YH05	22F	トチン	灰(0)Hue75(1)	中	無	(6.3)	上部 26 — 中部 26 — 下部 —	— — —	U2 U2 U1	0.47	A
106	116	YH05	22F	トチン	灰(0)Hue75(1)	中	無	(6.5)	上部 51 — 中部 52 — 下部 52 —	— — —	U2 U1 U1	0.48	A
107	117	YH05	22F	トチン	灰(0)Hue97(1)	中	無	(7.5)	上部 60 — 中部 26 — 下部 26 —	— — —	U2 U2 U2	0.43	A
108	118	YH05	22F	トチン	灰(0)Hue88(1)	高	無	(6.0)	上部 48 — 中部 27 — 下部 —	— — —	U2 U2 U1	0.56	A
109	119	YH05	22F	トチン	灰(0)Hue75(1)	高	無	(6.3)	上部 26 — 中部 26 — 下部 —	— — —	U2 U2 U1	0.52	A
110	120	YH05	22F	トチン	灰(0)Hue88(1)	高	小	(6.3)	上部 76 — 中部 46 — 下部 —	— — —	U2 U1 U1	0.57	A
111	121	YH05	22F	トチン	灰(0)Hue88(1)	高	無	(6.3)	上部 26 — 中部 47 — 下部 —	— — —	U2 U1 U1	0.55	A
112	122	YH05	22F	トチン	灰(0)Hue87(1)	高	無	(5.6)	上部 27 — 中部 42 — 下部 —	— — —	U2 U1 U1	0.64	A
113	123	YH05	22F	トチン	灰(0)Hue75(1)	高	無	(6.0)	上部 26 — 中部 48 — 下部 —	— — —	U2 U2 U1	0.54	A
114	124	YH05	22F	トチン	灰(0)Hue97(1)	高	無	(5.5)	上部 25 — 中部 45 — 下部 —	— — —	U2 U1 U1	0.63	A
115	125	YH05	22F	トチン	灰(0)Hue97(1)	中	無	(5.5)	上部 45 — 中部 23 — 下部 —	— — —	U2 U2 U1	0.56	A
116	126	YH05	22F	トチン	灰(0)Hue97(1)	低	無	(4.7)	上部 22 — 中部 37 — 下部 —	— — —	U2 U1 U1	0.59	A
117	127	YH05	22F	トチン	灰(0)Hue88(1)	高	無	(5.0)	上部 26 — 中部 24 — 下部 —	— — —	U2 U2 U1	0.35	A
118	128	YH05	22F	トチン	灰(0)Hue87(1)	高	無	(5.0)	上部 27 — 中部 68 — 下部 —	— — —	U2 U1 U1	0.4	A
119	129	YH05	22F	トチン	灰(0)Hue87(1)	高	無	(3.9)	上部 22 — 中部 57 — 下部 —	— — —	U2 U1 U1	0.31	A
120	130	YH05	22F	トチン	灰(0)Hue87(1)	高	無	(4.3)	上部 26 — 中部 48 — 下部 —	— — —	U2 U1 U1	0.58	A
121	131	YH05	22F	トチン	灰(0)Hue88(1)	高	無	(3.9)	上部 26 — 中部 75 — 下部 —	— — —	U2 U1 U1	0.35	A
122	132	YH05	22F	トチン	灰(0)Hue97(1)	中	無	(6.1)	上部 52 — 中部 25 — 下部 —	— — —	U2 U2 U1	0.46	A
123	133	YH05	22F	トチン	灰(0)Hue97(1)	中	無	(6.0)	上部 48 — 中部 26 — 下部 —	— — —	U2 U1 U1	0.53	A
124	134	YH05	22F	トチン	灰(0)Hue97(1)	高	無	(7.5)	上部 25 — 中部 51 — 下部 —	— — —	U2 U2 U1	0.49	A
125	135	YH05	22F	トチン	灰(0)Hue97(1)	中	無	(6.3)	上部 44 — 中部 23 — 下部 —	— — —	U2 U2 U1	0.32	A
126	136	YH05	22F	トチン	灰(0)Hue97(1)	中	無	(7.0)	上部 49 — 中部 24 — 下部 —	— — —	U2 U2 U1	0.49	A
127	137	YH05	22F	トチン	灰(0)Hue97(1)	高	無	(6.2)	上部 — 中部 24 — 下部 43 —	— — —	U2 U1 U1	0.56	A
128	138	YH05	22F	トチン	灰(0)Hue87(1)	高	無	(6.1)	上部 22 — 中部 45 — 下部 —	— — —	U2 U1 U1	0.49	A
129	139	YH05	22F	トチン	灰(0)Hue97(1)	高	無	(5.9)	上部 23 — 中部 46 — 下部 —	— — —	U2 U1 U1	0.38	A
130	140	YH05	22F	トチン	灰(0)Hue87(1)	中	無	(5.5)	上部 24 — 中部 24 — 下部 —	— — —	U2 U1 U1	0.56	A
131	141	YH05	22F	トチン	灰(0)Hue88(1)	低	無	(5.5)	上部 22 — 中部 40 — 下部 —	— — —	U2 U2 U1	0.55	A
132	142	YH05	22F	トチン	灰(0)Hue88(1)	低	無	(5.1)	上部 24 — 中部 24 — 下部 —	— — —	U2 U2 U1	0.53	A

Tab. 17 窯道具一覧 (6)

平成27・28年度飯糸窯跡出土（トチン）
※高／径が1.0以上

N o	件番 (記号)	調査地	出土地点	器種	色調(地土)	表面の ガラス化	歪み	分類の基準		A 「I」形を有するもの	B 円柱形を有するもの	C 下端の反応が「I」形を有するもの	経の比率 中／上・下	分類
										(A)	上端	—		
										(B)	中間	22	—	
										(C)	下端	41	—	—
133	103	YH05	22F	トチン	灰(0)Hue88W	低	無	(A)	上端	—	—	—	—	A
134	148	YH05	22F	トチン	灰(0)Hue88W	高	無	(B)	上端	43	—	—	—	A
135	145	YH05	22F	トチン	灰(0)Hue88W	中	無	(C)	上端	22	—	—	—	A
136	146	YH05	22F	トチン	灰(0)Hue88W	高	無	(D)	上端	22	—	—	—	A
137	147	YH05	22F	トチン	灰(0)Hue88W	高	無	(E)	上端	40	—	—	—	A
138	148	YH05	22F	トチン	灰(0)Hue88W	低	無	(F)	上端	21	—	—	—	A
139	149	YH05	22F	トチン	灰(0)Hue88W	高	無	(G)	上端	38	—	—	—	A
140	150	YH05	22F	トチン	灰(0)Hue88W	中	小	(H)	上端	22	—	—	—	A
141	151	YH05	22F	トチン	灰(0)Hue88W	高	無	(I)	上端	38	—	—	—	A
142	152	YH05	22F	トチン	灰(0)Hue88W	低	無	(J)	上端	37	—	—	—	A
143	153	YH05	22F	トチン	灰(0)Hue88W	高	無	(K)	上端	18	—	—	—	A
144	154	YH05	22F	トチン	灰(0)Hue88W	中	無	(L)	上端	40	—	—	—	A
145	155	YH05	22F	トチン	—	高	無	(M)	上端	41	—	—	—	A
146	156	YH05	22F	トチン	灰(0)Hue88W	高	無	(N)	上端	40	—	—	—	A
147	157	YH05	22F	トチン	灰(0)Hue88W	高	無	(O)	上端	87	—	—	—	A
148	158	YH05	22F	トチン	灰(0)Hue88W	高	無	(P)	上端	45	—	—	—	A
149	159	YH05	22F	トチン	—	高	無	(Q)	上端	63	—	—	—	A
150	160	YH05	22F	トチン	灰(0)Hue88W	高	小	(R)	上端	35	—	—	—	A
151	161	YH05	22F	トチン	灰(0)Hue88W	高	小	(S)	上端	56	—	—	—	A
152	162	YH05	22F	トチン	灰(0)Hue88W	高	小	(T)	上端	27	—	—	—	A
153	163	YH05	22F	トチン	灰(0)Hue88W(?)	高	無	(U)	上端	52	—	—	—	A
154	164	YH05	22F	トチン	に赤い色(Hez1SYR5/4)	低	無	(V)	上端	61	—	—	—	A
155	166	YH05	22F	トチン	明赤褐色(Hez2SYR5/6)	低	大	(W)	上端	59	—	—	—	A
156	167	YH05	22F	トチン	黄褐色(Hez1SYR5/2)	高	小	(X)	上端	55	—	—	—	A
157	168	YH05	22F	トチン	—	低	小	(Y)	上端	55	—	—	—	A
158	169	YH05	22F	トチン	—	高	小	(Z)	上端	60	—	—	—	A
159	170	YH05	22F	トチン	—	高	小	(AA)	上端	58	—	—	—	(A)
160	171	YH05	22F	トチン	—	高	小	(AB)	上端	62	—	—	—	(A)
161	172	YH05	22F	トチン	—	高	無	(AC)	上端	53	—	—	—	(A)
162	173	YH05	22F	トチン	—	高	大	(AD)	上端	60	—	—	—	(B)
163	174	YH05	22F	トチン	—	高	無	(AE)	上端	55	—	—	—	(B)
164	175	YH05	22F	トチン	—	高	小	(AF)	上端	44	—	—	—	(A)
165	176	YH05	22F	トチン	灰(0)Hue2SYR4/1	高	大	(AG)	上端	54	—	—	—	(A)
166	177	YH05	22F	トチン	—	高	無	(AH)	上端	41	—	—	—	(A)
167	178	YH05	22F	トチン	—	高	無	(AI)	上端	53	—	—	—	(A)
168	179	YH05	22F	トチン	—	高	無	(AJ)	上端	60	—	—	—	(B)
169	180	YH05	22F	トチン	—	高	大	(AK)	上端	55	—	—	—	(B)
170	181	YH05	22F	トチン	—	高	無	(AL)	上端	42	—	—	—	(B)
171	182	YH05	22F	トチン	—	高	無	(AM)	上端	47	—	—	—	(B)
172	183	YH05	22F	トチン	—	高	無	(AN)	上端	45	—	—	—	(B)
173	184	YH05	22F	トチン	—	高	無	(AO)	上端	58	—	—	—	(B)
174	185	YH05	22F	トチン	—	高	無	(AP)	上端	42	—	—	—	(B)
175	186	YH05	22F	トチン	—	高	無	(AQ)	上端	63	—	—	—	(B)
176	187	YH05	22F	トチン	—	高	無	(AR)	上端	56	—	—	—	(B)
177	188	YH05	22F	トチン	—	高	無	(AS)	上端	46	—	—	—	(B)
178	189	YH05	22F	トチン	—	高	無	(AT)	上端	42	—	—	—	(B)
179	190	YH05	22F	トチン	—	高	無	(AU)	上端	56	—	—	—	(B)

Tab. 17 窯道具一覧 (7)

平成27・28年度飯洞塗窯跡出土（トチン）
※高／径が1.0以上

分類の基準	A	「I」形を有するもの
	B	円柱形を有するもの
	C	下端のみ広がり「I」形を見るもの
	()	判断が難しいもの

N o	件番 (目次 No)	調査地	出土地点	器種	色調(地土)	表面の ガラス化	歪み	法量 (cm)		備考 (付着物等)	残存率	経の比率 中／上／下	分類
								高さ	径				
166	172	YH05	22F	トチン	灰(Hue25W/1)	高	無	(6.6)	上端 4.9 中段 4.9 下端 5.8	—	1/3	0.88	B
167	173	YH05	22F	トチン	—	高	無	8.9	上端 4.8 中段 5.8 下端 5.8	—	1/3	0.83	B
168	175	YH05	22F	トチン	黄灰(Hue25W/1)	高	無	8.0	上端 5.8 中段 5.8 下端 5.6	—	1/2	0.88	B
169	176	YH05	22F	トチン	黄灰(Hue25W/1)	中	小	7.2	上端 6.9 中段 5.0 下端 5.1	—	1/3	0.92	B
170	177	YH05	22F	トチン	—	低	小	8.3	上端 6.2 中段 4.8 下端 5.1	—	1/3	0.86	B
171	178	YH05	22F	トチン	—	高	大	8.0	上端 6.1 中段 5.4 下端 5.8	—	1/3	1.13	B
172	179	YH05	22F	トチン	黄灰(Hue25W/1)	中	無	6.6	上端 5.2 中段 4.8 下端 4.3 (13.3)	—	1/3	0.81	B
173	185	YH05	22F	トチン	明赤褐(Hue25W/5/6)	低	無	11.8	上端 5.8 中段 4.1 下端 4.1	—	1/3	0.71	(B)
174	184	YH05	22F	トチン	—	高	無	13.5	上端 6.2 中段 5.8 下端 5.8	—	1/3	0.79	(B)
175	187	YH05	22F	トチン	—	高	大	8.6	上端 5.2 中段 5.2 下端 5.3	■	1/3	0.89	(B)
176	182	YH05	22F	トチン	灰(Hue25W/1)	高	無	9.0	上端 4.9 中段 4.1 下端 4.2	—	1/2	0.93	(B)
177	179	YH05	22F	トチン	灰(Hue25W/1)	高	無	11.0	上端 5.2 中段 4.4 下端 4.4	■	1/3	0.73	(B)
178	171	YH05	22F	トチン	—	高	小	9.8	上端 6.1 中段 5.0 下端 6.9	—	1/3	0.72	(B)
179	174	YH05	22F	トチン	—	中	大	10.7	上端 5.8 中段 5.8 下端 6.3	—	1/3	0.67	C
180	195	YH05	22F	トチン	—	高	大	9.1	上端 7.6 中段 4.0 下端 4.0	■	1/2	0.52	C
181	180	YH05	22F	トチン	灰(Hue25W/1)	中	無	9.2	上端 2.2 中段 2.2 下端 4.3	—	1/3	0.55	A
182	181	YH05	22F	トチン	—	低	無	9.8	上端 4.3 中段 2.1 下端 4.2	—	1/3	0.5	A
183	182	YH05	22F	トチン	—	低	無	8.7	上端 3.8 中段 2.8 下端 3.8	—	1/3	0.56	A
184	183	YH05	22F	トチン	灰(Hue25W/1)	高	小	(9.9)	上端 5.1 中段 10.5	—	1/2	0.61	A
185	184	YH05	22F	トチン	灰(Hue25W/1)	高	無	(6.1)	上端 3.7 中段 7.8 下端 7.8	—	1/2	0.47	A
186	185	YH05	22F	トチン	灰(Hue25W/1)	高	無	(6.1)	上端 2.8 中段 7.6 下端 7.6	—	1/2	0.41	A
187	186	YH05	22F	トチン	灰(Hue25W/1)	高	無	(7.0)	上端 3.1 中段 6.7 下端 6.7	—	1/2	0.46	A
188	187	YH05	22F	トチン	灰(Hue25W/1)	低	無	(7.4)	上端 6.0 中段 2.2 下端 2.2	—	1/2	0.45	A
189	188	YH05	22F	トチン	灰(Hue25W/1)	高	無	(8.6)	上端 7.0 中段 2.5 下端 2.5	—	1/2	0.36	A
190	189	YH05	22F	トチン	灰(Hue25W/1)	低	無	(5.2)	上端 6.5 中段 3.1 下端 3.1	—	1/2	0.49	A
191	190	YH05	22F	トチン	灰(Hue25W/1)	高	無	(4.5)	上端 6.3 中段 3.0 下端 3.0	—	1/2	0.48	A
192	191	YH05	22F	トチン	橙(Hue25W/6/5)	低	無	(5.8)	上端 7.0 中段 2.2 下端 2.2	—	1/2	0.47	A
193	192	YH05	22F	トチン	灰(Hue25W/7/2)	中	小	(5.0)	上端 4.5 中段 2.6 下端 2.6	—	1/2	0.58	A
194	193	YH05	22F	トチン	—	高	無	9.0	上端 5.5 中段 3.3 下端 5.4	—	1/2	0.6	A
195	194	YH05	22F	トチン	—	高	無	6.5	上端 5.5 中段 3.0 下端 4.8	—	1/2	0.63	A

Tab. 17 窯道具一覧 (8)

平成27・28年度飯糸窯跡出土（ハマ）
※高／径が1.0以下

分類の基準	A	断面の角が高いもの
	B	断面が長方形に近いもの
	C	下部が広がり「凸」型を呈するもの
	()	判断が難しいもの

N o	登録 (日記) No	調査地	出土地点	器種	色調（胎土）	表面の ガラス化	法量 (c m) 厚さ	具 目	備 考 (付着物等)	残存率	厚壁の比率 厚／径	分類	
1	1	YH05	13#NG	ハマ	褐灰(BluerGYR&U)	高	1.9	7.5	—	—	1/1	A	
2	2	YH05	13#NG	ハマ	灰(BluerGYR&U)	中	3.0	6.2	—	轟打印	1/1	A	
3	3	YH05	13#NG	ハマ	—	中	1.9	6.0	—	—	1/1	A	
4	4	YH05	13#NG	ハマ	—	低	1.7	5.5	—	—	1/1	A	
5	5	YH05	13#NG	ハマ	—	低	2.3	6.5	—	—	1/1	B	
6	6	YH05	13#NG	ハマ	—	低	2.4	7.2	—	—	1/1	B	
7	7	YH05	1#R	ハマ	—	高	2.8	10.2	5+φ	—	1/1	A	
8	8	YH05	1#R	ハマ	—	高	2.3	10.1	6+φ	—	1/1	A	
9	9	YH05	1#R	ハマ	—	高	2.1	9.5	5	—	1/1	A	
10	10	YH05	1#R	ハマ	—	高	2.8	9.8	5+φ	—	1/1	A	
11	11	YH05	1#R	ハマ	—	高	2.2	9.4	5 3	—	1/1	A	
12	12	YH05	1#R	ハマ	—	高	2.5	9.7	6+φ	—	1/1	A	
13	13	YH05	1#R	ハマ	—	高	2.2	10.1	7+φ 6	—	1/1	A	
14	14	YH05	1#R	ハマ	—	高	2.2	9.3	7 8	—	1/1	A	
15	15	YH05	1#R	ハマ	—	高	2.1	9.4	3 5	—	1/1	A	
16	16	YH05	1#R	ハマ	—	高	2.2	9.3	2+φ	—	1/1	A	
17	17	YH05	1#R	ハマ	—	高	1.7	9.3	5	—	1/1	A	
18	18	YH05	1#R	ハマ	—	高	2.1	9.5	4 4+φ	—	1/1	A	
19	19	YH05	1#R	ハマ	—	高	2.1	9.4	5 5+φ	—	1/1	A	
20	20	YH05	1#R	ハマ	褐灰(BluerGYR&U)	高	2.9	11.7	5+φ 2+φ	—	5/6	A	
21	21	YH05	1#R	ハマ	—	高	3.2	10.9	7+φ 2+φ	—一部欠損	0.29	A	
22	22	YH05	1#R	ハマ	—	高	3.1	9.7	—	轟打印	1/1	A	
23	23	YH05	1#R	ハマ	褐赤灰(BluerGYR&U)	高	2.6	10.1	5	—	1/1	A	
24	24	YH05	1#R	ハマ	—	高	2.1	9.7	—	轟打跡	1/1	A	
25	25	YH05	1#R	ハマ	—	高	2.6	10.0	8	—	1/1	A	
26	27	YH05	1#R	ハマ	—	赤灰(BluerGYR&U)	高	2.1	10.1	4+φ 4	—	3/4	A
27	29	YH05	1#R	ハマ	—	高	2.0	9.3	5	—	1/1	A	
28	30	YH05	1#R	ハマ	褐灰(BluerGYR&U)	高	2.7	9.0	6+φ 3+φ	—	1/1	A	
29	31	YH05	1#R	ハマ	—	中	2.7	8.7	—	—	1/1	A	
30	32	YH05	1#R	ハマ	—	高	3.1	8.8	—	—	1/1	A	
31	33	YH05	1#R	ハマ	—	高	2.6	9.1	—	轟打印	1/1	A	
32	34	YH05	1#R	ハマ	—	高	2.5	8.3	—	—	1/1	A	
33	35	YH05	1#R	ハマ	—	高	1.8	8.2	—	—	1/1	A	
34	36	YH05	1#R	ハマ	—	中	1.9	7.7	—	—	1/1	A	
35	37	YH05	1#R	ハマ	褐灰(BluerGYR&U)	中	1.6	7.4	—	轟打印 一部欠損	0.22	A	
36	38	YH05	1#R	ハマ	—	高	1.6	8.8	—	—	1/1	A	

Tab. 17 窯道具一覧（9）

平成27・28年度飯糸窯跡出土（ハマ）
※高／径が1.0以下

A	断面の角が丸いもの
B	断面が長方形に近いもの
C	下部が広がり「凸」型を呈するもの
()	判断が難しいもの

N o	計量 (cm) No	調査地	出土地点	器 種	色調（釉土）	表面の ガラス化	法 量 (c m) 厚	具 目	備 考 (付着物等)	残存率	厚壁の比率 厚／径	分類
37	39	YH05	19F	ハマ	—	高	2.3	0.9	—	圓孔	1/1	A
38	40	YH05	19F	ハマ	—	高	2.2	7.0	—	—	1/1	A
39	41	YH05	19F	ハマ	—	高	1.5	7.2	—	高付凸	1/1	A
40	42	YH05	19F	ハマ	—	低	2.0	6.9	—	—	1/1	A
41	43	YH05	19F	ハマ	—	高	1.5	6.9	—	—	1/1	A
42	44	YH05	19F	ハマ	灰(BlueSYR4)	高	1.2	6.8	—	—	—	A
43	46	YH05	19F	ハマ	—	低	2.3	9.8	—	—	1/1	B
44	48	YH05	19F	ハマ	—	高	2.4	9.8	7+ a	—	1/1	B
45	45	YH05	20F	ハマ	—	高	2.8	10.7	5+ a 4+ a	—	1/1	A
46	46	YH05	20F	ハマ	—	高	2.4	9.1	—	高付凸	1/1	A
47	47	YH05	20F	ハマ	—	高	2.6	8.5	—	高付凹	1/1	A
48	49	YH05	20F	ハマ	—	高	1.6	6.1	—	高付凸	1/1	A
49	50	YH05	20F	ハマ	灰(BlueSYR4)	高	2.0	10.4	7+ a	—	1/2	A
50	48	YH05	20F	ハマ	—	中	2.7	7.0	—	—	1/1	B
51	51	YH05	21F	ハマ	—	高	2.4	10.9	8+ a	—	1/1	A
52	52	YH05	21F	ハマ	—	高	2.3	10.1	8+ a	—	1/1	A
53	53	YH05	21F	ハマ	—	高	2.7	9.7	5+ a	—	1/1	A
54	54	YH05	21F	ハマ	—	中	2.1	9.8	4+ a 3+ a	—	1/1	A
55	55	YH05	21F	ハマ	灰(BlueSYR4/3)	高	2.0	9.5	6+ a	—	1/1	A
56	56	YH05	21F	ハマ	—	高	1.9	9.7	6	—	1/1	A
57	57	YH05	21F	ハマ	灰(BlueSYR4)	高	2.2	9.6	5+ a	—	1/1	A
58	58	YH05	21F	ハマ	—	高	2.1	8.8	— 5+ a	—	1/1	A
59	59	YH05	21F	ハマ	—	高	2.1	8.5	—	—	1/1	A
60	60	YH05	21F	ハマ	灰(BlueSYR4)	高	1.6	8.3	—	—	1/1	A
61	61	YH05	21F	ハマ	黑(BlackSYR4/2)	高	2.6	8.5	—	高付凸	1/1	A
62	62	YH05	21F	ハマ	—	高	2.6	8.2	—	高付凸	1/1	A
63	64	YH05	21F	ハマ	—	高	2.2	7.6	—	—	1/1	A
64	65	YH05	21F	ハマ	—	低	1.8	6.7	—	高付凸	1/1	A
65	66	YH05	21F	ハマ	灰(BlueSYR4/2)	中	2.4	10.3	4	高付凸	1/2	A
66	67	YH05	21F	ハマ	陶灰(BlueSYR4/1)	高	2.3	9.2	2	—	1/3	—
67	68	YH05	21F	ハマ	赤灰(Blue10K4/3)	中	1.2	8.0	—	—	1/2	A
68	69	YH05	21F	ハマ	灰赤(Blue10K4/2)	中	1.7	7.8	—	—	1/2	A
69	70	YH05	22F	ハマ	—	中	2.2	6.9	—	—	1/1	B
70	71	YH05	22F	ハマ	—	高	2.0	10.2	2	圓孔	1/1	A
71	72	YH05	22F	ハマ	—	高	2.2	9.7	6	—	1/1	A
72	72	YH05	22F	ハマ	—	高	2.6	9.0	6	—	1/1	A

Tab. 17 窯道具一覧 (10)

平成27・28年度飯糸窯跡出土（ハマ）
※高／径が1.0以下

分類の基準	A	断面の角が丸いもの
	B	断面が長方形に近いもの
	C	下端が広がり「凸」型を呈するもの
	()	判断が難しいもの

N o	件號 (HAK) No	調査地	出土地点	器 種	色調（釉土）	表面の ガラス化	法 量 (c m) 厚さ 径	具 目	備 考 (付着物等)	残存率	厚壁の比率 厚／径	分類
73	74	YH05	22F	ハマ	—	高	2.4 8.6	—	—	1/1	0.28	A
74	75	YH05	22F	ハマ	—	高	2.0 8.1	—	—	1/1	0.25	A
75	76	YH05	22F	ハマ	—	高	3.3 8.5	—	—	1/1	0.39	A
76	77	YH05	22F	ハマ	—	高	3.3 8.3	—	—	1/1	0.40	A
77	78	YH05	22F	ハマ	—	中	2.0 7.9	—	—	1/1	0.25	A
78	79	YH05	22F	ハマ	—	高	1.4 8.0	—	高付	1/1	0.18	A
79	80	YH05	22F	ハマ	—	高	1.9 7.6	—	—	1/1	0.25	A
80	81	YH05	22F	ハマ	—	高	2.1 7.8	—	—	1/1	0.27	A
81	82	YH05	22F	ハマ	—	高	2.3 7.3	—	—	1/1	0.32	A
82	84	YH05	22F	ハマ	—	高	1.5 7.1	—	—	1/1	0.21	A
83	85	YH05	22F	ハマ	—	高	1.8 6.9	—	高付	1/1	0.26	A
84	87	YH05	22F	ハマ	—	低	3.1 6.7	—	—	1/1	0.46	A
85	89	YH05	22F	ハマ	—	中	1.5 6.5	—	—	1/1	0.23	A
86	91	YH05	22F	ハマ	—	高	1.7 5.7	—	—	1/1	0.30	A
87	93	YH05	22F	ハマ	—	低	1.9 4.9	—	—	1/1	0.39	A
88	96	YH05	22F	ハマ	—	低	2.3 11.2	—	高付	1/1	0.23	A
89	97	YH05	22F	ハマ	—	低	1.9 11.9	—	—	1/1	0.36	A
90	98	YH05	22F	ハマ	—	中	1.6 11.2	—	—	1/1	0.34	A
91	99	YH05	22F	ハマ	—	低	2.0 11.0	—	—	1/1	0.37	A
92	100	YH05	22F	ハマ	—	低	1.7 10.5	—	—	1/1	0.36	A
93	101	YH05	22F	ハマ	—	低	1.7 10.0	—	—	1/1	0.37	A
94	102	YH05	22F	ハマ	—	低	2.2 10.1	—	—	1/1	0.22	A
95	103	YH05	22F	ハマ	—	低	1.8 10.1	—	—	1/1	0.38	A
96	104	YH05	22F	ハマ	—	低	1.6 10.1	—	—	1/1	0.35	A
97	105	YH05	22F	ハマ	—	低	1.7 9.9	—	—	1/1	0.37	A
98	106	YH05	22F	ハマ	黒陶(Hakuro)	中	1.6 10.0	—	—	1/1	0.36	A
99	107	YH05	22F	ハマ	—	低	1.7 9.4	—	—	1/1	0.38	A
100	108	YH05	22F	ハマ	—	中	2.3 11.0	—	—	1/1	0.21	A
101	109	YH05	22F	ハマ	—	中	1.6 9.3	—	—	1/1	0.37	A
102	110	YH05	22F	ハマ	—	低	1.2 9.3	—	—	1/1	0.13	A
103	111	YH05	22F	ハマ	灰(Hakuro)	低	1.5 9.2	—	—	1/1	0.36	A
104	112	YH05	22F	ハマ	にごり赤陶(Hakuro/Nigori)	低	1.8 9.7	—	—	1/2	0.39	A
105	113	YH05	22F	ハマ	にごり赤陶(Hakuro/Nigori)	低	1.3 9.9	—	—	1/2	0.33	A
106	114	YH05	22F	ハマ	—	高	2.0 9.9	—	—	1/1	0.36	A
107	115	YH05	22F	ハマ	—	高	2.8 10.1	—	高付	1/1	0.28	A
108	116	YH05	22F	ハマ	—	高	3.3 9.8	—	—	1/1	0.34	A

Tab. 17 窯道具一覧 (11)

平成27・28年度飯洞窯跡出土（ハマ）
※高／径が1.0以下

A	断面の角が丸いもの
B	断面が長方形に近いもの
C	下部が広がり「凸」型を呈するもの
()	判断が難しいもの

N o	社號 (日記) No	調査地	出土地点	器 種	色調（胎土）	表面の ガラス化	法 量 (c m) 厚さ 径	具 目	備 考 (付着物等)	残存率	厚壁の比率 厚／径	分類
109	117	YH05	22F	ハマ	—	高	3.5 9.2	—	高付	1/1	0.38	A
110	118	YH05	22F	ハマ	—	中	3.0 9.6	—	—	1/1	0.31	A
111	119	YH05	22F	ハマ	—	高	2.7 8.8	—	—	1/1	0.31	A
112	120	YH05	22F	ハマ	—	高	3.0 9.4	—	—	1/1	0.32	A
113	121	YH05	22F	ハマ	に点々・黄斑(Mar 10% 黒&3)	中	5.0 10.3	—	—	1/1	0.49	A
114	122	YH05	22F	ハマ	—	中	3.7 9.2	—	—	1/1	0.40	A
115	123	YH05	22F	ハマ	—	高	3.4 10.0	—	—	1/1	0.34	A
116	125	YH05	22F	ハマ	—	高	3.1 8.6	—	轟付	1/1	0.29	A
117	127	YH05	22F	ハマ	—	中	3.3 8.0	—	—	1/1	0.41	A
118	128	YH05	22F	ハマ	—	高	3.4 8.4	—	—	1/1	0.40	A
119	129	YH05	22F	ハマ	—	中	3.7 8.3	—	—	1/1	0.46	A
120	130	YH05	22F	ハマ	—	中	3.3 8.3	—	—	1/1	0.40	A
121	131	YH05	22F	ハマ	—	高	3.1 8.3	—	—	1/1	0.37	A
122	132	YH05	22F	ハマ	—	高	3.3 8.2	—	—	1/1	0.40	A
123	133	YH05	22F	ハマ	—	高	2.0 8.7	—	—	1/1	0.23	A
124	135	YH05	22F	ハマ	—	高	3.0 8.3	—	—	1/1	0.36	A
125	136	YH05	22F	ハマ	—	高	2.5 8.5	—	—	1/1	0.29	A
126	137	YH05	22F	ハマ	—	高	2.2 7.8	—	轟付	1/1	0.28	A
127	138	YH05	22F	ハマ	—	高	2.4 8.2	—	—	1/1	0.29	A
128	140	YH05	22F	ハマ	—	高	3.1 7.9	—	—	1/1	0.39	A
129	141	YH05	22F	ハマ	—	高	2.5 7.9	—	—	1/1	0.32	A
130	142	YH05	22F	ハマ	—	高	3.8 8.6	—	—	1/1	0.48	A
131	144	YH05	22F	ハマ	—	中	2.7 8.0	—	轟付	1/1	0.34	A
132	145	YH05	22F	ハマ	—	高	3.8 7.5	—	轟付	1/1	0.31	A
133	146	YH05	22F	ハマ	—	高	3.1 8.3	—	轟付	1/1	0.37	A
134	147	YH05	22F	ハマ	—	高	2.6 7.2	—	—	1/1	0.36	A
135	148	YH05	22F	ハマ	—	高	2.5 7.8	—	轟付	1/1	0.32	A
136	149	YH05	22F	ハマ	—	高	1.8 8.4	—	—	1/1	0.23	A
137	151	YH05	22F	ハマ	—	高	3.3 7.5	—	轟付	1/1	0.44	A
138	152	YH05	22F	ハマ	—	高	2.9 7.6	—	轟付	1/1	0.38	A
139	153	YH05	22F	ハマ	—	高	2.7 7.1	—	—	1/1	0.38	A
140	155	YH05	22F	ハマ	—	中	3.4 6.5	—	—	1/1	0.52	A
141	156	YH05	22F	ハマ	—	高	2.7 7.3	—	—	1/1	0.37	A
142	157	YH05	22F	ハマ	—	高	1.8 7.5	—	轟付	1/1	0.24	A
143	158	YH05	22F	ハマ	—	高	1.8 7.3	—	—	1/1	0.25	A
144	161	YH05	22F	ハマ	—	高	2.6 8.8	—	—	1/1	0.38	A

Tab. 17 窯道具一覧 (12)

平成27・28年度飯糸窯跡出土（ハマ）
※高／径が1.0以下

分類の基準	A	断面の角が高いもの
	B	断面が長方形に近いもの
	C	下端が広がり「凸」型を呈するもの
	()	判断が難しいもの

N o	社號 (社號) No	調査地	出土地点	器 種	色調（釉土）	表面の ガラス化	法 庫 (c m) 厚さ	具 目	備 考 (付着物等)	残存率	厚壁の比率 厚／径	分類
145	162	YH05	22F	ハマ	—	高	3.6	7.2	—	—	0.50	A
146	163	YH05	22F	ハマ	—	高	2.4	7.0	—	—	0.34	A
147	164	YH05	22F	ハマ	—	高	1.7	6.8	—	—	0.25	A
148	165	YH05	22F	ハマ	—	高	2.9	6.8	—	—	0.43	A
149	167	YH05	22F	ハマ	—	高	3.1	7.3	— 高脚 脚凹	—	0.44	A
150	170	YH05	22F	ハマ	—	中	1.8	6.4	—	—	0.28	A
151	173	YH05	22F	ハマ	—	低	2.1	6.2	—	—	0.34	A
152	174	YH05	22F	ハマ	—	高	2.4	6.3	—	—	0.38	A
153	176	YH05	22F	ハマ	—	高	2.6	8.1	—	— 一部欠損	0.32	A
154	177	YH05	22F	ハマ	—	高	2.5	7.8	— 高脚凹	—	0.32	A
155	179	YH05	22F	ハマ	—	低	2.1	6.5	—	—	0.32	A
156	179	YH05	22F	ハマ	—	低	1.4	5.8	—	—	0.24	A
157	181	YH05	22F	ハマ	—	低	1.9	6.9	— 高脚凹	—	0.28	A
158	182	YH05	22F	ハマ	—	低	1.8	7.0	—	—	0.26	A
159	186	YH05	22F	ハマ	—	高	1.6	4.6	—	—	0.35	A
160	187	YH05	22F	ハマ	—	高	1.3	4.5	—	—	0.29	A
161	189	YH05	22F	ハマ	—	低	1.2	3.6	—	—	0.33	A
162	190	YH05	22F	ハマ	灰(HueN5e)	中	3.5	8.0	—	—	0.44	A
163	191	YH05	22F	ハマ	灰(HueN5e) 帶(HueN5d)	低	1.6	(7.1)	—	—	0.23	A
164	192	YH05	22F	ハマ	—	高	3.7	9.5	— 3	—	0.39	A
165	196	YH05	22F	ハマ	—	高	2.1	6.8	—	—	0.33	(A)
166	180	YH05	22F	ハマ	—	低	1.8	5.9	—	—	0.31	(A)
167	183	YH05	22F	ハマ	—	低	2.3	5.0	—	—	0.46	(A)
168	185	YH05	22F	ハマ	—	低	1.1	4.8	—	—	0.29	(A)
169	188	YH05	22F	ハマ	—	低	1.5	4.4	—	—	0.34	(A)
170	73	YH05	22F	ハマ	—	高	3.5	8.7	—	—	0.40	B
171	82	YH05	22F	ハマ	—	高	2.7	7.5	— 脚凹	—	0.36	B
172	85	YH05	22F	ハマ	—	高	2.1	6.8	— 高脚凹	—	0.31	B
173	88	YH05	22F	ハマ	—	高	2.1	6.1	— 高脚凹	—	0.34	B
174	90	YH05	22F	ハマ	—	高	2.1	6.0	— 高脚凹	—	0.35	B
175	92	YH05	22F	ハマ	—	高	2.1	5.5	—	—	0.38	B
176	126	YH05	22F	ハマ	—	高	4.1	8.9	—	— 一部欠損	0.49	B
177	138	YH05	22F	ハマ	—	高	3.1	8.1	—	—	0.38	B
178	154	YH05	22F	ハマ	—	高	1.9	6.6	— 高脚凹	—	0.29	B
179	169	YH05	22F	ハマ	—	高	2.0	6.6	— 高脚凹	—	0.30	B
180	172	YH05	22F	ハマ	—	高	3.4	6.0	— 高脚凹	—	0.57	B

Tab. 17 窯道具一覧 (13)

平成27・28年度飯洞窯跡出土（ハマ）
※高／径が1.0以下

A	断面の角が丸いもの
B	断面が長方形に近いもの
C	下部が広がり「凸」型を呈するもの
()	判断が難しいもの

N o	件號 (H26) No	調査地	出土地点	器 種	色調(釉土)	表面の ガラス化	法 量 (c m) 厚さ 違	具 目	備 考 (付着物等)	残存率	厚壁の比率 厚／径	分類
181	184	YH05	22F	ハマ	—	低	2.0 4.7	—	—	1/1	0.03	B
182	193	YH05	22F	ハマ	—	中	5.0 5.5	—	—	1/1	0.91	B
183	194	YH05	22F	ハマ	灰褐(360±7.5YR5/2)	中	4.7 4.9	—	—	一部欠損	0.96	B
184	195	YH05	22F	ハマ	—	高	3.2 5.8	—	—	1/1	0.55	B
185	196	YH05	22F	ハマ	—	高	3.3 5.7	—	—	1/1	0.58	B
186	197	YH05	22F	ハマ	—	高	3.7 8.5	—	—	1/1	0.44	(B)
187	198	YH05	22F	ハマ	—	高	4.6 8.3	—	—	1/1	0.55	(B)
188	199	YH05	22F	ハマ	—	高	3.3 7.4	—	森内(?)	1/1	0.45	(B)
189	200	YH05	22F	ハマ	—	高	3.1 7.6	—	—	1/1	0.44	(B)
190	201	YH05	22F	ハマ	—	高	3.6 7.6	—	—	1/1	0.34	(B)
191	202	YH05	22F	ハマ	—	高	2.8 6.9	—	—	1/1	0.43	(B)
192	203	YH05	22F	ハマ	—	高	3.6 6.7	—	—	1/1	0.54	(B)
193	204	YH05	22F	ハマ	—	高	2.1 6.5	—	—	1/1	0.32	(B)
194	205	YH05	22F	ハマ	—	高	2.0 5.6	—	森内(?) 森内(?)	1/1	0.36	(B)
195	206	YH05	22F	ハマ	—	高	7.2 7.3	—	—	1/1	0.99	C
196	207	YH05	22F	ハマ	—	高	5.0 5.7	—	—	1/1	0.88	C
197	208	YH05	22F	ハマ	—	低	1.4 10.0	—	—	1/1	0.14	A
198	209	YH05	22F	ハマ	—	低	1.2 9.3	—	—	1/1	0.13	A
199	210	YH05	22F	ハマ	—	高	3.0 9.2	—	—	1/1	0.33	A
200	211	YH05	22F	ハマ	—	高	2.3 9.1	—	—	1/1	0.25	A
201	212	YH05	22F	ハマ	—	高	2.3 7.8	—	—	1/1	0.29	A
202	213	YH05	22F	ハマ	—	低	2.8 7.3	—	—	1/1	0.28	A
203	214	YH05	22F	ハマ	—	高	2.1 7.9	—	—	一部欠損	0.30	A
204	215	YH05	22F	ハマ	—	高	2.1 8.1	—	—	1/1	0.26	A
205	216	YH05	22F	ハマ	—	低	1.3 8.2	—	—	1/1	0.21	A
206	217	YH05	22F	ハマ	—	高	1.4 5.6	—	—	1/1	0.25	A
207	218	YH05	22F	ハマ	—	高	3.4 12.0	—	—	1/1	0.26	A
208	219	YH05	22F	ハマ	—	低	1.5 6.3	—	—	1/1	0.24	(A)
209	220	YH05	22F	ハマ	—	高	2.7 8.0	—	—	1/1	0.34	B
210	221	YH05	22F	ハマ	—	高	4.0 12.0	—	—	1/1	0.50	C
211	222	YH05	22F	ハマ	—	高	6.4 10.4	—	森内(?) 森内(?)	1/1	0.62	C
212	223	YH05	22F	ハマ	—	高	7.3 10.6	—	—	1/1	0.69	C
213	224	YH05	22F	ハマ	—	中	6.3 10.2	—	—	1/1	0.62	C
214	225	YH05	22F	ハマ	—	高	4.8 9.8	—	高台輪脚	1/1	0.49	C
215	226	YH05	22F	ハマ	—	高	5.8 9.5	—	—	1/1	0.61	C
216	227	YH05	22F	ハマ	—	高	5.1 10.8	—	森内(?)	1/1	0.47	C

Tab. 17 窯道具一覧 (14)

《主要参考文献》

- 浅川巧(2004)『朝鮮陶磁名考(復刻版)』草風社
- 大橋康二(1984)「肥前陶磁の変遷と出土分布—発掘資料を中心として—」『国内出土の肥前陶磁』佐賀県立九州陶磁文化館
- 大橋康二(1993)『肥前陶磁』考古学ライブラリー55ニューサイエンス社
- 大橋康二(2008)「土の美 古唐津—肥前陶器のすべてー」「土の美 古唐津—肥前陶器のすべてー」佐賀県立九州陶磁文化館
- 大橋康二(2004)『世界をリードした磁器窯—肥前窯ー』シリーズ「遺跡を学ぶ」新泉社
- 笠谷和比古・黒田慶一(2015)『豊臣大阪城』新潮選書 新潮社
- 片山まび(1998)「一六世紀の朝鮮陶磁と草創期の唐津焼との比較研究—「近世的な窯業」の萌芽を視座としてー」『朝鮮学報』第167輯朝鮮学会
- 片山まび(2004)「倭城出土の陶磁器に関する予察—日本出土品を視座としてー」「韓国の倭城と壬辰倭乱」黒田慶一編 岩田書店
- 片山まび(2004)『韓国陶磁史からみた高麗茶碗』『茶陶の創成』茶陶の美 第1巻 淡交社
- 片山まび(2005)「朝鮮時代の陶器について」『十六・十七世紀における九州陶磁をめぐる技術交流』九州近世陶磁学会
- 片山まび(2014)「韓国・東亜大学校博物館所蔵の釜山窯出土品について」『東洋陶磁』第43号 東洋陶磁学会
- 北波多村教育委員会(2000)『岸岳古窯跡群』北波多村文化財調査報告書第4集
- 木島孝之(2004)「唐津焼創始期—1580年代第一を開く一岸嶽城の繩張り構造の解明を通して」『韓国の倭城と壬辰倭乱』岩田書院
- 唐津市教育委員会(2006)『岸岳古窯跡群Ⅱ』唐津市文化財調査報告書第132集
- 唐津市教育委員会(2007)『北波多村史—資料編ー』北波多村史執筆委員会
- 唐津市教育委員会(2008)『北波多村史—自然、集落誌、民俗編ー』北波多村史執筆委員会
- 唐津市教育委員会(2011)『北波多村史—通史編Ⅰー』北波多村史執筆委員会
- 唐津市教育委員会(2011)『北波多村史—通史編Ⅱー』北波多村史執筆委員会
- 唐津市教育委員会(2011)『岸岳古窯跡群Ⅲ』唐津市文化財調査報告書第159集
- 九州近世陶磁学会(2000)『九州陶磁の編年』
- 九州近世陶磁学会(2005)「十六・十七世紀における九州陶磁をめぐる技術交流」
- 慶南大学校博物館・雲門ダム水没地域発掘調査団・清道郡(1994)『清道尊池里遺跡ガマ跡』雲門ダム水没地域文化遺跡発掘調査報告書5
- 瀬戸市埋蔵文化財センター(2001)『瀬戸大窯とその時代』
- 堺市博物館(2006)『茶道具拌見—出土品から見た堺の茶の湯ー』
- 佐賀県肥前古陶磁窯跡保存対策連絡会(1999)『肥前古陶磁窯跡』
- 佐賀県立九州陶磁文化館(1995)『北波多村帆柱窯跡』肥前地区古窯跡調査報告書第12集
- 佐賀県立九州陶磁文化館(2008)「土の美 古唐津—肥前陶器のすべてー」佐賀県立九州陶磁文化館
- 佐賀県立九州陶磁文化館(2012)『将军家献上の 鎌島・平戸・唐津—精巧なるやきものー』佐賀県立九州陶磁文化館
- 佐賀県立名護屋城博物館(1998)『特別史跡名護屋城跡』佐賀県立名護屋城博物館調査報告第1集
- 佐藤進三編(1947)『唐津』陶磁叢書第2巻 日本陶磁協会 寶雲社
- 陣内康光(2001)「岸岳古窯跡群の調査」『東洋陶磁』第30号 東洋陶磁学会
- 穠山洋(1997)「近世初期大阪の肥前陶磁」『陶説』532号 日本陶磁協会
- 高瀬哲郎(1997)「九州に於ける近世城郭の石垣について(その三)」『研究紀要』第3集佐賀県立名護屋城博物館
- 田口昭二(1983)『美濃焼』考古学ライブラリー17ニュー・サイエンス社

- 徳永貞紹(2001)「九州の様相—瀬戸・美濃大窯製品の流通と肥前陶器の出現—」『戦国・織豊期の陶磁器流通と瀬戸・美濃大窯製品—資料集』 財団法人瀬戸市埋蔵文化財センター
- 徳永貞紹(2010)「生産地周辺の消費地からみた肥前陶器（唐津焼）の出現」『関西近世考古学研究18—消費地からみた国産陶磁器の出現と展開』関西近世考古学研究会
- 中里達庵(2004)『唐津焼の研究』中里太郎右衛門陶房
- 張替清司(2012)「桃山高生産の背景—美濃と肥前の様相から—」『京三条せともの屋町』茶道資料館
- 東中川忠美(1989)「岸岳飯制撰下窯跡について」『生産と流通の考古学横山浩一生退官記念論文集』横山浩一先生退官記念論文集刊行会
- 東中川忠美(2004)「唐津焼「縁立皿」について」『陶説』612号 日本陶磁協会
- 東中川忠美(2004)「江戸時代の唐津焼入門（1）～（8）」『陶説』650～657号 日本陶磁協会
- 東中川忠美(2010)「肥前陶器の窯から見た古唐津生産の変遷」『関西近世考古学研究18—消費地からみた国産陶磁器の出現と展開』関西近世考古学研究会
- 東中川忠美(2013～2014)「肥前ににおける三島手の変遷（1）～（12）」『陶説』721～736号 日本陶磁協会
- 水町和三郎・鍋島直紹(1963)『唐津』白鳳社
- 水町和三郎(1973)『古唐津（上）』出光美術館選書6 平凡社
- 村上伸之(1997)「肥前ににおける初期陶器生産にみられる地域性について」『陶説』532号 日本陶磁協会
- 村上伸之(1997)「肥前ににおける初期の登窯について」『東洋陶磁』VOL.27東洋陶磁学会
- 村上伸之(2005)「肥前磁器の技術」『十六・十七世紀における九州陶磁をめぐる技術交流』九州近世陶磁学会
- 森毅(1997)「城下町大坂における唐津焼出現期の様相」『陶説』532号 日本陶磁協会
- 森本朝子・片山まび(2001)「博多出土の高麗・朝鮮陶磁の分類試案－生産地編年を視座として－」『博多研究会誌』第8号 博多研究会

図 版

PLATE



1



2



4



3



5

皿屋窯跡

- 1 AT 全景(南西から)
- 2 AT 煙出しの空間
- 3 AT 第1室・西壁

- 4 AT 第1室・東壁
- 5 AT 第3・4室(南西から)



1



5



2



6



3



7



4



8

皿屋窯跡

- 1 B T 第1・2室 (南から)
2 B T 第2室 火床境の陶器軸着
3 B T 燃焼室 (南西から)
4 2 T (南から)

- 5 4～7 T (北から)
6 7 T 焼土壙
7 A T 第2室 (南から)
8 窯跡の現状 (南西から)



1



2



4



3



5

皿屋上窯跡

- 1 1T 燃焼室（南西から）
2 2T（北から）
3 2T（南から）

- 4 2T（東から）
5 2T（薬灰釉碗出土状況）



1



3



2



4



5

皿屋上窯跡

- 1 2 T 断面 (南西から)
- 2 1 T (南西から)
- 3 1 T 発掘前 (南西から)
- 4 皿屋上窯 (溜池) 痕跡景

帆柱窯跡

- 5 2 T 第5室奥壁 (南西から)



1



5



2



6



3



7



4

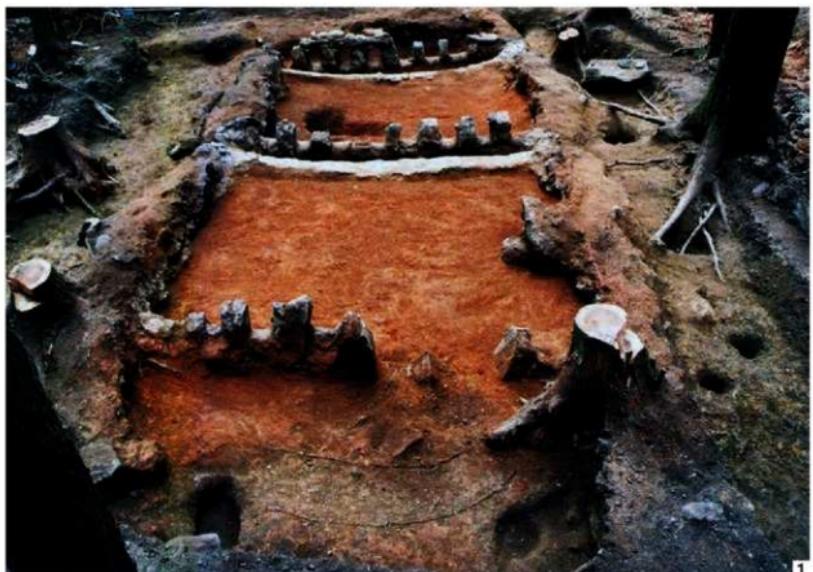


8

帆柱窯跡

- 1 1T 第1室窯尻
- 2 1T 第2室奥壁
- 3 2T (南東から)
- 4 2T 第3室奥壁の通焰孔

- 5 3T 第5室奥壁
- 6 5T 焼成室
- 7 6T SK01 (北西から)
- 8 10T 遺物出土状況



1



2



4



3

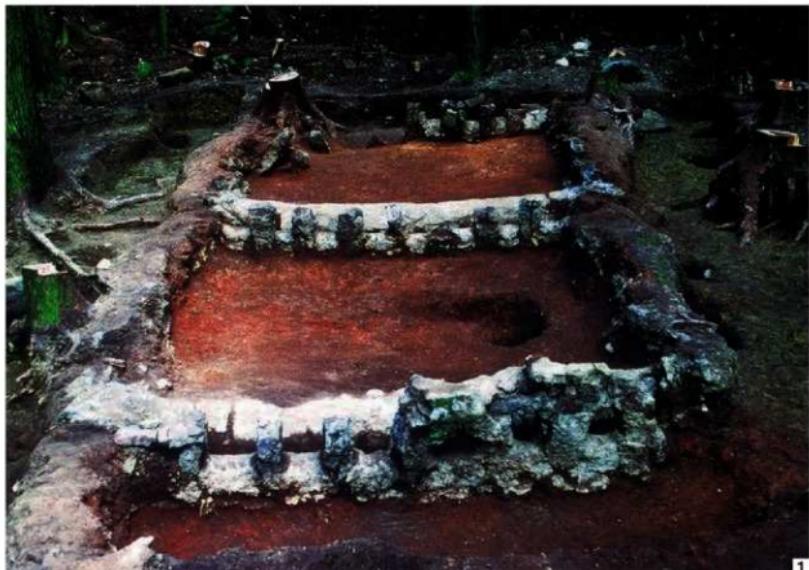


5

飯洞臺上窯跡

- 1 AT (北東から)
- 2 AT 第1室 (南東から)
- 3 AT 窯尻

- 4 AT (東から)
- 5 AT (南東から)



1



2



4



3



5

飯洞臺上窯跡

- 1 AT 第1～3室 (南西から)
- 2 AT 第1室隔壁・火床 (南東から)
- 3 AT 第2室隔壁・火床 (北西から)

- 4 AT 第2室火床境ハマ軸着状況
- 5 BT (南西から)



1



2



4



3



5

飯洞窯下廬跡

- 1 完掘状況（南西から）
- 2 発掘前（北西から）
- 3 焼成室（北西から）

- 4 第6室奥壁（北西から）
- 5 第7室奥壁（南西から）



1



2



4



3



5

饭洞窯下窯跡

- 1 第5室～燃焼室（南東から）
- 2 第6室奥壁（北西から）
- 3 燃焼室奥壁（北西から）

- 4 第6室北側の焼土硬化面（北から）
- 5 燃焼室発掘風景



1



2



4



3



5

飯洞壺下窯跡

- 1 燃焼窓（北西から）
- 2 燃焼窓（北西から）
- 3 燃焼窓（北東から）

- 4 焚口遺物出土状況（南東から）
- 5 焚口（南東から）



1



2



4



3



5

飯洞臺下窯跡

- 1 第3室隔壁 (南西から)
- 2 第3室隔壁 (南東から)
- 3 第1・2室 (北西から)

- 4 第1室側壁 (南から)
- 5 隔壁断面 (南から)



1



5



2



6



3



7



4



8

飯洞甕窯跡周辺

- 1 12T (西から)
- 2 12T 總群 (東から)
- 3 13T (南から)
- 4 13T P-1

- 5 14T (南西から)
- 6 14T P-1
- 7 14T P-2
- 8 14T 南東隅の落ち込み



1



2



4



3



5

飯洞窯跡周辺

- 1 15T (北から)
- 2 15T 遺物出土状況 (北から)
- 3 15T 遺物出土状況 (西から)

4 15T SK01 (北から)

5 15T (南から)



1



2



4



3



5

飯洞窯跡周辺

- 1 15T-NG (東から)
- 2 15T-NG SX01石組み遺構 (南から)
- 3 15T-NG SX01石組み遺構 (西から)

- 4 15T SK02土層断面 (南面)
- 5 窯跡西を流れる小川の河床 (岩盤筋理)



1



2



4



3



5

饭洞窑跡周辺

- 1 15T-WG 青銅製著出土状況
- 2 15T-WG (東から)
- 3 15T-NG 白色粘土塊検出状況

- 4 15T-NG 陶器(碗)出土状況
- 5 15T-NG 陶製鍊出土状況



1



2



3



4

饭洞甕窯跡周辺

- 1 22T (東から)
- 2 22T 白色粘土塊検出状況
- 3 22T 緑刻岩?

4 24T (北から)



1



5



2



6



3



7



4



8

飯洞壺窯跡周辺

- 1 15T-BG (西から)
- 2 15T-EG 南面土層
- 3 18T (北東から)
- 4 18T 東面土層

- 5 19T (南東から)
- 6 20T (南西から)
- 7 21T (西から)
- 8 21T 陶器皿出土状況



1 直屋窯跡 Fig19-13表
2 直屋窯跡 Fig19-13裏
3 直屋窯跡 Fig23-17
4 帆柱窯跡 Fig48-14

5 帆柱窯跡 Fig48-12表
6 帆柱窯跡 Fig48-12裏
7 飯洞窯跡 Fig68- 7
8 飯洞窯跡 Fig68- 9

9 飯洞窯跡 Fig77-16
10 飯洞窯跡 Fig77-15
11 飯洞窯跡 Fig70- 7
12 飯洞窯跡 Fig68-21
13 飯洞窯跡 Fig77-14



釉薬・底部調整



皿屋窯跡出土遺物（集合）



血屋上窑址出土遗物（集合）



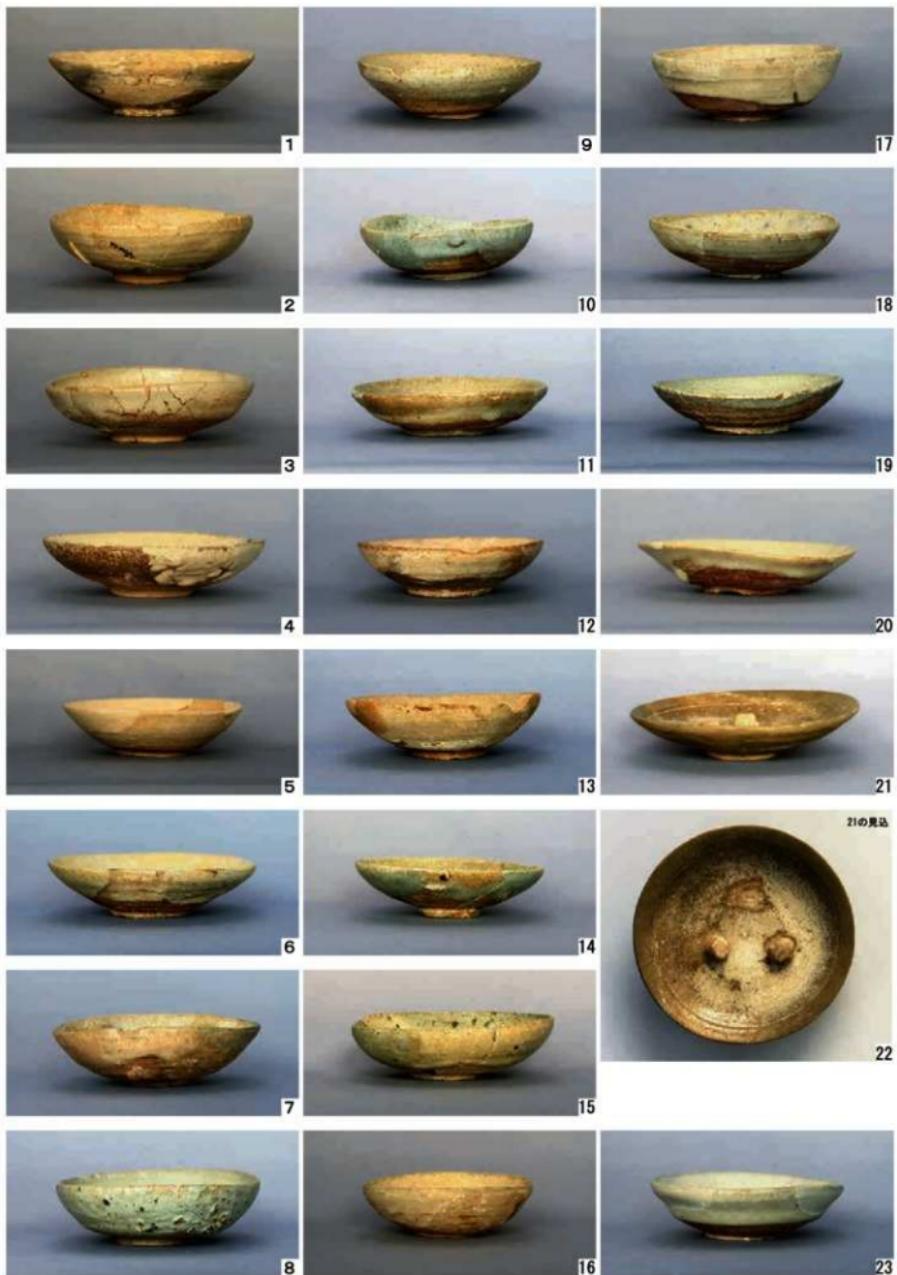
帆柱窑跡出土遺物（集合）



饭洞窑跡出土遺物（第1次～第3次 集合）



饭洞窑跡出土遺物（第4次～第5次 集合）











皿屋窯跡出土遺物(1~6)

皿屋上窯跡出土遺物(7~16)



皿屋上窯跡出土遺物(1~6)

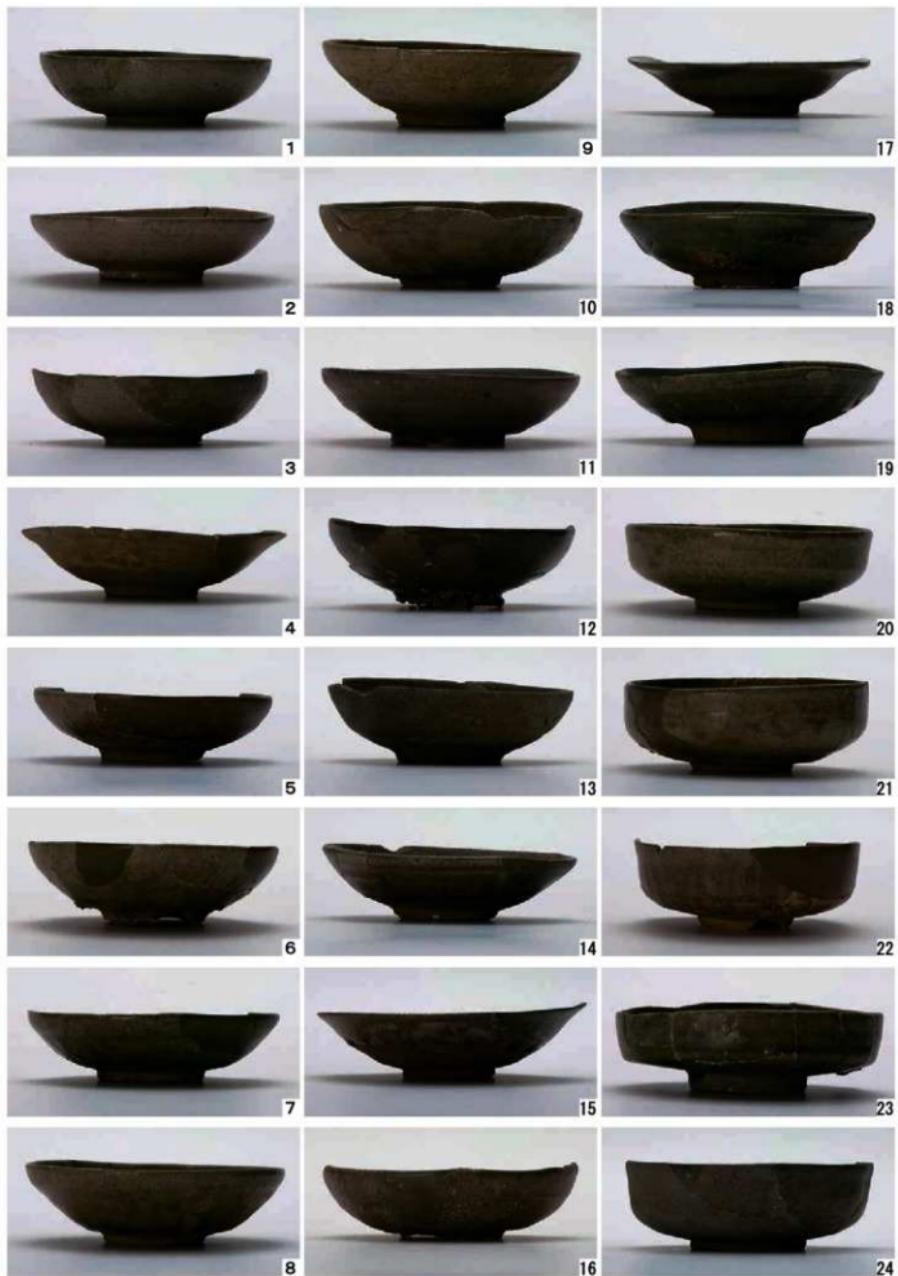
帆柱窯跡出土遺物(7~20)



帆柱窯跡出土遺物(1~20)

飯洞臺窯跡出土遺物(第1次~3次)









1



5



2



6



7



3



4



8



9

10

報告書抄録

ふりがな	きしだけこようしへん IV						
書名	岸岳古窯跡群 IV						
副書名	総括報告書						
巻次							
シリーズ名	唐津市文化財調査報告書						
シリーズ番号	178						
編著者名	陣内 康光						
編集機関	唐津市教育委員会						
所在地	〒847-8511 佐賀県唐津市南城内1-1 大手口別館6F TEL 0955-72-9171						
発行年月日	西暦2018年3月30日						
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
さなや かみかまあと 皿屋窯跡	佐賀県唐津市 北波多稗田 字杉谷	41202 1101	33度21分46秒	129度57分7秒	1997.9～1997.11 2001.10～2002.3	500 200	重要遺跡 確認調査
さなや かみかまあと 皿屋上窯跡	佐賀県唐津市 北波多稗田 字杉谷	41202 1103	33度21分55秒	129度57分13秒	1999.10～1999.11	500	重要遺跡 確認調査
ほにじらひのと 帆柱窯跡	佐賀県唐津市 北波多 字帆柱国有林	41202 1115	33度21分14秒	129度57分27秒	2000.10～2000.12 2003.1～2003.1	200 50	重要遺跡 確認調査
ほんどうがめいかまあと 飯洞甕上窯跡	佐賀県唐津市 北波多稗田 字帆柱	41202 1116	33度21分29秒	129度57分52秒	1998.10～1999.1	500	重要遺跡 確認調査
ほんどうがめいかまあと 飯洞甕下窯跡	佐賀県唐津市 北波多稗田 字帆柱	41202 1118	33度21分30秒	129度57分52秒	1999.11～1999.12 2017.7～2017.11	50 100	重要遺跡 確認調査
ほにじらほんどうめいの 帆柱(飯洞甕)遺跡	佐賀県唐津市 北波多稗田 字帆柱	41202 1117	33度21分29秒	129度57分52秒	2015.7～2015.8 2016.6～2016.11	150	重要遺跡 確認調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項		
皿屋窯跡 皿屋上窯跡 帆柱窯跡 飯洞甕上窯跡 飯洞甕下窯跡	窯跡	近世	窯跡	陶器	岸岳古窯群の残存状況・遺構・遺物の特徴を確認し、遺跡保存のための基礎資料を蓄積するための確認調査及び、史跡整備のための事前調査。		
帆柱(飯洞甕)遺跡	散布地	近世	窯場遺構	陶器			



唐津市文化財調査報告書 第178集

岸岳古窯跡群 IV

平成30年3月印刷

平成30年3月発行

編集・発行者 唐津市教育委員会

唐津市南城内1-1

大手口別館6階

印 刷 所 呼川プリント

〒847-0853 唐津市江川町702

☎(0955)72-6023